

きた がた きょう ずい
北 方 京 水 遺 跡 II
(第1分冊)

2 0 2 1

岐阜県文化財保護センター



発掘区全景（東から）



SK942 箆（487）出土状況（南から）



SD19 漆器 (157) 出土状況 (北から)



SD4 漆器出土状況 (南から)



SD19 漆器 (156) 出土状況 (東から)



SD25 漆器 (211) 出土状況 (北から)



SK399 漆器 (415) 出土状況 (南東から)



Ⅲ期（中世前期）出土遺物



Ⅳ期（中世後期）出土遺物



IV期（中世後期）遺構出土漆器



SK1229 出土蓮弁（572）



SD9 出土木簡（120）

序

大垣市は、木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）により形成された、わが国有数の平野である濃尾平野上に位置しています。市の内外には、大小の河川が流れ、古くから「水の都」と呼ばれる、地下水が豊富な地域です。市内には美濃国分寺、西の垂井町には美濃国府、関ヶ原町には不破関と、この辺りは古代から重要な地域であったと言えます。

このたび、岐阜県大垣土木事務所による広域河川改修事業に伴い、大垣市北方町に所在する北方京水遺跡の発掘調査を平成29年度に実施しました。北方京水遺跡は、大垣市の北東部に位置する中世を主とする遺跡です。

今回の発掘調査では、古代から中世にかけての掘立柱建物や井戸を検出したことから、この時期においては居住域として土地利用されていたことが明らかとなりました。特に中世後期には、溝によって区画された屋敷が展開していたことを確認し、一定以上の階層の人物が居住していた可能性があることも判明しました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援と御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、大垣市教育委員会、地元地区の皆様にご深く感謝申し上げます。

令和3年3月

岐阜県文化財保護センター
所長 森 勝利

例 言

- 1 本書は、岐阜県大垣市北方町に所在する北方京水遺跡（岐阜県遺跡番号 21202-08544）の発掘調査報告書である。
- 2 本調査は、公共広域河川改修事業に伴うもので、岐阜県大垣土木事務所から岐阜県教育委員会が依頼を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。
- 3 鋤柄俊夫同志社大学教授の指導のもとに、発掘調査は平成 29 年度に、整理等作業は平成 30 年度、令和元年度に実施した。
- 4 発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第 1 章第 2 節に一括掲載した。
- 5 本書の執筆及び編集は磯貝龍志が行った。
- 6 発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は株式会社イビソクに委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、平成 30 年度は株式会社イビソクに、令和元年度は橋本技術株式会社岐阜営業所に委託して行った。
- 7 遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。
- 8 木製品の樹種同定と漆塗膜分析は株式会社吉田生物研究所に、木製品年代測定、鉄滓成分分析、土器付着物の蛍光 X 線分析は株式会社パレオ・ラボに委託して行い、第 4 章に掲載した。第 4 章第 1 節は磯貝が執筆した。
- 9 発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。
井川祥子、上川通夫、林正憲、藤澤良祐、四柳嘉章、渡邊博人、大垣市教育委員会
- 10 本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第 VII 系を使用する。
- 11 土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。
- 12 調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目次（第1分冊）

序

例言

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯…………… 1

第2節 調査の方法と経過…………… 3

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境…………… 7

第2節 歴史的環境…………… 8

第3章 調査の成果

第1節 基本層序…………… 11

第2節 遺構の概要…………… 13

第3節 遺物の概要…………… 15

第4節 古代の遺構と遺物…………… 18

第5節 中世の遺構と遺物…………… 36

第6節 表土・遺物包含層・攪乱出土遺物…………… 221

報告書抄録

第2分冊 目次

遺構一覧表

遺物観察表

発掘区全域図分割図

第4章 自然科学分析

第1節 分析の概要と成果

第2節 木製品年代測定

第3節 木製品の樹種同定

第4節 漆塗膜分析

第5節 鉄滓成分分析

第6節 蛍光X線分析

第5章 総括

第1節 遺構の変遷

第2節 遺物について

第3節 まとめ

引用・参考文献

写真図版

挿図目次

図 1 遺跡位置図…………… 1	図 38 SA 9～SA11 遺構図…………… 58
図 2 試掘・確認調査坑、本発掘区位置図…………… 2	図 39 SA12 遺構図…………… 59
図 3 グリッド設定図…………… 4	図 40 SA13 遺構図…………… 60
図 4 遺跡周辺の地質概略図…………… 7	図 41 SA14 遺構図…………… 61
図 5 遺跡周辺の埋没旧河道…………… 7	図 42 SA15 遺構図、出土遺物実測図…………… 62
図 6 周辺遺跡位置図…………… 10	図 43 SA16・SA17 遺構図、出土遺物実測図…………… 63
図 7 土層柱状図…………… 12	図 44 SA18 遺構図…………… 64
図 8 遺構属性模式図…………… 14	図 45 SA19・SA20 遺構図、出土遺物実測図…………… 66
図 9 実測図凡例…………… 16	図 46 SA21 遺構図…………… 67
図 10 SB 9 遺構図…………… 18	図 47 SA22 遺構図…………… 68
図 11 SA25・SA27 遺構図…………… 19	図 48 SA23 遺構図、出土遺物実測図…………… 69
図 12 SP42・SP43 遺構図…………… 20	図 49 SA24・SA26 遺構図…………… 70
図 13 SD71・SD72・SD74・SD77 遺構図、出土遺物実 測図…………… 21	図 50 SA28 遺構図、出土遺物実測図…………… 71
図 14 SD78～SD84 遺構図、出土遺物実測図…………… 23	図 51 SP 1～SP 9 遺構図…………… 74
図 15 SK445・SK1247・SK1268 遺構図、出土遺物実 測図（1）…………… 26	図 52 SP10～SP14 遺構図、出土遺物実測図…………… 77
図 16 SK1268 出土遺物実測図（2）…………… 27	図 53 SP15～SP21・SP23・SP24 遺構図・出土遺物実 測図…………… 80
図 17 SK1390・SK1395・SK1408・SK1411・SK1412・ SK1419 遺構図、出土遺物実測図…………… 29	図 54 SP25～SP33 遺構図…………… 83
図 18 SK1482～SK1484・SK1490・SK1498 遺構図、出 土遺物実測図…………… 31	図 55 SP34～SP40 遺構図、出土遺物実測図…………… 85
図 19 SK1520・SK1524・SK1528・SK1553・SK1589・ SK1646 遺構図…………… 34	図 56 SP41・SP44～SP46 遺構図、出土遺物実測図…………… 87
図 20 SK1520・SK1524・SK1528・SK1553・SK1589・ SK1646 出土遺物実測図…………… 35	図 57 SD 1 遺構図…………… 89
図 21 SB 1 遺構図、出土遺物実測図…………… 37	図 58 SD 1 出土遺物実測図…………… 90
図 22 SB 2 遺構図、出土遺物実測図…………… 38	図 59 SD 2 遺構図、出土遺物実測図…………… 91
図 23 SB 3 遺構図、出土遺物実測図…………… 40	図 60 SD 3 遺構図…………… 92
図 24 SB 4 遺構図、出土遺物実測図…………… 41	図 61 SD 3 出土遺物実測図…………… 93
図 25 SB 5 遺構図 1…………… 42	図 62 SD 4～SD 7 遺構図、出土遺物実測図…………… 95
図 26 SB 5 遺構図 2、出土遺物実測図…………… 43	図 63 SD 9 遺構図…………… 96
図 27 SB 6 遺構図 1…………… 44	図 64 SD 9 出土遺物実測図…………… 97
図 28 SB 6 遺構図 2、出土遺物実測図…………… 45	図 65 SD11 遺構図 1…………… 98
図 29 SB 7 遺構図 1…………… 47	図 66 SD11 遺構図 2…………… 99
図 30 SB 7 遺構図 2、出土遺物実測図…………… 48	図 67 SD11 出土遺物実測図…………… 100
図 31 SB 8 遺構図…………… 49	図 68 SD15 遺構図、出土遺物実測図…………… 102
図 32 SB 8 出土遺物実測図…………… 50	図 69 SD17 遺構図、出土遺物実測図…………… 103
図 33 SA 1～SA 3 遺構図…………… 51	図 70 SD19 遺構図 1…………… 104
図 34 SA 4 遺構図…………… 53	図 71 SD19 遺構図 2、出土遺物実測図…………… 105
図 35 SA 5・SA 6 遺構図…………… 54	図 72 SD20 遺構図、出土遺物実測図…………… 106
図 36 SA 7・SA 8 遺構図 1…………… 56	図 73 SD21 遺構図、出土遺物実測図…………… 107
図 37 SA 7・SA 8 遺構図 2…………… 57	図 74 SD23 遺構図、出土遺物実測図…………… 108
	図 75 SD24 遺構図、出土遺物実測図…………… 110
	図 76 SD25 遺構図 1…………… 111
	図 77 SD25 遺構図 2…………… 112
	図 78 SD25 出土遺物実測図 1…………… 113
	図 79 SD25 出土遺物実測図 2…………… 114

図 80	SD26 遺構図、出土遺物実測図	116	図 119	SK460 遺構図、出土遺物実測図	169
図 81	SD27～SD34・SD40 遺構図	119	図 120	SK462・SK483・SK495・SK502 遺構図、出土遺物実測図	171
図 82	SD27・SD30 遺構図 2、SD27・SD29～SD33・SD40 出土遺物実測図	120	図 121	SK506・SK560 遺構図、出土遺物実測図	172
図 83	SD41 遺構図、出土遺物実測図	121	図 122	SK576 遺構図、出土遺物実測図	173
図 84	SD45～SD49・SD53 遺構図、出土遺物実測図	124	図 123	SK578・SK636・SK643・SK644・SK662 遺構図、出土遺物実測図	175
図 85	SD52 遺構図、出土遺物実測図	125	図 124	SK704・SK715・SK733・SK737・SK785 遺構図、出土遺物実測図	177
図 86	SD56～SD58 遺構図、出土遺物実測図	126	図 125	SK788・SK789・SK813 遺構図、出土遺物実測図	179
図 87	SD61 遺構図、出土遺物実測図	128	図 126	SK819・SK874・SK893・SK941 遺構図、出土遺物実測図	181
図 88	SD62 遺構図 1	129	図 127	SK942 遺構図	183
図 89	SD62 遺構図 2	130	図 128	SK942 出土遺物実測図 1	184
図 90	SD62 出土遺物実測図 1	131	図 129	SK942 出土遺物実測図 2	185
図 91	SD62 出土遺物実測図 2	132	図 130	SK944 遺構図、出土遺物実測図	186
図 92	SD65・SD66・SD68・SD86・SD87 遺構図、出土遺物実測図	134	図 131	SK948・SK949 遺構図、出土遺物実測図	187
図 93	SD88 遺構図、出土遺物実測図	135	図 132	SK951 遺構図、出土遺物実測図	188
図 94	SE 1 遺構図	137	図 133	SK954・SK964・SK983・SK1000 遺構図、出土遺物実測図	190
図 95	SE 1 出土遺物実測図	138	図 134	SK1034・SK1057 遺構図、出土遺物実測図	191
図 96	SE 2 遺構図 1	139	図 135	SK1114・SK1124 遺構図、出土遺物実測図	193
図 97	SE 2 遺構図 2、出土遺物実測図	140	図 136	SK1190～SK1192 遺構図、出土遺物実測図	195
図 98	SK28・SK91・SK100 遺構図、出土遺物実測図	142	図 137	SK1197・SK1207・SK1213 遺構図、出土遺物実測図	197
図 99	SK121 遺構図、出土遺物実測図 1	144	図 138	SK1229 遺構図	198
図 100	SK121 出土遺物実測図 2	145	図 139	SK1229 出土遺物実測図 1	199
図 101	SK121 出土遺物実測図 3	146	図 140	SK1229 出土遺物実測図 2	200
図 102	SK121 出土遺物実測図 4	147	図 141	SK1229 出土遺物実測図 3	201
図 103	SK122 遺構図、出土遺物実測図	148	図 142	SK1230 遺構図、出土遺物実測図	203
図 104	SK148・SK153・SK197・SK237 遺構図、出土遺物実測図	150	図 143	SK1231 遺構図、出土遺物実測図	204
図 105	SK271・SK272・SK274 遺構図、出土遺物実測図	152	図 144	SK1234・SK1269・SK1279 遺構図、出土遺物実測図	206
図 106	SK275・SK279 遺構図、出土遺物実測図	153	図 145	SK1280・SK1288・SK1298 遺構図、出土遺物実測図	208
図 107	SK283 遺構図、出土遺物実測図	154	図 146	方形土坑群 (SK1309・SK1310・SK1313・SK1317・SK1320～SK1323・SK1336・SK1339・SK1340・SK1358) 遺構図、SK1313・SK1323 出土遺物実測図	212
図 108	SK284・SK289 遺構図、出土遺物実測図	155	図 147	SK1369 遺構図、出土遺物実測図	213
図 109	SK311・SK322 遺構図、出土遺物実測図	157	図 148	SK1479 遺構図 1	214
図 110	SK325・SK343・SK364・SK374 遺構図、出土遺物実測図	159	図 149	SK1479 遺構図 2	215
図 111	SK399 遺構図	160	図 150	SK1479 出土遺物実測図	216
図 112	SK399 出土遺物実測図	161	図 151	SK1485・SK1499・SK1519 遺構図、出土遺物	
図 113	SK401 遺構図、出土遺物実測図	162			
図 114	SK402 遺構図、出土遺物実測図	164			
図 115	SK403 遺構図	165			
図 116	SK403 出土遺物実測図	166			
図 117	SK409・SK427 遺構図、出土遺物実測図	167			
図 118	SK440・SK459 遺構図、出土遺物実測図	168			

実測図……………	218	図 154 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図 1……………	222
図 152 SK1525・SK1534 遺構図、出土遺物実測図 ……	219	図 155 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図 2……………	223
図 153 SK1639 遺構図、出土遺物実測図……………	220		

表目次

表 1 北方京水遺跡試掘・確認調査結果……………	2	表 4 出土遺物一覧表……………	15
表 2 周辺遺跡一覧表……………	9	表 5 木製品一覧表……………	16
表 3 種類別遺構検出数……………	13		

写真図版目次

巻頭図版

図版 1 発掘区全景（東から） SK942 笮（487）出土状況（南から）	図版 3 Ⅲ期（中世前期）出土遺物 Ⅳ期（中世後期）出土遺物
図版 2 SD19 漆器（157）出土状況（北から） SD 4 漆器出土状況（南から） SD19 漆器（156）出土状況（東から） SD25 漆器（211）出土状況（北から） SK399 漆器（415）出土状況（南東から）	図版 4 Ⅳ期（中世後期）遺構出土漆器 SK1229 出土蓮弁（572） SD 9 出土木簡（120）

挿入写真目次

写真 1 調査前風景（南東から）……………	6	写真 4 遺構掘削……………	6
写真 2 表土掘削……………	6	写真 5 遺構測量……………	6
写真 3 遺構検出……………	6	写真 6 調査後風景（南東から）……………	6

第1章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

当遺跡は、大垣市北方町に所在する（図1）。この遺跡は、平成2年度に大垣市教育委員会の分布調査で確認された古代から中世を中心とした遺跡である。特別養護老人施設建設に伴い、大垣市教育委員会が平成15年1月に試掘調査を、同年2月に確認調査を実施し、12世紀後半～13世紀を中心とした集落跡と考えられる遺構や遺物を確認した¹⁾。さらに、特別養護介護施設建設に伴い、大垣市教育委員会が平成22年2月に試掘調査を行い、調査地は集落等の立地する微高地周辺部に位置すると判断された²⁾。また、平成25年度には東海環状自動車道建設に伴い、岐阜県文化財保護センター（以下「センター」という。）が2,650㎡を対象に本発掘調査を行い、鎌倉時代を中心とする集落跡と2面の水田跡を確認した³⁾。

当遺跡において、水門川支流加納川の調整池新設が計画された。この事業に伴う当遺跡の試掘・確認調査は、岐阜県大垣土木事務所の依頼により、平成27年度に岐阜県教育委員会が実施した。試掘調



図1 遺跡位置図（平成30年度国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「大垣」、「岐阜西部」、「池野」、平成29年度国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「北方」を使用したものである）

2 第1章 調査の経過

査坑が31箇所設定され、このうち7箇所で古代から中世にかけての遺構を、22箇所で古代から中世にかけての遺物を確認した(図2・表1)。

その結果をもとに、平成29年2月13日に岐阜県教育委員会社会教育文化課は岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会において、本発掘調査が必要との意見をまとめた。本発掘調査は、平成29年度に5,166.6㎡を対象に、センターが岐阜県大垣土木事務所から公共広域河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査事業の依頼を受け、実施した。

本工事については、文化財保護法第94条第1項の規定に基づき、岐阜県大垣土木事務所長から岐阜県教育委員会教育長(以下「県教育長」という。)あて埋蔵文化財発掘通知(平成29年3月16日付け大士第781号)が提出され、同条第4項の規定に基づき、県教育長から同事務所長あて発掘調査実施の勧告(平成29年3月31日付け社文第64号の242)をした。同事務所長は発掘調査の実施を県教育長に依頼し、センターが実施した。センターは調査着手後、文化財保護法第99条第1項の規定に基づく発掘調査の報告(平成29年6月9日付け文財セ第136号)を県教育長に提出した。

注

- 1) 大垣市教育委員会 2004『大垣市埋蔵文化財調査概要 平成14年度』(大垣市文化財調査報告書第41集)
- 2) 大垣市教育委員会 2012『大垣市埋蔵文化財調査概要 平成22年度』(大垣市文化財調査報告書第49集)
- 3) 岐阜県文化財保護センター2015『北方京水遺跡』(岐阜県文化財保護センター調査報告書 第133集)

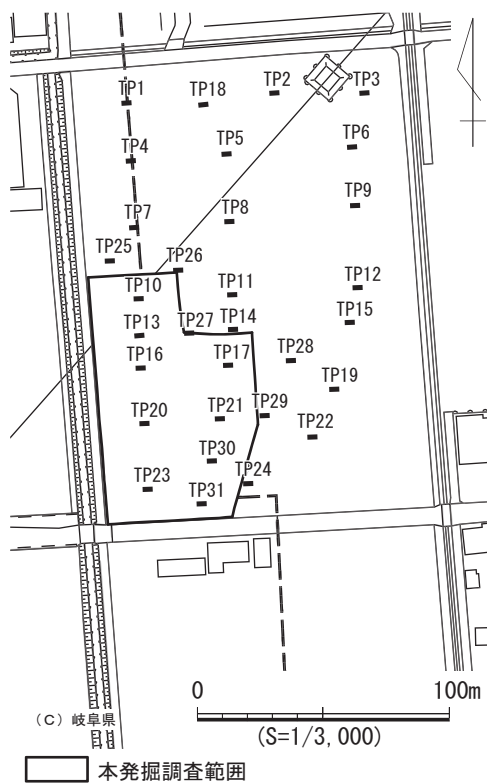


図2 試掘・確認調査坑、本発掘区位置図

表1 北方京水遺跡試掘・確認調査結果

調査坑 No.	検出遺構 (基数)	出土遺物 (点数)					合計
		土師器	須恵器	灰釉陶器	中近世陶磁器	砥石	
TP1	なし	1	0	0	0	0	1
TP2	なし	0	0	0	0	0	0
TP3	なし	0	0	0	0	0	0
TP4	なし	0	1	0	3	0	4
TP5	なし	0	0	0	0	0	0
TP6	なし	6	0	0	0	0	6
TP7	なし	0	0	0	2	0	2
TP8	なし	0	0	0	0	0	0
TP9	なし	0	0	0	1	0	1
TP10	土坑2	0	2	1	1	0	4
TP11	なし	0	1	0	4	0	5
TP12	なし	3	0	1	34	0	38
TP13	なし	0	0	0	2	0	2
TP14	なし	0	0	0	0	0	0
TP15	なし	0	0	0	1	0	1
TP16	土坑3、溝1	3	0	8	33	0	44
TP17	土坑2、溝2	10	0	0	10	0	20
TP18	なし	1	0	0	5	0	6
TP19	なし	1	0	0	0	0	1
TP20	土坑2、溝1	4	0	0	4	0	8
TP21	土坑8	28	1	0	20	0	49
TP22	なし	4	10	0	2	0	16
TP23	なし	5	0	0	3	0	8
TP24	なし	12	0	4	12	0	28
TP25	なし	0	0	0	0	0	0
TP26	なし	0	0	0	0	0	0
TP27	なし	0	0	0	0	0	0
TP28	なし	0	0	0	0	0	0
TP29	なし	1	3	0	6	0	10
TP30	溝1	10	0	6	1	1	18
TP31	土坑2	5	0	0	1	0	6
合計	土坑19、溝5	94	18	20	145	1	278

第2節 調査の方法と経過

1 調査の方法

発掘調査は、平成29年度に5,166.6 m²を実施した。発掘調査対象地は公共広域河川改修事業により調整池が建設される部分である。

発掘作業においては、平成25年度調査（以下「前回調査」という）と整合性をもたせるために、前回調査設定時の原点である世界測地系座標のX=-66700、Y=-50600を基準として設定した。前回調査ではA～Cの区画を付したため、今回は遺跡範囲を取り囲むように、世界測地系座標のX=-67200、Y=-50800を原点に一辺100mで区画し（大グリッド）、発掘区が収まるようにD・Eの区画を付した。さらにその中に、5m×5mの小区画を設定し、北から南へAからT、西から東へ1から20とした（図3）。そのため、発掘区の北西隅のグリッドはDG4、南東隅のグリッドはEF15となる。

表土掘削は重機を用いて行い、遺物包含層掘削、遺構検出、遺構掘削は人力で行った。遺構埋土は半截又は4分割して土層堆積状況などの必要な記録を作成した後に完掘した。排土は、発掘区北側の建設用地内の排土置き場に運搬した。

検出した遺構は、原則として検出順に通番を付した。2班（A・B班）体制で調査を行ったため、遺構番号はA及びBと3桁の数字により表記した（例、A001またはB001）。また、整理等作業時に遺構種別ごとに番号を振り替えた。

遺構等の実測作業は、原則として平面図はデジタル測量、断面図は手測り測量にて実施した。写真撮影は35mmフィルムカメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）、6×4.5版フィルムカメラ（リバーサルフィルム、モノクロフィルム）、デジタルカメラを使用した。また、発掘区全体の景観写真撮影は、RCヘリコプターにより撮影した。

遺物包含層掘削及び遺構検出時に出土した遺物は、層位・グリッド単位で取り上げた。遺構出土遺物は、半截前後で取り上げ方法を変えた。半截前は検出面から約5cmまでをa、約5cm～10cm下をbというように遺構内を概ね5cm単位の人工層位で取り上げ、半截後は分層した層位ごとに取り上げた。遺構との関係性が検討できる出土状況のものについては、出土状況図の作成あるいは出土位置の測定を行って取り上げた。遺物には、取り上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「西暦下二桁とKG（遺跡名略号）」「出土場所（遺構番号又はグリッド番号）」「出土層位」「取上日」「備考」を記入し、この記録をもとに遺物台帳を作成した。

2 調査の経過

現地での調査経過は以下の通りである。

第1週（5/26） 表土掘削開始（5/26）。

第2週（5/29～6/2） 人力掘削開始（6/1）。

第3週（6/5～6/9） SB1、SB2検出（6/9）。

第4週（6/12～6/16） SD7検出（6/12）。表土掘削終了（6/13）。SD3検出（6/16）。

第5週（6/19～6/23） SK121検出（6/20）。

第6週（6/26～6/30） 包含層掘削において風字硯（630）出土（6/27）。SD21検出（6/28）。

4 第1章 調査の経過

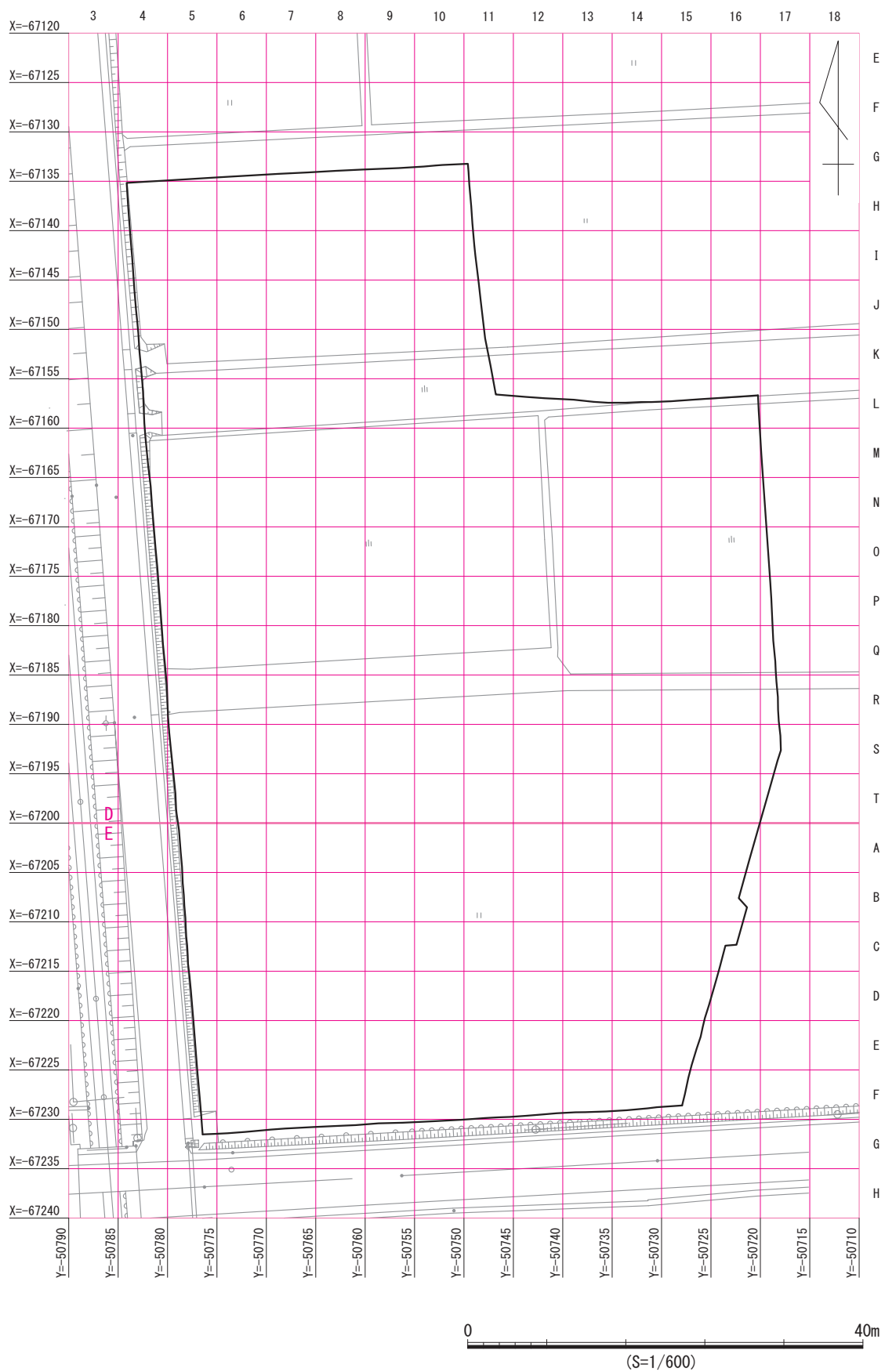


図3 グリッド設定図

- 第7週（7/3～7/7） SD11、SD25検出（7/3）。SD19検出（7/4）。
- 第8週（7/10～7/14） SD9から木簡(120)出土（7/11）。SD19から土師器皿（145～147）と漆器（156、157）が出土（7/13）。
- 第9週（7/17～7/21） SD11から風炉(134)が出土（7/18）。SD24検出（7/21）。SD25から古瀬戸袴腰形香炉（198）、漆器(209～211)が出土（7/21）。
- 第10週（7/24～7/28） タイムスリップ探検隊（美濃）開催。参加者9組19名（7/27）。
- 第11週（7/31～8/4） 早稲田大学文学学術院教授ほか7名見学（8/3）。
- 第12週（8/7～8/11） 台風5号による降雨で現場水没のため作業中止（8/7～8）。
- 第13週（8/14～8/18） 夏期休業（8/14～18）。
- 第14週（8/21～8/25） 一次整理作業開始（8/22）。インターンシップ2名受入（8/25）。
- 第15週（8/28～9/1） 第2回遺跡調査検討委員会を現地で開催（8/30）。
- 第16週（9/4～9/8） 掘削範囲を一部拡大してSK121の調査を実施（9/4）。
- 第17週（9/11～9/15） SE2検出（9/15）。
- 第18週（9/19～9/22） SE2から井戸枠検出（9/20）。
- 第19週（9/25～9/29） SD62から古瀬戸縁釉小皿（264～268）古瀬戸播鉢（270）、常滑産の甕（272）出土（9/26）。
- 第20週（10/2～10/6） 第3回遺跡調査検討委員会を現地で開催（10/4）。SK402検出（10/5）。
- 第21週（10/10～10/13） 鋤柄俊夫氏（同志社大学教授）現地指導（10/13）。
- 第22週（10/16～10/20） 岐阜県建設技術退職者会現地見学（10/18）。SK942出土の筥(487)取上げ作業実施。
- 第23週（10/23～10/27） 降雨により現場水没のため作業中止（10/23～24）。
- 第24週（10/30～11/2） SK1229から墨書土器（543～556、558、559）、曲物（576、577）出土（11/1）。
- 第25週（11/6～11/11） 林正憲氏（奈良文化財研究所）現地指導（11/7）。SK1172検出（11/7）。現地見学会開催。参加者151名（11/11）。
- 第26週（11/13～11/17） SK1479から山茶碗（604～607）や礫がまとまって出土（11/13）。RCヘリコプターによる景観写真撮影実施（11/17）。
- 第27週（11/20～11/24） 現地調査終了（11/22）。全体図校正実施（11/24）。
- 第28週（11/27～12/1） 現場事務所撤収（12/1）。
- 第29週（12/4～12/8） 埋戻し作業開始（12/4）。
- 第30週（12/11～12/15） 埋戻し作業終了（12/15）。
- 第31週（12/18～12/22） 一次整理作業完了（12/19）。現地引渡し（12/22）。

出土遺物の洗浄や注記等の一次整理作業は平成29年度に、遺物実測や挿図作成等の整理等作業は平成30年度～令和元年度にセンターにおいて実施した。平成30年9月28日に藤澤良祐氏（愛知学院大学）に灰釉陶器と中近世陶磁器に関する指導を、同年11月2日に井川祥子氏（岐阜市教育委員会）に土師器皿に関する指導を、同年12月12日に渡邊博人氏（元各務原市教育委員会）に須恵器に関する指導を受けた。平成31年2月26日に鋤柄俊夫氏（同志社大学）に調査成果全体についての指導を受

6 第1章 調査の経過

けた。令和2年2月12日には上川通夫氏（愛知県立大学）に木簡に関する指導を、同年2月18日には四柳嘉章氏（石川県輪島漆芸美術館）に漆製品に関する指導を受けた。

平成29年度に出土木製品の放射性炭素年代測定を、平成30年度に出土木製品の樹種同定及び保存処理、出土漆器の塗膜分析、出土木製品の放射性炭素年代測定、出土金属製品の保存処理、鉄滓成分分析、令和元年度に土器付着顔料成分分析（第4章参照）を実施した。



写真1 調査前風景（南東から）



写真2 表土掘削



写真3 遺構検出



写真4 遺構掘削



写真5 遺構測量



写真6 調査後風景（南東から）

3 調査体制

発掘調査の体制は以下のとおりである。

センター所長	羽田能崇（平成29年度） 野村幹也（平成30年度） 小林法良（令和元年度）
総務課長	加藤武裕（平成29・30年度、令和元年度）
調査課長	春日井恒（平成29・30年度、令和元年度）
調査担当係長	山本厚美（平成29・30年度） 鷺見博史（令和元年度）
担当調査職員	笠井慎吾（平成29年度） 磯貝龍志（平成29・30年度、令和元年度）

第2章 遺跡の環境

第1節 地理的環境

当遺跡が所在する大垣市は、木曾三川（木曾川・長良川・揖斐川）により形成された濃尾平野の北西部に位置する（図4）。濃尾平野は、その大部分を沖積平野が占め、大垣市付近には扇状地、自然堤防と後背湿地、三角州平野の地形が発達している。大垣市北西部には、わずかながら段丘も見られる。また、古くから「水の都」と呼ばれるように地下水が豊富な地域で、市内には「がま」と呼ばれる自噴水が多数存在している。

当遺跡は、大垣市の北東部、揖斐川が形成した標高9m前後の沖積平野に立地する。発掘調査対象地は、昭和40～41年頃に中河土地改良区により圃場整備が実施され、水田として利用されていた。人工堤防がなければ洪水の及ぶ、低湿な一帯である。完新世段丘の形成期以降における砂礫の堆積によって扇状地が発達し、その後これが埋没した。扇状地の微地形である旧中州（微高地）と旧河道も現在は埋没しており、現地表面はほぼ平坦化している。埋没した旧河道は網目状をなし、これらの中には埋没した旧中州（微高地）が想定される。

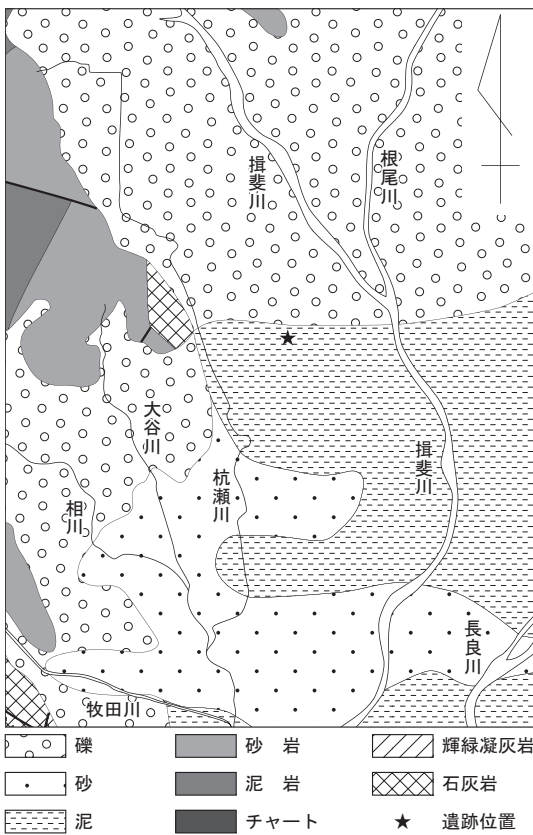


図4 遺跡周辺の地質概略図（地質調査所1999、地質図1/50,000岐阜を使用したものである）



図5 遺跡周辺の埋没旧河道（平成30年度国土地理院発行の2万5千分1電子地形図「大垣」に、大垣市1997の32頁の内容を追加したものである）

8 第2章 遺跡の環境

大垣市が行った旧河道の復元によると、今回の調査範囲は網目状に流れる河道に東西を挟まれる旧中州上に位置する¹⁾ (図5)。当遺跡の西側には古くから大字中沢の集落が存在し、北東に位置する現在の北方集落は比較的大規模に発達した微地形上に立地する。

注

1) 大垣市教育委員会 1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告書—解説編—』(大垣市埋蔵文化財調査報告書第5集)

第2節 歴史的環境

当遺跡周辺には、古代～中世にかけて営まれた遺跡が分布している。本節では、それらの概要を中心に年代順に記す¹⁾。なお、図6は『改訂版岐阜県遺跡地図』(岐阜県教育委員会 2007)を基に作成し、本文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、表2、図6と一致する。

縄文時代は、桧尾遺跡(35)の西側に位置する荒尾南遺跡で竪穴住居跡が一軒検出され、自然流路内や包含層などから縄文時代晩期の土器が出土した。

弥生時代は、荒尾南遺跡において、集落跡や大溝、木棺墓群や方形周溝墓群が確認されており、前期から後期にわたる継続的な活動が認められる。南一色遺跡(32)では、遺物の出土量や遺物包含層のひろがりから、弥生時代後期以降の大規模な集落があったと考えられている。

古墳時代前期から中期には、西方の扇状地や昼飯町の台地部及びその周辺に、粉糠山古墳、矢道長塚古墳、昼飯大塚古墳、遊塚古墳といった、大型の前方後方墳や前方後円墳が集中し、この地域に一大勢力が存在していたことをうかがわせる。古墳時代後期を迎えると、金生山やその山麓に100基を超す群集墳が形成されている。曾根八千町遺跡(5)では、木棺墓や土器・木製品などの遺物が検出され、古墳時代前期の墓域と生活域が存在したことが確認されている。

奈良時代以降、現在の不破郡垂井町に美濃国府が置かれたため、西濃地域は古代美濃国の政治的中枢となる。8世紀に不破郡関ヶ原町に不破関、大垣市に国分僧寺、垂井町に国分尼寺が営まれた。塚越遺跡(18)では、奈良時代から平安時代の須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・硯などの破片が多数出土しており、当遺跡のすぐ東にある北方遺跡(3)でも古代の遺物が確認されている。律令期には駅伝制により、都と国府を結ぶ交通路が整備された。美濃地方にも駅路が置かれ、壬申の乱の初動で塞いだ「不破の道」は、後に東山道となる初期駅路であるとされる。大垣付近では、赤坂宿と垂井宿を結ぶ中山道が東山道と推定されており、赤坂湊から東に直進して当遺跡の南東に位置する三ツ屋付近の中山道を通過する初期東山道ルートを示す説もある²⁾。また、市域の北半の一带に条里地割が施工され、西半が不破郡条里、東半が安八郡条里に編成されたことが指摘されている³⁾。

当遺跡の周辺では、古代から中世にかけての遺跡が多く分布する。興福地向田遺跡(17)は古代から中世の遺物散布地として知られる。曾根八千町遺跡は、当遺跡の約1km北東に位置し、掘立柱建物や中世墓が検出されている。掘立柱建物には溝が伴い、集落内が小規模な区画溝で区画された複数の屋敷から構成されていたと判断されている。中世墓からは、鏡・山茶碗・漆器碗など多くの副葬品が出土している。検出された遺構から12世紀後半から13世紀初頭の短い期間に営まれた集落であると

判断されている。興福地遺跡（16）は、当遺跡の1 km南西に位置する。この遺跡からは、奈良時代から鎌倉時代の土器や木製品などが出土しており、掘立柱建物や井戸、溝、柱穴などが検出されている。鎌倉時代の井戸からは、井戸を閉じる際の祭りで使用したと思われる遺物が一括して出土した。桧遺跡は、当遺跡の約3 km南西に位置する。この遺跡は、古代においては平安時代後期を中心に遺構・遺物が確認されており、中世においては12世紀後半～13世紀前半（中世前期）と、15世紀～16世紀代（中世後期）の遺構や遺物が確認されている。中世前期には、区画溝や井戸と考えられる大型土坑類の他、多数のピットが確認され、居住域の存在が想定されている。曾根八千町遺跡と比較すると、出土遺物の絶対量が多いこと、土師器皿や輸入磁器の比率が高いこと、墨書土器のような文字資料が存在することから、一定の経済力を有した階層の人物が居住していたと考えられている。当遺跡周辺には中世の城跡も多く分布する。稲葉氏ゆかりの曾根城跡・城下町（6）では石垣が確認されている。15世紀末～16世紀中頃の遺物が出土しており、城館を構えていた時期は15世紀末頃まで遡る可能性がある。他にも、吉田休三入道の在城した北方城跡（2）や氏家直元が在城した楽田城跡（23）、池田輝政が在城した池尻城跡（15）などがある。また、遺跡の周辺は、中世において美濃地域最大の伊勢神宮領である『中川御厨』に比定されている⁴⁾。

注

- 1) 各遺跡の記述は以下の文献を参考にした。
大垣市教育委員会 1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告書—解説編—』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第5集）
大垣市 2011『大垣市史 考古編』
岐阜県文化財保護センター2015『興福地遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書 第132集）
- 2) 大垣市教育委員会 1994『新版大垣市遺跡地図』
- 3) 大垣市教育委員会 1997『大垣市遺跡詳細分布調査報告書—解説編—』（大垣市埋蔵文化財調査報告書第5集）
- 4) 3) に同じ

表2 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	北方京水遺跡	集落跡, 水田	古代・中世
2	北方城跡	城館跡	中世
3	北方遺跡	散布地	古墳・古代・中世
4	北方次郎丸遺跡	散布地	古代・中世
5	曾根八千町遺跡	その他の遺跡	弥生～中世
6	曾根城跡・城下町	城館跡	中世
7	密厳寺勸学院跡	社寺跡	中世
8	尾張藩領取締木戸跡	その他の遺跡	近世
9	西保北方城跡	城館跡	中世
10	南方古銭出土跡	散布地	中世
11	塚のこし古墳	古墳	古墳
12	青木遺跡	散布地	中世
13	中山道	その他の遺跡	近世
14	興福地村北遺跡	散布地	中世
15	池尻城跡	城館跡	中世
16	興福地遺跡	集落跡	古代・中世
17	興福地向田遺跡	散布地	古代・中世
18	塚越遺跡	散布地	古墳
19	西之川遺跡	散布地	弥生・古墳・古代
20	領家遺跡	散布地	古代・中世
21	一里塚跡	その他の遺跡	近世
22	楽田遺跡	散布地	弥生～中世
23	楽田城跡	城館跡	中世
24	中川大坪遺跡	散布地	中世
25	林A遺跡	散布地	弥生～中世
26	林B遺跡	散布地	弥生～中世
27	林C遺跡	散布地	弥生
28	林E遺跡	集落跡	弥生～古代・近世
29	河間遺跡	散布地	古代・中世
30	河間村内遺跡	散布地	中世
31	笠縫城跡	城館跡	中世
32	南一色遺跡	散布地	弥生～中世
33	福田遺跡	散布地	中世
34	福田城跡推定地	城館跡	中世
35	桧遺跡	散布地	古代・中世・近世



図6 周辺遺跡位置図（平成30年度国土地理院発行 1:25,000 地形図「大垣」、「岐阜西部」、「池野」、平成29年度国土地理院発行 1:25,000 地形図「北方」を使用）

第3章 調査の成果

第1節 基本層序

平成27年度に、岐阜県教育委員会が実施した試掘・確認調査で確認された層序、各土層から出土した遺物、遺構の時期を検討し、今回の調査を行うに当たって北方京水遺跡の基本層序を以下のように設定した(図7)。

I a層 2.5Y3/2 黒褐色土

発掘区全面で確認した。現代の水田耕作土で、しまりはなく粘性がある。古代から近現代の遺物を含む。

I b層 5Y3/2 オリーブ黒色土

発掘区全域で確認した。現代の水田床土及び整地土で、ややしまりがあり、粘性がある。古代から近現代の遺物を含む。

II層 2.5Y4/2 暗灰色土

発掘区北東部(図7の破線より東側)を除く全域で部分的に確認し、発掘区北東部では全く確認出来なかった。ややしまっており粘性がある。古代から近世の遺物を包含する。近世以前の遺物包含層である。

III層 2.5GY4/1 暗オリーブ灰色砂質土

発掘区のほぼ全域で確認したが、北東部(図7破線より東側)には認められなかった。ややしまりがあり、この土層の上面で遺構検出を行った。この土層から遺物は出土しなかった。

IV層 5Y4/3 暗オリーブ色砂礫土

発掘区北東部(図7の破線より東側)で確認した。ややしまりがあり、径5cm程の円礫を多量に含む。III層が確認できない範囲では、この層の上面で遺構検出を行った。この土層から遺物は出土しなかった。

今回の発掘区において、図7の破線より東側ではII層とIII層が全く認められず、I b層の下でIV層を確認した。そのため、この範囲の遺構の検出面は、「I b層基底面」とした。一方、破線より西側では、おおよそ基本層序通りの堆積が確認でき、遺構はいずれも「III層上面」で検出した。

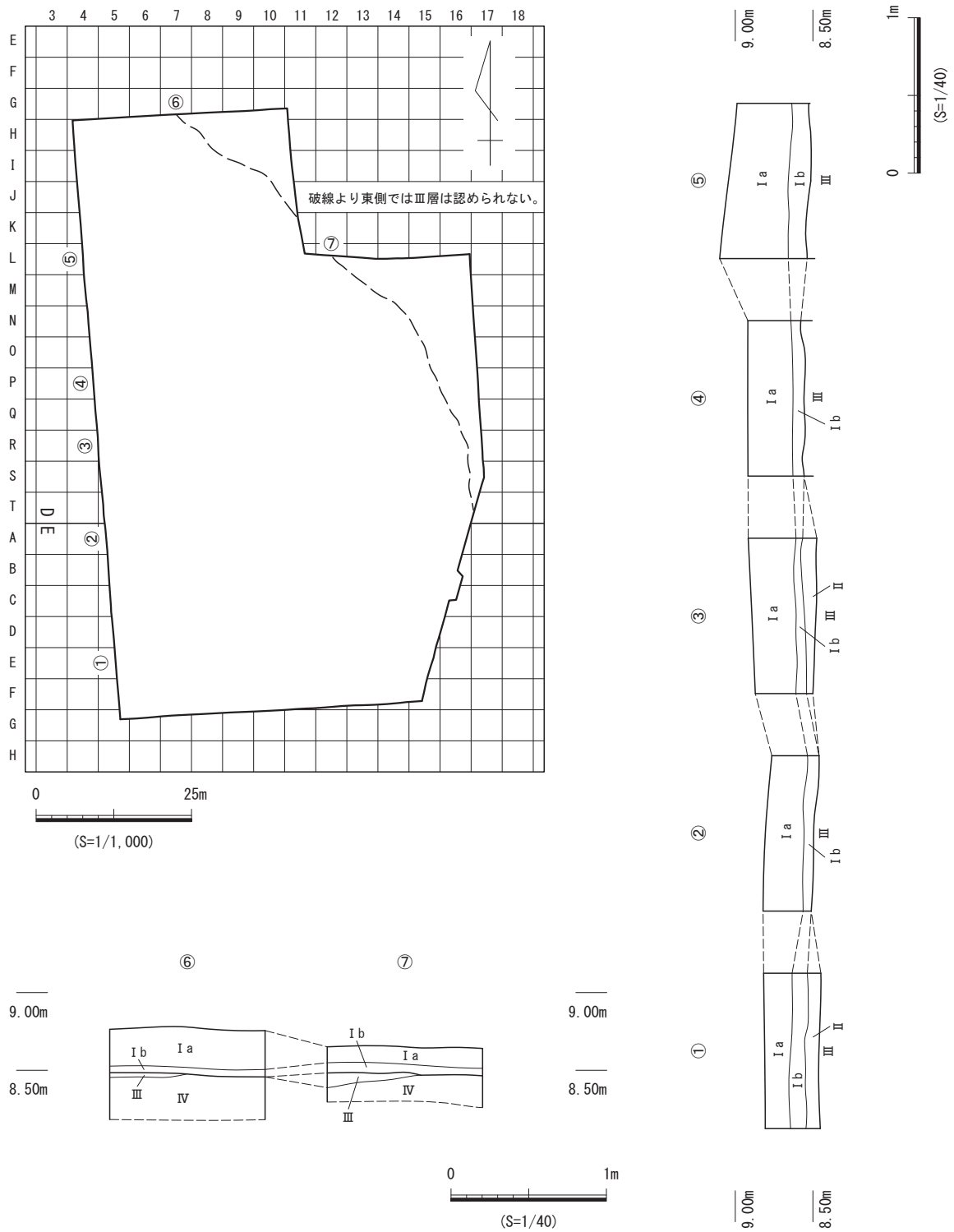


図7 土層柱状図

第2節 遺構の概要

1 概要

今回の調査では、古代から中世の遺構を検出した。検出した遺構数は表3のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係、埋土や長軸方位の類似性、周辺に分布する遺構の時期などから判断したが、時期不明なものも多い。また、出土遺物が複数の時代にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料とした。

本報告書では、これらの遺構のうち、掘立柱建物や柵、単独柱穴、井戸は遺跡の性格を反映すると考えられることから、すべてを報告した。溝状遺構や土坑などは検出数が多いため、区画施設のように遺跡の性格を検討する上で重要な遺構や、一括性の高い遺物が出土した遺構、出土例の少ない遺物が出土した遺構などを抽出して報告した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

表3 種類別遺構検出数

検出面	SB	SA	SP	SD	SE	SK	合計
Ⅲ層上面	9	28	45	88	2	1643	1815
I b層基底面	0	0	0	0	0	2	2
合計	9	28	45	88	2	1645	1817

2 遺構略号

今回の調査で確認した遺構の略号は以下のとおりである。

SB－掘立柱建物、SA－柵、SP－単独柱穴、SD－溝状遺構、SE－井戸、SK－土坑、
P－掘立柱建物柱穴・柵柱穴

なお、建物と柵に付属する柱穴は、「SB●-P●」のように付属する建物や柵の番号を先頭に記し、続けて通し番号を付与した。

3 遺構の分類

各遺構は、形状や規模、構造から以下のように分類基準を設定した。

掘立柱建物 複数の穴が直線的に並び、柱を埋めたことが想定できるもので、向かい合う2辺以上が確認でき、上屋構造を有すると推定できるもの。

柵 複数の穴が直線的に並び、柱を埋めたことや杭を打ち込んだことが想定できるもの。なおかつ、SBにならないもの。

単独柱穴 土層断面で柱痕跡が確認できる遺構や柱根、礎板、礎盤石、柱あたりがあるもので、規則的な並びが確認できなかったもの。

溝状遺構 地面を掘りくぼめた遺構の内、上端の短軸に対して長軸が5倍以上あるもの。ただし、5倍未満のものでも他の溝と連続している可能性のあるものは溝とする。

井戸 井戸枠が確認できるもの。井戸枠が確認できない場合でも堆積土と掘方埋土の違いから井戸跡と判断できるもの。なお、発掘区は現状の地下水位が高く湧水のある遺構が多くみられるため、湧水があることは根拠としない。

土坑 上記以外の人為的な掘り込み。

4 遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は次のとおりである。

遺構番号 掲載番号は種別と通番で表示した。

地区割 大区画と小区画で表示した。

検出面 基本層序の層位名を使用し、Ⅲ層上面で検出した遺構は「Ⅲ上」とし、Ⅰb層基底面で検出した遺構は、「Ⅰb基」と表記した。

規模 () は残存長を示す。

平面形・底面形 以下のとおり、形状をアルファベットで表記した。

aー円形、bー方形、cー不定形、dー不明

断面形・堆積状況 図8の分類に基づき記載した。

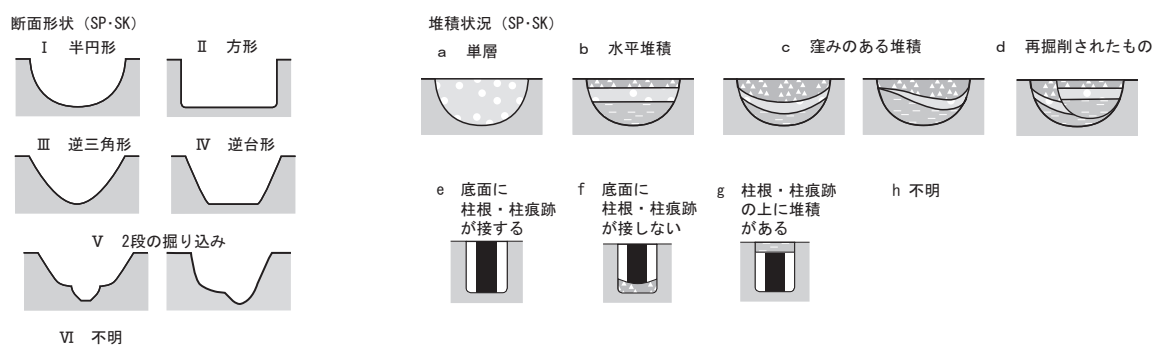


図8 遺構属性模式図

重複関係 「新>古」の関係を示す。

出土遺物 以下のとおり、記号化して表記した。

- Hー弥生土器・土師器、Dー土製品、Pー須恵器、Kー灰釉陶器、Yー山茶碗、
- Tーその他の陶磁器、Sー石器・石製品、Iー金属製品、Wー木製品、Cー炭化物・炭化材、
- Nー種子類、Bー骨

第3節 遺物の概要

1 概要

今回の調査では、土師器、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、土製品、石製品、木製品、金属製品、その他（獣骨、種子、炭化物）が出土した。出土数は表4のとおりである。本報告書では、これらの遺物のうち、遺構の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

表4 出土遺物一覧表

大別	種別・器種	接合前 破片数	接合後 破片数	接合後 破片数 割合	口縁部 残存率 (X/12)	口縁部 残存率 割合	質量 (g)	質量 割合	
土器類	須恵器	1,592	1,468	4.1%	458.9	4.1%	22,125.6	6.2%	
	灰釉陶器	668	634	1.7%	180.6	1.6%	9,433.1	2.6%	
	土師器	皿(手づくね)	7,574	6,893	19.0%	4,224.9	37.6%	30,819.8	8.6%
		皿・碗・鉢(ロクロ)	753	655	1.8%	205.7	1.8%	12,520.9	3.5%
		甕	813	755	2.1%	56.2	0.5%	4,616.5	1.3%
		羽釜・鍋	860	667	1.8%	180.0	1.6%	7,882.2	2.2%
		不明	8,656	7,458	20.6%	634.0	5.6%	9,950.3	2.8%
	山茶碗	碗・小碗・小皿	15,338	14,638	40.4%	4,846.8	43.1%	149,957.5	41.9%
		片口鉢	412	379	1.0%	98.5	0.9%	15,237.5	4.3%
		壺	10	10	0.0%	0.0	0.0%	168.2	0.0%
		不明	69	69	0.2%	7.0	0.1%	117.0	0.0%
	陶磁器	古瀬戸・大窯	383	318	0.9%	138.4	1.2%	10,645.8	3.0%
		常滑	1,603	1,344	3.7%	42.1	0.4%	71,111.1	19.8%
		古城山	1	1	0.0%	0.0	0.0%	286.9	0.1%
		中国産陶磁器	554	528	1.5%	132.4	1.2%	4,874.4	1.4%
		瓦質土器	53	24	0.1%	1.0	0.0%	3,387.4	0.9%
		近世・近代陶磁器	179	172	0.5%	23.7	0.2%	1,492.9	0.4%
	不明	231	216	0.6%	4.0	0.0%	3,662.8	1.0%	
		小計	39,749	36,229	100%	11,234.2	100.0%	358,290.0	100%
	土製品	—	182	163	—	—	—	1,886.4	—
	石製品	—	22	22	—	—	—	18,061.5	—
木製品	—	246	246	—	—	—	—	—	
金属製品	—	9	9	—	—	—	505.7	—	
その他(獣骨、種子等)	—	53	53	—	—	—	26,740.3	—	
	合計	40,261	36,722	—	—	—	405,483.9	—	

① 土器類

年代観や器種分類は既存の研究に従った¹⁾。時期は中世が中心で、古代以前の遺物もわずかにある。出土点数は山茶碗が最も多く、大半を碗・小碗・小皿が占める。南部系が多く尾張型第5・6型式期のもものが中心である。北部系はわずかである。山茶碗類以外では、土師器、瀬戸美濃産陶器²⁾、常滑産陶器、中国産陶磁器、瓦質土器等が出土している。古瀬戸は前期から後期まで認められ、特に後期が多い。大窯もわずかに認められる。実測図の凡例は図9のとおりである。

② 土製品

土錘162点、瓦10点、羽口1点、不明品9点が出土した。実測図の凡例は図9のとおりである。

③ 石製品

砥石21点、温石1点が出土した。実測図の凡例は図9のとおりである。

④ 木製品

出土した木製品の点数は表4・5のとおりである。分類は既存の研究に従った³⁾。実測図を掲載した木製品の内、48点の樹種同定を行った。漆器は4点の塗膜成分分析を実施した。また、柱根9点の放射性炭素年代測定を行った。分析の結果はそれぞれ第4章に記載した。また、実測図の凡例は図9のとおりである。

⑤ 金属製品

金属製品は、9点出土した。刀子や鉄釘といった鉄製品2点と、把手や古銭といった銅製品7点が見られる。金属製品については、全て図化した。

⑥ その他の出土遺物

その他の遺物として、獣骨や種子、炭化物が出土した。

2 遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、種別ごとに作成し、遺物番号順に記載した。なお、種別により一覧表の項目は一部異なる。

出土位置 複数の地区（グリッド）や遺構から出土した遺物が接合した場合は、すべての出土位置を表記した。項目ごとの内容は以下の通りである。表土と遺物包含層から出土した場合、基本層序名（I・II）を表記した。また、遺構出土の場合、人工層位又は遺構層位を表記した。なお、複数の土層から出土した遺物が接合した場合は、すべての層位を表記した。

法量 （ ）は復元長を示す。

口縁部残存率 X/12のXにあたる数値を記載した⁴⁾。

器面調整 摩滅等により不明な場合は「-」と記載した。

胎土 肉眼観察により、粗密や含有物を判断し、記載した。

色調 「新版標準土色帳」⁵⁾に基づき肉眼観察で判断し、記載した。

表5 木製品一覧表

分類群	器種	点数
工具	火鑽板	1
農耕土木具	堅杵	1
容器	椀（漆器）	14
	皿（漆器）	3
	合子（漆器）	1
	椀か皿（漆器）	2
	把手	1
	曲物（底板か蓋板）	5
調理加工具	曲物（側板）	11
	柄杓	1
食事具	筥	1
	箸	56
祭祀具	形代	2
	蓮弁	1
建築部材	柱根	23
	敷居か鴨居	1
	礎板	2
土木材	杭	4
その他	板材	80
	棒材	26
	木簡	1
	不明	9

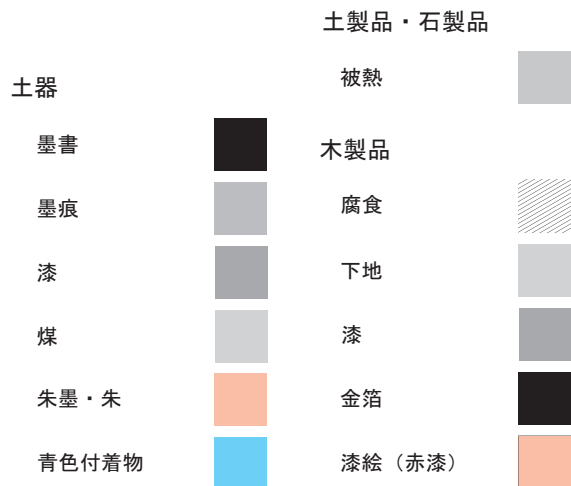


図9 実測図凡例

注

- 1) 出土遺物の年代観や器種分類は、以下の文献を参考とした。中近世陶器は藤澤良祐氏（愛知学院大学）から、土師器皿は井川祥子氏（岐阜市教育委員会）から、須恵器は渡邊博人氏（元各務原市教育委員会）から、それぞれ指導をいただいた。ただし、文責は筆者にある。

愛知県史編さん委員会 2007『愛知県史 別冊 窯業2 中世・近世 瀬戸系』

愛知県史編さん委員会 2015『愛知県史 別冊 古代 猿投系』

愛知県史編さん委員会 2012『愛知県史 別冊 窯業3 中世・近世 常滑系』

井川祥子 1997「15世紀後半～16世紀前葉の土師器皿—中濃地域を中心として—」『美濃の考古学』（第2号）、美濃の考古学刊行会

井川祥子 2006「美濃中世後期土師器皿の分類と編年」『守護所と城下町』、高志書院

伊東隆夫・山田昌久 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』、海青社

井野近富「土師器皿」『概説 中世の土器・陶磁器』、真陽社

小野木学 1997「美濃地方における中世前期の土師器皿の様相」『美濃の考古学』（第2号）、美濃の考古学刊行会

各務原市教育委員会 1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』

北村和宏 1996「尾張の伊勢型鍋」『鍋と甕そのデザイン』、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

北村和宏 1996「尾張の羽釜」『鍋と甕そのデザイン』、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

北村和宏 2001「古代「三河型甕」考」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』（第2号）、愛知県埋蔵文化財センター

佐野元「白磁四耳壺の型式と画期」『瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』（第2号）、瀬戸市埋蔵文化財センター

太宰府市教育委員会 2000『太宰府条坊跡XV—陶磁器分類編—』（太宰府市の文化財第49集）

新田和央 2017「広域展開した瓦器—奈良火鉢・風炉について—」『中近世陶磁器の考古学』（第7巻）、雄山閣

藤澤良祐 1994「山茶碗研究の現状と課題」『研究紀要』（第3号）、三重県埋蔵文化財センター

藤澤良祐 2015「付編 中世常滑窯編年の再検討—5型式期以降を中心に—」『上県2号窯跡第9次発掘調査概要報告書』（愛知学院大学考古学発掘調査報告20）、愛知学院大学文学部歴史学科

山中章 1997「桓武朝の新流通構造—壺Gの生産と流通—」『古代文化』（第49巻第11号）、財団法人古代学協会

山本智子 2013「付編2 古城山窯跡の出土遺物について」『上県2号窯跡第7次発掘調査概要報告書』（愛知学院大学考古学発掘調査報告16）、愛知学院大学文学部歴史学科

山本智子 2018「中世美濃須衛窯編年の再検討」『文研会紀要』（第29号）、愛知学院大学大学院文学研究科 文研会

四柳嘉章 1995「漆器」『概説 中世の土器・陶磁器』、真陽社

四柳嘉章 1997『北陸の漆器考古学—中世とその前後—』（第10回北陸中世土器研究会記念特集号）、北陸中世土器研究会

渡辺博人 2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会 2008年愛知大会研究発表資料』、日本考古学協会 2008年愛知大会実行委員会

- 2) 古瀬戸・大窯を瀬戸美濃産陶器とした。

- 3) 伊東隆夫・山田昌久 2012『木の考古学 出土木製品用材データベース』、海青社

- 4) 口縁部残存率の計測は以下の文献を参考とし、12分の1未満の破片は12分の1に切り上げ、12分の1以上の破片は小数点以下第1位まで計測した。

宇野隆夫 1992「食器計量の意義と方法」『国立歴史民俗博物館研究報告』第40集、国立歴史民俗博物館

- 5) 小山正忠、竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』、日本色研事業株式会社

第4節 古代の遺構と遺物

1 掘立柱建物

SB9 (図10)

検出状況 DJ4～5、DK5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。発掘区外西側にP1、P2に対応する柱穴が存在することが想定されるため、掘立柱建物と判断した。柱穴の平面形は、いずれもやや明瞭であった。

規模・形状 桁行2間(3.7m、柱間1.3m～2.4m)以上、梁行2間(3.3m、柱間1.1m～2.2m)の側柱建物である。長軸方位はN-56°-Wである。

柱穴 5基の柱穴から成る。平面形はP1、P5が円形、P2、P3が不整形円形、P4が不整形楕円形で、径は0.25m～0.66m、深さは0.03m～0.08mである。いずれの柱穴も掘方は浅く、柱根や柱痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

時期 周辺に古代の遺構が多くみられることから古代のものの可能性がある。

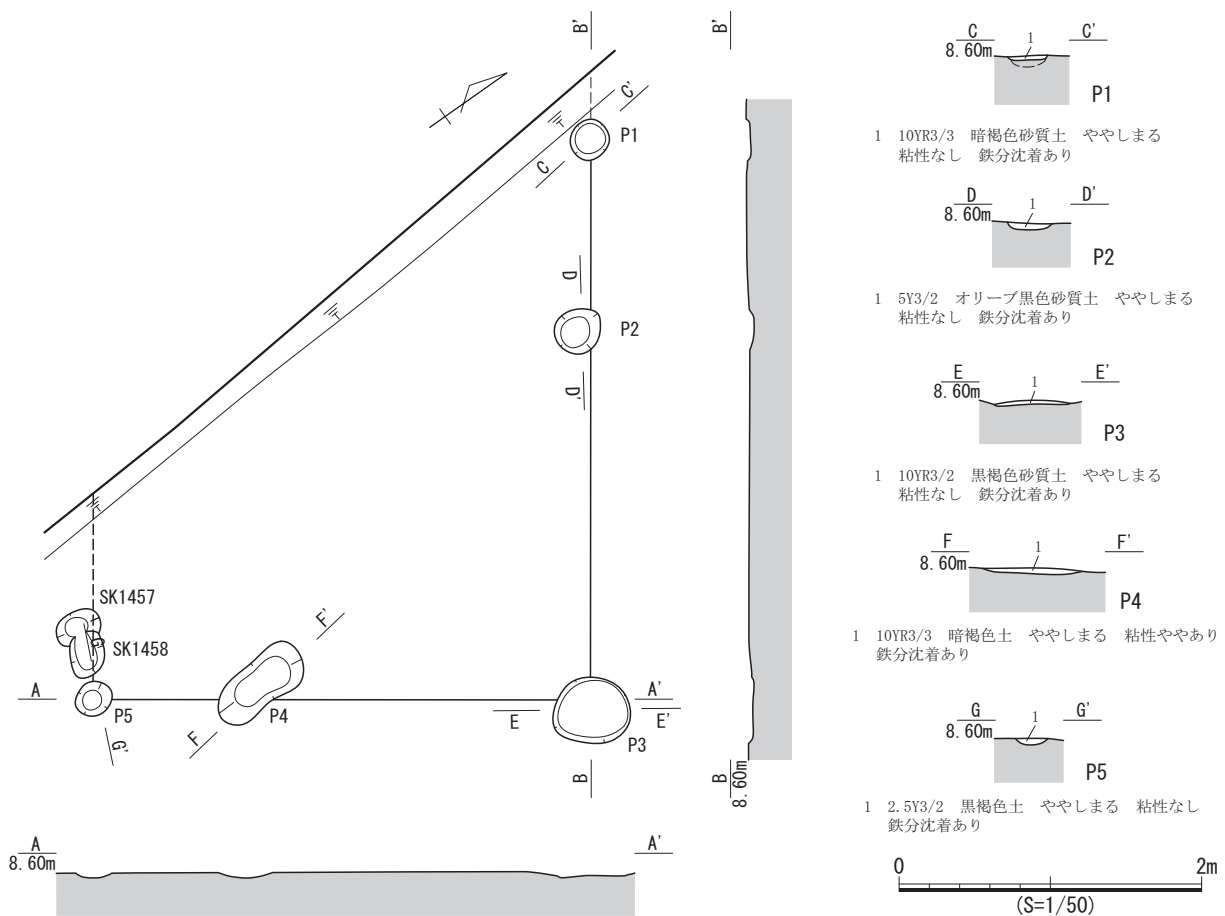


図10 SB9遺構図

2 柵

SA25 (図11)

検出状況 DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP2がSK1526よりも新しい。P3がSK1516、SK1530よりも古く、P4がSK1411、SK1532、SK1533より古い。平面形はP3、P4がやや明瞭、P1、P2が不明瞭であった。

規模・形状 3間(4.1m、柱間1.1m~1.6m)である。長軸方位はN-48°-Wで、約18m西に位置するSB9とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP1、P2が円形、P3、P4が楕円形で、径は0.33m~0.48m、深さは0.07m~0.08mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P3の埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SB9と方向が類似することから、古代のものと考ええる。

SA27 (図11)

検出状況 DJ5、DK6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP2がSK1436より古い。平面形はP2、P3が明瞭、P1はやや明瞭であった。

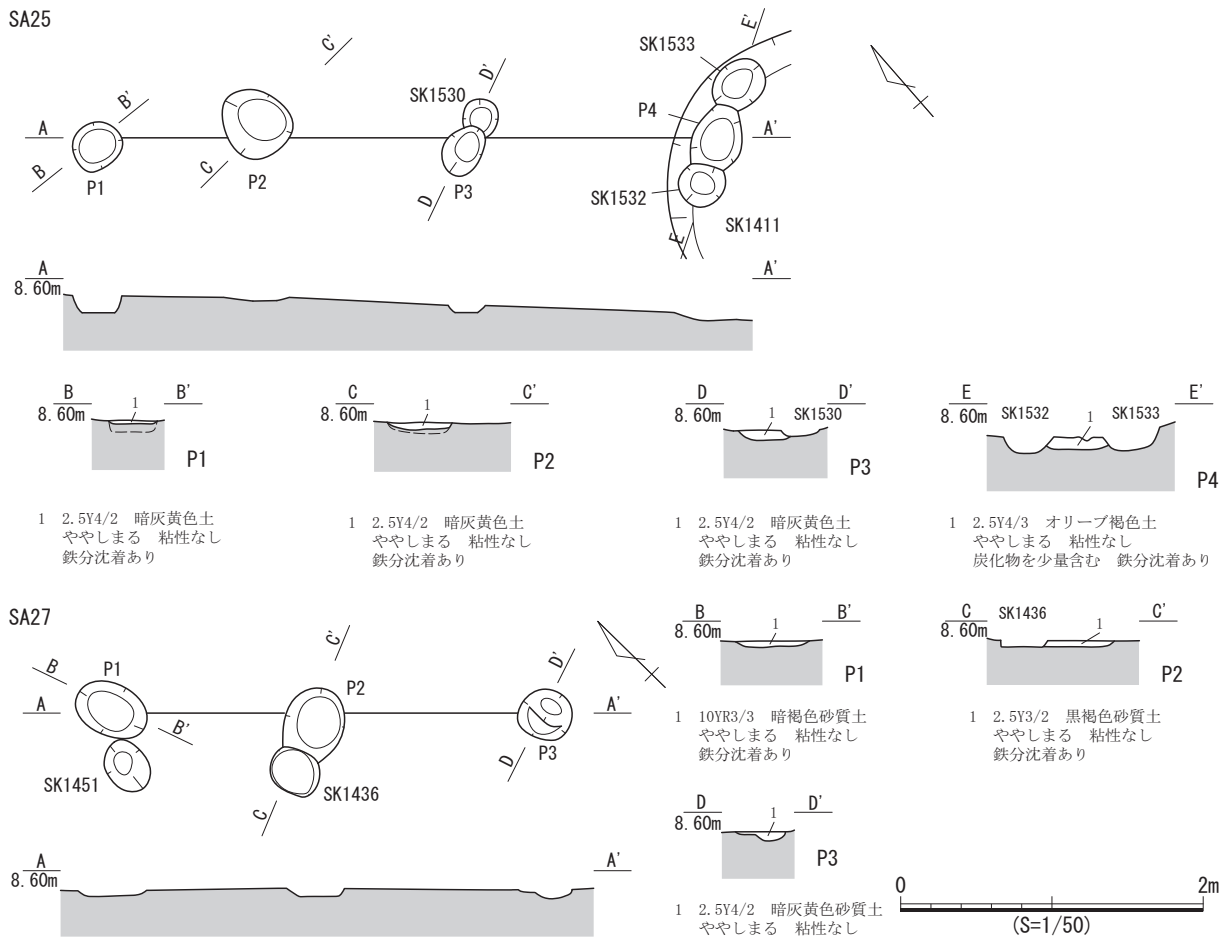


図11 SA25・SA27遺構図

規模・形状 2間(2.9m、柱間1.4m~1.5m)である。長軸方位はN-42°-Wで、約4.6m西に位置するSB9とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP3が円形、P1、P2が楕円形で、径は0.34m~0.49m、深さは0.04m~0.06mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。遺物は出土しなかった。

時期 SB9と方向が類似することから、古代のものの可能性がある。

3 単独柱穴

SP42 (図12)

検出状況 DK5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.46m、短軸長0.45m、深さ0.07mで、平面形は円形である。断面形は逆台形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 2層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。遺物は出土しなかった。

時期 周辺に古代の遺構が多くみられることから古代のものの可能性がある。

SP43 (図12)

検出状況 DK5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK1454より新しい。

規模・形状 長軸長0.32m、短軸長0.26m、深さ0.08mで、平面形は楕円形である。断面形は半円形である。

埋土 2層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。遺物は出土しなかった。

時期 周辺に古代の遺構が多くみられることから古代のものの可能性がある。

SP42

SP43

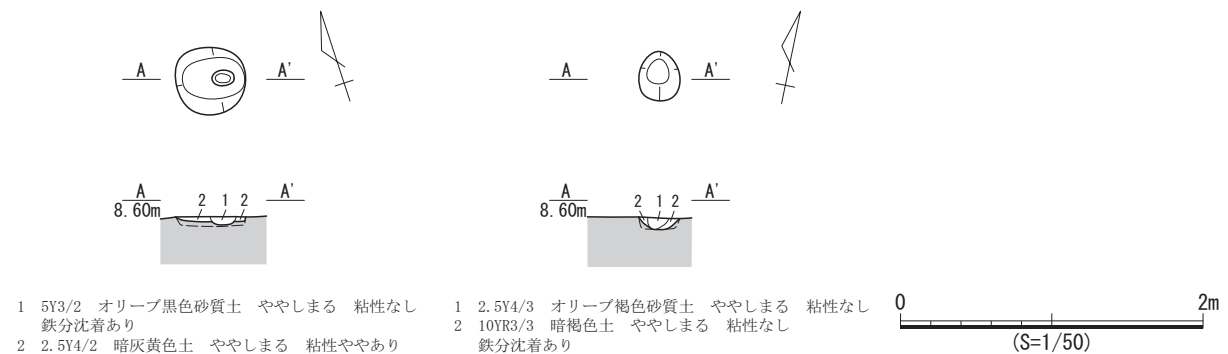


図12 SP42・SP43遺構図

4 溝状遺構

SD71 (図13)

検出状況 DM6~7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-85°-Wである。本遺構から約0.28m西に位置するSD72と向きや幅や埋土が類似するため、本来は同一遺構でさらに西に延びていた可能性がある。最大幅0.25m、深さ0.03mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SD72と同一遺構であった可能性があるため、9世紀のものとする。

SD72 (図13)

検出状況 DM5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 東西方向に伸びる溝である。長軸方位はN-85°-Wである。本遺構から約0.28m東に位置するSD71と向きや幅や埋土が類似するため、本来は同一遺構でさらに東に伸びていた可能性がある。最大幅0.23m、深さ0.04mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の無台坏身(1)を図示した。

時期 出土遺物から、9世紀のものとする。

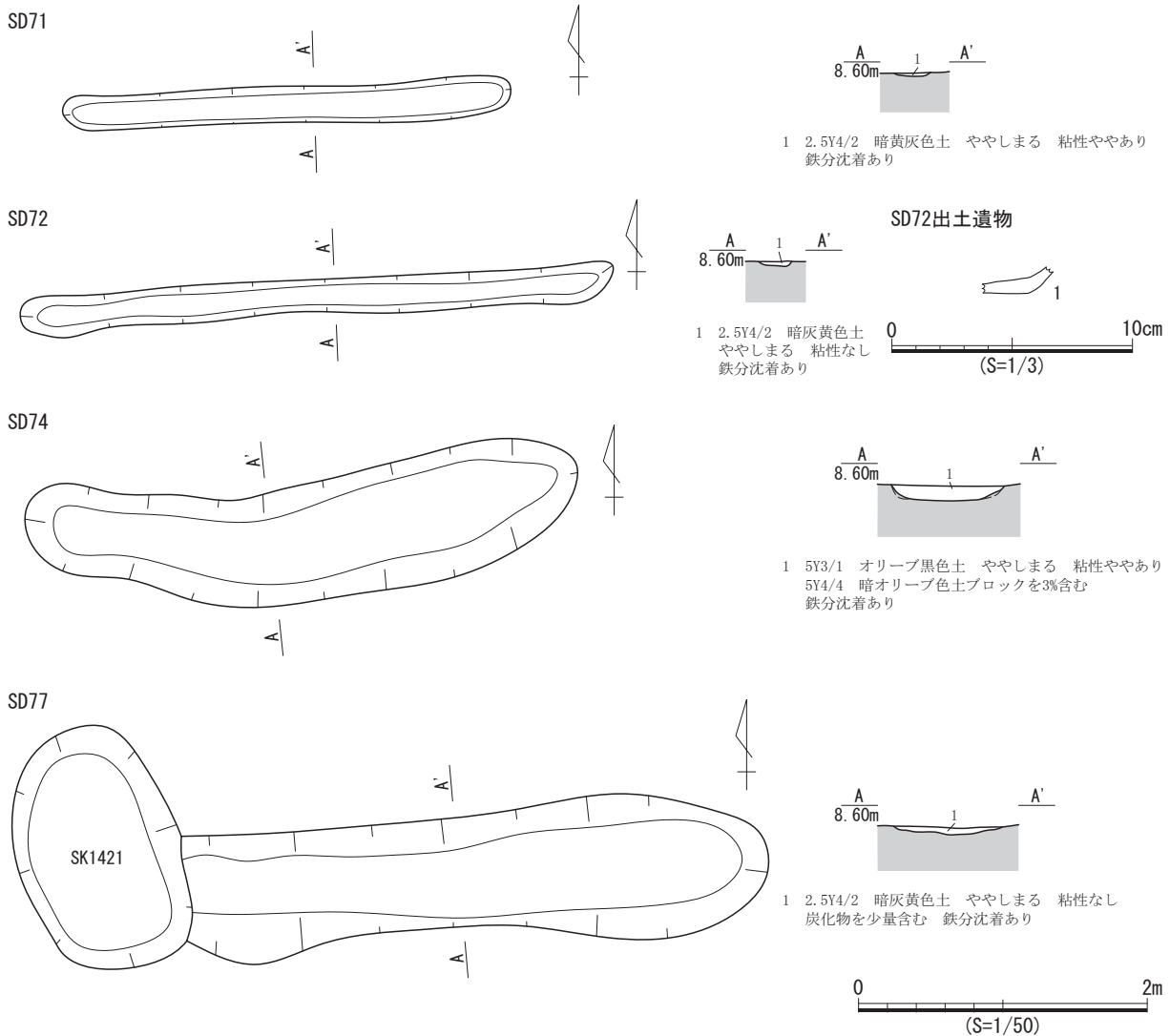


図13 SD71・SD72・SD74・SD77遺構図、出土遺物実測図

SD74 (図13)

検出状況 DK 9～10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1388より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-79°-Eで、約1.2m北西に位置するSD77とほぼ同じである。最大幅0.78m、深さ0.10mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 近接するSD77と向きが類似することから、古代のもの可能性がある。

SD77 (図13)

検出状況 DK 8～9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1421より古く、SD75、SK1401、SK1424より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。西端はSK1421と重複する。長軸方位はN-88°-Eで、約1.2m南東に位置するSD74とほぼ同じである。最大幅0.75m、深さ0.05mで、断面形は皿状で、底面には凹凸がある。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器6点、須恵器3点、灰釉陶器2点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物から、古代のものとする。

溝状遺構群 (SD78～SD84)

DJ・DK 8～9グリッドで南北にほぼ同一方向に延びる7条の溝状遺構を検出した。いずれも直線的で、深さや埋土が類似することから、耕作の痕跡の可能性はある。以下それぞれの溝について報告する。

SD78 (図14)

検出状況 DJ・DK 8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1399より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-65°-Eである。最大幅0.30m、深さ0.04mで、断面形は逆台形である。底面は東に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器4点、須恵器2点、灰釉陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物と、本遺構と向きが似るSD79からK-14号窯式の灰釉陶器の碗が、SD80から美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋が出土していることから、9世紀前半のものとする。

SD79 (図14)

検出状況 DJ 9・DK 8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1410、SK1411より古く、SK1412より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-67°-Eである。最大幅0.21m、深さ0.07mで、断面形は皿状である。底面は東に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器17点、須恵器2点、灰釉陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 K-14号窯式の灰釉陶器の碗(2)を図示した。2はSD78、SK1390、SK1412、包含層から出土した破片と接合した。

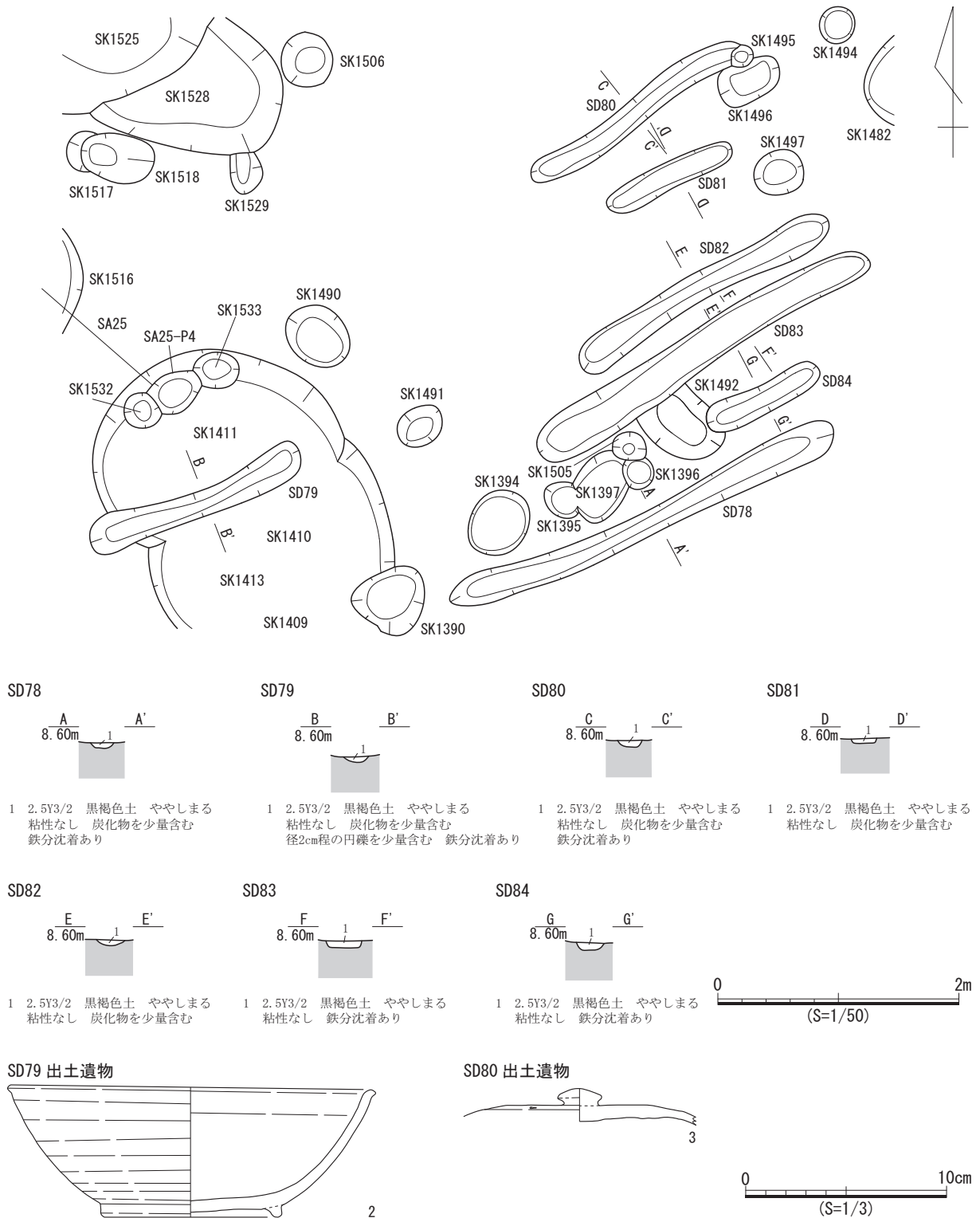


図14 SD78~SD84遺構図、出土遺物実測図

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀前半のものとする。

SD80 (図14)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1495より古く、SK1499より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。東端はSK1495と重複する。長軸方位はN-59°-Eである。最大幅0.21m、深さ0.05mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋(3)を図示した。

時期 出土遺物から、9世紀のものとする。

SD81 (図14)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-64°-Eである。最大幅0.21m、深さ0.04mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土した。

出土遺物 須恵器は小片のため図示しなかった。

時期 本遺構と向きが似るSD79からK-14号窯式の灰釉陶器の碗が、SD80から美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋が出土していることから、9世紀前半のものとする。

SD82 (図14)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1498、SK1499より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-60°-Eである。最大幅0.23m、深さ0.05mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器5点、須恵器1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物と、本遺構と向きが似るSD79からK-14号窯式の灰釉陶器の碗が、SD80から美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋が出土していることから、9世紀前半のものとする。

SD83 (図14)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1492より古く、SK1483、SK1484、SK1498、SK1501等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-60°-Eである。最大幅0.30m、深さ0.06mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器10点、須恵器2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物と、本遺構と向きが似るSD79からK-14号窯式の灰釉陶器の碗が、SD80から美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋が出土していることから、9世紀前半のものとする。

SD84 (図14)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1492より古い。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-62°-Eである。最大幅0.23m、深さ0.07mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物と、本遺構と向きが似るSD79からK-14号窯式の灰釉陶器の碗が、SD80から美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋が出土していることから、9世紀前半のものとする。

5 土坑

SK445 (図15)

検出状況 DT10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.45m、深さ0.10mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、須恵器1点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の盤(4)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1247 (図15)

検出状況 DP13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD62より古い。

規模・形状 長軸長0.74m、短軸長0.42m、深さ0.06mで、平面形は楕円形である。断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身(5)を図示した。

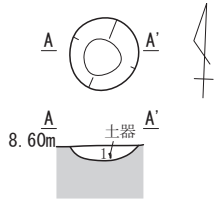
時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1268 (図15~16)

検出状況 D014~DN14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複するSD61より古い。

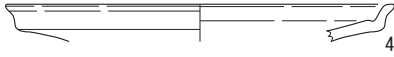
規模・形状 長軸長1.65m、短軸長0.86m、深さ0.28mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

SK445

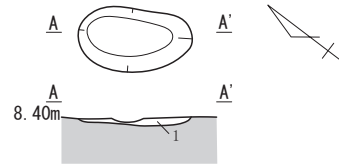


1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし 鉄分沈着あり

SK445出土遺物



SK1247

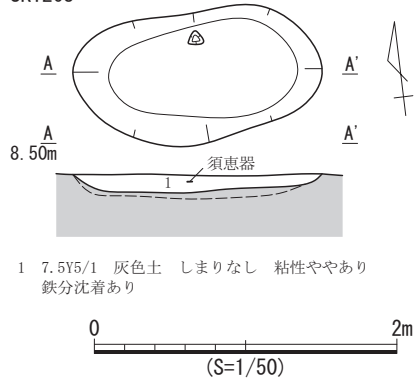


1 5Y5/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり 炭化物を含む 鉄分沈着あり

SK1247出土遺物

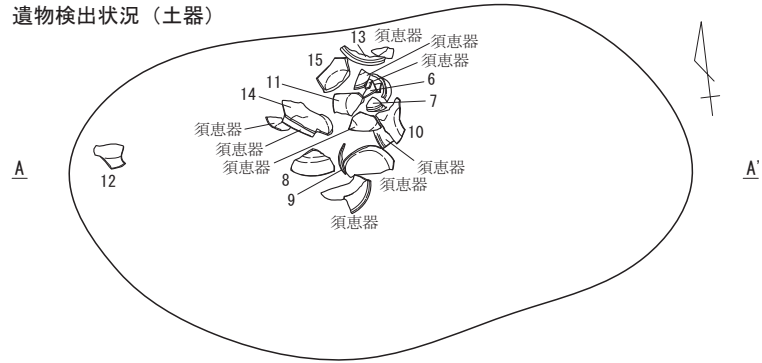


SK1268

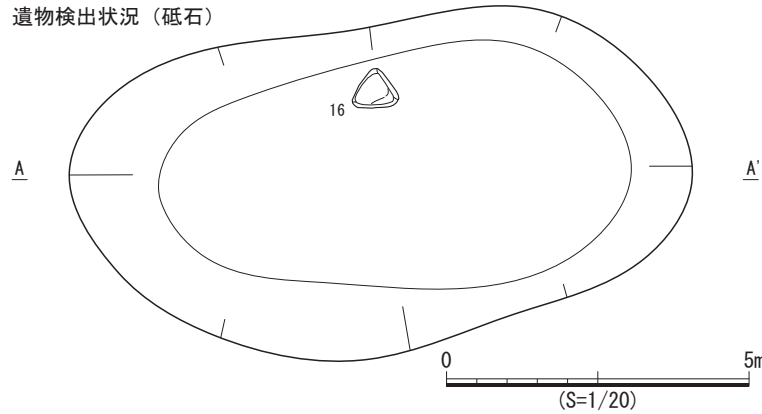


1 7.5Y5/1 灰色土 しまりなし 粘性ややあり 鉄分沈着あり

遺物検出状況 (土器)



遺物検出状況 (砥石)



SK1268出土遺物 (1)

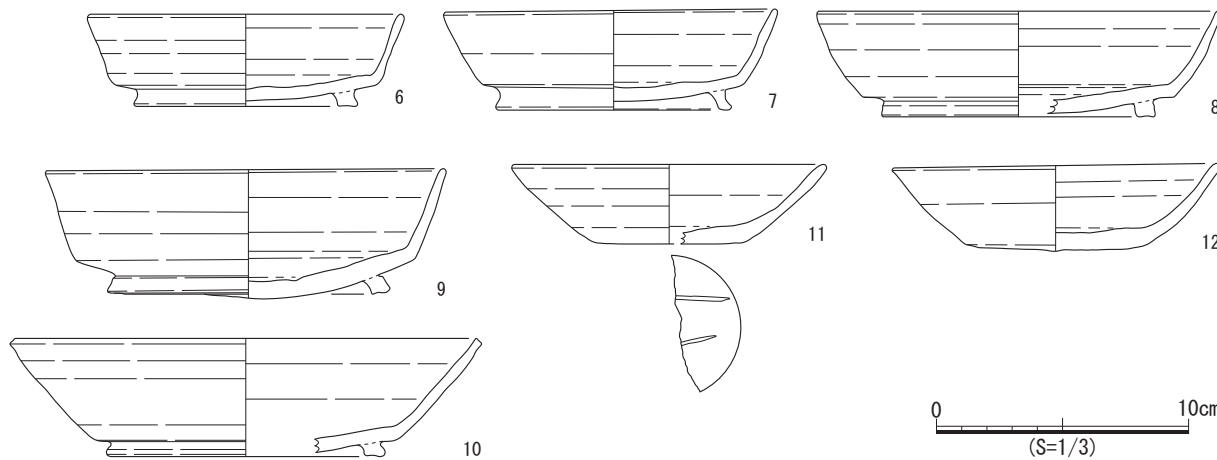


図15 SK445・SK1247・SK1268遺構図、出土遺物実測図(1)

SK1268出土遺物（2）

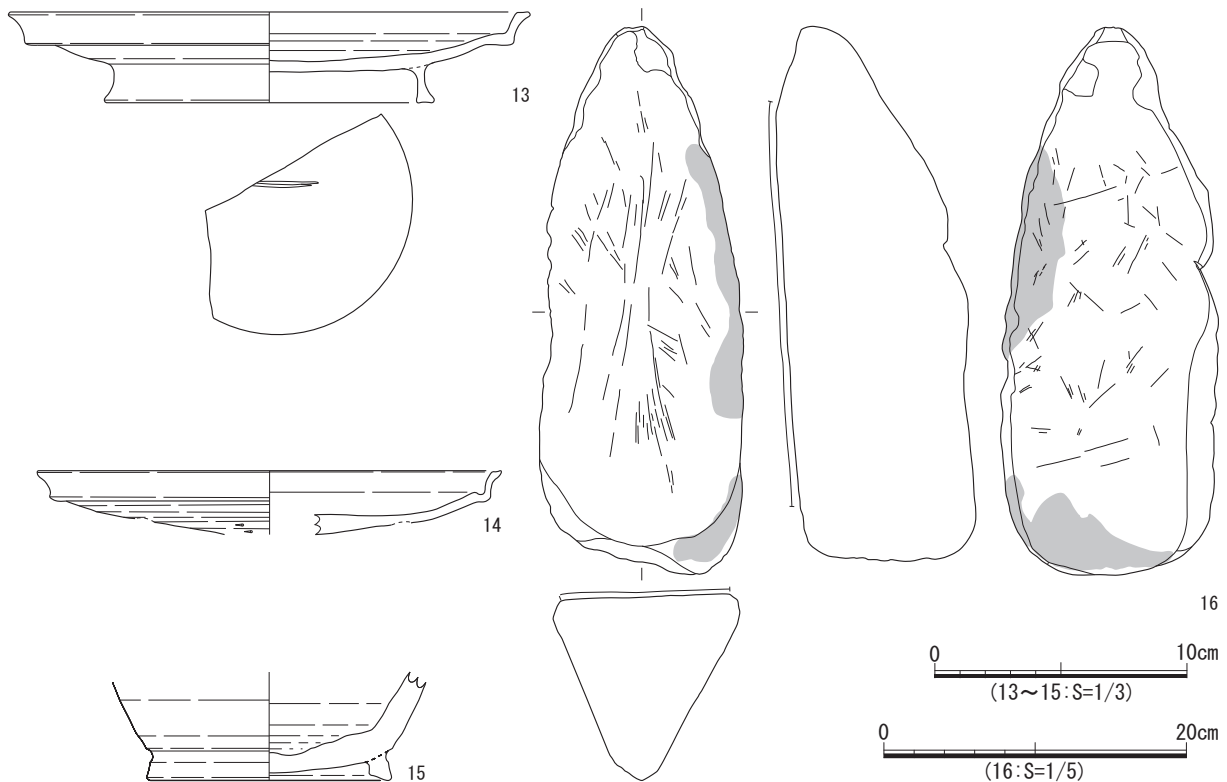


図16 SK1268出土遺物実測図（2）

埋土 単層である。埋土の中央に遺物を多く含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器25点、須恵器48点、灰釉陶器1点、山茶碗類1点、石製品1点が出土した。須恵器と灰釉陶器が本遺構の北寄りにまとまった状態で出土し、一部は底面に接していた。須恵器の下からは長軸方向を上に向けた状態の砥石（16）が基盤層に刺さったような状態で出土したが掘方は確認できなかった。山茶碗は検出面からのみ出土したため、SD61に伴うものの可能性がある。遺物の出土状態から人為的な堆積と考えられ、廃棄土坑の可能性がある。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身（6～10）、無台坏身（11、12）、盤（13、14）、K-14号窯式～O-53号窯式の灰釉陶器の長頸瓶（15）、砥石（16）を図示した。7、12、14はSD61から出土した破片と接合した。11、13の底部外面にはヘラ記号が認められる。

時期 美濃須衛V期第1小期の須恵器が主体を成すことから、9世紀のものとする。なお、山茶碗の破片はSD61からの流れ込みの可能性がある。

SK1390（図17）

検出状況 DK9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1389より古く、SK1399、SK1410より新しい。

規模・形状 長軸長0.58m、短軸長0.56m、深さ0.05mで、平面形は三角形で、断面形は逆台形である。

埋土 単層である。埋土の中央に遺物を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器7点、須恵器8点、灰釉陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の無台坏身(17)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1395 (図17)

検出状況 DK9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1397より新しい。

規模・形状 長軸長0.31m、短軸長0.30m、深さ0.04mで、平面形は円形で、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から須恵器3点が散在して出土した。このうち須恵器の有台坏身(18)の破片が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身(18)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1408 (図17)

検出状況 DJ9～DK9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1393、SK1410より古い。

規模・形状 長軸長0.72m以上、短軸長0.23m、深さ0.11mで、平面形は他遺構と重複するため不明である。断面形は半円形である。

埋土 2層に分層した。中心がやや窪む堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、須恵器3点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の盤(19)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1411 (図17)

検出状況 D8～DK9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1410より古く、SA25-P4、SD79、SK1412等より新しい。

規模・形状 長軸長2.02m、短軸長1.70m以上、深さ0.05mで、平面形は他遺構と重複するため明確ではないが、円形と考える。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器21点、須恵器13点、灰釉陶器2点、山茶碗類1点が散在して出土した。山茶碗はa層から出土しており、混入の可能性がある。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身(20)、光ヶ丘1号窯式の灰釉陶器の碗(21)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1412 (図17)

検出状況 DJ8～DK9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD79、SK1410、SK1411より古い。

規模・形状 長軸長0.87m、短軸長0.78m、深さ0.13mで、平面形は不整円形である。断面形は逆台形である。

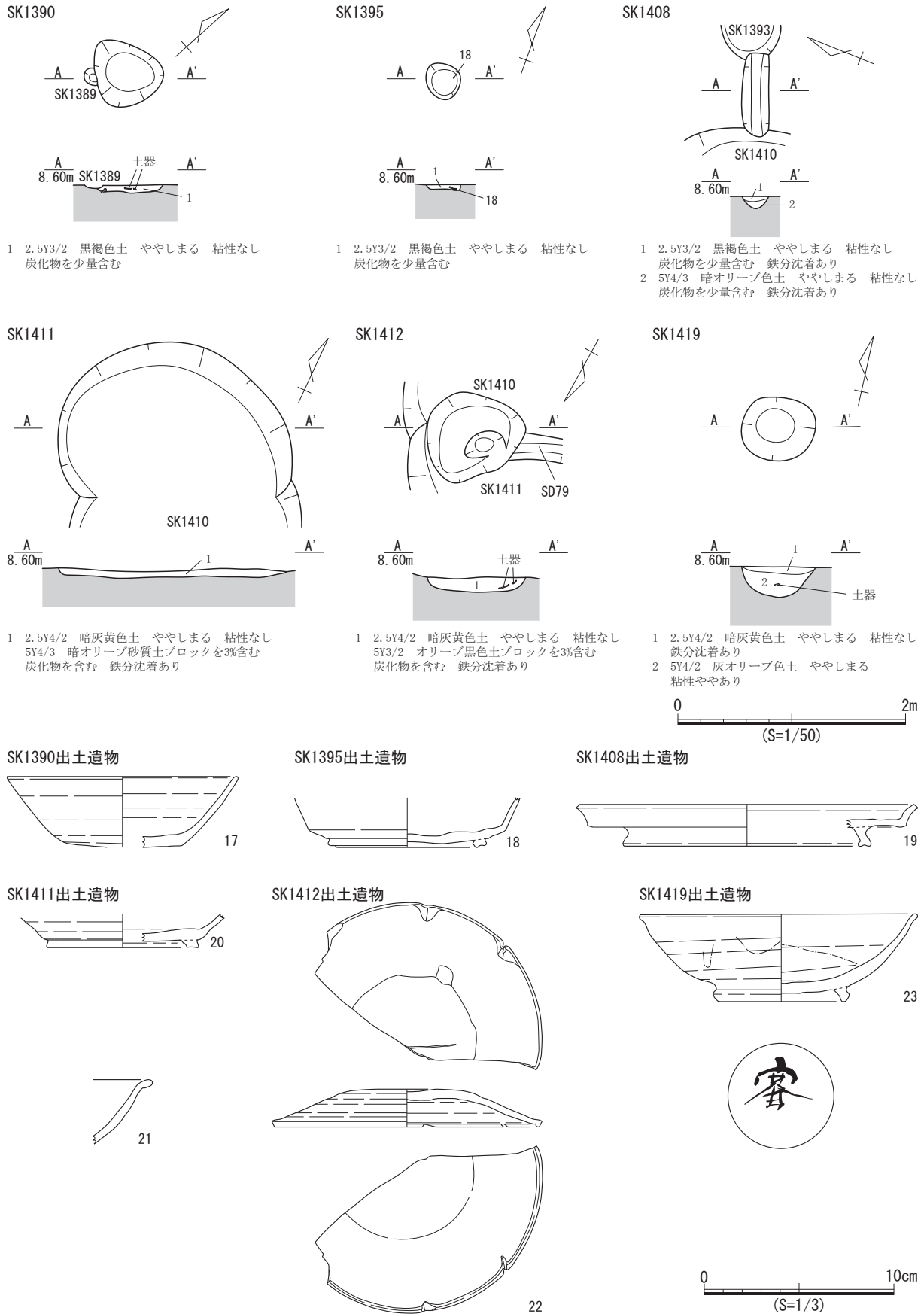


図17 SK1390・SK1395・SK1408・SK1411・SK1412・SK1419遺構図、出土遺物実測図

埋土 単層で、ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器16点、須恵器4点、灰釉陶器2点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋(22)を図示した。天井部にはつまみがなく、ヘラ記号が認められる。口縁部に2カ所の凹みがみられ、焼成前についたものであるが、意図的か否かは不明である。なお、SK1410から出土した破片と接合した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1419 (図17)

検出状況 DK8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.65m、短軸長0.56m、深さ0.26mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積である。埋土の中央に遺物を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器6点、須恵器1点、灰釉陶器7点が散在して出土した。

出土遺物 虎溪山1号窯式の灰釉陶器の碗(23)を図示した。底部外面に墨書が認められ、「賽」の可能性はある。

時期 出土遺物の最新型式から、10世紀後半のものとする。

SK1482 (図18)

検出状況 DJ9～10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1465、SK1466、SK1467等より古く、SK1481より新しい。

規模・形状 長軸長1.25m、短軸長1.09m、深さ0.08mで、平面形は複数の遺構と重複しており、不明瞭であるが概ね三角形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器3点、須恵器10点、山茶碗類5点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の無台坏身(24)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1483 (図18)

検出状況 DJ9～10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1472、SK1473、SK1474等より古く、SK1480、SK1484より新しい。

規模・形状 長軸長1.93m、短軸長1.27m、深さ0.08mで、平面形は東西方向に長い楕円形で、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器13点、須恵器12点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の鉢(25)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK1484から美濃須衛V期第1小期の須恵器の無台坏身と盤が出土していることから、9世紀以降のものとする。

SK1484 (図18)

検出状況 DJ9～10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD83、

SK1474、SK1475等より古い。

規模・形状 長軸長1.47m、短軸長1.10m、深さ0.20mで、平面形は複数の遺構と重複しており、不明確であるが不整形である。断面形は逆台形である。

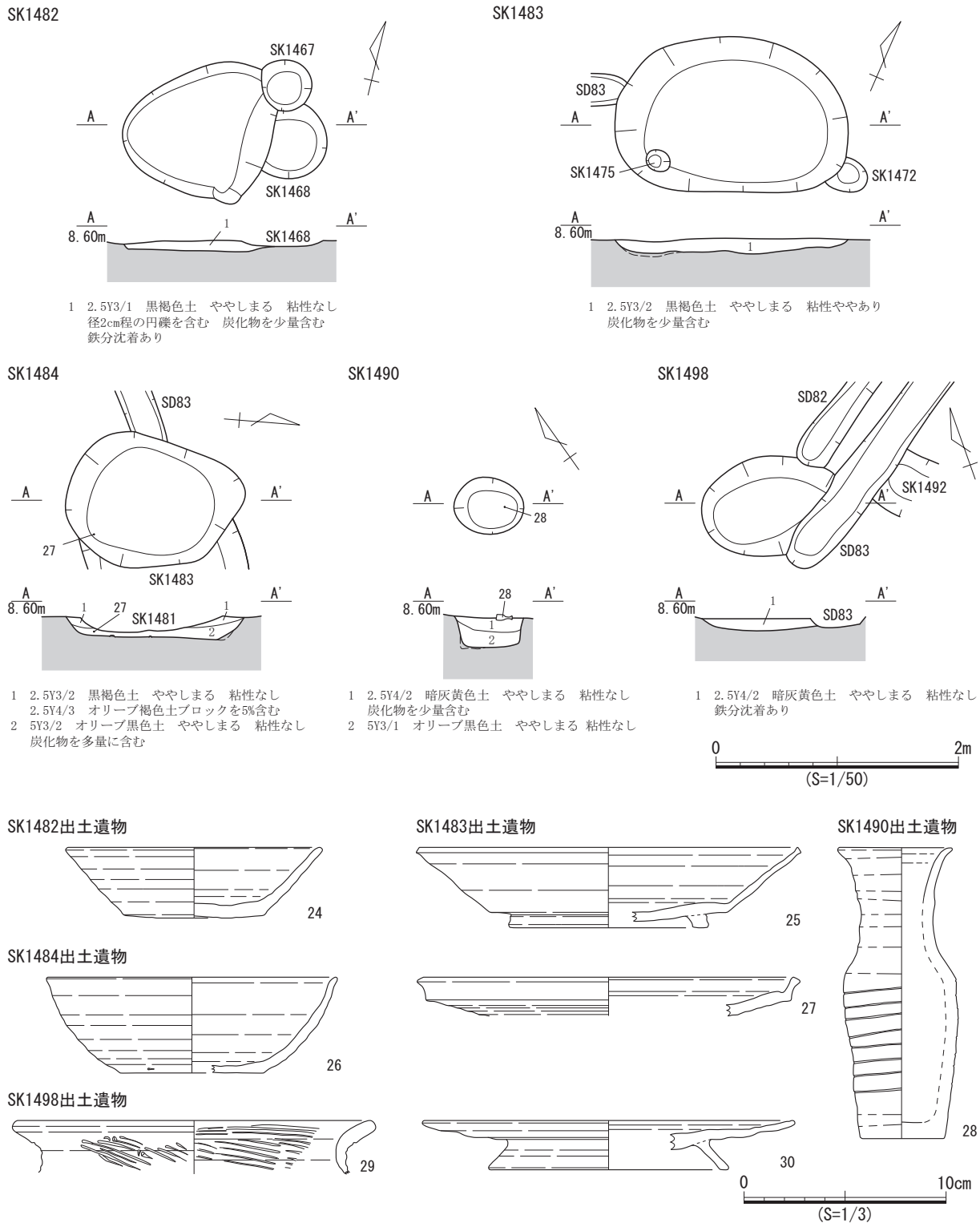


図18 SK1482～SK1484・SK1490・SK1498遺構図、出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。ブロック土を含むことや、埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、須恵器7点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の無台坏身(26)と盤(27)を図示した。26は体部に丸みをもつ。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1490 (図18)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.57m、短軸長0.47m、深さ0.24mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。東側にかたよった窪みのある堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、須恵器3点、灰釉陶器1点が散在して出土した。このうち、1層から須恵器の壺G類(28)¹⁾が横位で出土した。

出土遺物 須恵器の細型の壺G類(28)を図示した。

時期 出土遺物から8世紀後葉から9世紀初頭のものとする。

SK1498 (図18)

検出状況 DJ9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD82、SD83より古く、SK1393、SK1499、SK1501より新しい。

規模・形状 長軸長0.97m以上、短軸長0.82m、深さ0.10mで、平面形は、南東側をSD83に掘り込まれているが、楕円形と考える。断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器10点、須恵器7点が散在して出土した。

出土遺物 土師器のB3類の濃尾型甕(29)、美濃須衛V期第1小期の須恵器の盤(30)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1520 (図19~20)

検出状況 DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1525、SK1528より新しい。

規模・形状 長軸長0.73m、短軸長0.47m、深さ0.06mで、平面形は不整楕円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点、灰釉陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 K-90号窯式の灰釉陶器の段皿(31)を図示した。31は包含層から出土した破片と接合した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK1525から光ヶ丘1号窯式の灰釉陶器の碗が出土していることから、9世紀以降のものとする。

SK1524 (図19~20)

検出状況 DI・DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1519、

SK1523、SK1582より古く、SK1583より新しい。

規模・形状 長軸長1.38m以上、短軸長0.65m以上、深さ0.14mで、平面形は不整形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器10点、須恵器14点、灰釉陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 K-14号窯式の灰釉陶器の碗(32)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀前半のものとする。

SK1528 (図19~20)

検出状況 DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1517、SK1518、SK1520等より古く、SK1529より新しい。

規模・形状 長軸長1.12m、短軸長0.95m以上、深さ0.07mで、平面形は複数の遺構と重複しており、不明である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器7点、須恵器12点、灰釉陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 土師器の濃尾型甕(33)、美濃須衛V期第1小期の須恵器の無台坏身(34)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1553 (図19~20)

検出状況 DI10グリッド、I b層基底面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1550より古い。

規模・形状 長軸長1.40m以上、短軸長1.32m、深さ0.08mで、平面形は不整形である。断面形は概ね逆台形である。

埋土 単層で、埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、須恵器8点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の鉢(35)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

SK1589 (図19~20)

検出状況 DH7~8、DI7~8グリッド、SD87の底面で検出し、平面形は明瞭であった。重複関係から、SD87、SK1592、SK1600等より古い。

規模・形状 長軸長2.61m、短軸長0.65m、深さ0.24mで、平面形は東西方向に長い不整形楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器9点、須恵器15点、灰釉陶器4点、山茶碗類1点、種子4点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏蓋(36)、須恵器の甕(37)、西坂1号窯式の灰釉陶器の碗(38)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、11世紀後半のものとする。

SK1646 (図19~20)

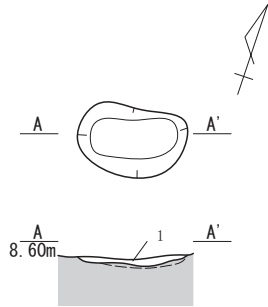
検出状況 DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1034より古い。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.30m、深さ0.25mで、平面形は楕円形である。断面形は二段の掘り込みである。

埋土 単層である。埋土の中央に木片を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

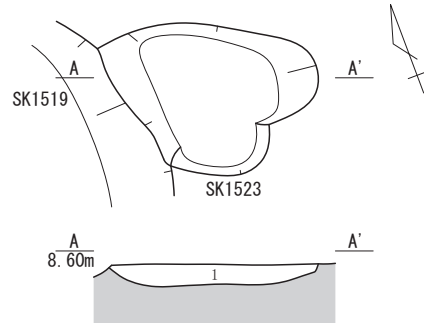
遺物出土状況 埋土から須恵器2点が散在して出土した。

SK1520



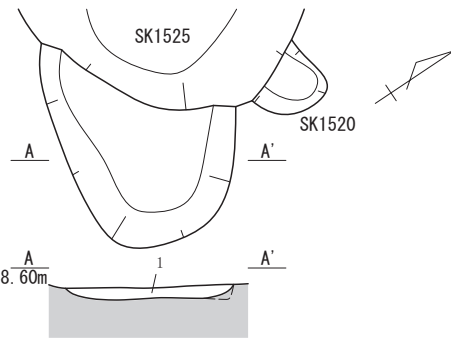
- 1 2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
- 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土ブロックを3%含む炭化物を少量含む

SK1524



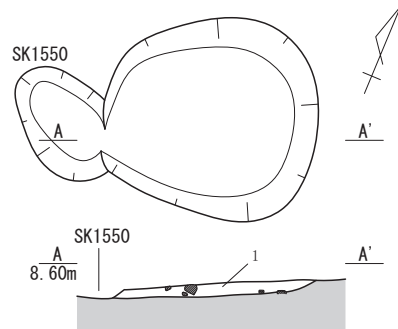
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
- 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土ブロックを3%含む炭化物を少量含む 鉄分沈着あり

SK1528



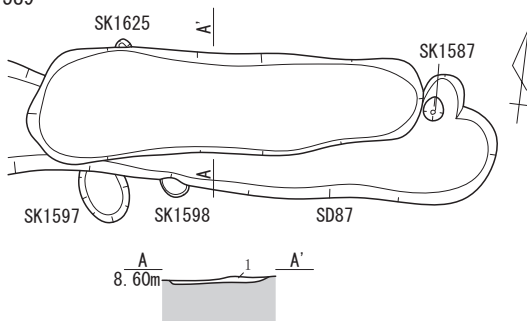
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
- 5Y4/2 灰オリーブ色土ブロックを3%含む炭化物を少量含む 鉄分沈着あり

SK1553



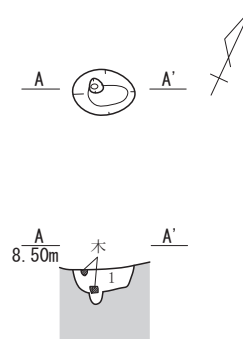
- 1 5Y4/2 灰オリーブ色砂質土 ややしまる 粘性なし
- 径2cm程の円礫を3%含む

SK1589



- 1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし
- 炭化物を少量含む 径2cm程の円礫を少量含む

SK1646



- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
- 5Y4/2 灰オリーブ色砂質土ブロックを2%含む炭化物を含む

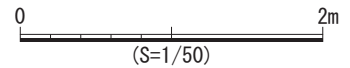


図19 SK1520・SK1524・SK1528・SK1553・SK1589・SK1646遺構図

出土遺物美濃須衛V期第1小期の須恵器の坏身(39)を図示した。体部外面には「宮」の墨書が認められる。

時期 出土遺物の最新型式から、9世紀のものとする。

注

1) 28の分類は奈良国立文化財研究所1976『平城宮発掘調査報告VII』(奈良国立文化財研究所学報第二十六冊)に準拠した。

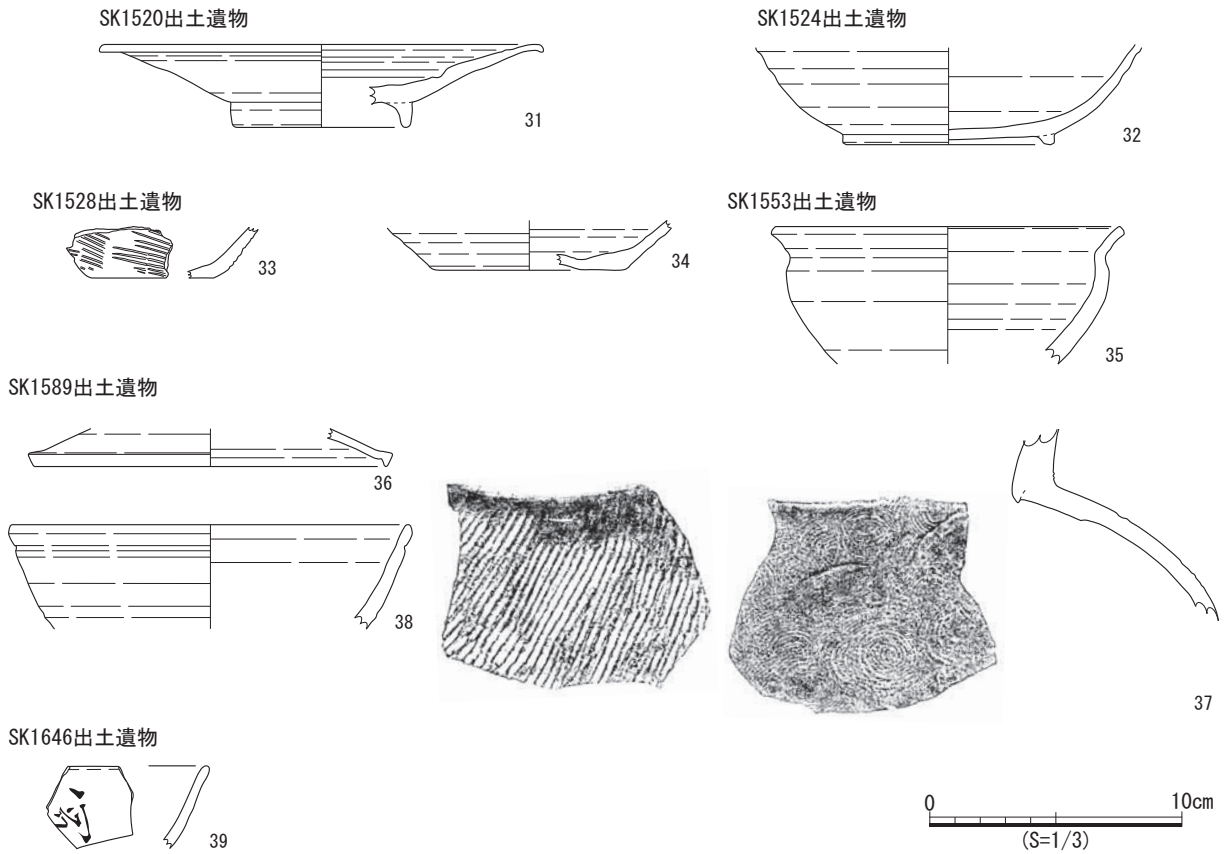


図20 SK1520・SK1524・SK1528・SK1553・SK1589・SK1646出土遺物実測図

第5節 中世の遺構と遺物

1 掘立柱建物

SB1 (図21)

検出状況 EF10～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。対になる柱筋が確認でき、発掘区外南側に展開する可能性がある。柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。柱穴の配置がSB2と近似することやP1とSB2-P1が重複することから、建て替えの可能性がある。重複関係からSB2より新しい。

規模・形状 桁行2間(3.8m、柱間1.9m)、梁行1間(1.9m)以上の側柱建物と考える。長軸方位はN-0°-EWである。約9.2m北に位置するSD6とほぼ平行し、約0.7m西に位置するSD3とはほぼ直交する。SB1よりやや東に傾けて建て替えられた可能性がある。

柱穴 現状で5基の柱穴を確認できる。平面形はP1、P3～P5が円形、P2が楕円形で、径は0.17m～0.33m、深さは0.10m～0.28mである。P2の底からは扁平な円礫が出土した。平坦な面を上にして出土したため、礎盤石と考える。礎盤石の直上には柱痕跡が認められる。P3からは、底面から8cmほど堆積した土層の直上から柱根(40)が出土した。底面に堆積した埋土からは山茶碗2点と土師器5点の細片が散在して出土した。P5の底面から板材が2枚並んだ状態で出土した。いずれも平坦な面を上にして配置されていたことから、礎板と判断した。また、土師器4点と炭化物1点出土した。

出土遺物 P3から出土した柱根(40)を図示した。40は腐食が激しく底面の加工は不明だが、側面には刃先痕、区画稜線が認められる。

時期 40の放射性炭素年代測定を実施した(第4章第2節)。測定結果から13世紀後葉から14世紀後葉のものとする。

SB2 (図22)

検出状況 EF10～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。東辺となる柱筋は確認できなかったが、発掘区外南側にP3に対応する柱穴が存在することが想定されるため、掘立柱建物と判断した。発掘区外南側に展開する可能性がある。柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。柱穴の配置がSB1と近似することやP1とSB1-P1が重複することから、建て替えの可能性がある。重複関係からSB1より古い。P1とP2の間にはSB1-P2があり、SB1についても同じ位置に柱穴があったと考えられるが、SB1を建てる際にSB2の柱穴が消滅したか、再利用された可能性がある。

規模・形状 SB2-P2の位置に柱穴があったと想定すると、発掘区西側に展開する桁行2間(3.3m、柱間1.6m～1.7m)、梁行1間(1.7m)以上の側柱建物と考える。長軸方位はN-85°-Eである。約9.2m北に位置するSD6とほぼ同じで、約0.7m西に位置するSD3とほぼ直交する。

柱穴 現状で3基の柱穴を確認できる。平面形はいずれも円形で、径は0.21m～0.37m、深さは0.10m～0.28mである。P2、P3には柱根(41、42)が残存し、ともに底面に接した状態で出土した。いずれも柱当たりがある。P3からは土師器1点も出土した。P1の底面には円礫と角礫を確認した。円礫の上に角礫を置き、角礫の平坦な面が上になるように設置されていることから、礎盤石と考える。

出土遺物 P2とP3から出土した柱根(41、42)を図示した。41は腐食が激しいが、側面に刃先痕、底面に刃先痕、刃端痕、区画稜線が認められる。42は下半に抉り込みがみられ、工具により上下から加工される。側面上半は腐食が激しいが、下半は残りが良好である。刃先痕、区画稜線が認められ、

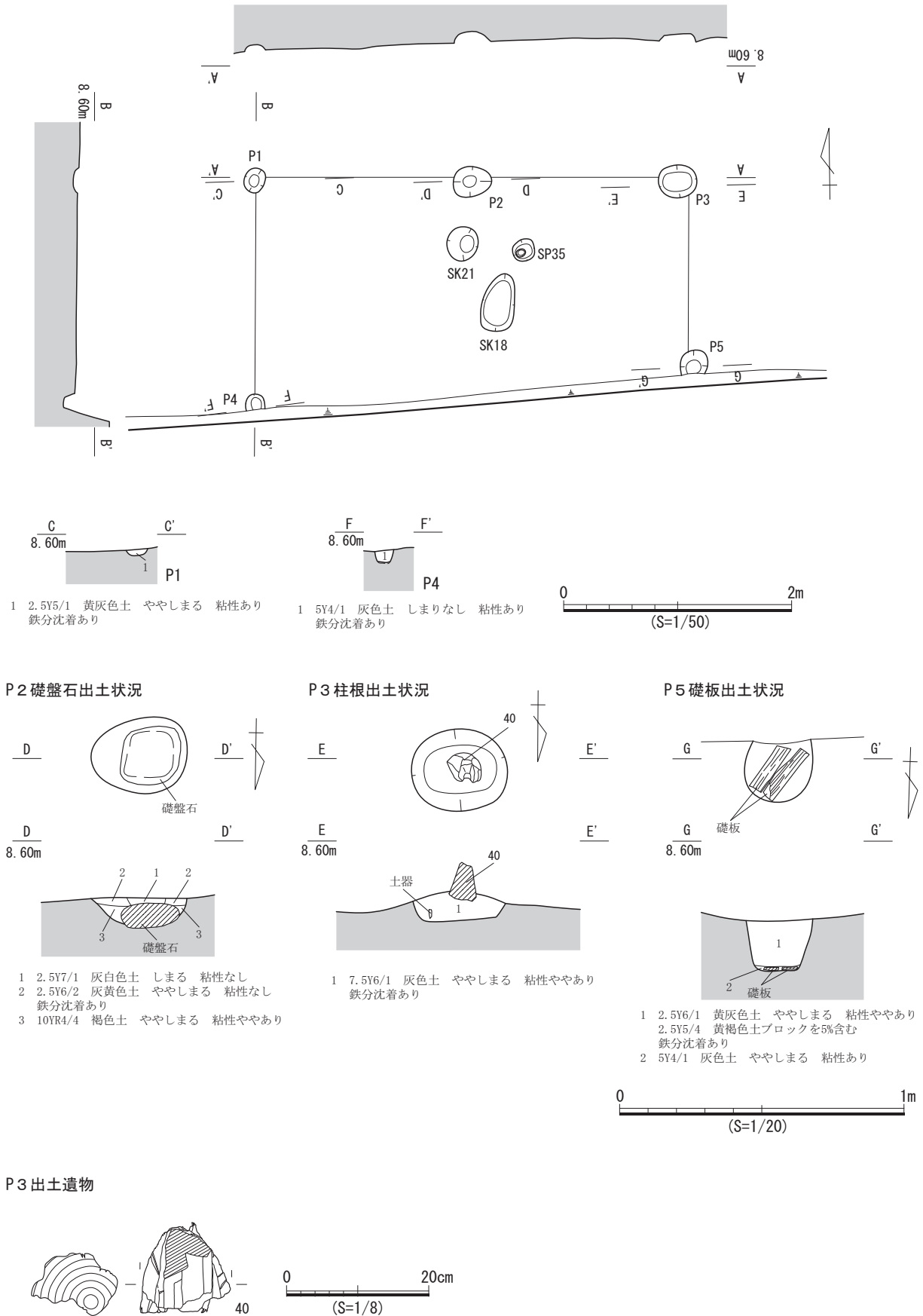


図21 SB 1遺構図、出土遺物実測図

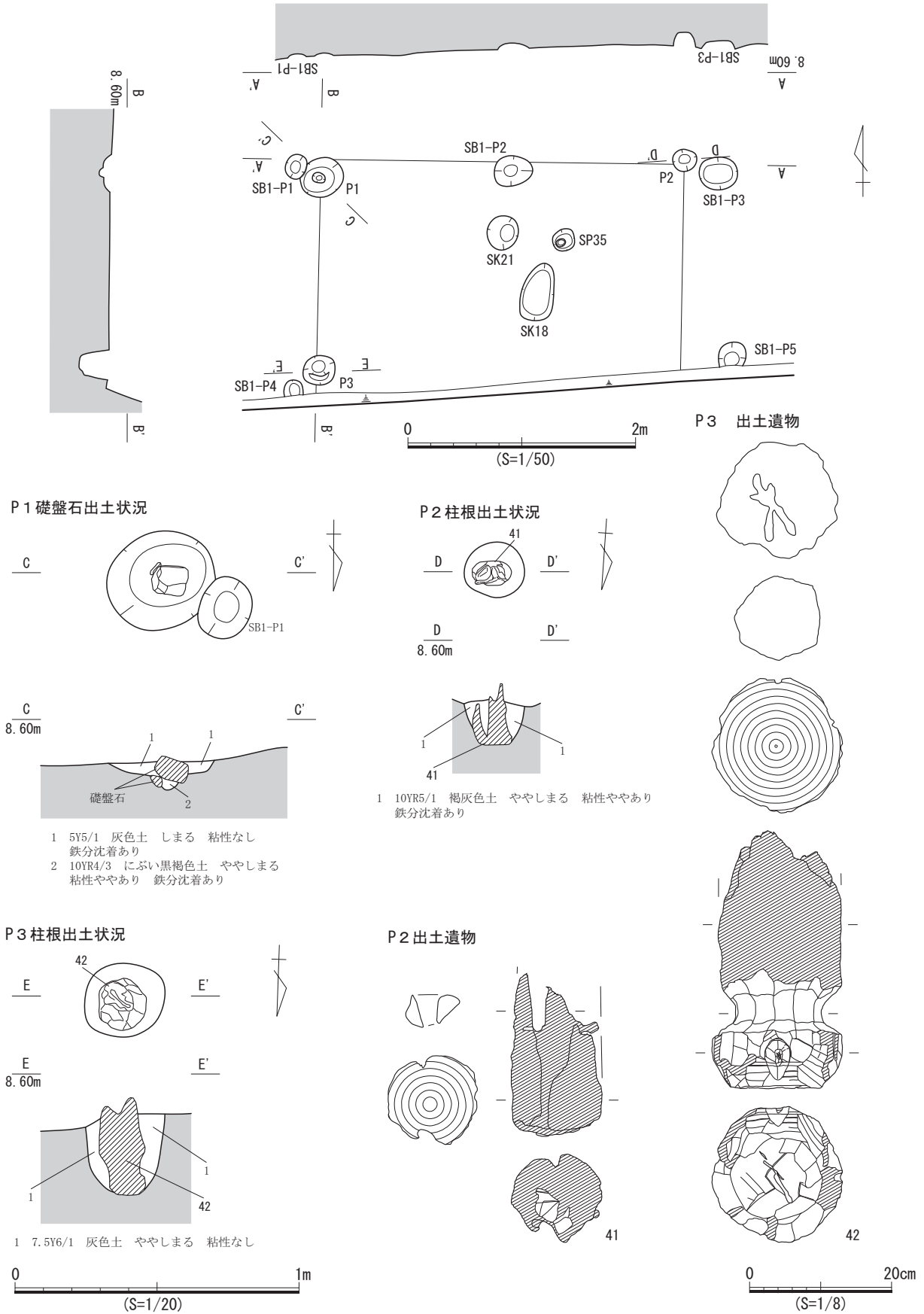


図22 SB 2 遺構図、出土遺物実測図

底面に向かい細くなるよう斜めに削り出す。底面には刃先痕、刃端痕、区画稜線が認められ、平坦である。

時期 柱根2点の放射性炭素年代測定を実施した（第4章第2節）。それぞれの測定結果は41が11世紀中葉から13世紀前葉、42が11世紀中葉から12世紀中葉である。その結果から、11世紀中葉から13世紀前葉のものとする。

SB3（図23）

検出状況 EE・EF7～8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。対になる柱筋が確認でき、柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 桁行2間（4.1m、柱間1.6m～2.5m）、梁行2間（3.1m、柱間1.1m～2.0m）の側柱建物と考える。梁行の柱間は西側が狭い。長軸方位はN-5°-Wで、約0.8m東に位置するSA4や約8m東に位置するSD3とほぼ同じである。P4は西辺柱筋から西側に張り出すが、P5と形状が類似し、ほぼ対応する場所に位置するため、建物を構成する柱であった可能性がある。

柱穴 8基の柱穴から成る。平面形はP1～P5、P7、P8が円形、P6が不定形で、径は0.30m～0.42m、深さは0.03m～0.21mである。いずれの柱穴も掘方は浅く、柱根や柱痕跡は確認できなかった。P2の埋土から土師器が24点、P5から山茶碗2点、P7の埋土から土師器2点、須恵器1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P5から出土した尾張型第6型式の山茶碗（43）を図示した。

時期 出土遺物から13世紀前半のものとする。

SB4（図24）

検出状況 EB・EC5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。対になる柱筋が確認でき、柱穴の平面形はP3～P5が明瞭、P1、P2がやや明瞭であった。

規模・形状 桁行2間（4.6m、柱間2.3m）、梁行1間（2.8m）の側柱建物と考える。長軸方位はN-89°-Eである。約3m北に位置するSD25や、約10m北に位置するSB5とほぼ同じで、約14m東に位置するSD11とはほぼ直交する。

柱穴 5基の柱穴から成る。平面形はP1、P2、P5が円形、P3が不整形、P4は隅丸方形で、径は0.30m～0.55m、深さは0.05m～0.23mである。いずれの柱穴も掘方は浅く、柱根や柱痕跡は確認できなかった。P1の埋土から土師器6点、P3の埋土から土師器2点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P3から出土した中世後期土師器皿C1類（44）を図示した。

時期 出土遺物から15世紀のものとする。

SB5（図25～26）

検出状況 DS・DT5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。対になる柱筋が確認でき、発掘区外西側に展開する可能性がある。柱穴の平面形はP11、P14、P15は明瞭、P1～P10、P12、P13がやや明瞭、P16は不明瞭であった。

規模・形状 桁行3間（7m、柱間2.3m～2.4m）、梁行3間（5.6m、1.7m～2.0m）以上の総柱建物と考える。長軸方位はN-89°-Eである。約5m南に位置するSD25や、約10m南に位置するSB4とほぼ同じで、約12m東に位置するSD11とはほぼ直交する。

柱穴 16基の柱穴から成る。平面形はP2、P4～P9、P11～P15が円形、P16が楕円形、P1、P3、P10

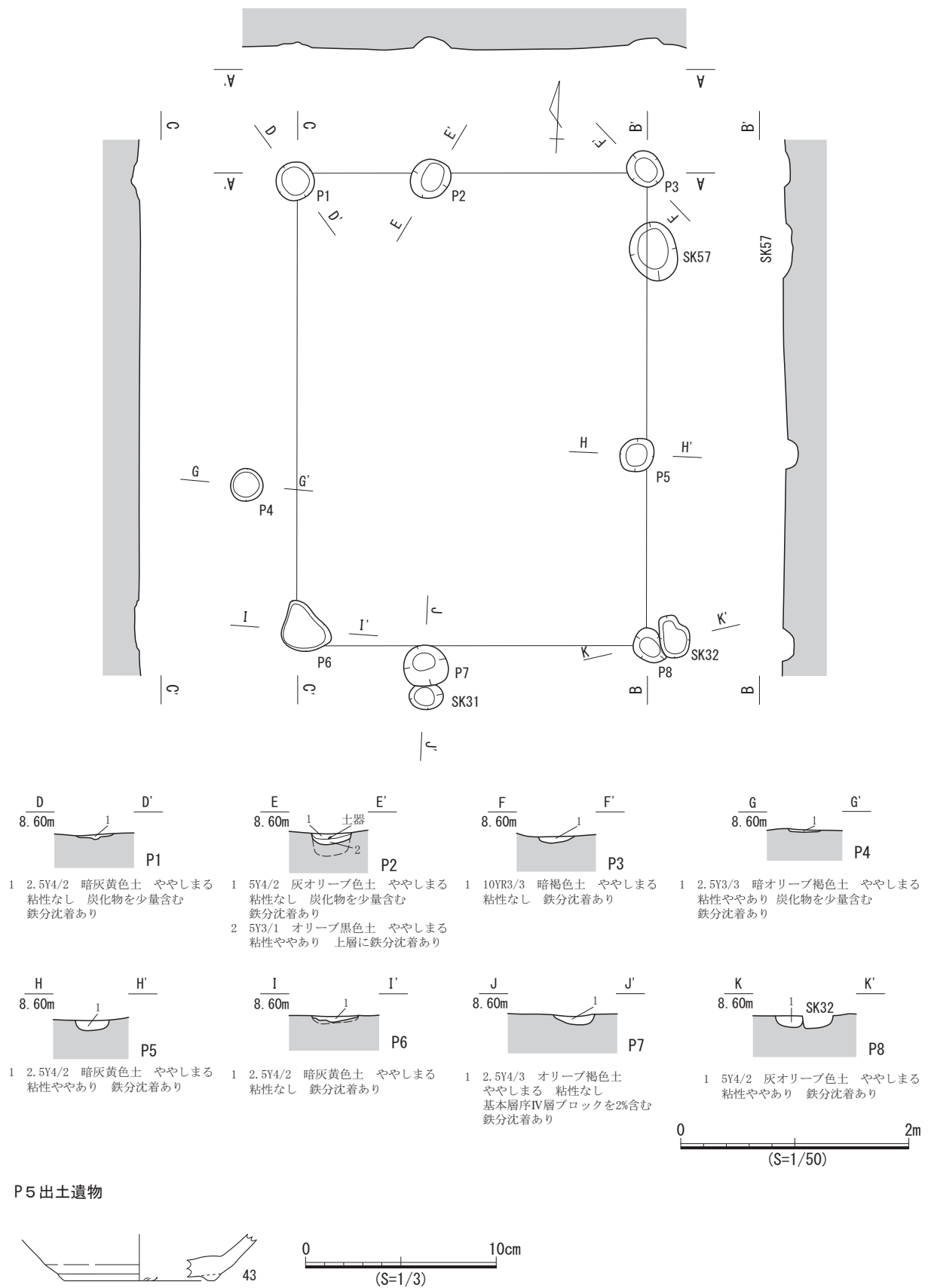


図23 SB 3 遺構図、出土遺物実測図

が不整形円形で、径は0.22m～0.46m、深さは0.03m～0.51mである。北辺となるP1～P4の掘方はP5～P16と比較して浅い。P15のみ柱痕跡を確認した。P4の埋土から須恵器1点、P5の埋土から土師器6点、山茶碗3点、P6の埋土から土師器72点、山茶碗3点、P7の埋土から土師器13点、山茶碗4点、P8の埋土から土師器7点、山茶碗5点、P10の埋土から土師器7点、P11の埋土から土師器6点、P12の埋土から土師器3点、山茶碗1点、P13の埋土から土師器3点、P14の埋土から土師器14点、山茶碗2点、P15の埋土から土師器8点、山茶碗1点、P16の埋土から土師器12点、山茶碗6点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P5から出土した尾張型第5型式の山茶碗（45）、P6の埋土から出土した中世前期土師器皿B2b類（46）、P16の埋土から出土した大畑大洞4号窯式の山茶碗（47）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から13世紀後葉～14世紀前葉のものとする。

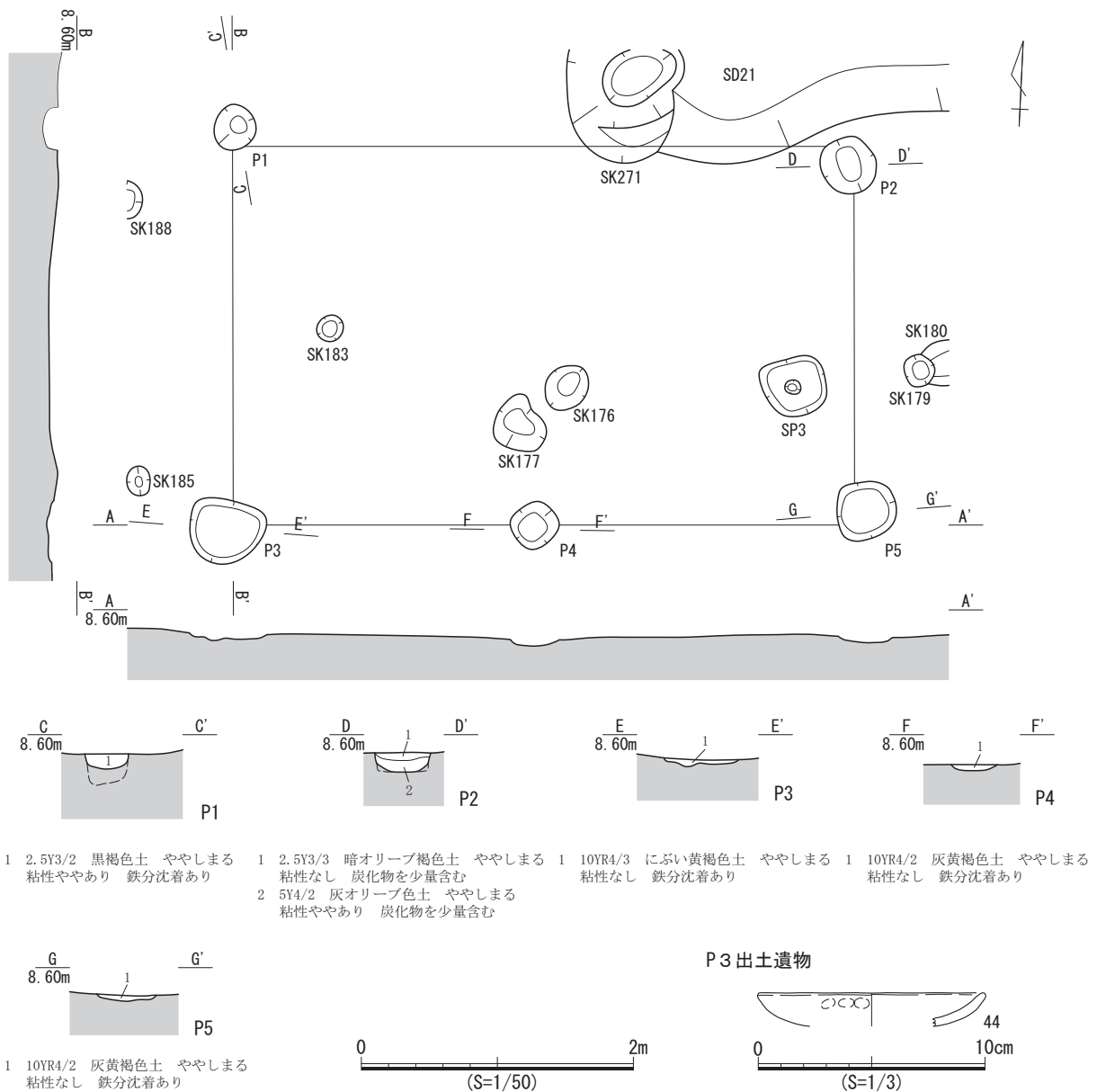


図24 SB4遺構図、出土遺物実測図

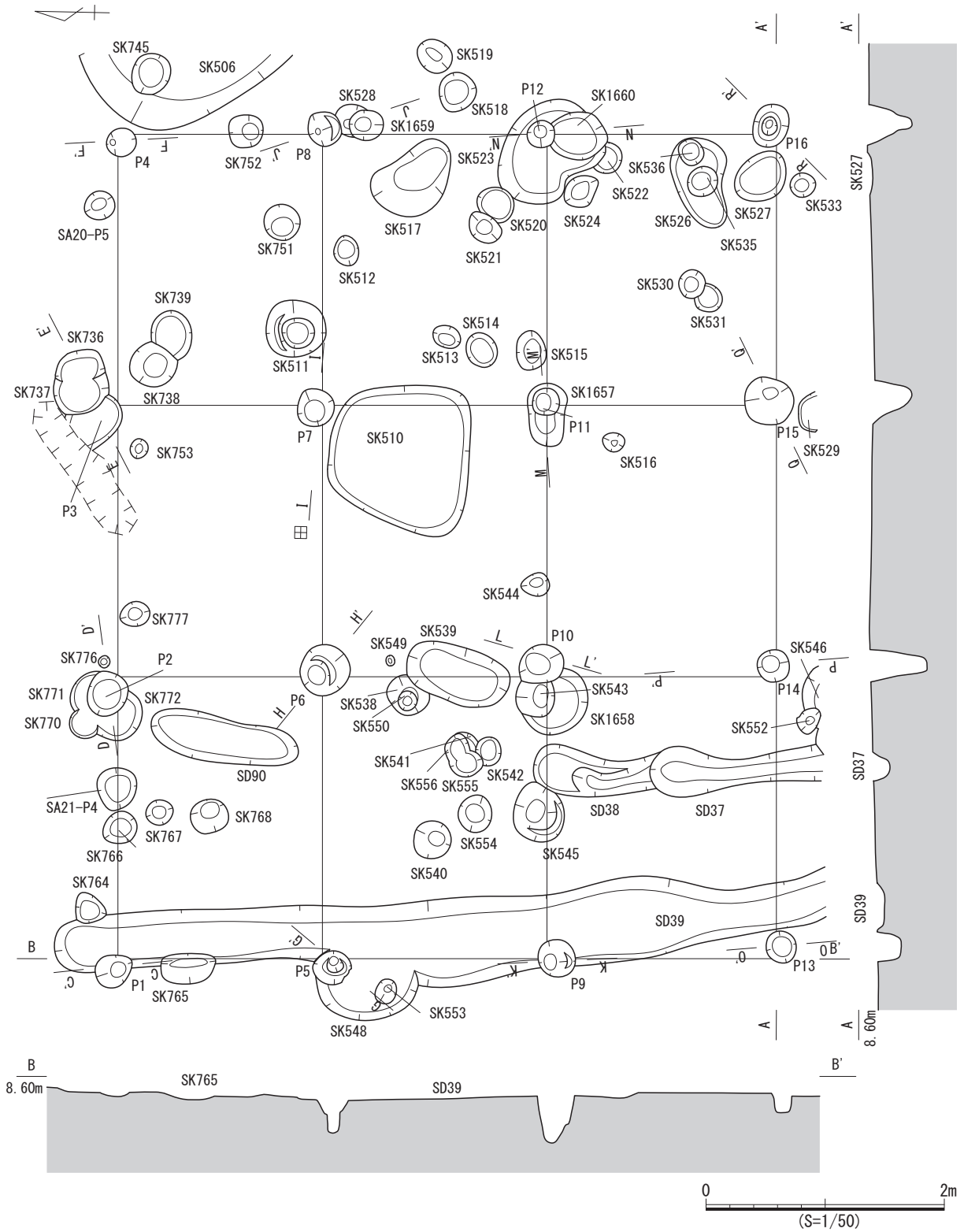
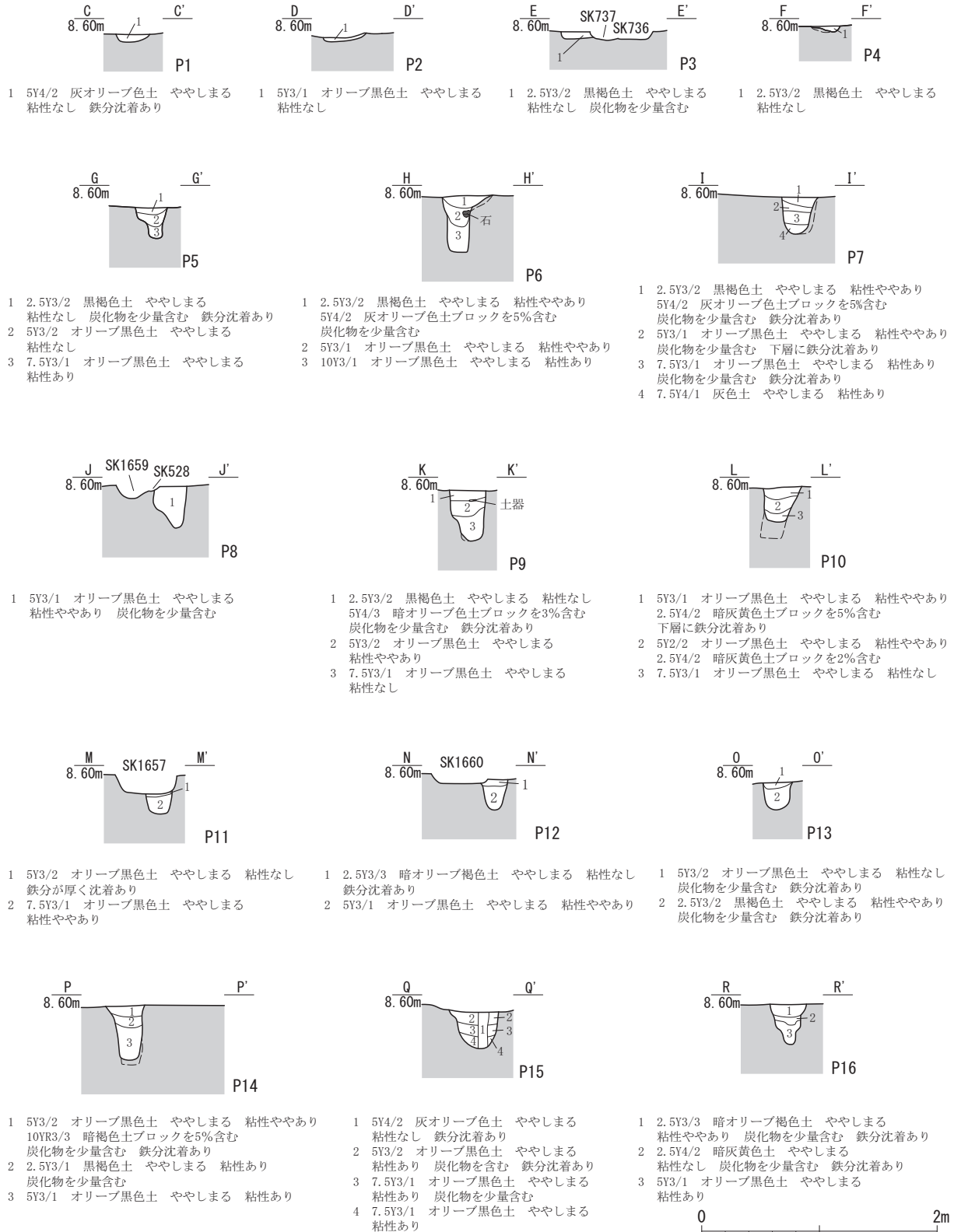


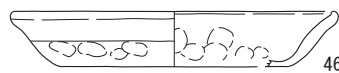
図25 SB 5 遺構図 1



P5 出土遺物



P6 出土遺物



P16 出土遺物

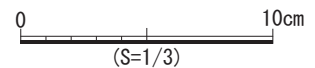


図26 SB5 遺構図2、出土遺物実測図

SB6 (図27~28)

検出状況 DQ11~12、DR11~13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。対になる柱筋が確認でき、柱穴の平面形はいずれも明瞭であった。SB8-P1よりもP4が、SB8-P7よりもP13が古いことからSB8より

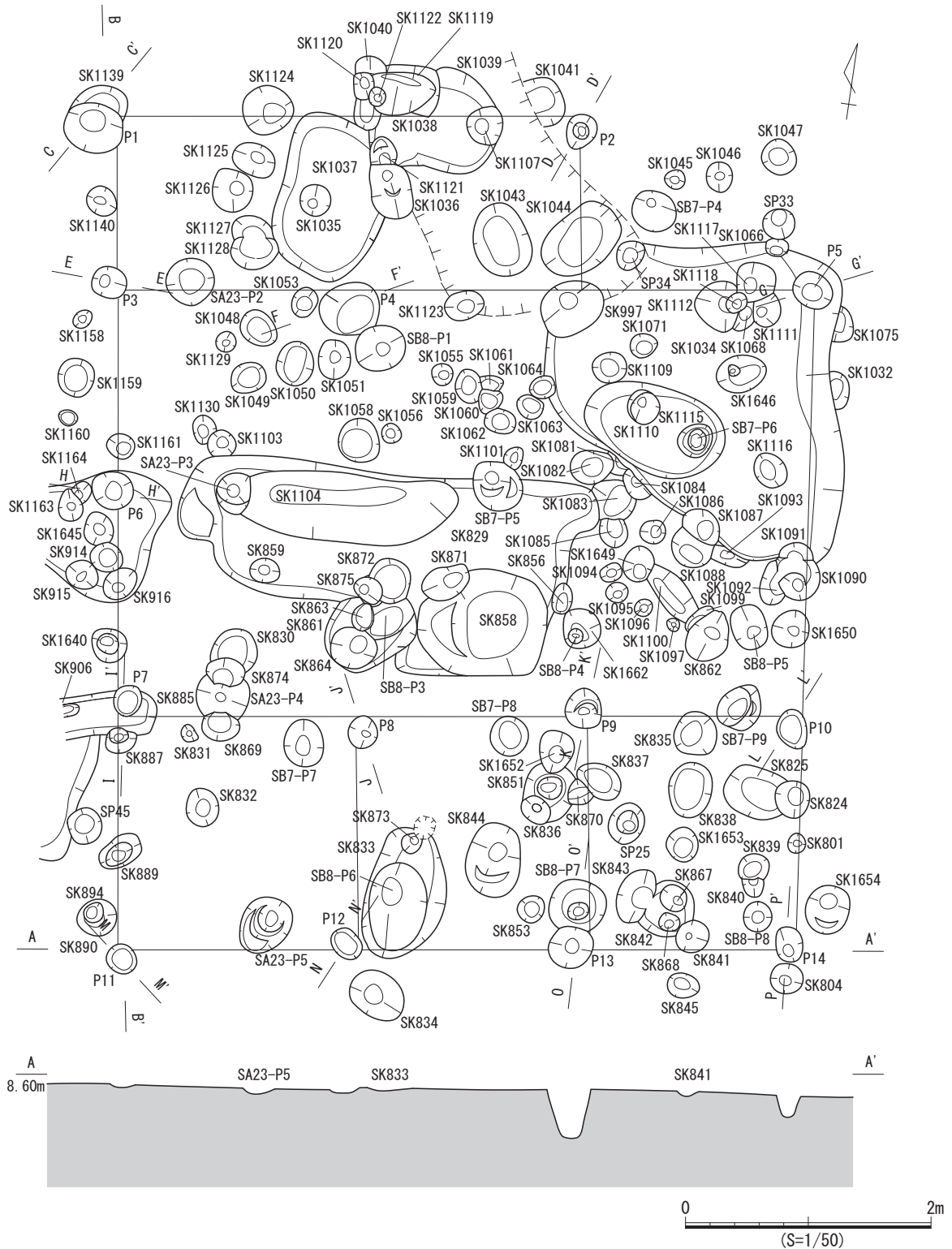


図27 SB6遺構図1

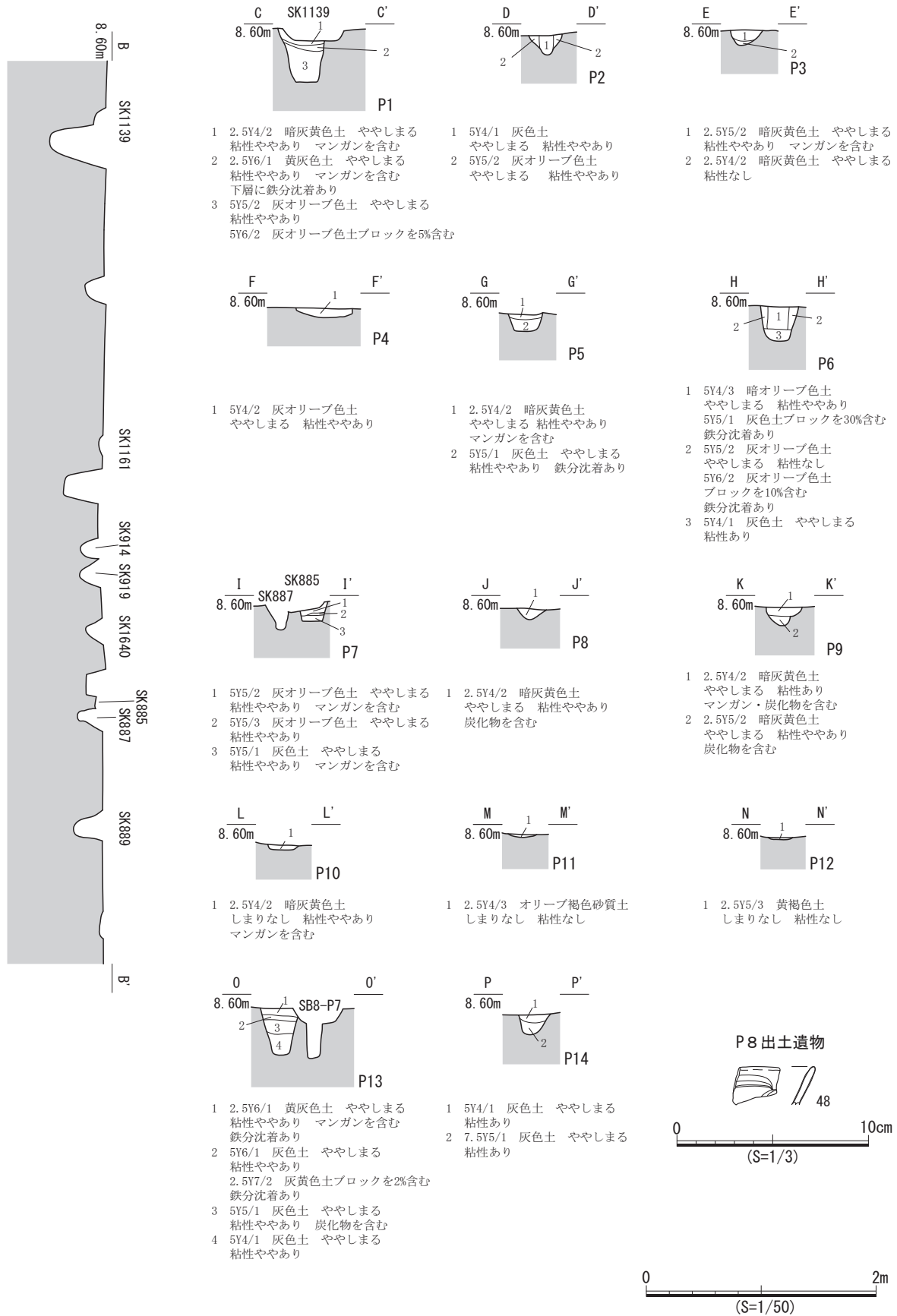


図28 SB6遺構図2、出土遺物実測図

古く、SK1057よりもP1とP4が新しいことからSB7よりも新しい。

規模・形状 桁行3間(5.4m、柱間1.7m～2.0m)×梁行3間(5.4m、柱間1.8m)である。SB8との重複関係が逆転するが、配置からSK997は本遺構に伴う柱穴であった可能性がある。P6の東側に並ぶ3基の柱穴は、SK829、SK1034、SK1104に削平された可能性があり、本来は総柱建物であったと想定される。また、北側に1間(1.4m)、2間(3.8m、柱間1.8m～2.0m)の張り出しを有する。P1とP2の間の柱穴は、SK1037、SK1039、SK1040に削平された可能性がある。長軸方位はN-10°-Wである。約20m南に位置するSD17や、SD19とほぼ同じで、約13m西に位置するSD11とはほぼ直交する。

柱穴 14基の柱穴から成る。平面形はP3、P4、P5～P9、P11、P13は円形、P1、P2、P10、P12、P14が楕円形、P2は不整形円形で、径は0.25m～0.52m、深さは0.03m～0.49mである。P2とP6では柱痕跡を確認した。P1の埋土から土師器2点、山茶碗2点、中国産陶磁器2点、P4の埋土から土師器5点、P6の埋土から土師器1点、中国産陶磁器1点、P8の埋土から土師器1点、中国産陶磁器1点、P9の埋土から土師器4点、P13の埋土から土師器2点、山茶碗3点、P14の埋土から土師器5点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 P8から出土した龍泉窯系の青磁碗(48)を図示した。体部内面に分割線が認められることから、I-4類である。

時期 出土遺物とP1とP4より古いSK1057から尾張型第5型式の山茶碗、P4より古いSK1114から尾張型第4型式の山茶碗や中世前期土師器皿A1a類が出土していることから、12世紀後葉以降のものとする。また、長軸方位がSD17や、SD19とほぼ同じであることから15世紀のもの可能性がある。

SB7 (図29～30)

検出状況 DP12、DQ11～12、DR12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。対になる柱筋が確認でき、柱穴の平面形はP1～P5、P9が明瞭、P6～P8は不明瞭であった。SK1057よりもP3が古いことからSB6、SB8よりも古い。

規模・形状 桁行3間(6.3m、柱間2.0m～2.1m)、梁行2間(3.4m、柱間1.7m)である。P1とP2の間やP3とP4の間の柱穴は攪乱坑に、P5の西側に位置する柱穴はSK1104によって削平された可能性があり、本来は総柱建物であったと想定される。長軸方位はN-12°-Wで、約15m南に位置するSD23と直交する。

柱穴 9基の柱穴から成る。平面形はP4、P7～P8が円形、P2が楕円、P3、P5、P6、P9が不整形円形、P1が不整形楕円形で、径は0.30m～0.47m、深さは0.08m～0.34mである。P3からは扁平な角礫が2点重なって出土した。平坦な面を上にして出土したため、礎盤石と考える。上の角礫は砥面が確認できることから砥石(51)を再利用したと考えられる。礎盤石の直上には柱痕跡が認められる。P6は柱根(53)が残存し、底面に接した状態で出土した。柱当たりが認められる。P9では、底面から10cmほど堆積した土層の上に柱痕跡を確認した。P1の埋土から土師器3点、山茶碗1点、P2の埋土から土師器1点が、P3の埋土から土師器6点、山茶碗1点、石製品1点、P5の埋土から土師器1点、灰釉陶器1点、山茶碗1点、P7の埋土から土師器2点、P9の埋土から土師器2点、山茶碗1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P1から出土したロクロ成形の土師器の小皿(49)とP3から出土した中世前期土師器皿A2c類(50)、砥石(51)、P5から出土した尾張型第5～6型式の山茶碗(52)、P6から出土した

柱根 (53) を図示した。53の側面は刃先痕、区画稜線が認められ、面取り加工を施す。底面は刃先痕、刃端痕、区画稜線が認められる。

時期 53の放射性炭素年代測定を実施した結果は、11世紀前半から12世紀後半であった(第4章第2節)。また、出土遺物とP3よりも古いSK1114から尾張型第4型式の山茶碗が出土していることから、12世紀前葉から中葉以降のものとする。

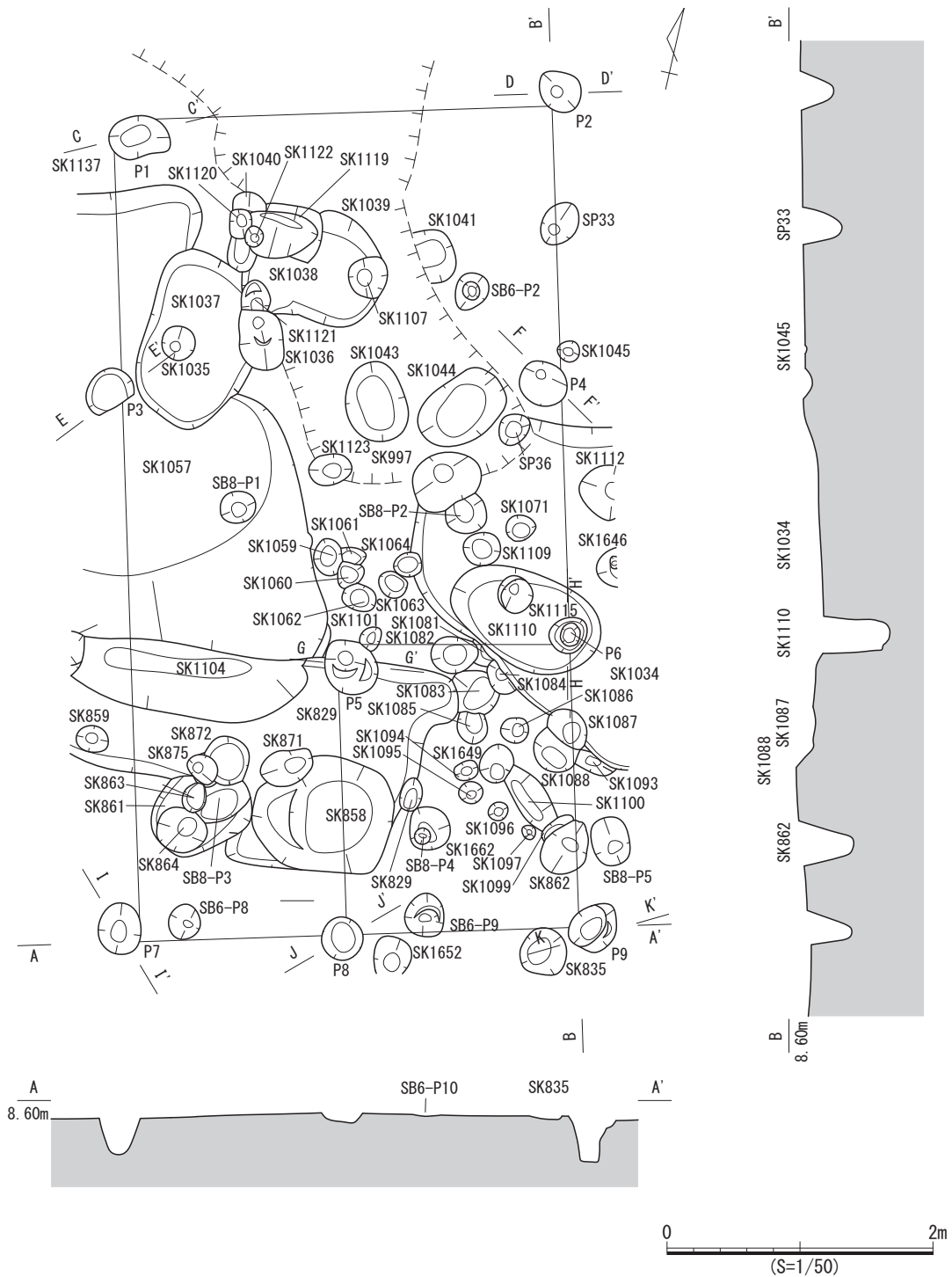


図29 SB7遺構図1

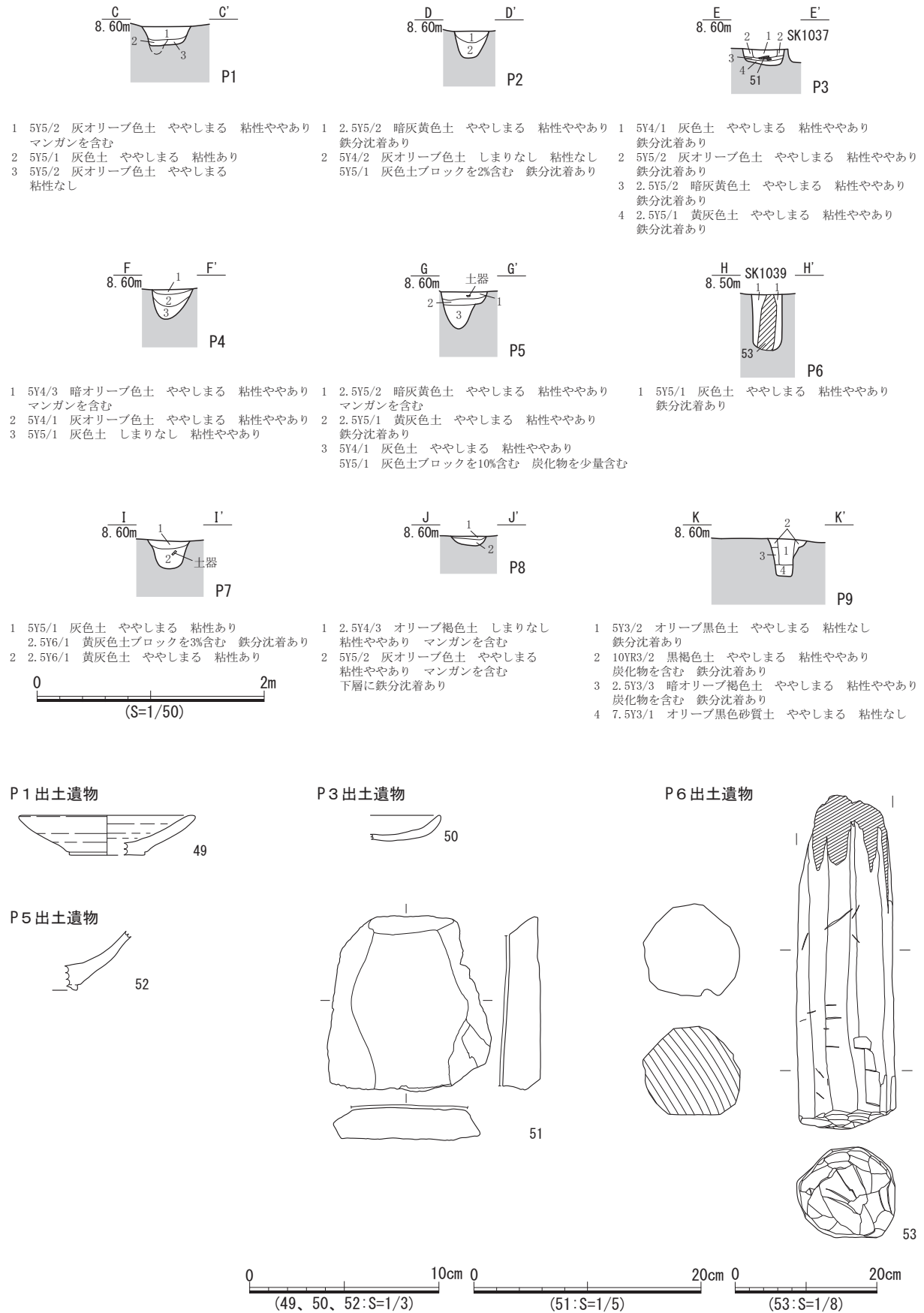


図30 SB 7 遺構図 2、出土遺物実測図

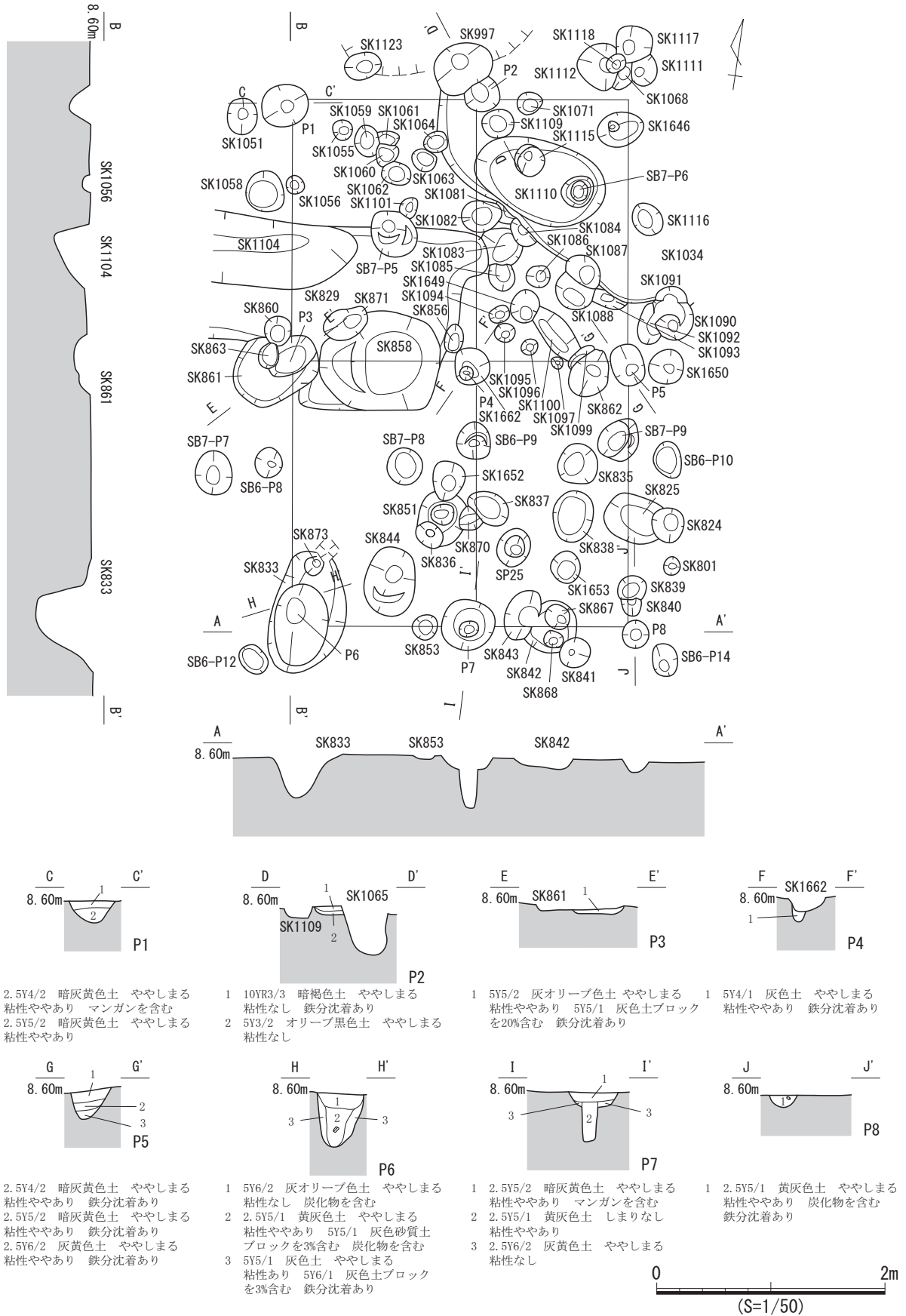


図31 SB8遺構図

SB8 (図31~32)

検出状況 DQ11~12、DR12~13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北東隅の柱は、P2よりも新しいSK1034によって削平された可能性がある。対になる柱筋が確認でき、柱穴の平面形はP1~P5、P7、P8が明瞭、P6は不明瞭であった。

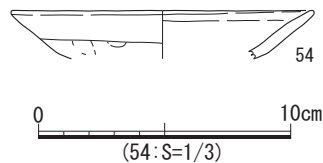
規模・形状 桁行2間(4.6m、柱間2.3m)、梁行2間(3.0m、柱間1.5m)の総柱建物である。長軸方位はN-7°-Wで、約21m南に位置するSD17や、SD19とほぼ同じである。

柱穴 8基の柱穴から成る。平面形はP1、P4、P7、P8が円形、P2、P3、P5、P6が楕円形で、径は0.12m~0.72m、深さは0.06m~0.47mである。P6、P7では柱痕跡を確認した。堆積状況からP6、P7の1層は、本来は別遺構もしくは柱を抜き取る際に掘り込まれた可能性がある。P6の2層からは砥石(55)が出土したことや、平面形が楕円形で他の柱穴と比べて大きいことから、柱が抜き取られた可能性がある。P1の埋土から土師器7点、山茶碗2点、中国産陶磁器1点、P2の埋土から土師器1点、P3の埋土から土師器2点、P6の埋土から土師器15点、山茶碗1点、P7の埋土から須恵器1点、山茶碗1点が、それぞれ散在して出土した。

出土遺物 P2から出土した中世前期土師器皿B2b類(54)、P6から出土した砥石(55)を図示した。55は長軸方向に擦痕が認められ、部分的に被熱痕がみられた。

時期 出土遺物と、P1よりも古いSK1114から尾張型第4型式の山茶碗が出土していることから、12世紀前葉から中葉以降のものとする。また、SD17や、SD19とほぼ直交することから、15世紀のものとの可能性がある。

P2出土遺物



P6出土遺物

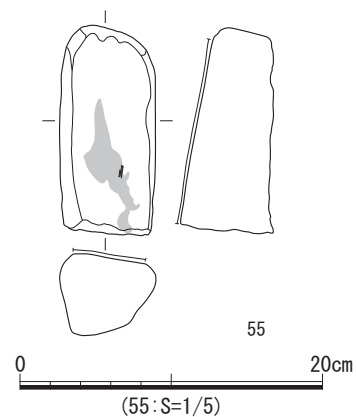


図32 SB8出土遺物実測図

2 柵

SA1 (図33)

検出状況 EE14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(1.5m、柱間0.75m)である。長軸方位はN-7°-Wで、約2.0m西に位置するSA2や約0.5m東に位置するSD1とほぼ同じである。

柱穴 3基とも平面形は円形で、径は0.12m～0.20m、深さは0.05m～0.07mである。いずれも柱痕跡や柱当りは確認できなかった。P2の埋土から土師器2点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SA2やSD1と方向が類似することから、15世紀後半のものとする。

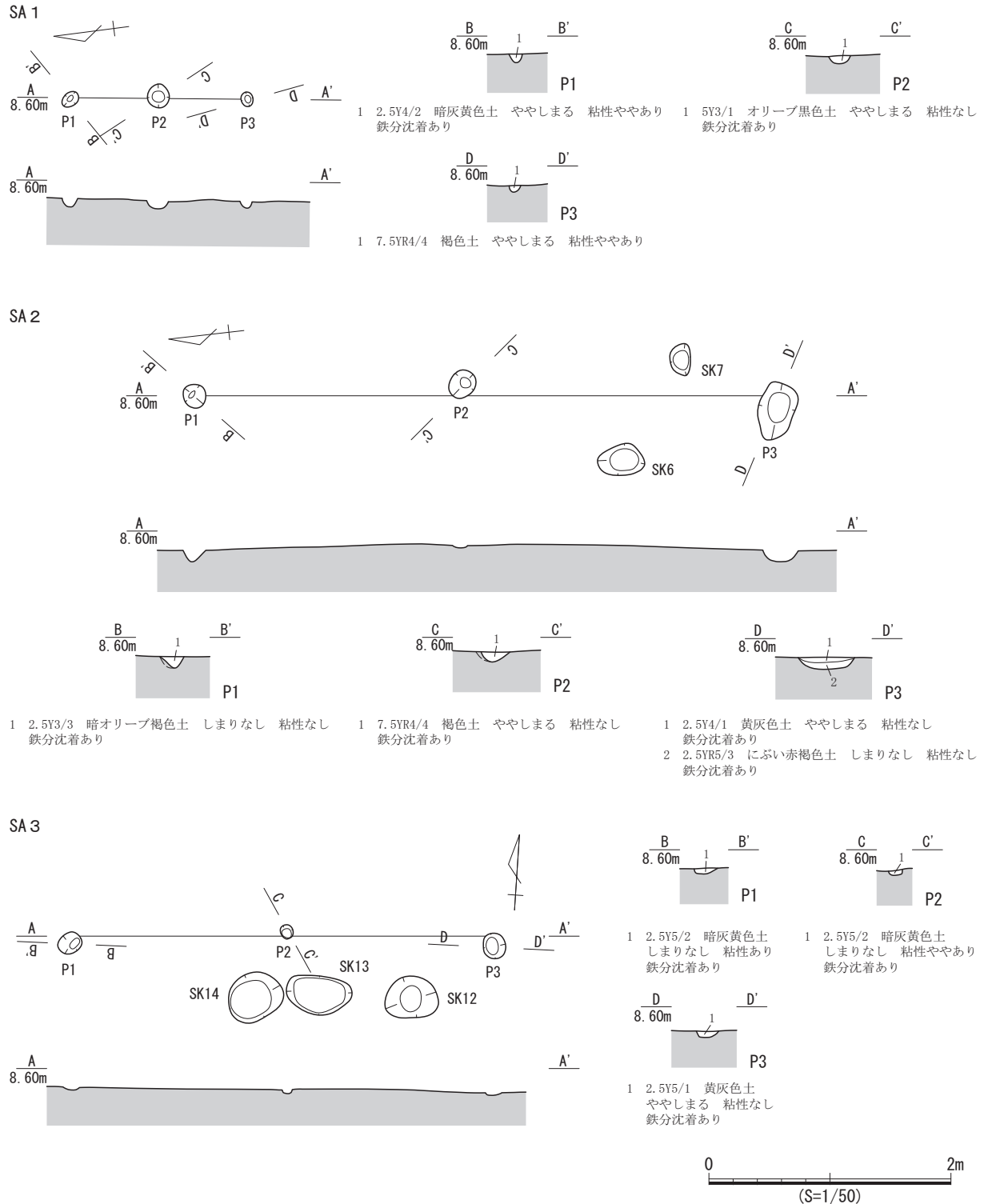


図33 SA 1～SA 3遺構図

SA 2 (図33)

検出状況 EE・EF14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。間隔は少し異なるが、3基の柱穴が直線的に並ぶ。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(4.9m、2.3m～2.6m)である。長軸方位はN-8°-Wで、約2.0m東に位置するSA 2や約2.5m東に位置するSD 1とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP 1・P 2は円形、P 3は不整形で、径は0.24m～0.48m、深さは0.07m～0.11mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P 3の埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SA 2やSD 1と方向が類似することから、15世紀後半のものとする。

SA 3 (図33)

検出状況 EF12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(3.4m、柱間1.7m)である。長軸方位はN-86°-Eである。また、約7.6m北に位置するSA 7や約8.6m北に位置するSD 7とほぼ平行し、P 1とSA 7-P 4とを結ぶライン上には柱穴1基、土坑3基が位置するが、その関係は不明である。

柱穴 3基とも平面形は円形で、径は0.10m～0.44m、深さは0.07m～0.17mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P 1の埋土から土師器2点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SD 6やSA 7と方向が類似することから、12世紀後半から13世紀前半のものとする。

SA 4 (図34)

検出状況 EE・EF 8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴から成り、北東側でほぼ直角に曲がる。柱筋からP 2がやや南に、P 4がやや東にずれる。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 東西方向2間(2.9m、柱間1.1m～1.8m)。南北方向2間(3.2m、柱間0.8m～2.4m)である。長軸方位はN-3°-Wである。約0.6m南西に位置するSB 3とほぼ同じである。SB 3に近接することから建物に伴うものであった可能性がある。

柱穴 平面形はP 1～P 4が円形、P 5が不整形で、径は0.12m～0.26m、深さは0.07m～0.17mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P 5の埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、近接するSB 3と同時期の可能性があり、13世紀前半のものとする。

SA 5 (図35)

検出状況 EE 6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(1.4m、柱間0.7m)で、長軸方位はN-36°-Wである。

柱穴 3基とも平面形は円形で、径は0.07m～0.09m、深さは0.04m～0.05mである。いずれも柱痕

跡や柱あたりは確認できなかった。遺物は出土しなかった。

時期 遺物は出土せず、長軸方位が同じ、もしくは直交する遺構が確認できないため、時期は不明である。

SA 6 (図35)

検出状況 ED12~13グリッド、III層上面で検出した。間隔は少し異なるが、6基の柱穴が直線的に並ぶ。ただし、P4とP5は柱筋からやや南にずれる。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 5間(5.6m、柱間0.7m~1.5m)である。長軸方位はN-87°-Wで、約0.2m西に位置するSD4、SD7、約1.6m北東に位置するSD9、約5.0m北西に位置するSD11と方向が類似し、それぞれの溝が途切れた間に存在する。

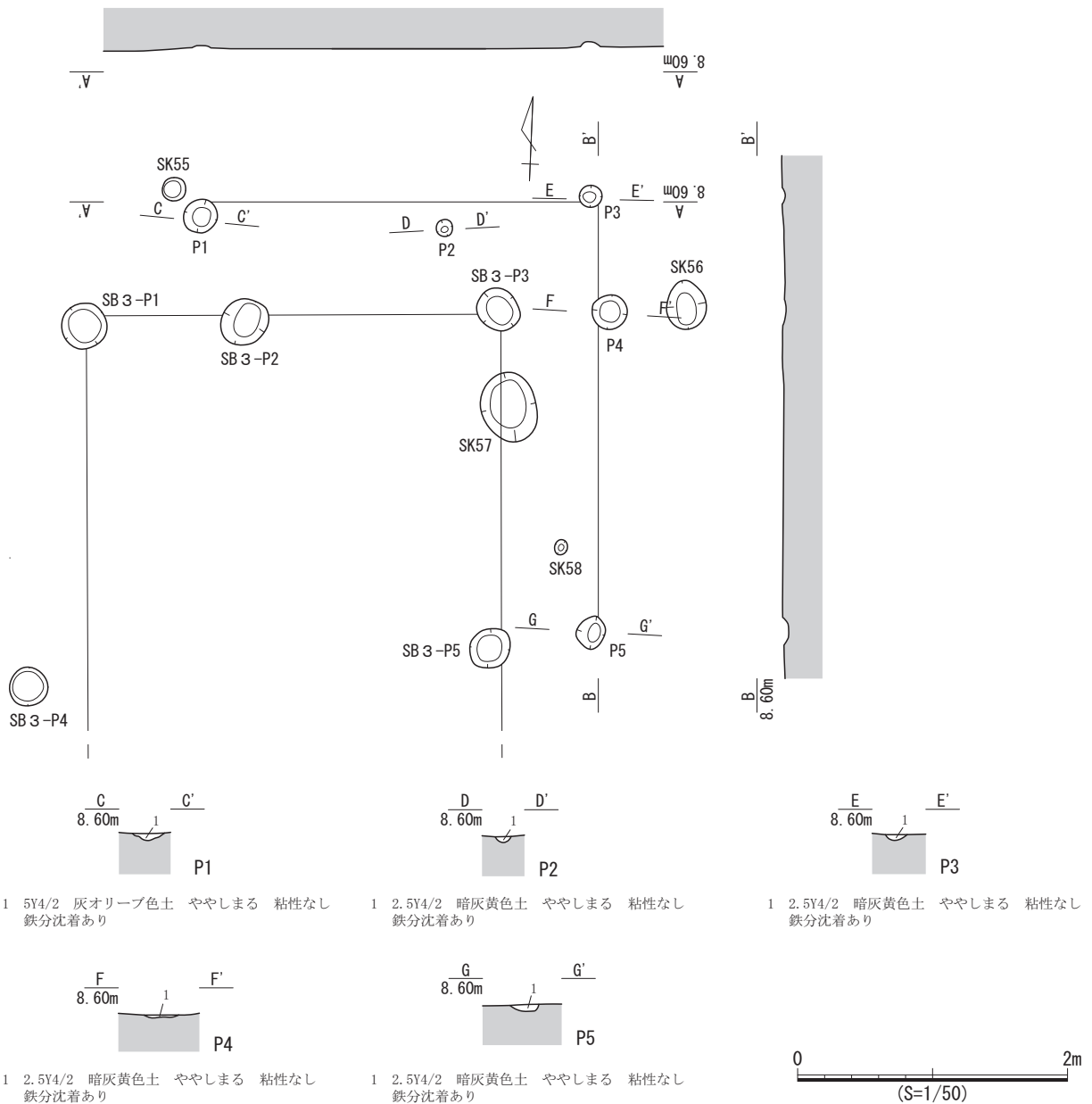


図34 SA 4遺構図

柱穴 平面形はP2～P5が円形、P1、P6が楕円形で、径は0.12m～0.24m、深さは0.05m～0.13mである。いずれも柱痕跡や柱当りとは確認できなかった。P2の埋土から土師器1点、P6の埋土から中国産陶磁器1点が出土した。

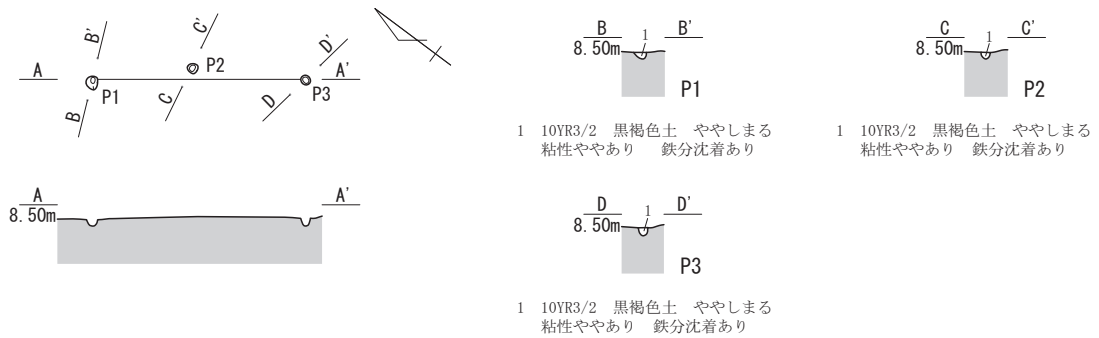
出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土した遺物から中世の遺構と考える。

SA7 (図36～37)

検出状況 EC12、ED11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。8基の柱穴から成り、南東側でほぼ直角に曲がる。P7は、柱筋からやや南にずれる。重複関係は、P1がSK141より、P4がSK52より新しい。平面形はいずれも明瞭であった。

SA5



SA6

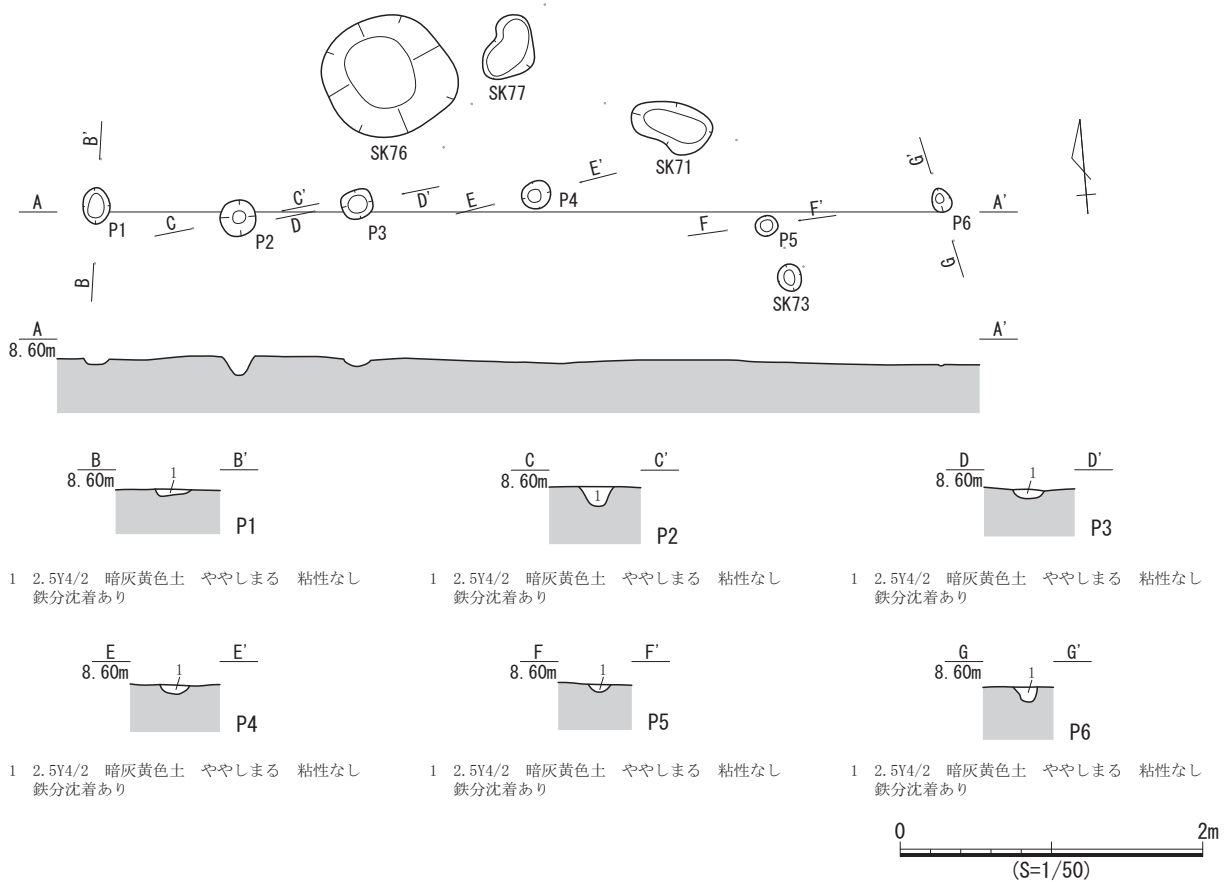


図35 SA5・SA6遺構図

規模・形状 東西方向4間(7.8m、柱間1.8m~2.0m)。南北方向3間(4.3m、柱間1.4m~1.5m)である。長軸方位はN-87°-Eで、約1.0m北に位置するSD6や約7.6m南に位置するSA3とほぼ同じである。SD7と近接することから溝に伴うものであった可能性がある。

柱穴 平面形はP1、P3、P5~P8が円形、P2、P4が楕円形で、径は0.08m~0.28m、深さは0.02m~0.14mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P7の埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、近接するSD6と同時期の可能性があり、12世紀から13世紀前葉のものとする。

SA8 (図36~37)

検出状況 ED11~12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴から成り、南東側でほぼ直角に曲がる。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 東西方向2間(3.9m、柱間1.7m~2.2m)、南北方向1間(1.9m)である。長軸方位はN-89°-Eで、約0.3m北に位置するSD6とほぼ同じである。SD6と近接することから溝に伴うものであった可能性がある。

柱穴 4基とも平面形は円形で、径は0.11m~0.31m、深さは0.04m~0.07mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。遺物は出土しなかった。

時期 近接するSD7と同時期の可能性があり、12世紀から13世紀前葉のものとする。

SA9 (図38)

検出状況 ED6~7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はP3が明瞭、P1、P2がやや明瞭であった。

規模・形状 2間(4.6m、柱間2.3m)である。長軸方位はN-74°-Eで、約8.4m北に位置するSD21とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP3が円形、P1、P2が楕円形で、径は0.36m~0.68m、深さは0.06m~0.34mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P1の埋土から土師器8点、中国産陶磁器2点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土した遺物と、SD21と方向が類似することから、13世紀前半のものとする。

SA10 (図38)

検出状況 EC・ED13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。ただし、P2は柱筋からやや西にずれる。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(2.3m、柱間1.15m)である。長軸方位はN-2°-Wで、約2.4m東に位置するSD9、約0.7m西に位置するSD11とほぼ直交する。

柱穴 平面形はP1が不整楕円形、P2、P3が楕円形で、径は0.19m~0.31m、深さは0.06m~0.08mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P1の埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SD9、SD11とほぼ直交することから、14世紀末か

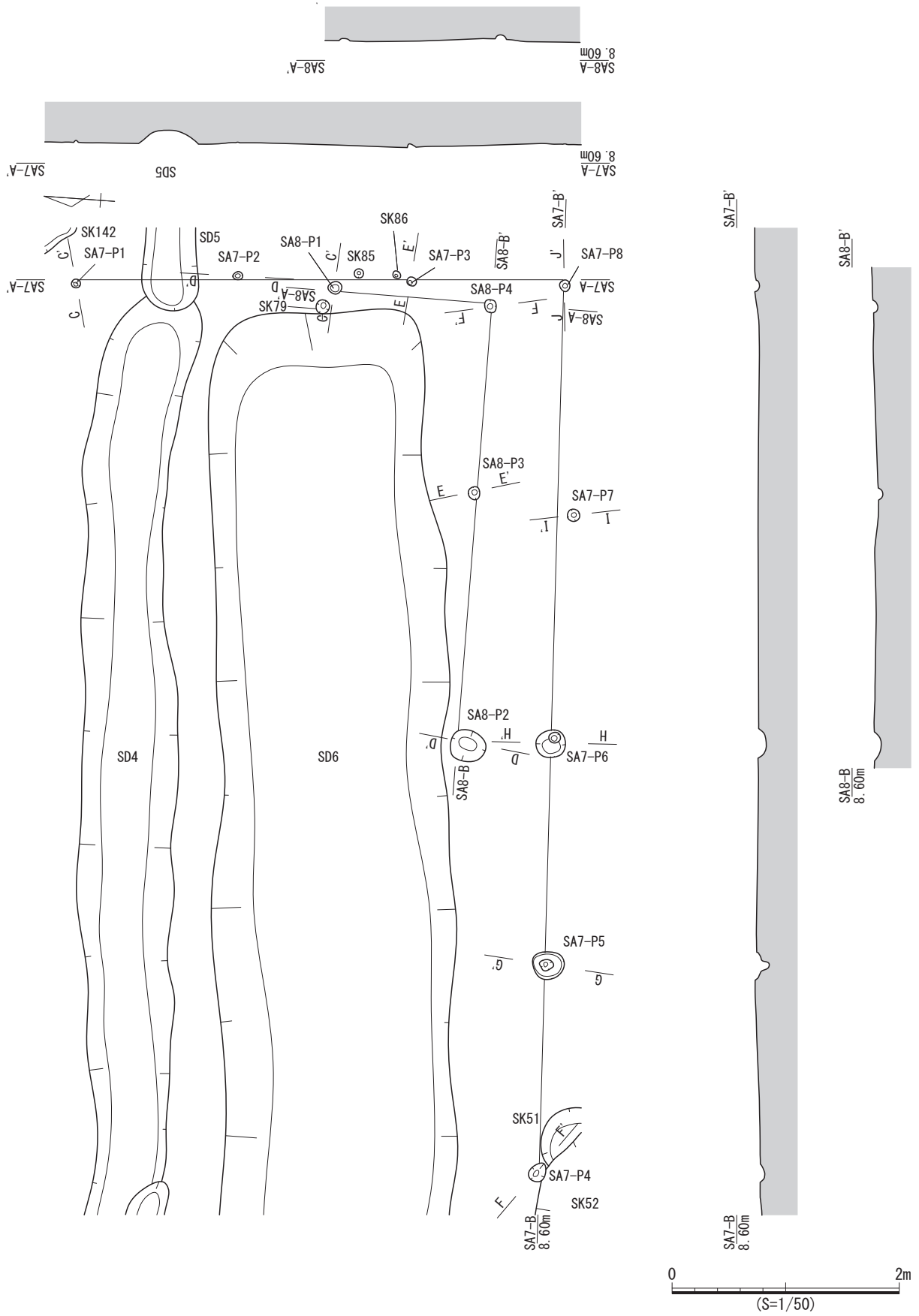


図36 SA7・SA8遺構図1

ら15世紀後葉のものとする。

SA11 (図38)

検出状況 EC・ED8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はP1が明瞭、P2、P3がやや明瞭であった。

規模・形状 2間(3.9m、柱間1.9m~2.0m)である。長軸方位はN-5°-Eである。

柱穴 平面形はP1、P3が円形、P2が楕円形で、径は0.30m~0.41m、深さは0.05m~0.08mである。いずれも柱痕跡や柱当りは確認できなかった。P3の埋土から土師器3点、山茶碗1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土した遺物から中世の遺構と考える。

SA12 (図39)

検出状況 EA・EB12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はP2、P3が明瞭、P1が不明瞭であった。

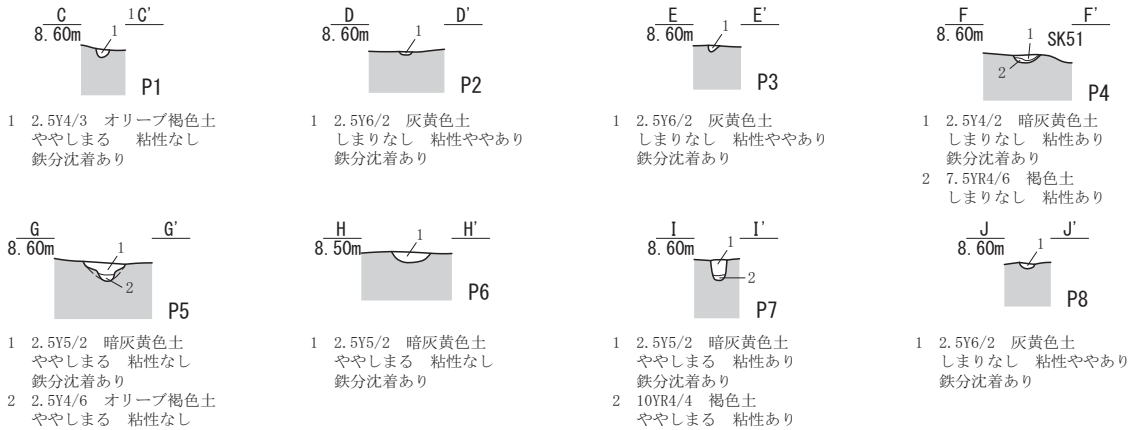
規模・形状 2間(3.5m、柱間1.7m~1.8m)である。長軸方位はN-9°-Wで、約0.4m北に位置するSD23とほぼ直交する。

柱穴 平面形はP1、P3が円形、P2が不整形円で径は0.20m~0.31m、深さは0.07m~0.11mである。いずれも柱痕跡や柱当りは確認できなかった。P1の埋土から土師器1点、山茶碗1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土した遺物と、SD23とほぼ直交することから、13世紀前半以降のものとする。

SA7



SA8

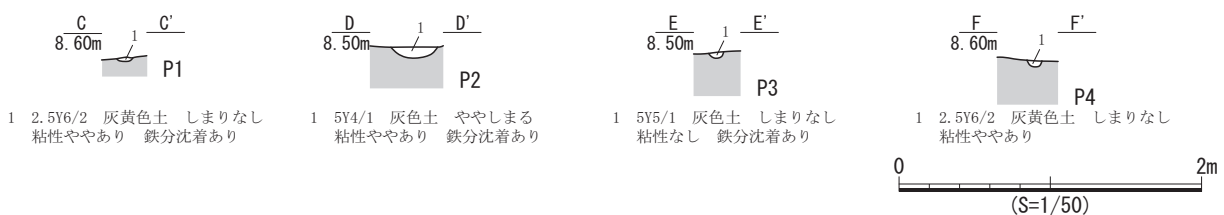


図37 SA7・SA8遺構図2

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

SA13 (図40)

検出状況 DS・DT15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。間隔は異なるが、6基の柱穴が直線的に並ぶ。重複関係はP4がSK394より古く、P1とP2がSD62より新しい。平面形はP1～P3、P6が明瞭、P4、P5が不明瞭であった。

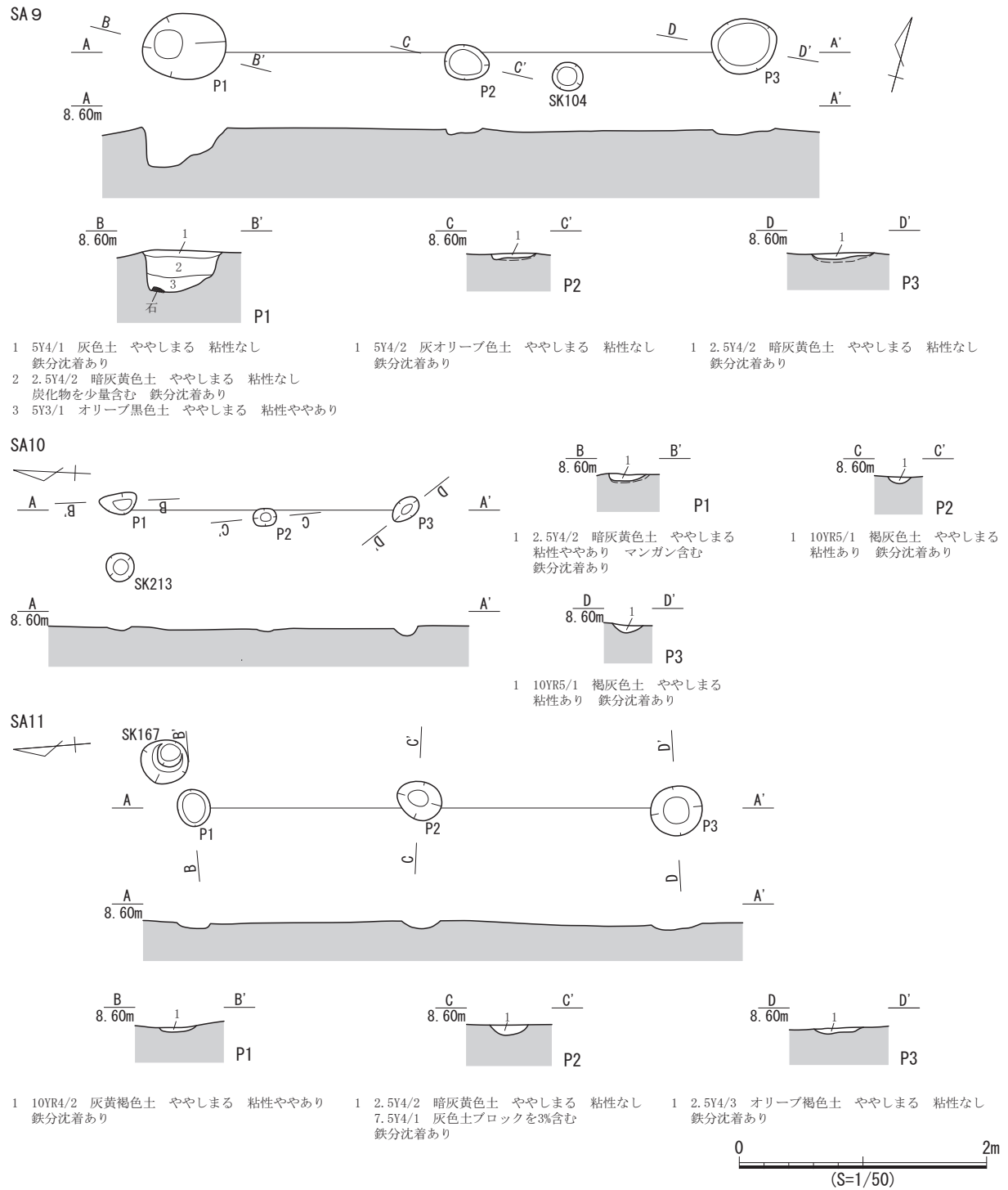


図38 SA9～SA11遺構図

規模・形状 5間（7.7m、柱間1.2m～1.9m）である。長軸方位はN-9°-Wである。

柱穴 平面形はP2が円形、P1、P3～P5が楕円形、P6が方形で、径は0.20m～0.52m、深さは0.09m～0.16mである。P2には柱根が残存し、底面に接した状態で出土した。P1の埋土から土師器1点、山茶碗1点、P3の埋土から山茶碗6点、P5の埋土から須恵器1点、山茶碗1点、P6の埋土から土師器2点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 SD62との重複関係から、15世紀中葉以降のものとする。

SA14 (図41)

検出状況 DT14～15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。平面形はP3が明瞭、P1、P2は不明瞭であった。

規模・形状 2間（3.8m、柱間1.9m）である。長軸方位はN-19°-Wで、約7.4m西に位置するSA15や、約4～7m西に集中して存在する溝SD27、SD29～SD34、SD40とほぼ同じである。また、SD23とほぼ直交する。

柱穴 平面形はP2、P3が円形、P1が楕円形で、径は0.21m～0.50m、深さは0.04m～0.07mである。いずれも柱痕跡や柱当りは確認できなかった。P1の埋土から土師器1点、山茶碗1点、P2の埋土から土師器2点、山茶碗4点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SD23とほぼ直交することから、13世紀前半以降のものとする。

SA15 (図42)

検出状況 DS13～14、DT・EA13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。間隔は異なるが、6基の柱穴が直線的に並ぶ。重複関係はP1がSK633より新しく、P5がSD23、SD28より古い。平面形はP1～P4が明瞭、P5、P6は不明瞭であった。

規模・形状 5間（11.8m、柱間1.7m～2.9m）である。長軸方位はN-22°-Wで、約7.4m東に位置するSA14や、約1.0～4.0m東に集中して存在する溝SD27、SD29～SD34、SD40とほぼ同じである。

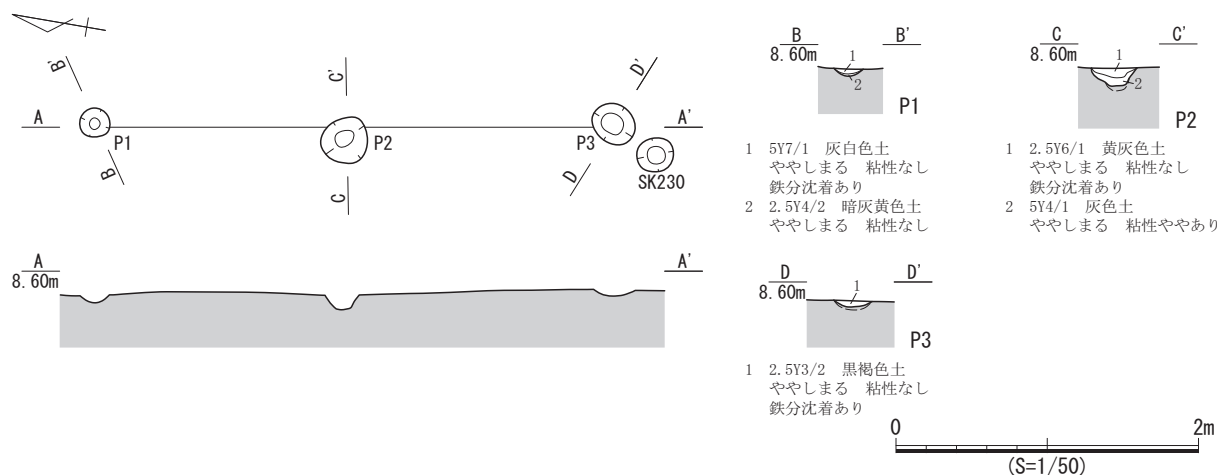


図39 SA12遺構図

柱穴 平面形はP1～P3が円形、P5、P6が楕円形、P4が不整楕円形で、径は0.25m～0.68m、深さは0.02m～0.25mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P2の埋土から山茶碗3点、P3の埋土から土師器2点、瓦質土器1点、P5の埋土から土師器1点、灰釉陶器1点、P6の埋土

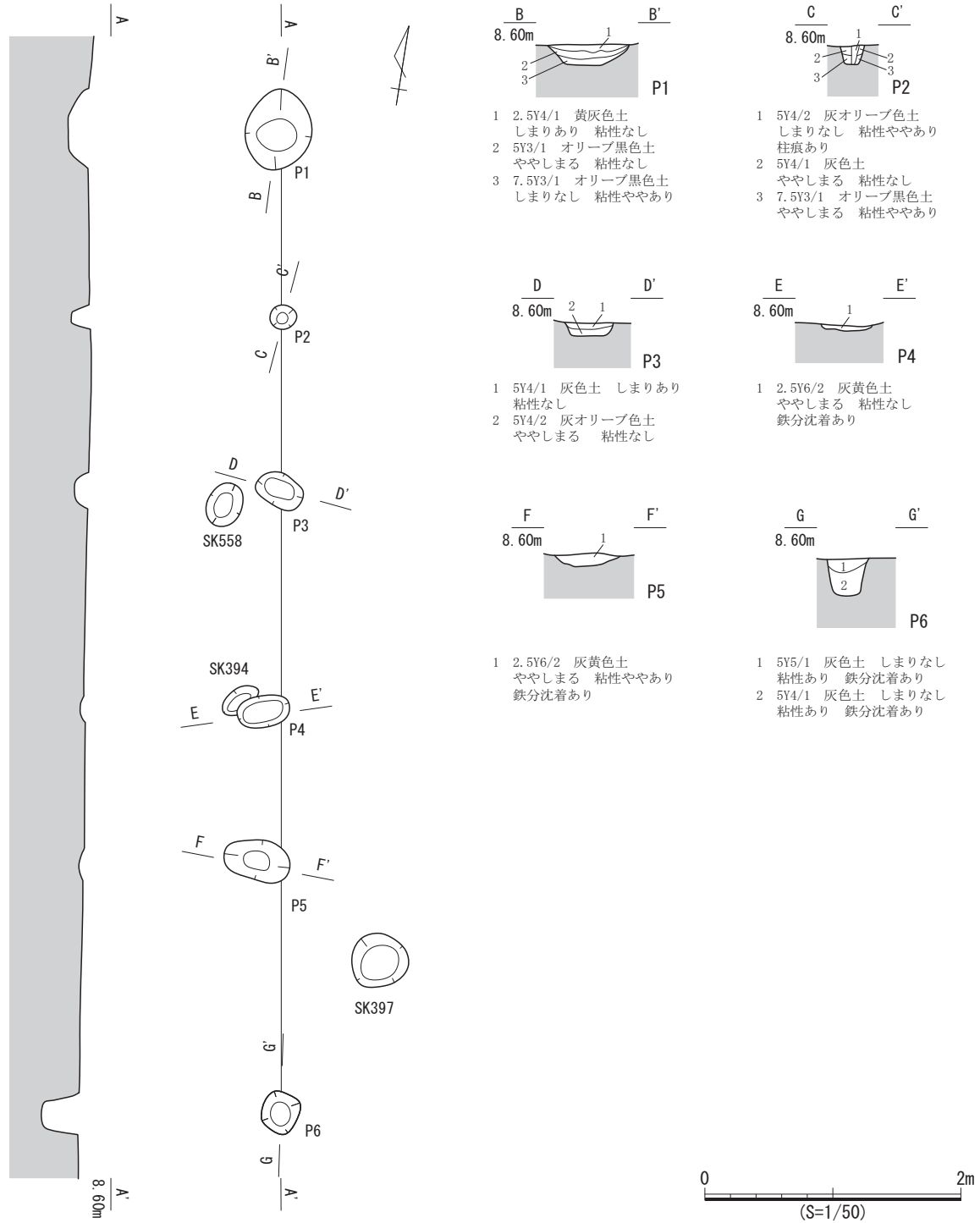


図40 SA13遺構図

から土師器1点が出土した。

出土遺物 P3から出土した瓦質土器の足鍋(56)と、P5から出土した明和27号窯式の灰釉陶器の碗(57)を図示した。56は、脚の付け根部分の破片である。

時期 出土した遺物と、SD23との重複関係から、13世紀前半以前のものとする。

SA16 (図43)

検出状況 DT12~13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP3がSD29より新しい。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(4.9m、柱間2.4m~2.5m)である。長軸方位はN-82°-Eで、約8m南に位置するSD17や、約2.2m南西に位置するSD24とほぼ同じである。

柱穴 3基とも平面形は円形で、径は0.24m~0.35m、深さは0.06m~0.08mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P2の埋土から土師器2点、P3の埋土から山茶碗1点が出土した。

出土遺物 P3から出土した尾張型第6型式の山茶碗の小皿(58)を図示した。

時期 出土遺物と、SD17やSD24と方向が類似することから、15世紀中葉以降のものとする。

SA17 (図43)

検出状況 DS・DT10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴から成る。P2とP3の間隔が広いがそれ以外はほぼ等間隔で、直線的に並ぶ。重複関係はP1とP2がSD17より古く、P2がSK677より新しい。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 4間(4.3m、柱間0.8m~1.7m)である。長軸方位はN-2°-Eで、約6.0m南に位置するSD11とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP3、P4が円形、P5が楕円形、P2が不整楕円形、P1が方形で、径は0.20m~0.28m、深さは0.03m~0.12mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P3の埋土から土師器1点、P5の埋土から土師器1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

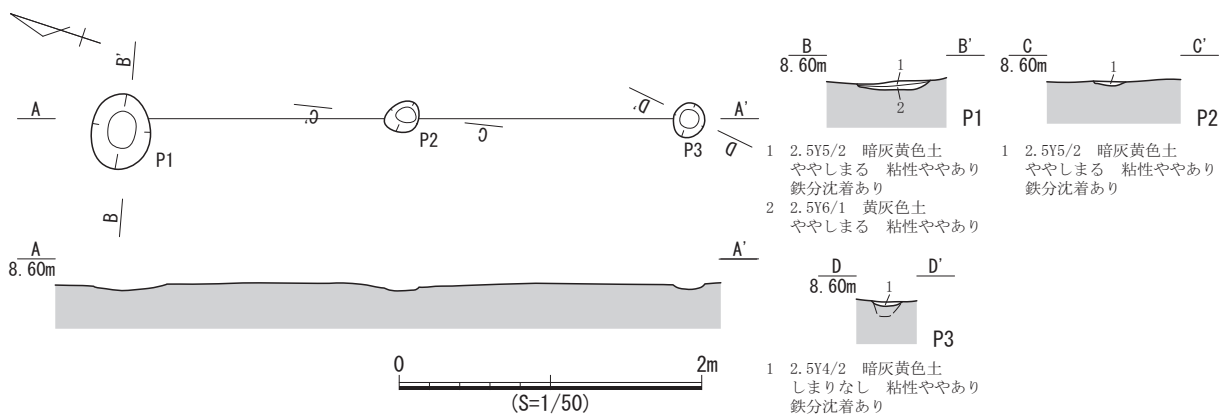


図41 SA14遺構図

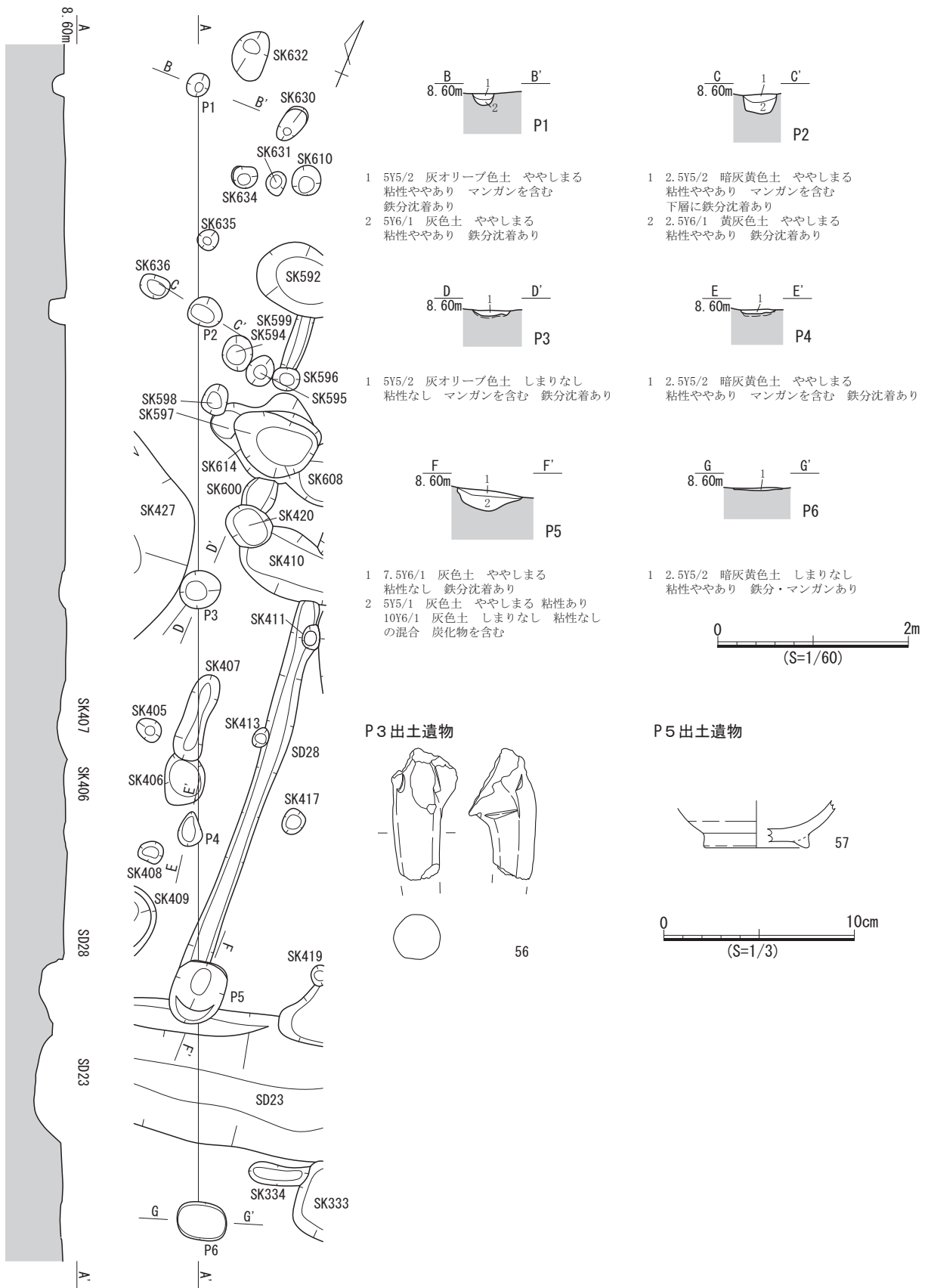
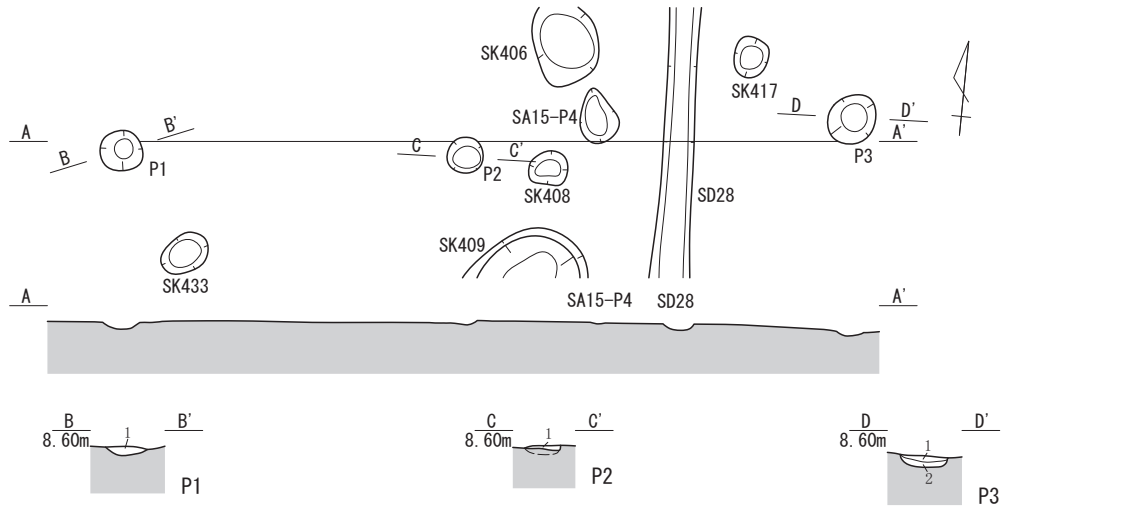


图42 SA15遺構図、出土遺物実測図

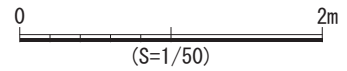
SA16



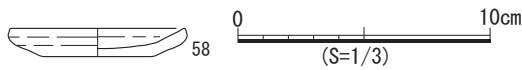
1 5Y5/1 灰色土 しまりなし 粘性ややあり
5Y5/2 灰オリーブ色土ブロックを30%含む
鉄分沈着あり

1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし
鉄分沈着あり

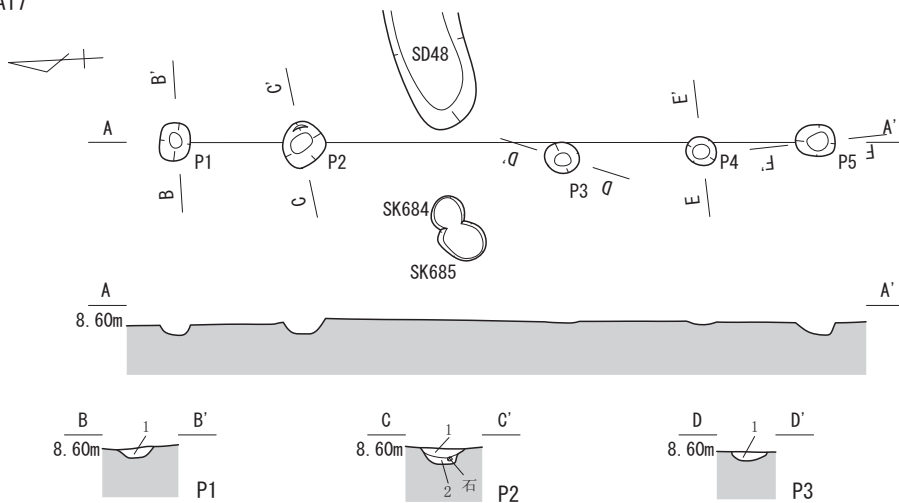
1 5Y5/1 灰色土 しまりなし 粘性なし
マンガンを含む 鉄分沈着あり
2 5Y6/2 灰オリーブ色土 しまりなし 粘性なし



P3 出土遺物



SA17

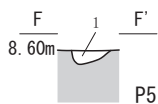


1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性なし マンガンを含む

1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性なし 炭化物を少量含む
鉄分沈着あり
2 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる
粘性なし 径2cm程の礫を含む
鉄分沈着あり

1 5Y3/2 黒褐色土 ややしまる
粘性なし 炭化物を含む 鉄分沈着あり

1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
ややしまる 粘性なし 鉄分沈着あり



1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性なし 鉄分沈着あり

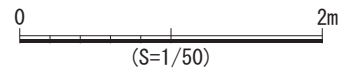


図43 SA16・SA17遺構図、出土遺物実測図

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SD11と方向が類似することから、15世紀前葉から中葉のものとする。

SA18 (図44)

検出状況 DS・DT18グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴から成る。P4とP5との間隔が広いが、それ以外はほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP1がSK718、SK732より古く、P3がSK502より新しい。平面形はP2、P3が明瞭、P1、P4がやや明瞭、P5が不明瞭であった。

規模・形状 4間(7.0m、柱間1.2m~3.0m)である。長軸方位はN-10°-Eで、SA11と似る。

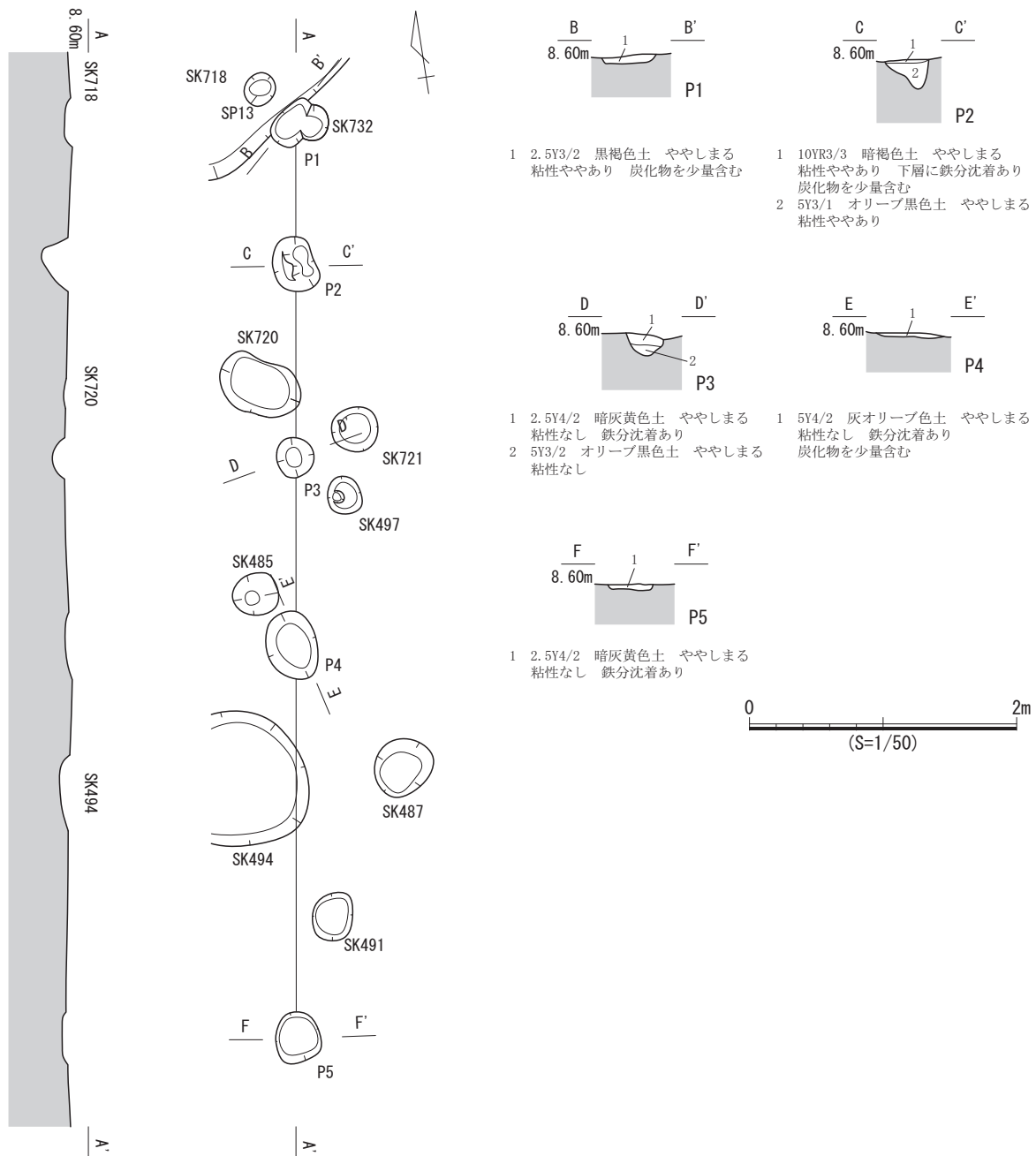


図44 SA18遺構図

柱穴 平面形はP3が円形、P1、P2、P4が楕円形、P5が不整円形で、径は0.30m～0.50m、深さは0.05m～0.22mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P2の埋土から土師器5点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため、図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、本遺構よりも古いSK502から尾張型第6型式の山茶碗が出土していることから13世紀前半以降のものとする。

SA19 (図45)

検出状況 DR・DS6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。ただし、P2は柱筋からやや北にずれる。重複関係はP1がSA20-P3より古い。平面形はいずれもやや明瞭であった。

規模・形状 4間(4.7m、柱間1.1m～1.2m)である。長軸方位はN-80°-Eである。

柱穴 平面形はP2、P3、P5が円形、P1が楕円形、P4が不整円形で、径は0.31m～0.52m、深さは0.04m～0.23mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P1、P2の1層は、傾斜変換点に層界が認められることから、別遺構であった可能性がある。P1の埋土から土師器25点、須恵器1点、山茶碗17点、種子1点、P2の埋土から土師器1点、山茶碗1点、P4の埋土から山茶碗1点が出土した。

出土遺物 P1から出土した中世後期土師器皿C1類(59)を図示した。

時期 出土遺物と、SA20との重複関係から15世紀前半以降のものとする。

SA20 (図45)

検出状況 DR・DS6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP1がSK967より古く、P3はSA19-P1より新しい。P4はSK733と重複しSK733よりも古い。P2の北側は攪乱に掘り込まれる。平面形はP3、P4が明瞭、P1、P2、P5がやや明瞭であった。

規模・形状 4間(6.2m、柱間1.5m～1.7m)である。長軸方位はN-6°-Wで、約5m西に位置するSA21とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP1、P3～P5が円形、P2が不明で、径は0.25m～0.34m、深さは0.03m～0.38mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P2の1層は、傾斜変換点に層界が認められることから、別遺構であった可能性がある。P1の埋土から土師器2点、山茶碗2点、瀬戸美濃産陶器1点、P2の埋土から土師器1点、P4の埋土から山茶碗1点が出土した。

出土遺物 P1から出土した古瀬戸後I～II期の卸目付大皿(60)を図示した。

時期 出土遺物から、15世紀前葉から中葉のものとする。

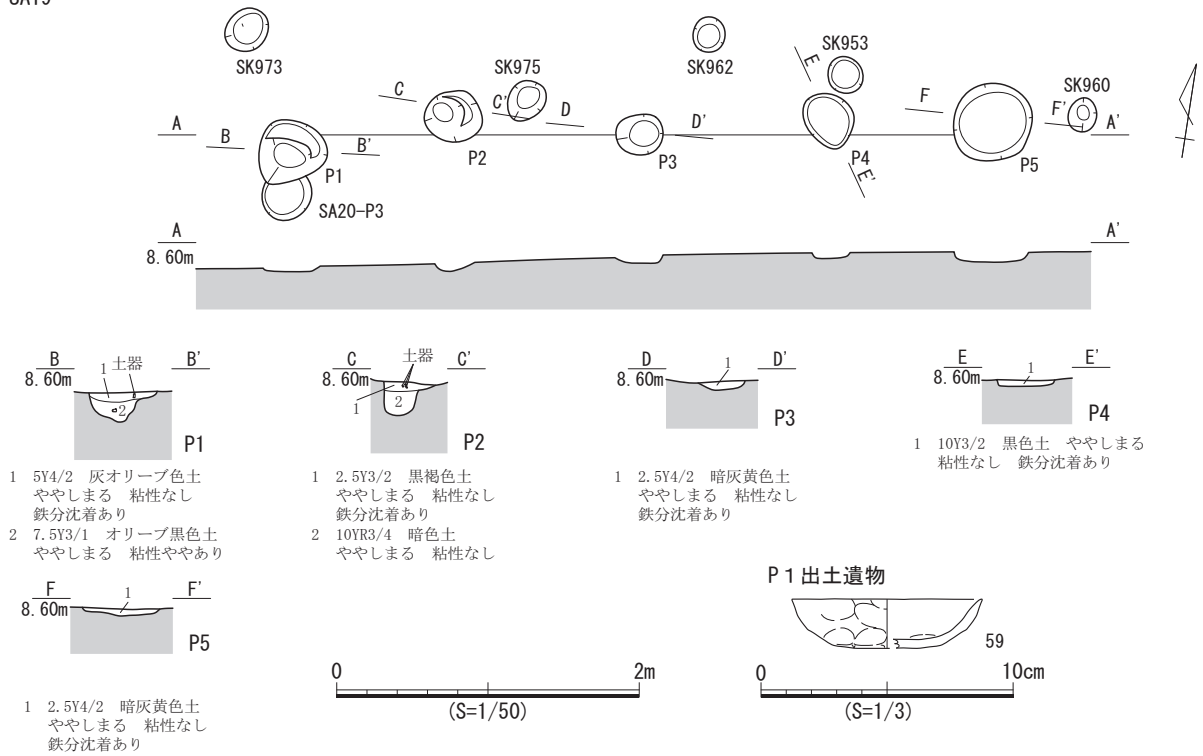
SA21 (図46)

検出状況 DR・DS5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP1がSK981より新しく、P2がSK760より新しい。P3がSK763より古い。平面形はいずれもやや明瞭であった。

規模・形状 3間(4.0m、柱間1.2m～1.4m)である。長軸方位はN-9°-Wで、約5.0m東に位置するSA20とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP1、P2が円形、P3が楕円形、P4が不整円形、径は0.25m～0.40m、深さは0.04m

SA19



SA20

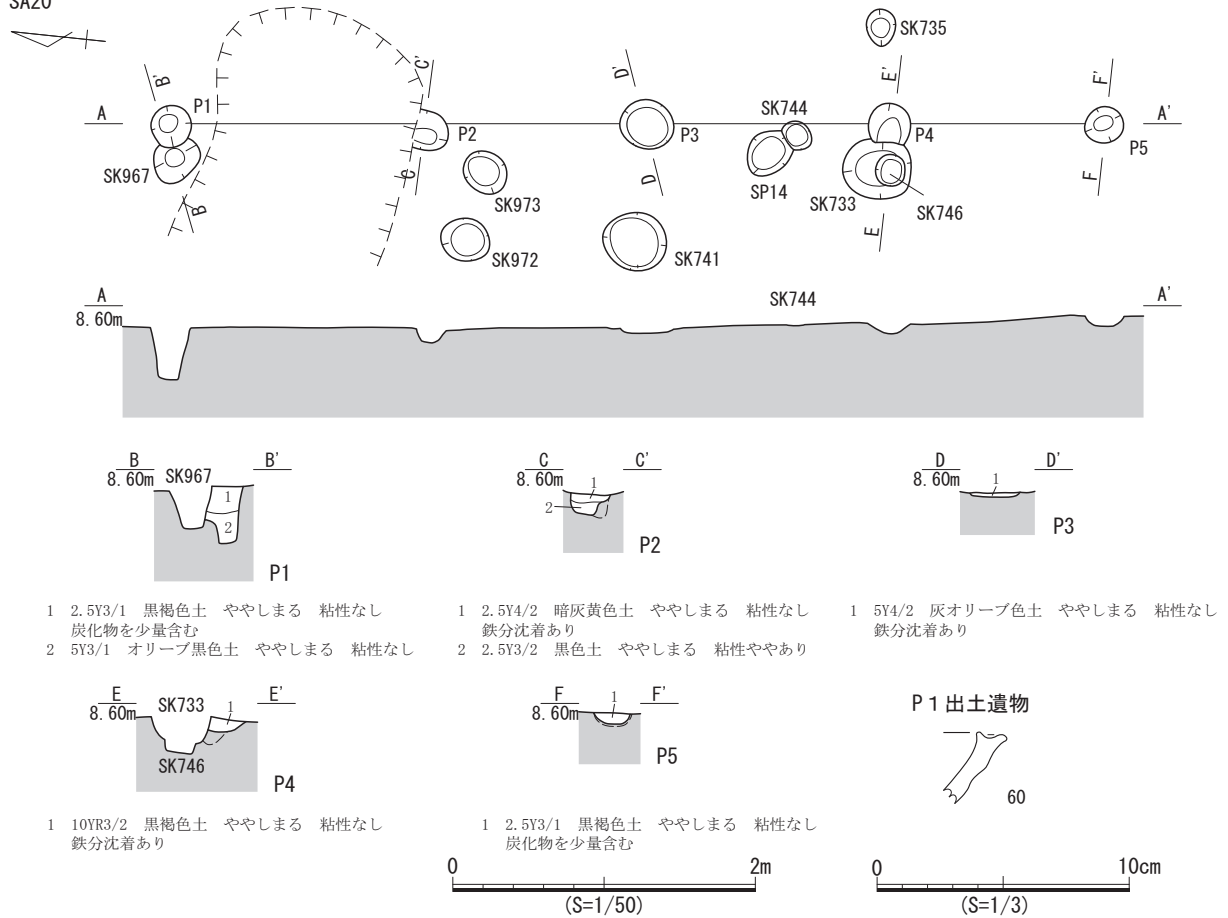


図45 SA19・SA20遺構図、出土遺物実測図

～0.15mである。P3には柱根が残存し、底面に接した状態で出土した。P1の埋土から土師器3点、P3の埋土から土師器9点、木製品5点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため、図示しなかった。

時期 時期を判断できる遺物は出土しなかったが、SA20と方向が類似することから、15世紀前葉から中葉のものとする。

SA22 (図47)

検出状況 DQ・DR・DS14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。ただし、P4は柱筋からやや西にずれる。重複関係はP5がSK572より新しい。平面形はP1、P2が明瞭、P2、P4、P5が不明瞭であった。

規模・形状 4間(5.5m、柱間1.3m～1.5m)である。長軸方位はN-10°-Wで、約3.0m東に位置するSD62とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP2～P5が円形、P1が不整隅丸長方形で、径は0.19m～0.38m、深さは0.13m～0.26mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P2の埋土から山茶碗1点、P3の埋土から土師器3点、山茶碗1点、中国産陶磁器1点、土製品2点、P4の埋土から土師器4点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

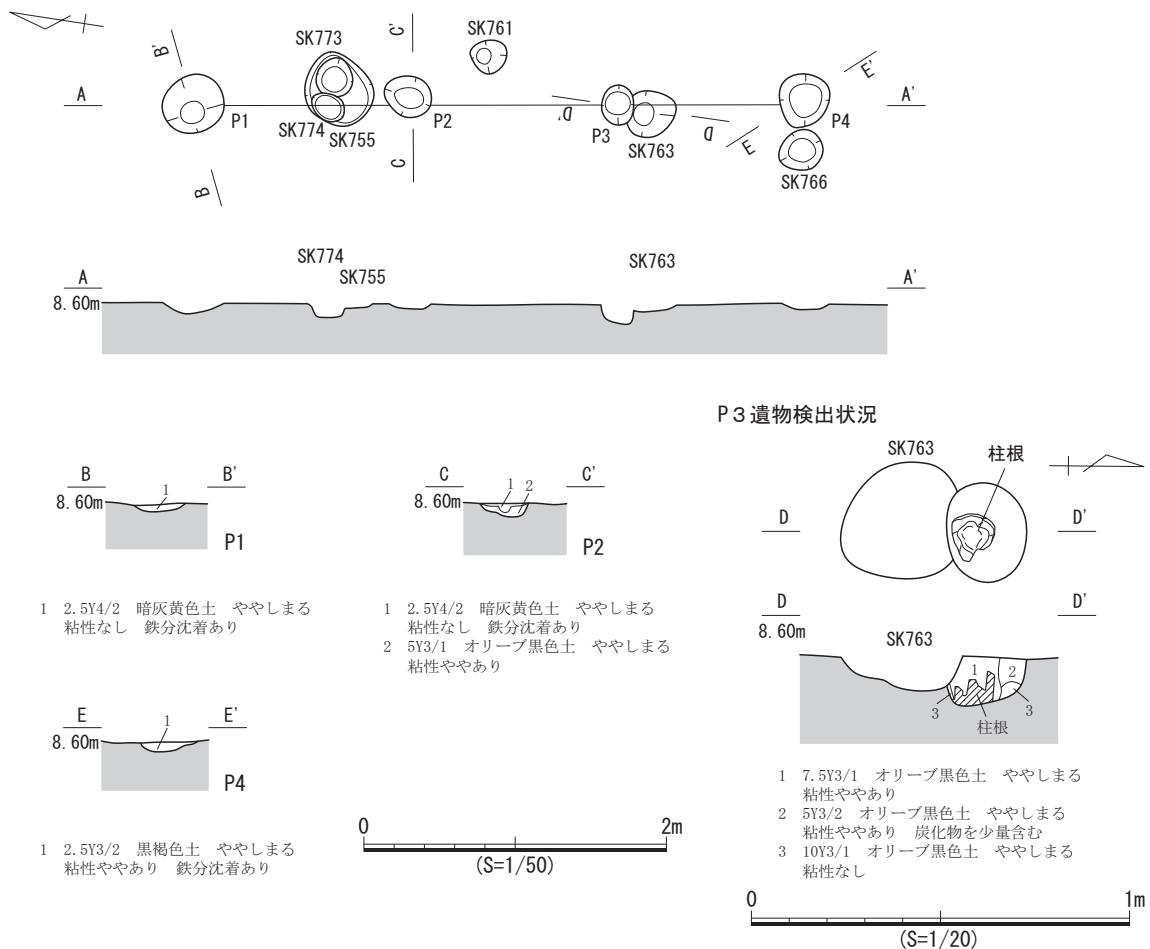


図46 SA21遺構図

時期 出土遺物と、SD62と方向が類似することから、15世紀中葉のものとする。

SA23 (図48)

検出状況 DQ・DR11~12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。5基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。ただし、P3は柱筋からやや東に、P4は柱筋からやや西にずれる。重複関係はP1がSK1138より新しく、P2がSK1057、SK1114より新しい。P3がSK829より古く、SK1057、SK1104、SK1114より新しい。P4がSK830より古く、SK869、SK874より新しい。また、SB7-P3はSK1057より古いから、SB7より新しい。平面形はいずれも明瞭であった。

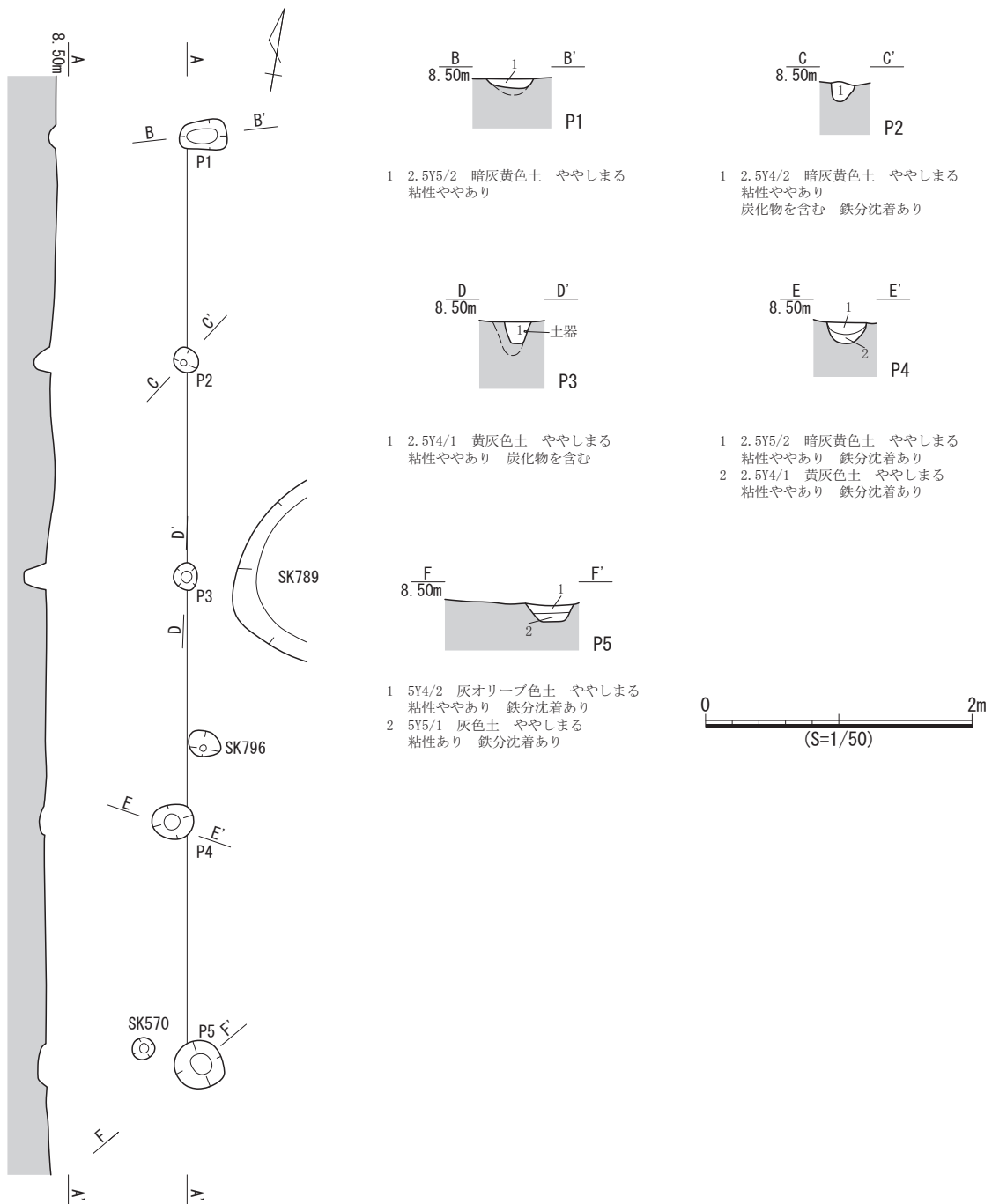


図47 SA23遺構図

規模・形状 4間（7.1m、柱間1.8m～1.9m）である。長軸方位はN-18°-Wで、約0.6m東に位置するSB7とほぼ同じで、約13.0m南に位置するSD23とほぼ直交する。

柱穴 平面形はP2、P3、P4が円形、P1、P5が楕円形で、径は0.21m～0.50m、深さは0.07m～0.48mである。いずれも柱痕跡や柱当りとは確認できなかった。傾斜変換点に層界が認められることからP3の1層、P5の1層・2層は、別遺構であった可能性がある。P2の埋土から土師器3点、灰釉陶器1点、山茶碗9点、P3の埋土から土師器1点、P4の埋土から土師器7点、山茶碗3点、P5の埋土

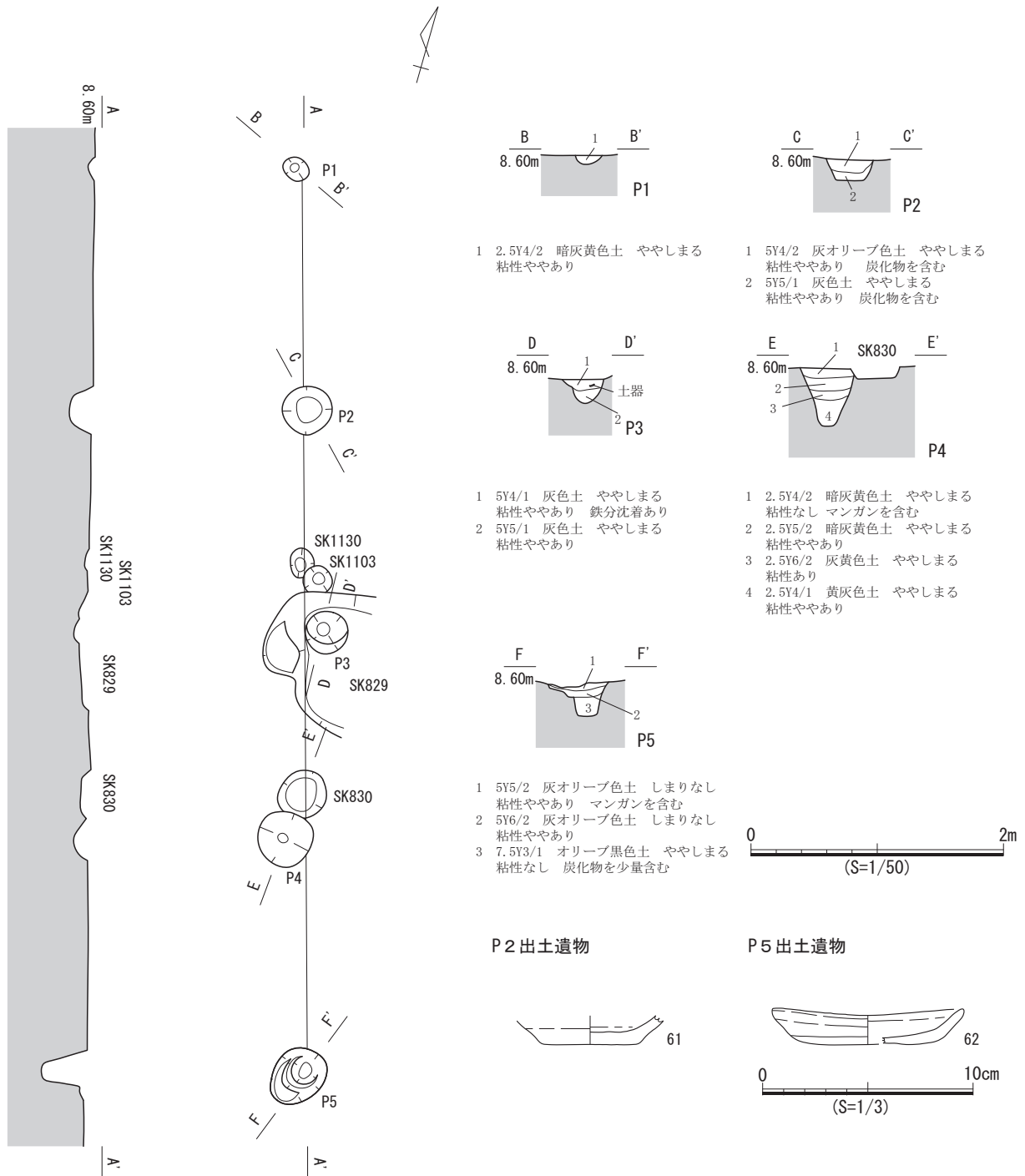


図48 SA23遺構図、出土遺物実測図

から土師器3点が出土した。

出土遺物 P2から出土した尾張型第5型式の山茶碗の小皿(61)とP5から出土した中世前期土師器皿A1a類(62)を図示した。

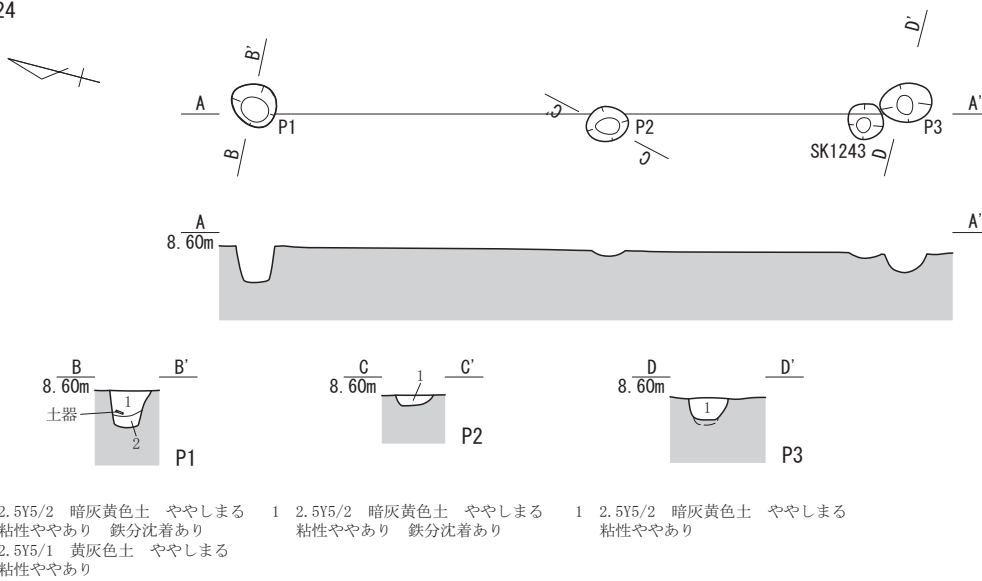
時期 出土遺物と、本遺構よりも古いSK874から尾張型第6型式の山茶碗、SK1057から第5～6型式の山茶碗が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

SA24 (図49)

検出状況 DP13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。ただし、P2は柱筋からやや西にずれる。重複関係はP3がSK1244より新しい。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(4.1m、柱間1.9m～2.2m)である。長軸方位はN-14°-Wで、約1.8m東に位

SA24



SA26

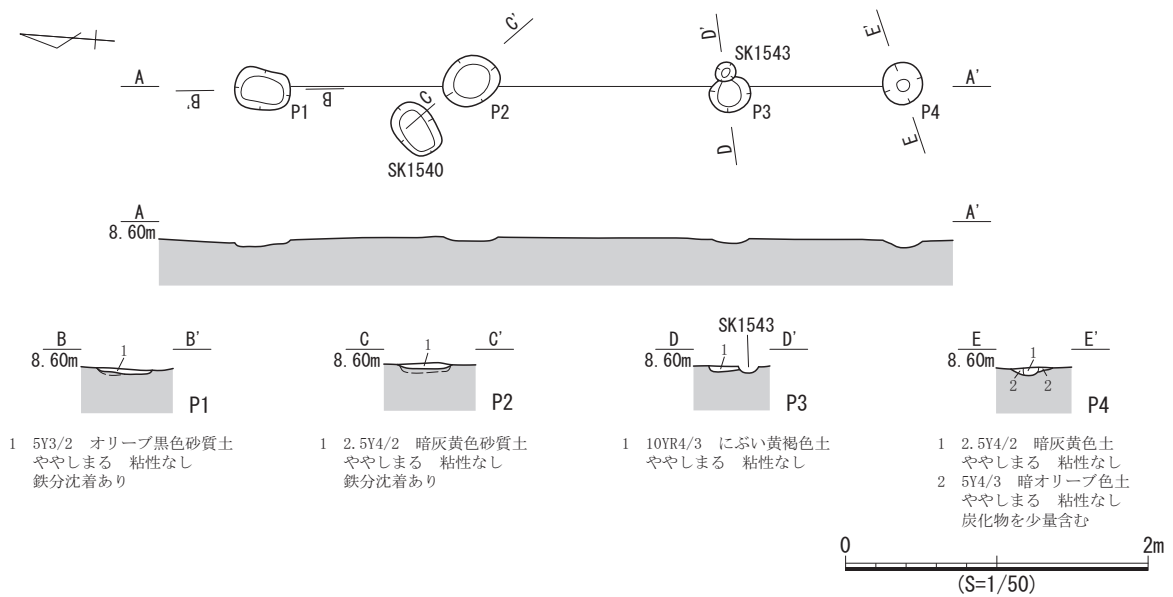


図49 SA24・SA26遺構図

置するSD62とほぼ同じである。

柱穴 平面形はP1が円形、P2、P3が楕円形で、径は0.28m～0.35m、深さは0.07m～0.28mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。P1の埋土から土師器5点、山茶碗2点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物と、SD62と向きが似ることから、15世紀中葉のものとする。

SA26 (図49)

検出状況 DJ6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。4基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。重複関係はP3がSK1543より古い。平面形はいずれもやや明瞭であった。

規模・形状 3間(4.2m、柱間1.2m～1.7m)である。長軸方位はN-5°-Wで、約3.0m北に位置するSD88とほぼ直交する。

柱穴 平面形はP4が円形、P2、P3が楕円形、P1が長方形で、径は0.27m～0.38m、深さは0.03m～0.06mである。P4では柱痕跡と柱当たりを確認した。遺物は出土しなかった。

時期 SD88とほぼ直交することから、12世紀後葉以降のものとする。

SA28 (図50)

検出状況 DQ15～16グリッド、Ⅲ層上面で検出した。3基の柱穴がほぼ等間隔で直線的に並ぶ。P1は柱筋からやや南にずれる。平面形はいずれも明瞭であった。

規模・形状 2間(4.0m、柱間1.9m～2.1m)である。長軸方位はN-75°-Eで、約0.3m西に位置するSD62とほぼ直交する。

柱穴 平面形はP3が円形、P2が楕円形、P1が不整形円で、径は0.30m～0.69m、深さは0.06m～0.20

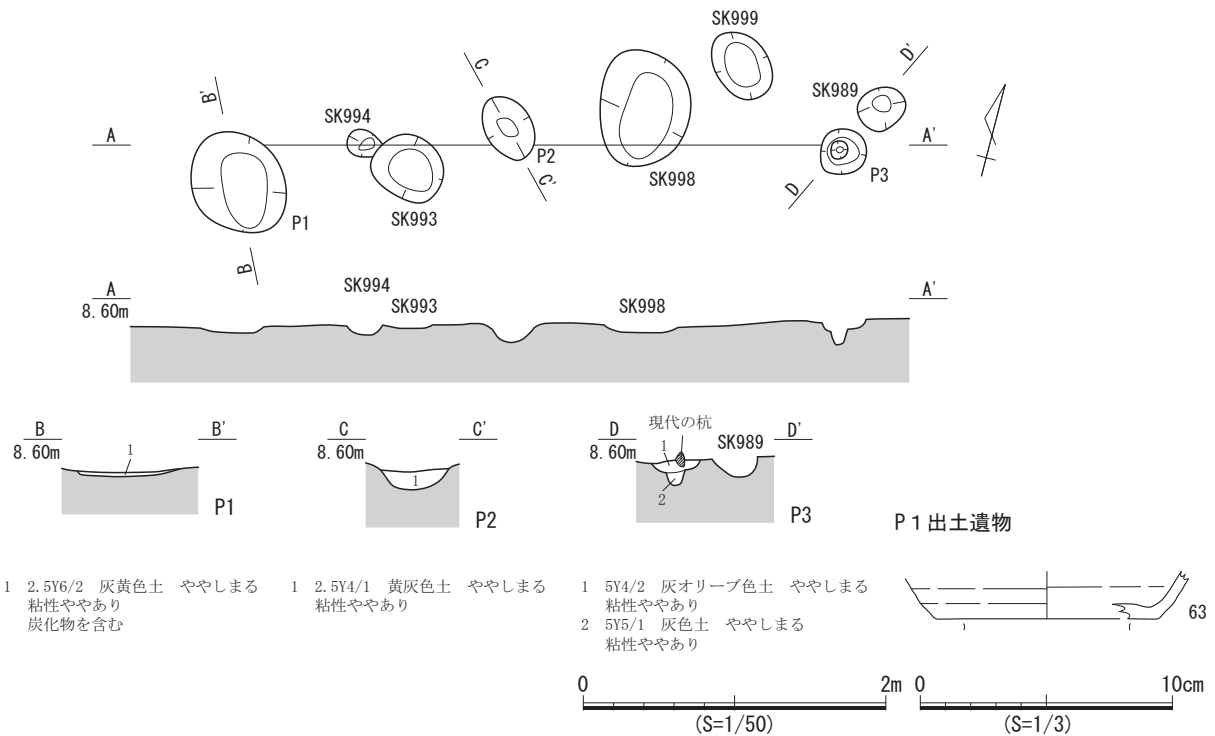


図50 SA28遺構図、出土遺物実測図

mである。いずれも柱痕跡や柱当たりは確認できなかった。傾斜変換点に層界が認められることからP3の1層は、別遺構であった可能性がある。P1の埋土から須恵器1点、山茶碗1点、P2の埋土から土師器3点、P3の埋土から土師器1点、山茶碗1点が出土した。

出土遺物 P1から出土した美濃須衛V期第1小期の有台坏身(63)を図示した。63の底部外面には高台が剥がれた痕跡が認められる。

時期 出土遺物と、SD62とほぼ直交することから、15世紀中葉のものとする。

3 単独柱穴

SP1 (図51)

検出状況 EF11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.26m、短軸長0.24m、深さ0.50mで、平面形は円形である。断面形は逆三角形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 1層は柱堀方埋土で、柱根が底面に接した状態出土した。

出土遺物 柱根は腐食が著しいため図示しなかった。

時期 柱根の放射性炭素年代測定を実施した(第4章第2節)結果から、15世紀前半のものとする。

SP2 (図51)

検出状況 ED13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.38m、短軸長0.26m、深さ0.07mで、平面形は円形である。断面形は半円形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、底面には柱当たりが認められる。2層は柱堀方埋土である。遺物は出土しなかった。

時期 周辺に中世の遺構が多く認められることから中世のものとする可能性がある。

SP3 (図51)

検出状況 EC6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.48m、短軸長0.43m、深さ0.06mで、平面形は方形である。断面形は逆台形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、2層は柱堀方埋土である。埋土から土師器2点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP4 (図51)

検出状況 EC6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長と短軸長0.25m、深さ0.03mで、平面形は円形である。断面形は半円形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 1層は柱痕跡で、2層は柱堀方埋土である。遺物は出土しなかった。

時期 遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP5 (図51)

検出状況 EC5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK184より新しい。

規模・形状 長軸長0.34m、短軸長0.28m、深さ0.53mで、平面形は楕円形である。断面形は方形である。

埋土 3層に分層した。1層は柱痕跡、2層、3層は柱堀方埋土である。柱根が底面に接した状態で出土した。土師器2点が散在して出土した

出土遺物 土師器は小片で、柱根は腐食が著しいため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP6 (図51)

検出状況 EC5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.38m、短軸長0.34m、深さ0.07mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で、2層は柱堀方埋土である。土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP7 (図51)

検出状況 DT13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK415、SK416、SK423より古い。

規模・形状 長軸長0.50m、短軸長0.39m、深さ0.38mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形状で、底面は平坦になる。

埋土 4層に分層した。約9cmの厚みで堆積した4層の上に柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土の2層と柱堀方埋土の3層が認められる。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器2点、灰釉陶器1点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP8 (図51)

検出状況 DS12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.43m、短軸長0.37m、深さ0.25mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 4層に分層した。1層は柱痕跡で中央付近には腐食した柱根が残存していた。2層～4層は柱堀方埋土である。土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片で、柱根は腐食が著しいため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP9 (図51)

検出状況 DS11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD47より古い。

規模・形状 長軸長0.38m、短軸長0.37m、深さ0.22mで、平面形は円形である。断面形は二段の掘

74 第3章 調査の成果

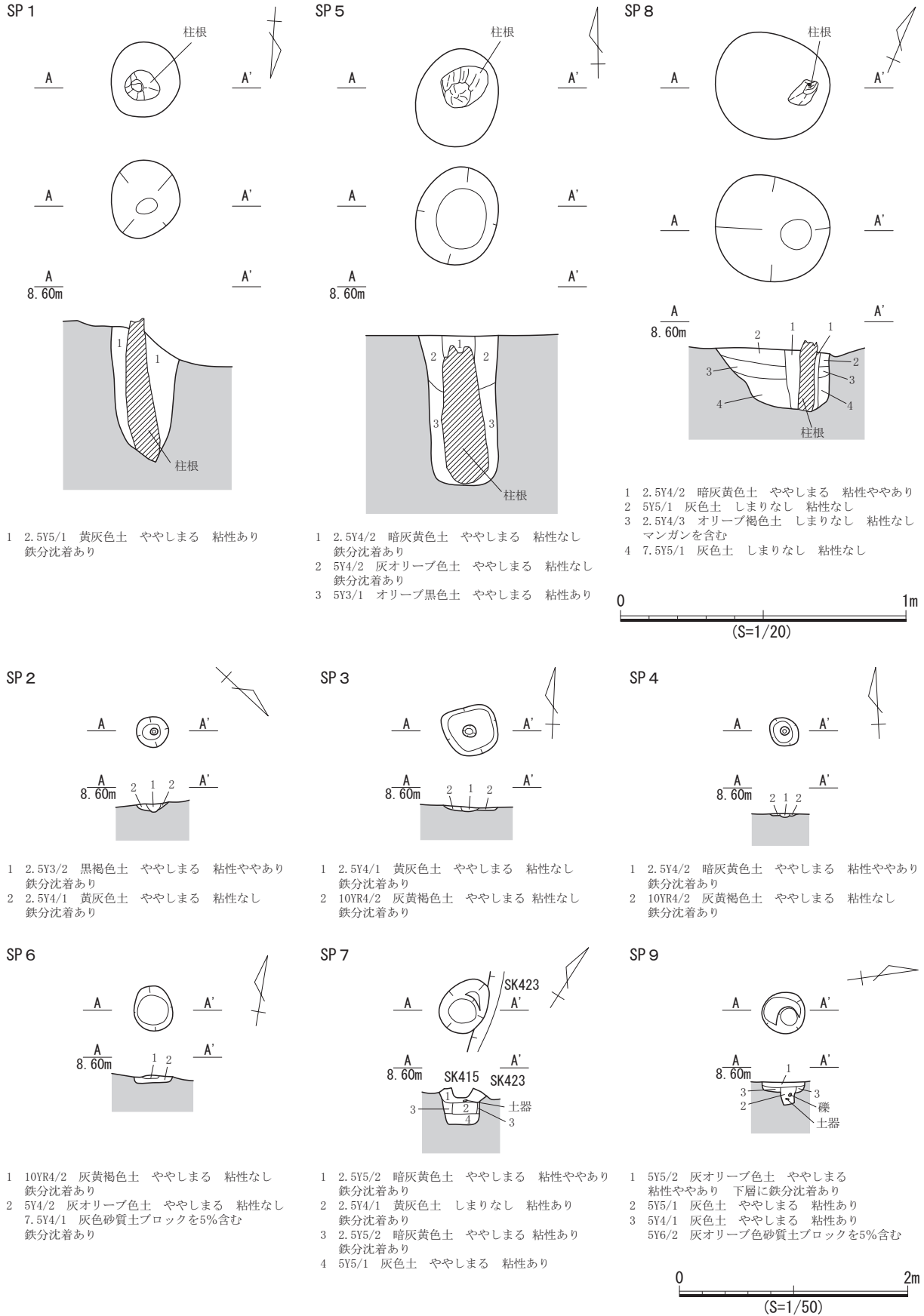


図51 SP 1 ~ SP 9 遺構図

り込みである。底面には柱当たりが認められる。

埋土 3層に分層した。2層が柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器27点、山茶碗3点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 a層とb層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP10 (図52)

検出状況 DS11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.37m、深さ0.53mで、平面形は円形である。断面形は概ね逆三角形である。

埋土 5層に分層した。1層が柱痕跡で柱根(64)が残存していた。2層～5層は柱掘方埋土である。山茶碗1点が出土した。

出土遺物 柱根(64)を図示した。側面は腐食が激しいが、底面付近の残りは良好である。側面に区画稜線、底面に区画稜線と刃先痕、刃端痕が認められる。側面には2方向から中心に向かって狭くなる方形の孔が穿たれ、孔同士は貫通する。孔内には区画稜線と刃先痕、刃端痕が認められ、側面や底面よりも刃幅の狭い工具を用いて加工したと考える。SP11から出土した柱根と類似する。

時期 64の放射性炭素年代測定を実施した(第4章第2節)。測定結果から14世紀前半から15世紀前半のものとする。

SP11 (図52)

検出状況 DS11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK662、SD47より古い。

規模・形状 長軸長0.30m、短軸長0.22m、深さ0.49mで、平面形は楕円形である。断面形は概ね逆台形である。

埋土 3層に分層した。1層～3層は柱掘方埋土である。柱根(66)が底面に接した状態で出土した。瀬戸美濃産陶器1点が出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅳ期新段階の播鉢(65)と柱根(66)を図示した。66の側面は残りが比較的良く、側面と底面に区画稜線、刃先痕が認められる。側面には2方向から中心に向かって狭くなる方形の孔が穿たれ、孔同士は貫通する。孔内には区画稜線、刃先痕、刃端痕が認められ、側面や底面よりも刃幅の狭い工具を用いて加工したと考える。SP10から出土した柱根と類似する。

時期 66の放射性炭素年代測定を実施した(第4章第2節)。測定結果と2層から出土した播鉢から、15世紀後半以降のものとする。

SP12 (図52)

検出状況 DS7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK718より新しい。

規模・形状 径0.52m、深さ0.16mで、平面形は円形である。断面形は概ね逆台形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 1層は柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。遺物は出土しなかった。

時期 遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP13 (図52)

検出状況 DS 7 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK718より古い。

規模・形状 長軸長0.24m、短軸長0.23m、深さ0.18mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層～2層は柱掘方埋土である。柱根が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 柱根は腐食が著しいため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP14 (図52)

検出状況 DS 6 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK744より古い。

規模・形状 長軸長0.30m、短軸長0.29m、深さ0.06mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で中央付近には柱根が残存していたが、腐食が著しく取り上げることはできなかった。2層は柱掘方埋土である。土師器2点、山茶碗1点が出土した。

出土遺物 土器はいずれも小片のため図示しなかった。

時期 a層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP15 (図53)

検出状況 DS 5 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.37m、深さ0.33mで、平面形は円形である。断面形は二段の掘り込みである。

埋土 3層に分層した。2層は柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器6点、山茶碗1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP16 (図53)

検出状況 DR～DS14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.52m、短軸長0.32m、深さ0.21mで、平面形は楕円形である。断面形は半円形である。

埋土 3層に分層した。1層は柱痕跡で、2層～3層は柱掘方埋土である。土師器4点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 A 2類の伊勢型鍋(67)を図示した。

時期 出土遺物から、12世紀後半以降のものとする。

SP17 (図53)

検出状況 DR～DS12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.87m、短軸長0.80m、深さ0.41mで、平面形は不整形である。断面形は二段の掘り込みである。

埋土 5層に分層した。4層は柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、木片が出土した。5層は柱掘方埋

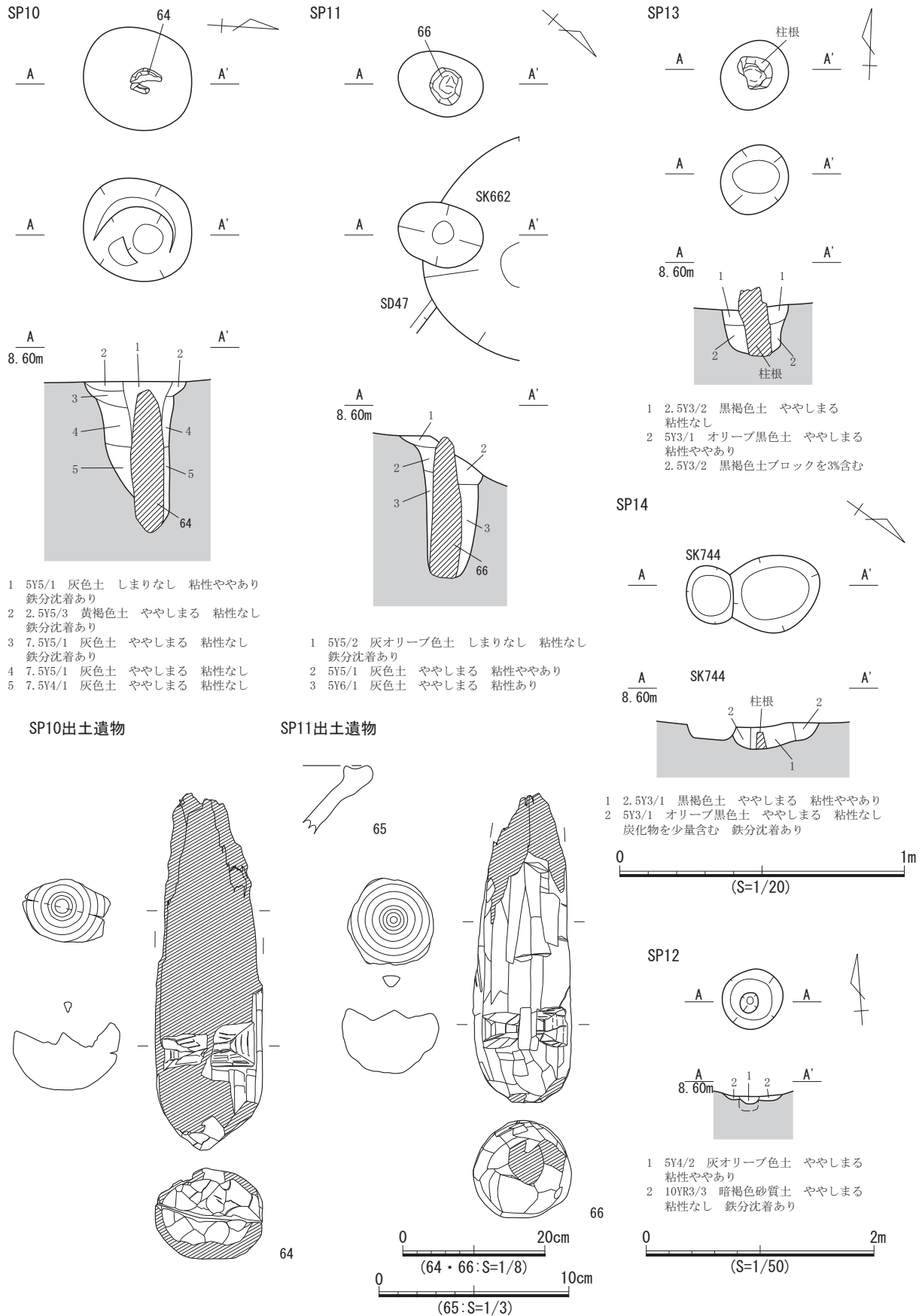


図52 SP10～SP14遺構図、出土遺物実測図

土である。1層～3層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器31点、山茶碗11点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層～3層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP18 (図53)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.46m、短軸長0.26m、深さ0.25mで、平面形は楕円形である。断面形は2段の掘り込みで底面には柱当たりが認められる。

埋土 3層に分層した。1層は柱痕跡で、2層、3層は柱掘方埋土である。土師器4点、山茶碗2点がした。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP19 (図53)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.30m、短軸長0.28m、深さ0.31mで、平面形は円形である。断面形は方形である。

埋土 3層に分層した。2層は柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器5点、須恵器1点、山茶碗9点、土製品1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層、2層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP20 (図53)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.19m、短軸長0.18m、深さ0.26mで、平面形は円形である。断面形は半円形で、底面は丸くなる。

埋土 2層に分層した。1層は柱痕跡で中央付近には柱根が残存していたが、腐食が著しく取り上げることはできなかった。2層は柱掘方埋土である。土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP21 (図53)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 径0.24m、深さ0.09mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 1層に分層した。1層は柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。土師器1点が出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP23 (図53)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK823より新し

い。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.28m、深さ0.16mで、平面形は楕円形である。断面形は2段の掘り込みである。重複関係からSK656より新しい。底面には柱当たりが認められる。

埋土 4層に分層した。1層、2層は柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、元は柱根であった可能性がある腐食した木片12点が出土した。3層、4層は柱掘方埋土である。土師器1点が出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP24 (図53)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.37m、深さ0.33mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。1層、2層の下には、約14cmの厚みで3層が堆積する。土師器5点と山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP25 (図54)

検出状況 DR12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.33m、短軸長0.28m、深さ0.32mで、平面形は円形である。断面形は逆三角形である。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。1層、2層の下には、約18cmの厚みで3層が堆積する。土師器4点と山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 a層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP26 (図54)

検出状況 DR11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD53、SK881より新しい。

規模・形状 長軸長0.33m、短軸0.27m、深さ0.23mで、平面形は楕円形である。断面形は半円形である。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で、2層、3層は柱掘方埋土である。土師器1点と山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土していることや、本遺構より古いSD53から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SP27 (図54)

検出状況 DR11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD53より古い。

規模・形状 長軸長0.27m、短軸長0.26m、深さ0.34mで、平面形は円形であるが、南東側が攪乱によって消失している。断面形は概ね逆台形である。

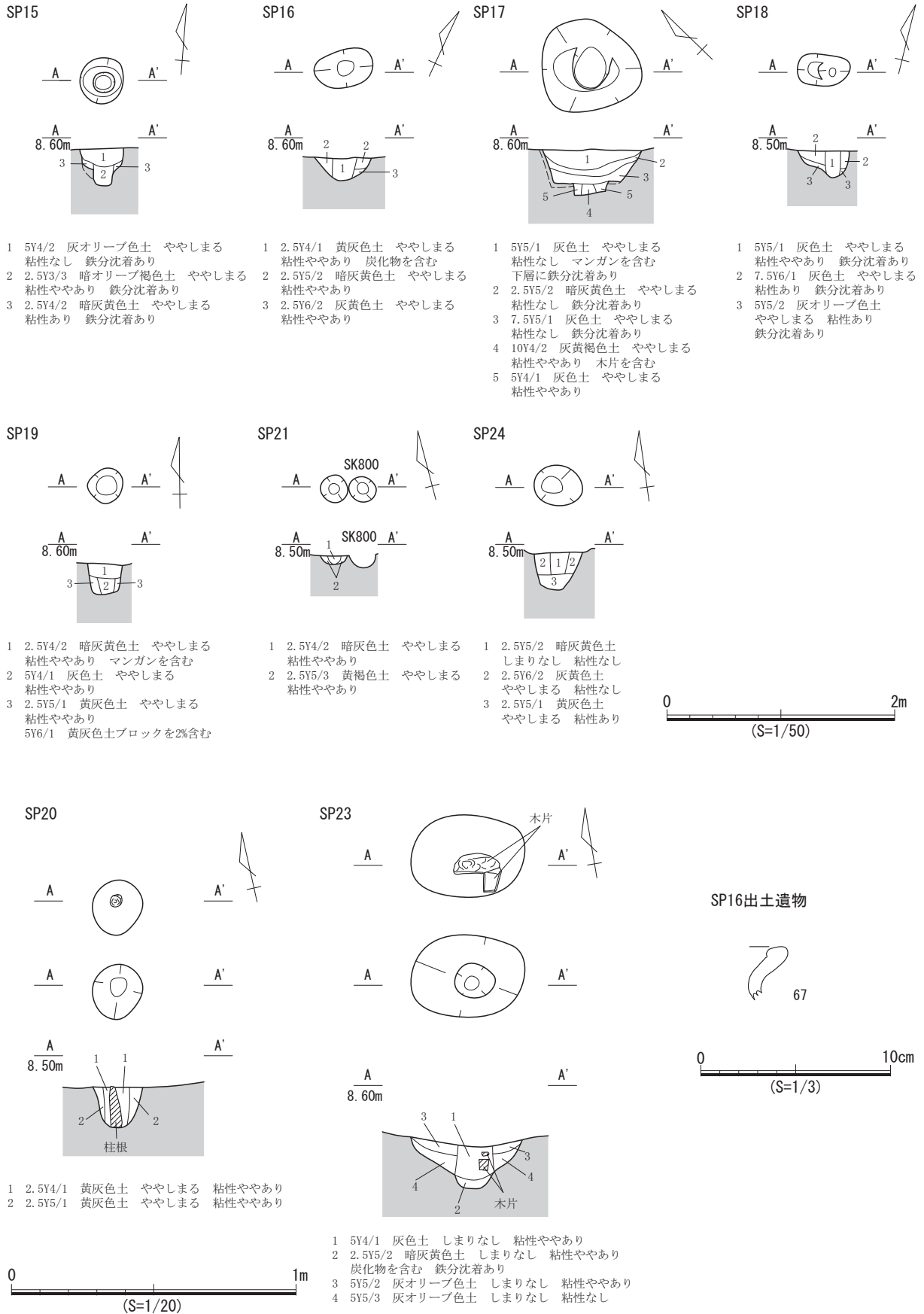


図53 SP15～SP21・SP23・SP24遺構図、出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。1層は別遺構若しくは柱を切断する際の掘り込みの可能性がある。2層は柱掘方埋土である。柱根が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 柱根は腐食が著しいため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP28 (図54)

検出状況 DR5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.34m、短軸長0.32m、深さ0.13mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。山茶碗1点が出土した。

出土遺物 山茶碗は小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP29 (図54)

検出状況 DQ13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.31m、短軸長0.30m、深さ0.17mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で、2層、3層は柱掘方埋土である。土師器4点が散在して出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 周辺に中世の遺構が多く認められることから中世のもの可能性がある。

SP30 (図54)

検出状況 DQ13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.37m、短軸長0.29m、深さ0.34mで、平面形は楕円形である。断面形は2段の掘り込みである。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で、2層、3層は柱掘方埋土である。土師器1点と山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP31 (図54)

検出状況 DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.35m、短軸長0.26m、深さ0.35mで、平面形は楕円形である。断面形は逆三角形である。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。1層、2層の下には、約16cmの厚みで3層が堆積する。土師器10点と山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 a層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP32 (図54)

検出状況 DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.49m、短軸長0.45m、深さ0.28mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。2層が柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器7点、須恵器1点、山茶碗4点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層、2層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP33 (図54)

検出状況 DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK1066より新しい。

規模・形状 長軸長0.26m、短軸長0.21m、深さ0.27mで平面形は円形である。断面形は方形である。

埋土 3層に分層した。いずれも水平堆積である。底面に接した状態で礎盤石が出土した。土師器30点、山茶碗3点、石製品1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層、2層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP34 (図55)

検出状況 DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK1034より新しい。

規模・形状 長軸長0.25m、短軸長0.21m、深さ0.39mで、平面形は不整円形である。断面形は長方形である。

埋土 2層に分層した。水平堆積である。砥石を再利用した礎盤石(68)が狭い方の平坦面を上にし、底面に接して出土した。土師器5点、須恵器1点、山茶碗1点、土製品1点が散在して出土した。

出土遺物 68は礎盤石として再利用された砥石で、端部の一部が欠損する。3面を使用しており、使用後に被熱した痕跡を確認した。

時期 2層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP35 (図55)

検出状況 EF11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 径0.20m、深さ0.05mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。遺物は出土しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP36 (図55)

検出状況 DQ11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK1172より新しい。

規模・形状 長軸長0.42m、短軸長0.36m、深さ0.43mで、平面形は楕円形である。断面形は二段の掘り込みで、底面には柱当たりが認められる。

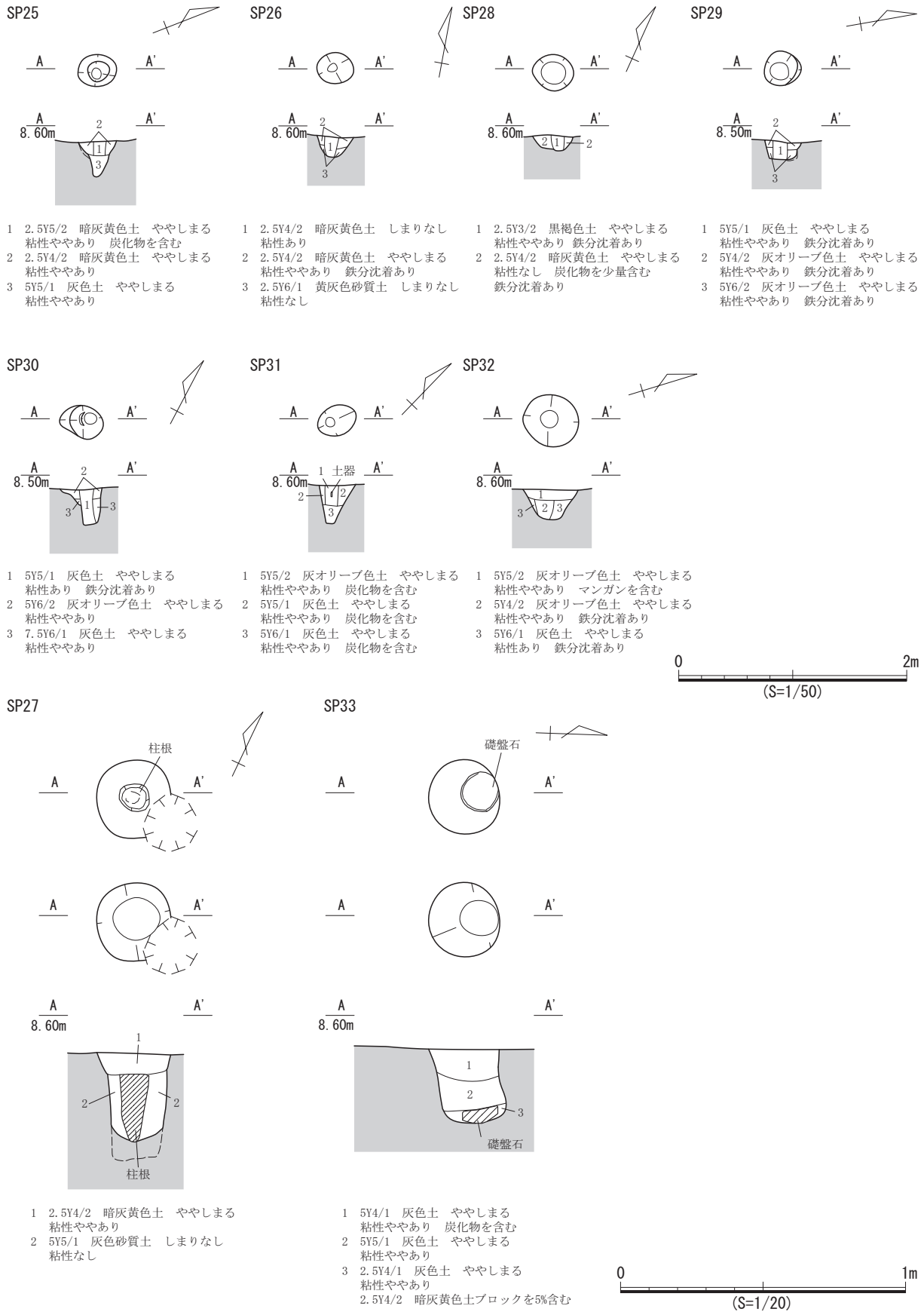


図54 SP25～SP33遺構図

埋土 3層に分層した。2層が柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器3点、山茶碗3点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 e層、1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のものとする。

SP37 (図55)

検出状況 DP・DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.38m、短軸長0.25m、深さ0.21mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層が柱痕跡で、2層は柱掘方埋土である。土師器6点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 2層から山茶碗の破片が出土しており、中世のものとする。

SP38 (図55)

検出状況 DP12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK1249より新しい。

規模・形状 長軸長0.62m、短軸長0.48m、深さ0.42mで、平面形は楕円形である。断面形は2段の掘り込みで、底面には柱当たりが認められる。

埋土 4層に分層した。2層が柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層、4層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器14点、山茶碗5点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 c層から山茶碗の破片が出土しており、中世のものとする可能性がある。

SP39 (図55)

検出状況 DP12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.41m、短軸長0.33m、深さ0.28mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形状である。

埋土 4層に分層した。1層が柱痕跡で、2層、3層は柱掘方埋土である。1層、3層の下には、約8cmの厚みで4層が堆積する。土師器6点と山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 1層から山茶碗の破片が出土しており、中世のものとする可能性がある。

SP40 (図55)

検出状況 DP10～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.27m、短軸長0.25m、深さ0.27mで、平面形は円形である。断面形は方形である。

埋土 4層に分層した。2層が柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層、4層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器3点が散在して出土した。

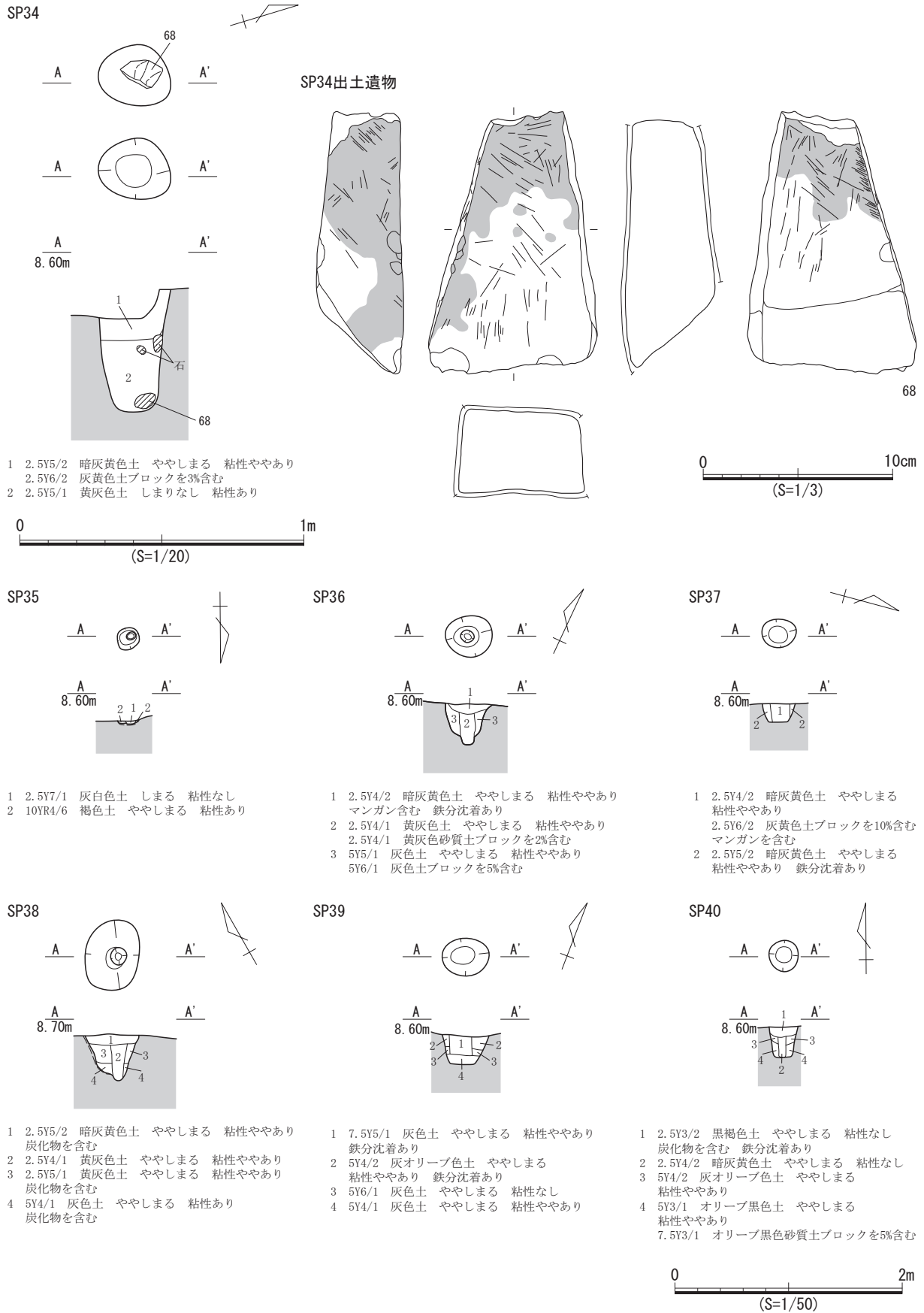


図55 SP34～SP40遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。

SP41 (図56)

検出状況 DL9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.30m、短軸長0.24m、深さ0.30mで、平面形は楕円形である。断面形は方形である。

埋土 4層に分層した。1層は柱痕跡で中央付近には腐食した柱根が残存していた。2層～4層は柱掘方埋土である。土師器6点、須恵器1点、山茶碗1点が出土した。

出土遺物 土器はいずれも小片であり、柱根は腐食が著しいため図示しなかった。

時期 a層から山茶碗の破片が出土しており、中世のもの可能性がある。

SP44 (図56)

検出状況 DR11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD53より古い。

規模・形状 長軸長0.34m、短軸長0.28m、深さ0.21mで、平面形は楕円形である。断面形は方形で、底面には柱当たりが認められる。

埋土 2層に分層した。1層、2層は柱掘方埋土で、柱根(69)が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 柱根(69)を図示した。側面に区画稜線、底面に区画稜線、刃先痕が認められる。

時期 69の放射性炭素年代測定を実施した(第4章第2節)。69の測定結果や、本遺構より古いSD53から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SP45 (図56)

検出状況 DR11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD53より古い。

規模・形状 長軸長0.29m、短軸長0.27m、深さ0.44mで、平面形は円形である。断面形は方形である。

埋土 3層に分層した。1層が柱痕跡で柱根(70)が底面に接した状態で出土した。2層、3層は柱掘方埋土である。灰釉陶器1点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 柱根(70)を図示した。側面に区画稜線、底面に区画稜線、刃先痕、刃端痕が認められる。

時期 70の放射性炭素年代測定を実施した(第4章第2節)。70の測定結果から、14世紀後葉から15世紀前半のものとする。

SP46 (図56)

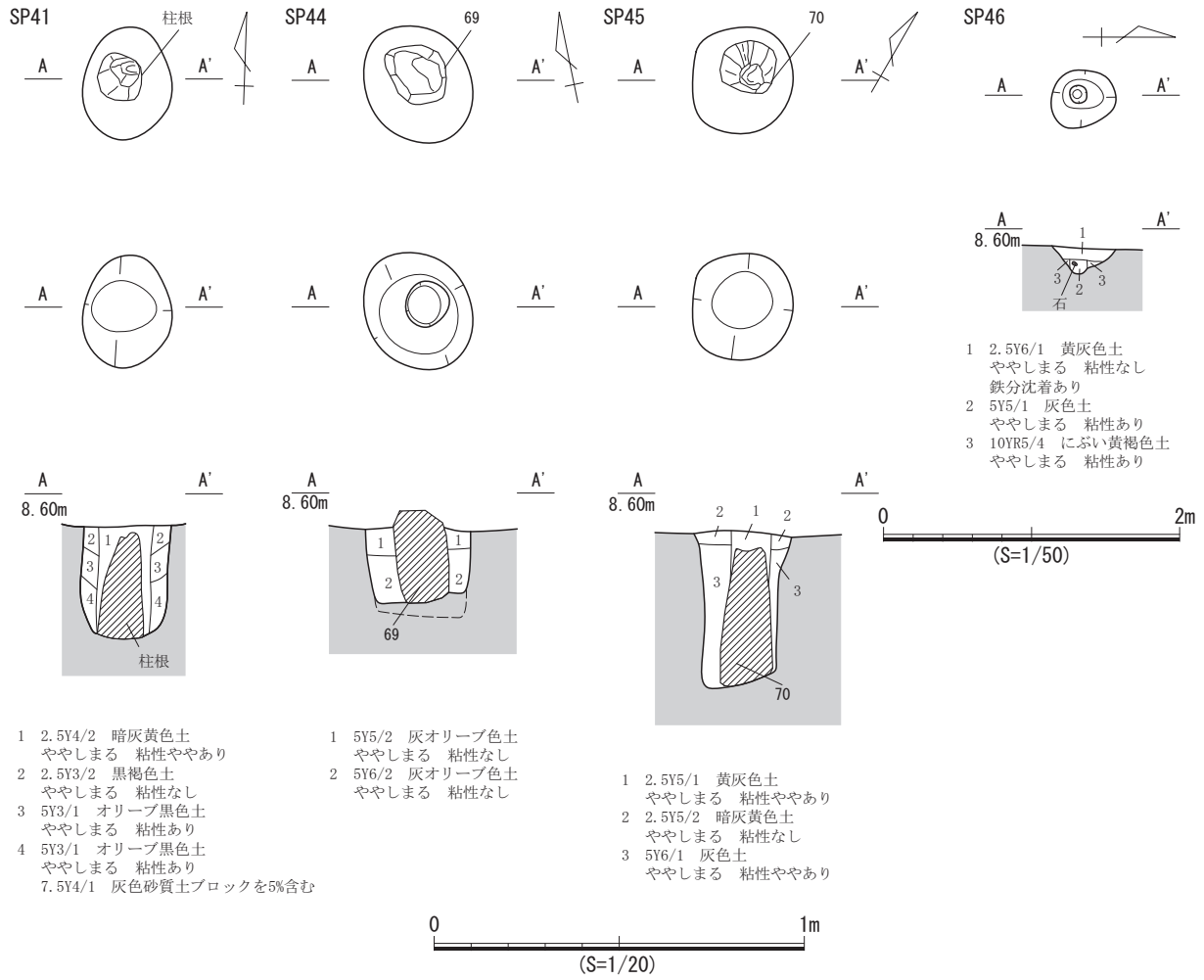
検出状況 EF12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.44m、短軸長0.40m、深さ0.17mで、平面形は円形である。断面形は2段の掘り込みで、底面には柱当たりが認められる。

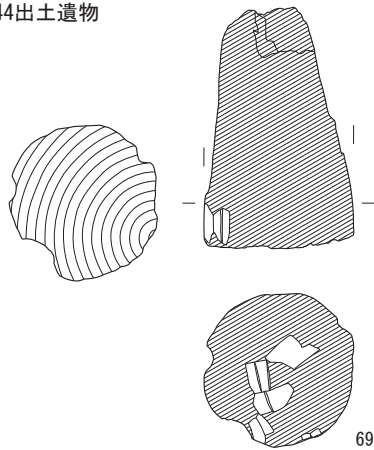
埋土 3層に分層した。2層が柱痕跡若しくは柱抜取穴の埋土で、3層は柱掘方埋土である。1層は別遺構若しくは柱を抜き取る際の掘り込みの可能性がある。土師器2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器は小片のため図示しなかった。

時期 時期が判断できる遺物が出土しておらず、時期は不明である。



SP44出土遺物



SP45出土遺物

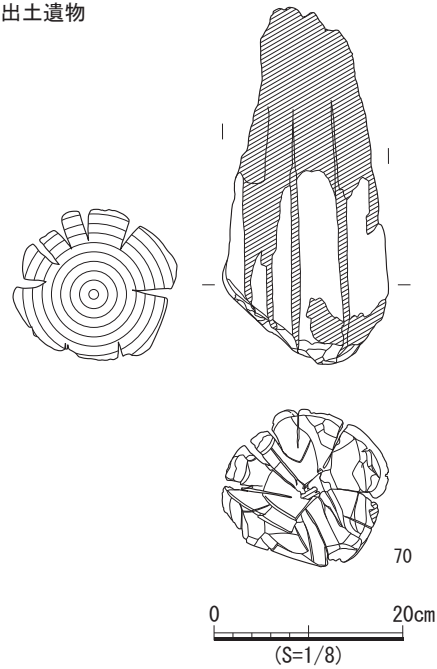


図56 SP41・SP44～SP46遺構図、出土遺物実測図

4 溝状遺構

SD 1 (図57~58)

検出状況 DQ16~EF14・15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は南側がやや明瞭で、北にいくほど不明瞭であった。重複関係から、SD15、SK1、SK189等より古く、SK121、SK122、SK190より新しい。SD15やSK190は本遺構の掘り直しの痕跡の可能性はある。

規模・形状 南北方向の溝であるが、EC15グリッドでやや屈曲し、南端は発掘区外に延びる。屈曲箇所はSD9の北側の東西溝とSD11の延長線上でほぼ直交する位置である。長軸方位は屈曲箇所の南側がN-7°-E、北側がN-6°-Eで、本遺構から約0.5m西に位置するSA1、約2.5m西に位置するSA2とほぼ同じである。屋敷①と屋敷③の東辺となる溝である(図209)。最大幅2.60mで深さ0.41mである。断面形は基本的に皿状だが、B-B'付近や、E-E'付近の西側壁面にはテラスがある。DT16付近には段があり、段より北側は一段高い。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 1層~3層に分層した。基本的に中央が窪む堆積だが、E-E'3層上面はほぼ水平である。堆積状況は不明である。底面付近にはラミナ状の堆積が認められ、北から南に向かって流水があったと考える。

遺物出土状況 埋土から土師器373点、須恵器24点、灰釉陶器20点、山茶碗280点、瀬戸美濃産陶器19点、常滑産陶器16点、中国産陶磁器14点、土製品5点、木製品6点、種子2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 土師器10点(71~80)、山茶碗4点(81~84)、瀬戸美濃産陶器2点(85、86)、中国産陶磁器3点(87~89)、土製品1点(90)を図示した。71は中世前期土師器皿A2b類である。72~75は中世後期土師器皿C1類である。76は分類不明の皿で体部の指頭圧痕を部分的に消すようにヨコナデや一方向ナデがみられる。77はロクロ土師器の碗である。78と79はロクロ土師器の台付小皿である。80はA2類の伊勢型鍋である。81は谷迫間2号窯式の小碗である。82、83は尾張型第5型式の碗である。84は美濃須衛第3期の碗である。85は古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿である。86は古瀬戸後IV期新段階の播鉢である。87は白磁碗IX類である。88、89は龍泉窯系の青磁碗である。88はII類で外面に連弁の模様が施され、89は内面に模様が施される。90は管状土錘である。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構より古いSK122から浅間窯下1号窯式~丸石3号窯式の子茶碗の碗が出土していることから、15世紀後半のものと考えられる。

SD 2 (図59)

検出状況 EF5~8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 東西方向の溝で、西端は発掘区外に延びる。本遺構から約0.3m東に位置するSK28と埋土や幅が類似するため、本来は同一遺構でさらに東に延びていた可能性がある。長軸方位はN-87°-Eで、SB3とほぼ同じである。屋敷④の南辺となる溝である(図209)。東部には段差があり、段より東側は一段高い。最大幅2.08mで、深さは段より東が0.26m、西が0.45mである。断面形は基本的に逆台形だが、B-B'付近の南壁は丸みを帯びて緩やかに立ち上がる。底面は段より東側はほぼ水平だが、段よりも西側は西に向かって緩やかに低くなる。

埋土 3層~4層に分層した。A-A'1層はA-A'付近にのみ存在し、B-B'付近より東では認められなかった。いずれもほぼ水平に堆積し、層界に凹凸があることや、埋土にブロックを含むことか

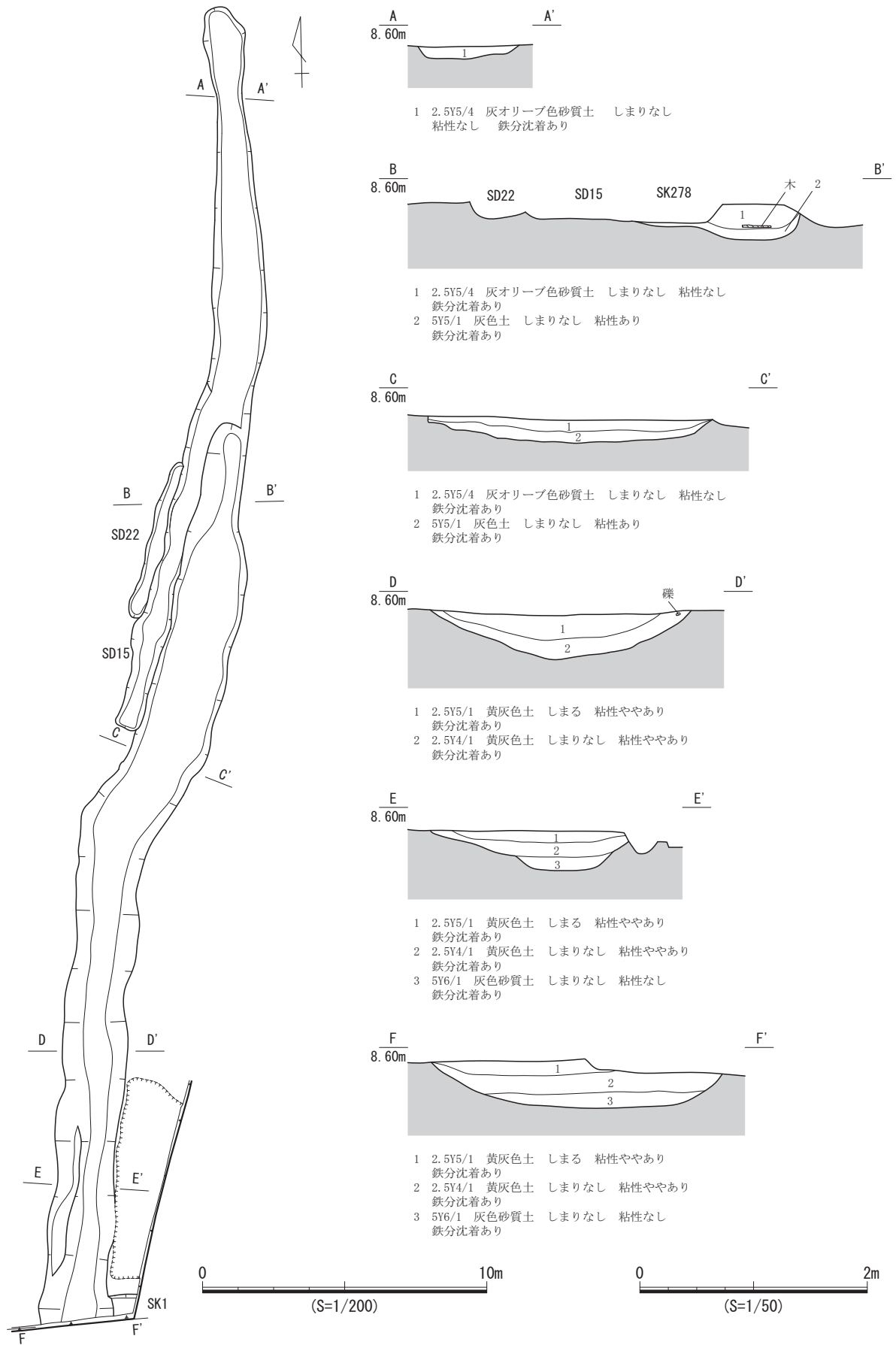


図57 SD1遺構図

ら人為堆積の可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器16点、須恵器3点、灰釉陶器5点、山茶碗21点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器3点、木製品1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 丸石2号窯式(91)と西坂1号窯式(92)の灰釉陶器の碗、大洞東1号窯式～脇之島3号窯式の山茶碗の碗(93)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から14世紀後葉から15世紀中葉のものとする。

SD3 (図60~61)

検出状況 ED10~EG10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD6、SD7より新しい。

規模・形状 南北方向の溝で、南端は発掘区外に延びる。長軸方位はN-5°-Wで、約1.4m東に位置するSB1とSB2、約8.0m西に位置するSB3とほぼ同じで、約5.8m東に位置するSD4とはほぼ直交する。屋敷④と屋敷③の境となる溝である(図209)。最大幅1.72m、深さ0.43mである。断面形はA-A'付近が逆台形、B-B'付近より南は皿状である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 4層に分層した。いずれも中央が窪む堆積である。堆積状況は不明である。流水の痕跡は認め

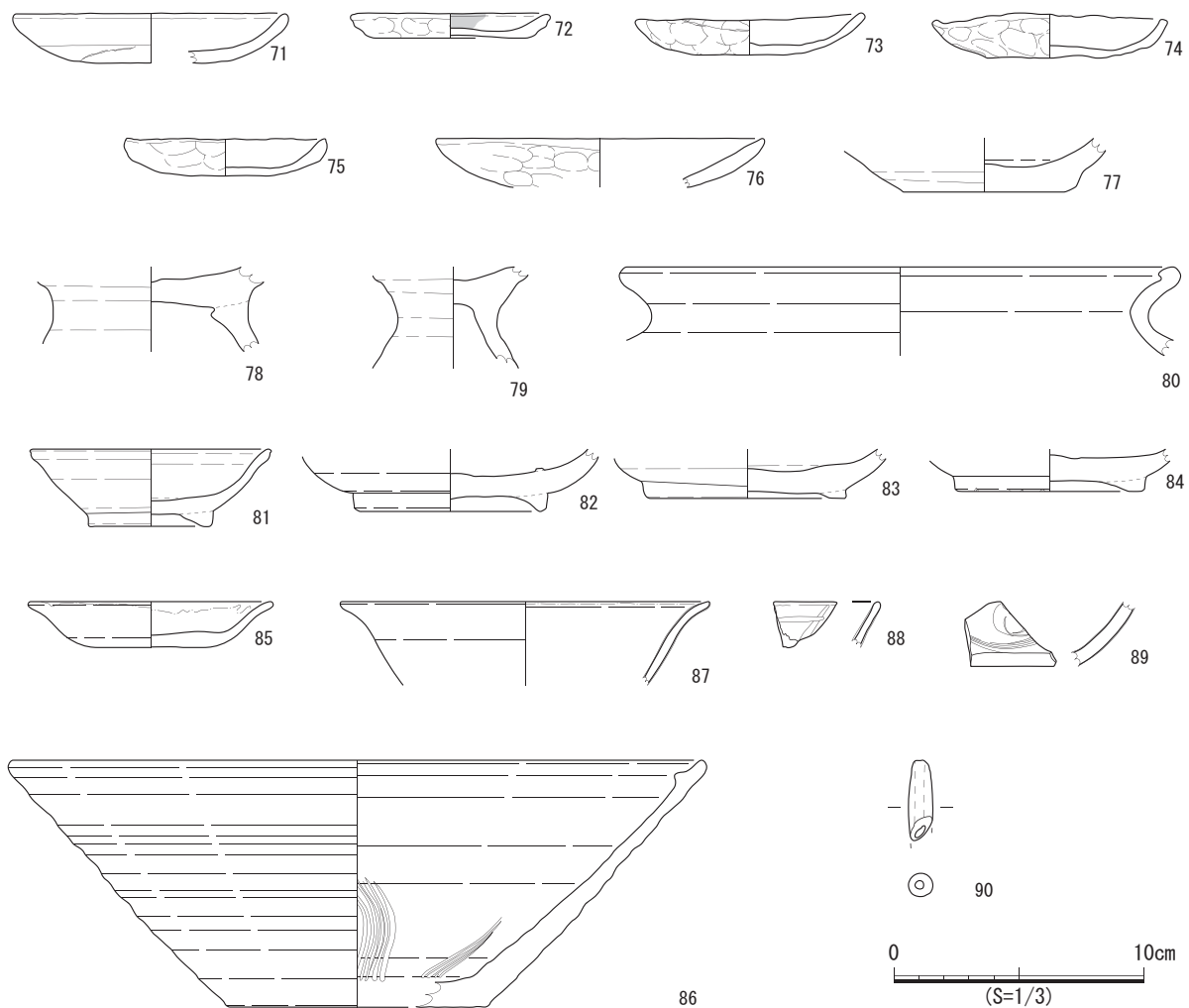


図58 SD1出土遺物実測図

られなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器88点、須恵器3点、灰釉陶器3点、山茶碗23点、瀬戸美濃産陶6点、常滑産陶器3点、木製品37点、骨1点がそれぞれ散在して出土した。このうち漆皿(105)と漆椀(106)は、底面に接した状態で検出した。106は体部外面を上にして出土した。

出土遺物 土師器4点(94~97)、灰釉陶器2点(98、99)、山茶碗1点(100)、瀬戸美濃産陶器2点(101~104)、木製品4点(105~108)を図示した。94~97は中世後期土師器皿C1類である。96と97には円盤に切り込みを入れ、貼り付けた製作時の痕跡が明瞭に残る。また、97には煤が付着することから灯明皿として使用されたと考える。98は大原2号窯式、99は西坂1号窯式の碗である。100は尾張型第5型式の碗である。101は古瀬戸前Ⅲ~Ⅳ期の仏供である。102は古瀬戸中Ⅱ期の柄付片口である。103は古瀬戸後Ⅲ~Ⅳ期古段階の花瓶である。104は古瀬戸後Ⅳ期古段階の挿鉢である。105は漆皿で、15世紀代のものである。見込みには赤色漆を用いた手描きの漆絵(宝珠)がある。106~108は漆椀で、いずれも15世紀代のものである。すべて赤色漆を用いた手描きの漆絵が認められる。106は体部外面に文様を施すが、内容は不明である。107、108の体部外面の文様は遺存状況が悪く内容は不明であるが、見込みの文様は107が扇、108が松と鶴である。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀中葉のものとする。

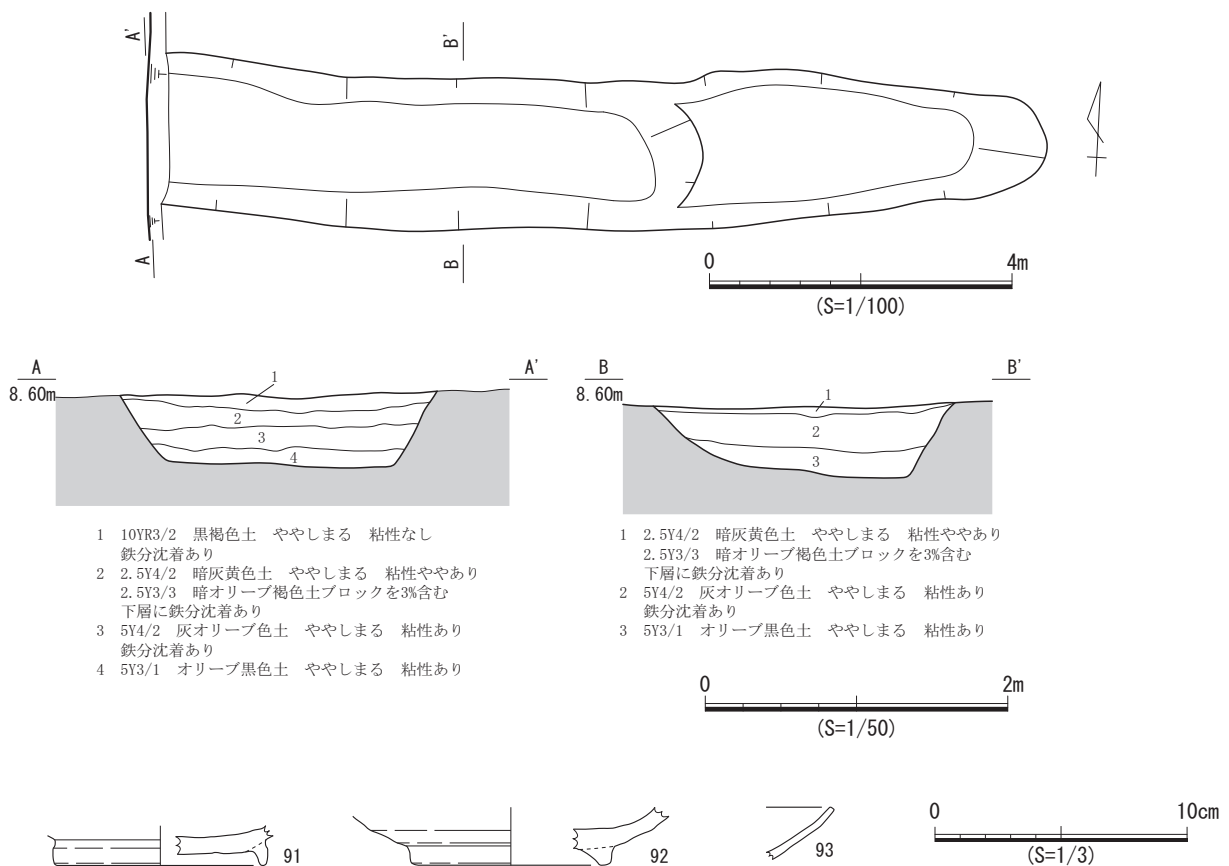


図59 SD2遺構図、出土遺物実測図

SD 4 (図62)

検出状況 ED10~12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD 5、SK87より古く、SD 7より新しい。

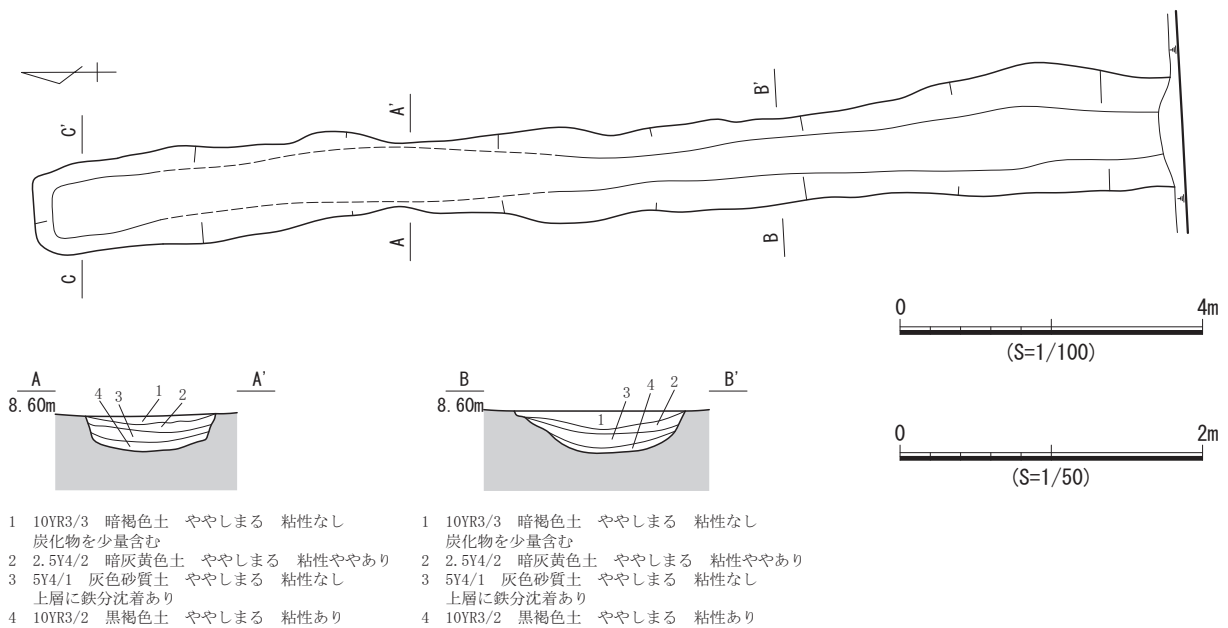
規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-88°-Eで、約7.4m東に位置するSD 9の南側の東西溝、約2.4m北に位置するSD11の東西溝とほぼ同じである。屋敷①と屋敷③の屋敷の境となる溝(図209)で、最大幅0.96m、深さ0.07mである。断面形は浅い皿状となる。

埋土 単層で堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器29点、山茶碗9点、木製品1点がそれぞれ散在して出土した。このうち、漆器が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C 1類(109)と尾張型第6型式の山茶碗の碗(110、111)を図示した。底面から出土した漆器は腐食が激しく凶化することができなかったが、出土状況の写真を示した(巻頭図版2)。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀のものとする。



遺物出土状況

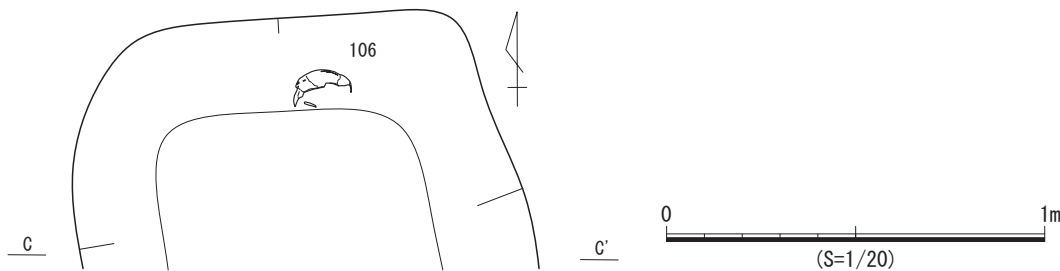


図60 SD 3 遺構図

SD5 (図62)

検出状況 ED12~13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD4より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-85°-Eで、約4.8m東に位置するSD9の南側の東西溝、約3.0m北に位置するSD11とほぼ同じである。屋敷①と屋敷③の境となる溝(図209)で、最大幅0.54m、深さ0.18mで、断面形は浅い皿状である。底面は西に向かって緩やかに低くなる。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪む堆積である。堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器13点、山茶碗9点がそれぞれ散在して出土した。

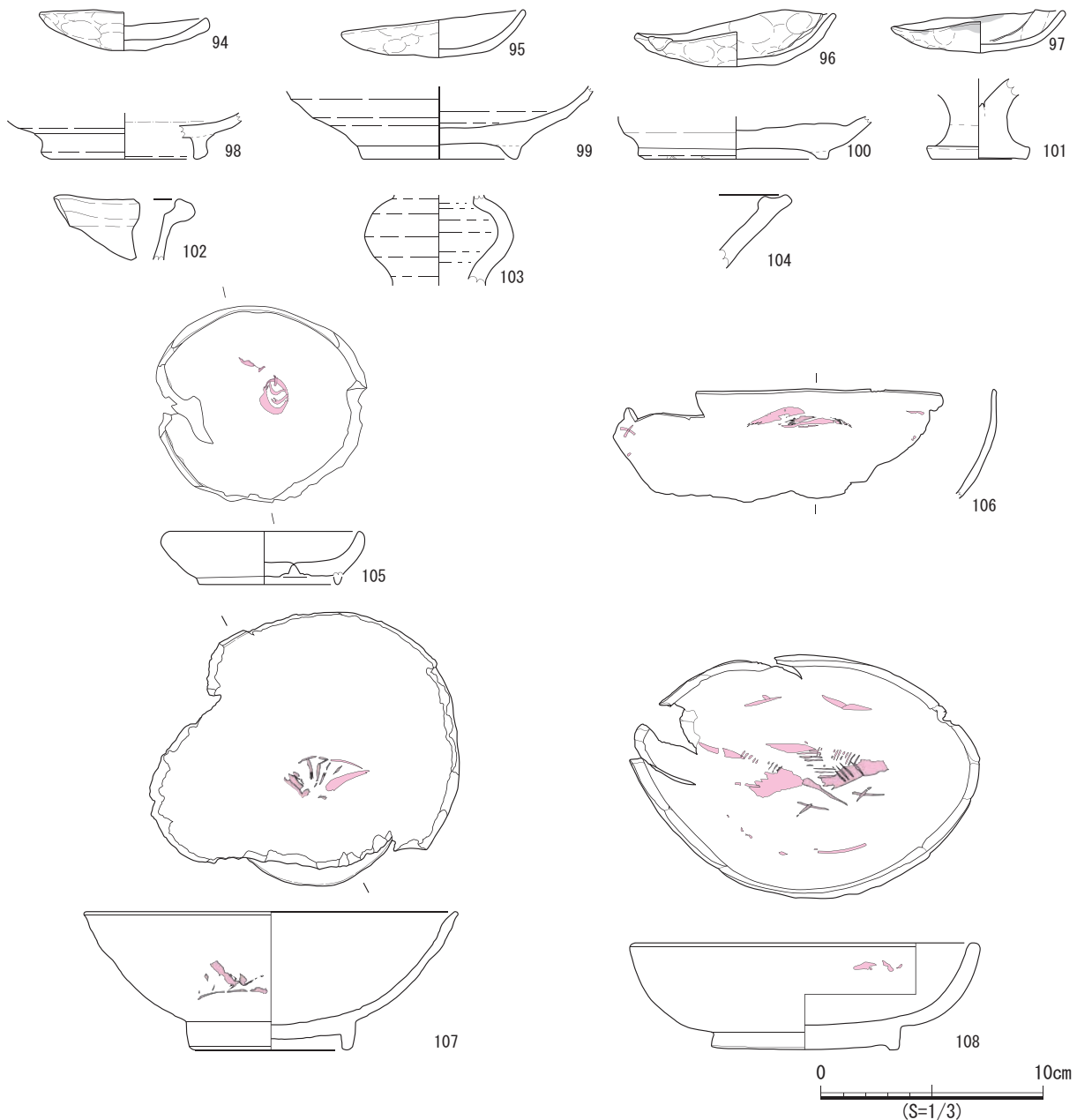


図61 SD3出土遺物実測図

出土遺物 いずれも小片で図示できるものはなかった。

時期 出土遺物と、本遺構よりも古いSD4から中世後期土師器皿C1類が出土していることから、15世紀以降のものとする。

SD6 (図62)

検出状況 ED9～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD3、SK78より古い。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-86°-Eで、約1.0m南に位置するSA7、約0.3m南に位置するSA8とほぼ同じである。SA7、SA8は本遺構に近接しており、同時期に存在していた可能性がある。最大幅2.06m、深さ0.14mで、断面形は浅い皿状である。

埋土 単層で堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器28点、須恵器5点、灰釉陶器17点、山茶碗24点、常滑産陶器1点、中国産陶器1点、土製品2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿B1a類(112)と明和27号窯式から西坂1窯式の灰釉陶器の輪花碗(113)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から12世紀から13世紀前葉のものとする。

SD7 (図62)

検出状況 ED9～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD3、SD4より古い。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-76°-Eである。最大幅0.30m、深さ0.27mで、断面形は逆台形である。底面は東に向かって緩やかに低くなるが、東端付近には段差があり、一段高くなる。

埋土 4層に分層した。いずれも中央が窪む堆積である。堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器10点、灰釉陶器1点、山茶碗14点、常滑産陶器1点、中国産陶磁器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(114)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SD9 (図63～64)

検出状況 EC・ED13～14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD16、SK123、SK128等より古く、SK127より新しい。

規模・形状 EC13グリッドとED14グリッドでほぼ直角に屈曲する逆コの字状の溝である。長軸方位は北側の東西溝がN-85°-W、南側の東西溝がN-85°-E、南北溝がN-10°-Wである。北側の東西溝の長軸方位は、約3.6m西に位置するSD11と、南側の東西溝の長軸方位は約7.0m西に位置するSD4やSD5とほぼ同じである。屋敷①と屋敷③の境となる溝である(図209)。最大幅0.70m、深さ0.42mで、断面形はA-A'、B-B'付近は逆台形、C-C'付近は皿状である。北側の東西溝の東側には段差があり、段より東が一段高い。南側の東西溝と南北溝の間にも段差があり、南側の東西溝の方が一段高い。

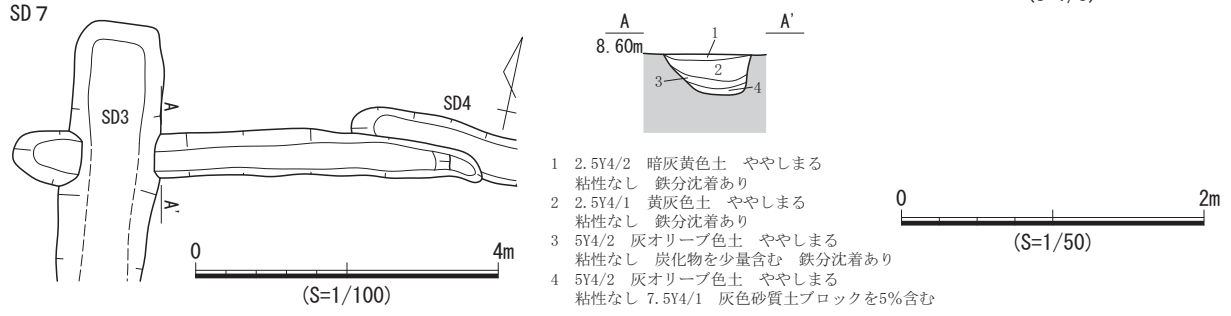
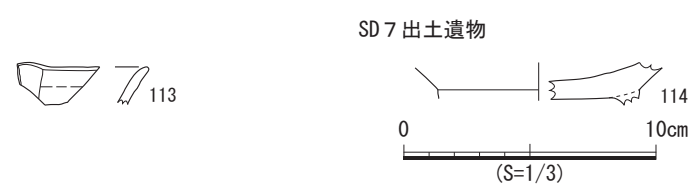
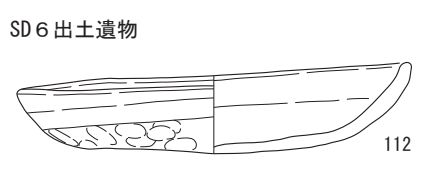
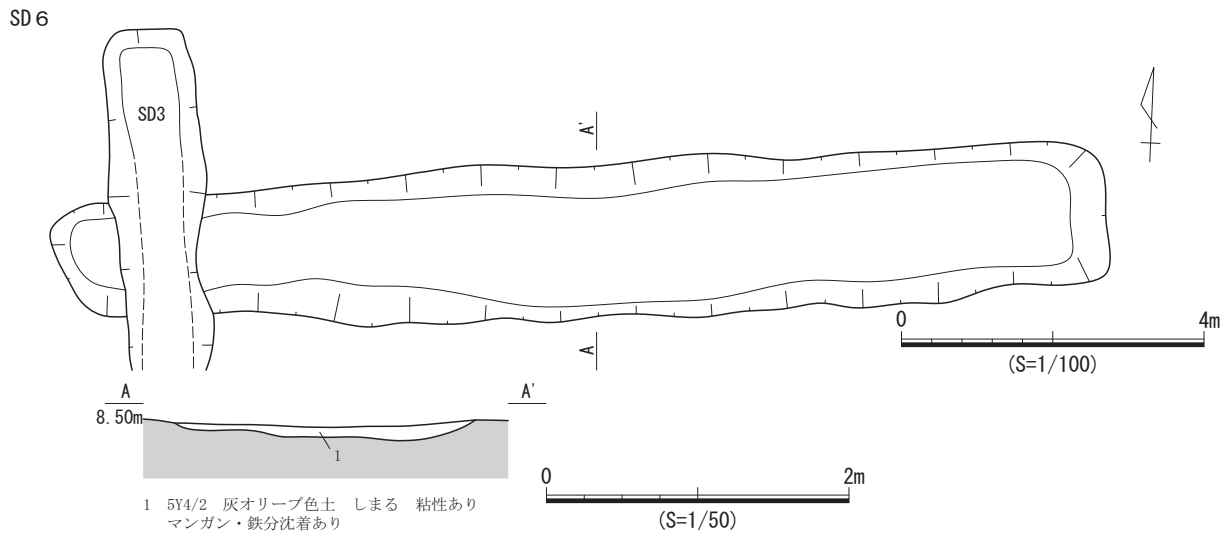
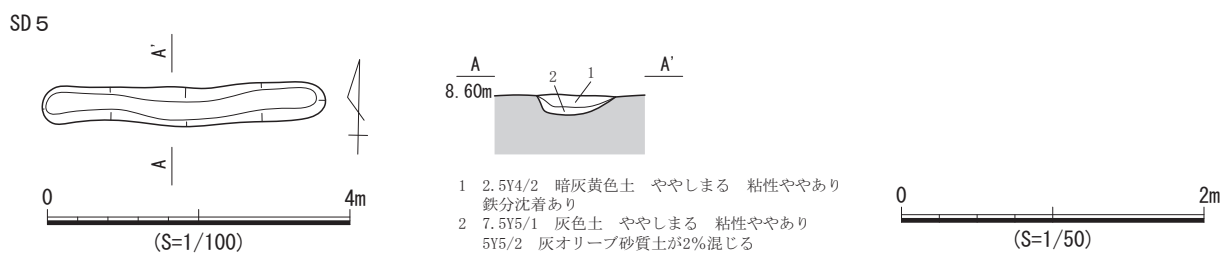
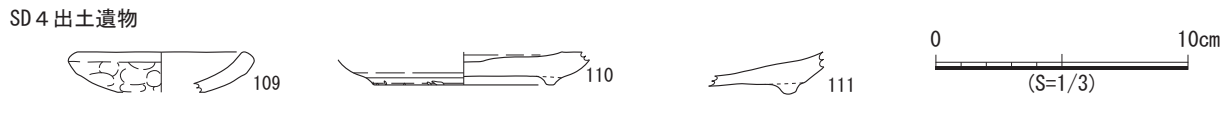
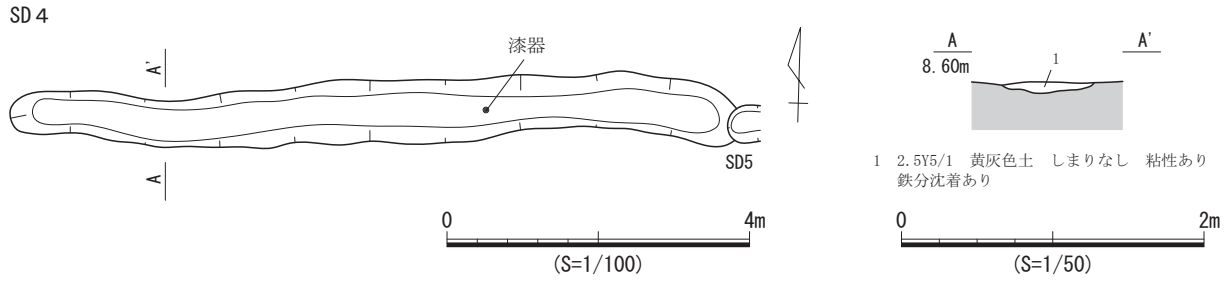
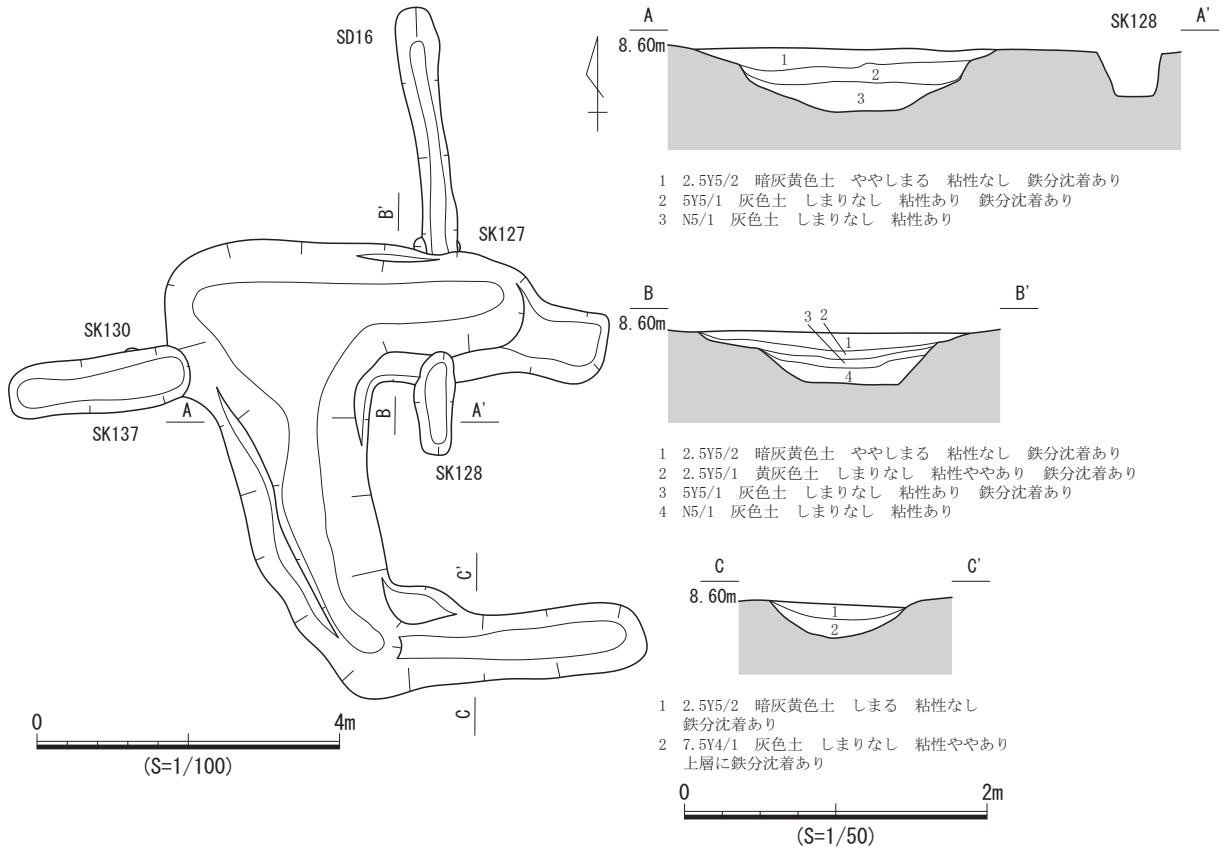


図62 SD 4～SD 7 遺構図、出土遺物実測図



遺物出土状況

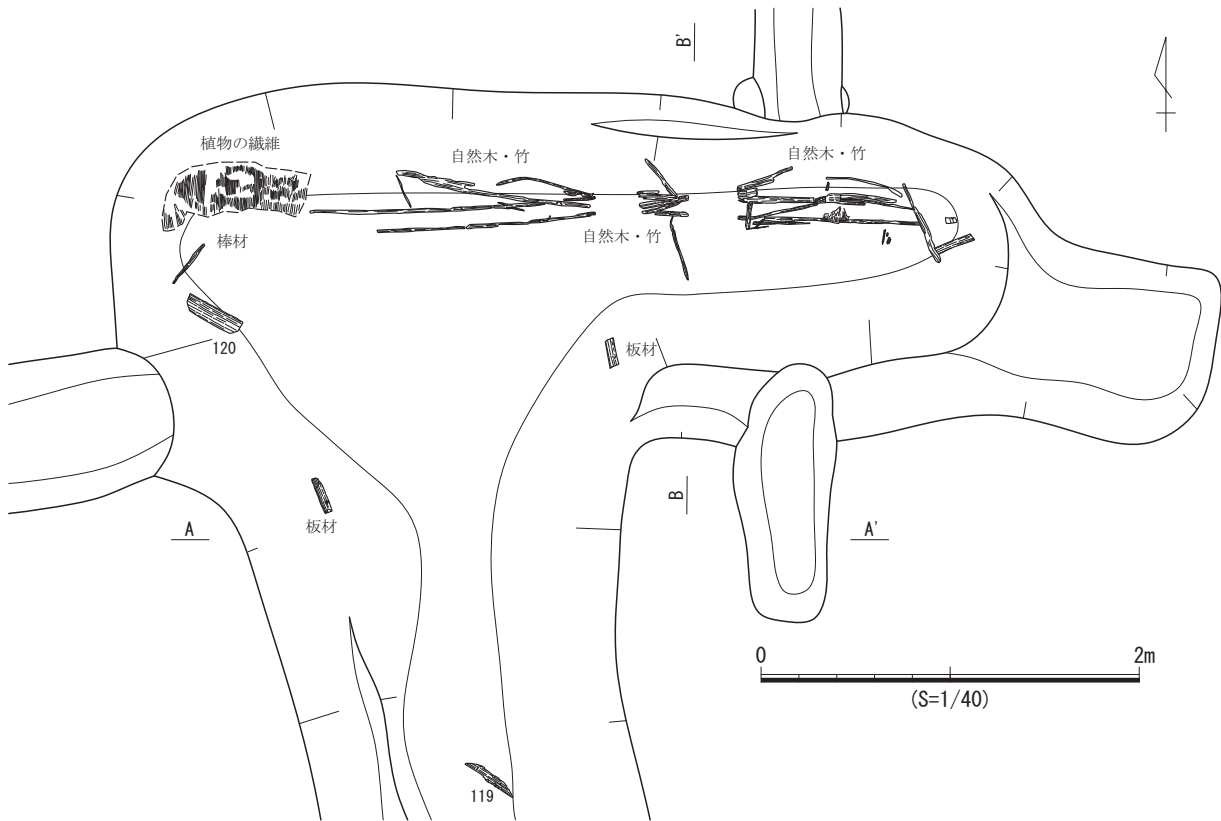


図63 SD9遺構図

埋土 2層～4層に分層した。A-A'はほぼ水平、B-B'とC-C'は中央が窪む堆積である。堆積状況は不明である。壁面の傾斜が変換する位置でA-A'の1層と2層、B-B'の1層と2層、2層と3層の層界が認められるため、掘り直しを行った可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。また、北側の東西溝と南北溝にかけての底面からは植物の繊維や自然木、竹が出土しており、SD11の東西溝の底面でも同じ状況を確認した。

遺物出土状況 埋土から土師器145点、須恵器2点、灰釉陶器10点、山茶碗96点、瀬戸美濃産陶器2点、常滑産陶器3点、中国産陶磁器1点、瓦質土器1点、土製品2点、木製品10点、種子2点がそれぞれ散在して出土した。このうち、火鑽板(119)と木簡(120)は底面に接した状態で出土した。

出土遺物 土師器1点(115)、山茶碗3点(116～118)木製品2点(119、120)を図示した。115は中世後期土師器皿C1類である。116～118は尾張型第5型式の碗である。119は火鑽板で、表面と裏面に白が見られることから、両面を使用したことが分かる。また、外縁が弧を描くことや、弧に沿って約1.5cmの範囲がその内側と比べて白く、側板があった痕跡と考えられることから底板としても用いられたと考えられる。加えて紐を通したと考えられる対になる2つの孔が見られることから、容器の蓋板としても用いられた可能性がある。なお、蓋板として利用された際に穿たれた孔の位置は底板時に側板があったと考えられる白い範囲と被ることから、底板→蓋板→火鑽板の順で転用されたと想定される。表面と裏面には切削痕がみられ、断面形は弧を描くように凹むことから、ヤリガンナによる加

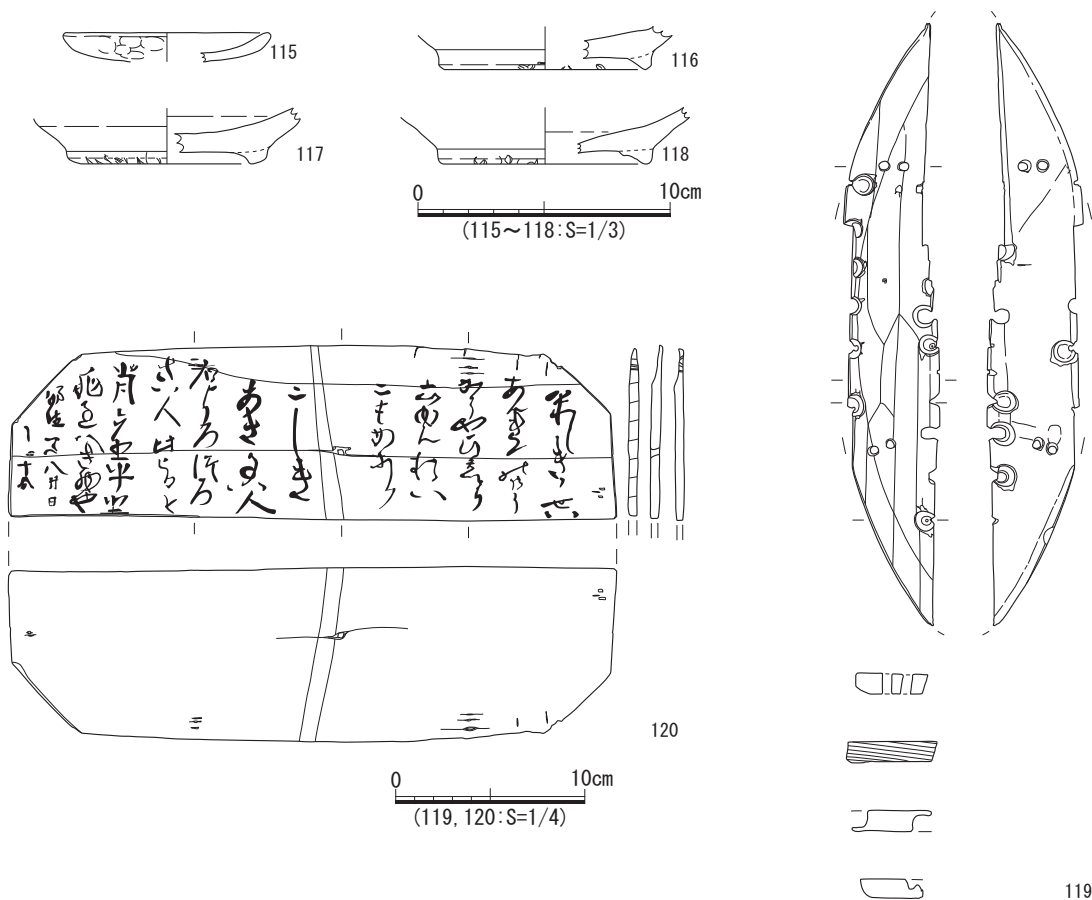


図64 SD9出土遺物実測図

工と考える。120は、制札と思われる木簡である。積読等詳細は第5章第2節第4項に示す。

時期 小片で図示することはできなかったが、古瀬戸後期の播鉢が出土していることや木簡に明德4(1393)年の年号が記されていることから、14世紀末から15世紀後葉のものとする。

SD11 (図65~67)

検出状況 DR9~EC13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭だが、北に向かうほど不明瞭であった。また、SD24とSD25との境も不明瞭であった。重複関係から、SD20、SD24、SD25等より古く、SD21、SD35、SK460等より新しい。

規模・形状 EC9グリッド付近ではほぼ直角に東へ屈曲するL字の溝である。長軸方位は南北溝がN-6°-W、東西溝がN-86°-Eで、約2m北東に位置するSD19とほぼ同じである。屋敷①、屋敷②、屋敷③、屋敷④の境となる溝である。最大幅2.10m、深さはSD24、SD25と重複する位置より南側から東西溝にかけては0.35mと深く、北側は0.10mと浅い。断面形は基本的に皿状だが、C-C'付近は逆台形である。東西溝では、両側の壁面にテラスがある。

埋土 2層~3層に分層した。基本的に中央が窪む堆積だが、A-A'2層上面とF-F'3層上面はほぼ水平に堆積する。

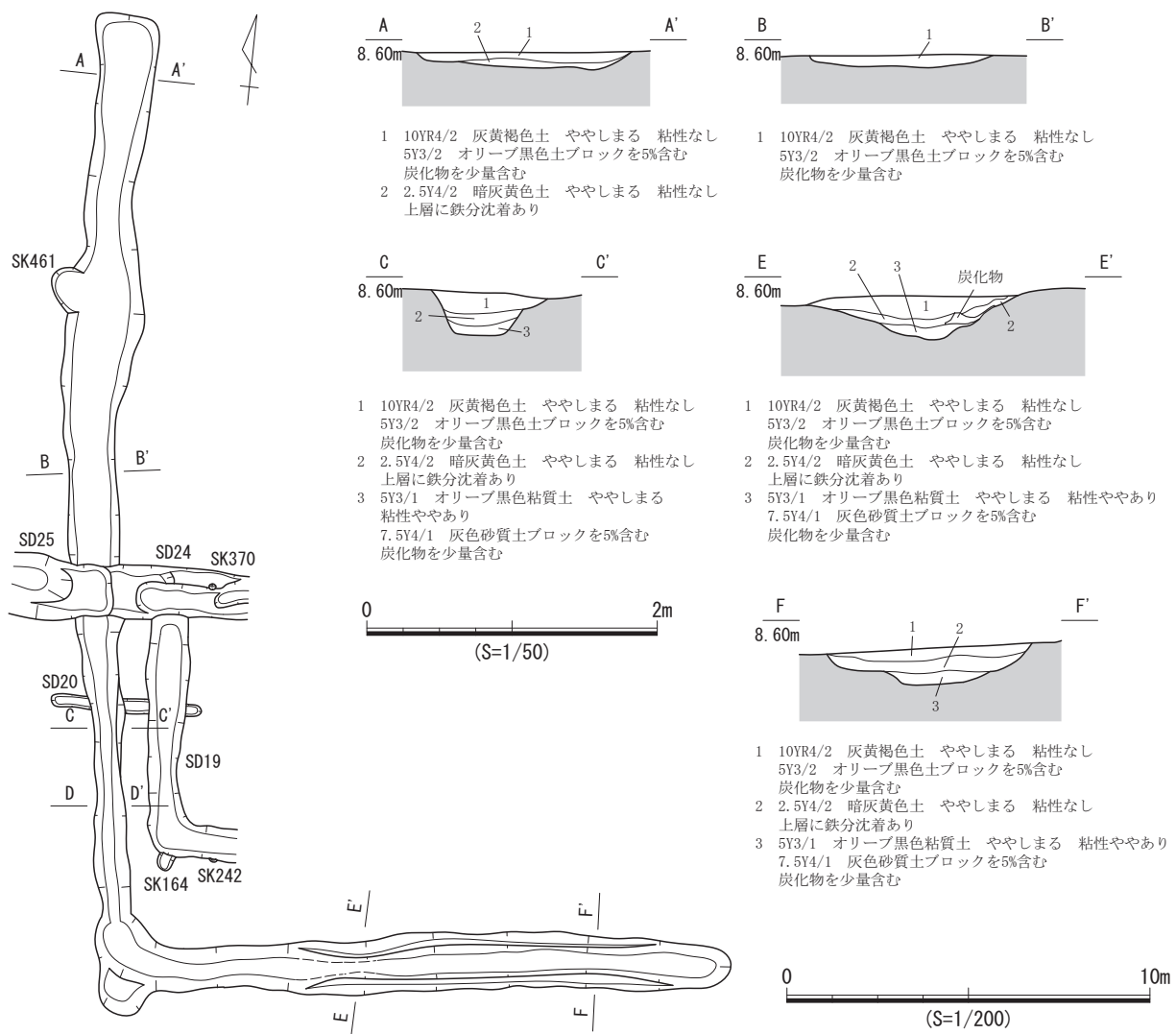
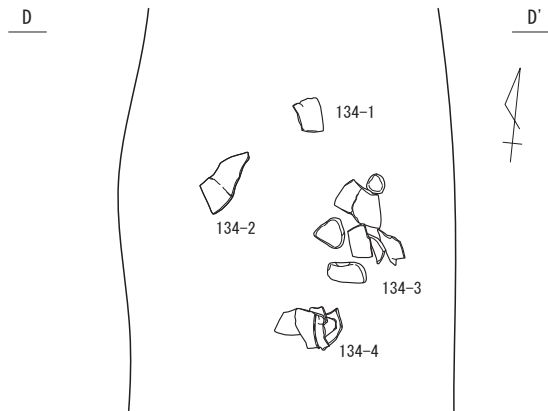


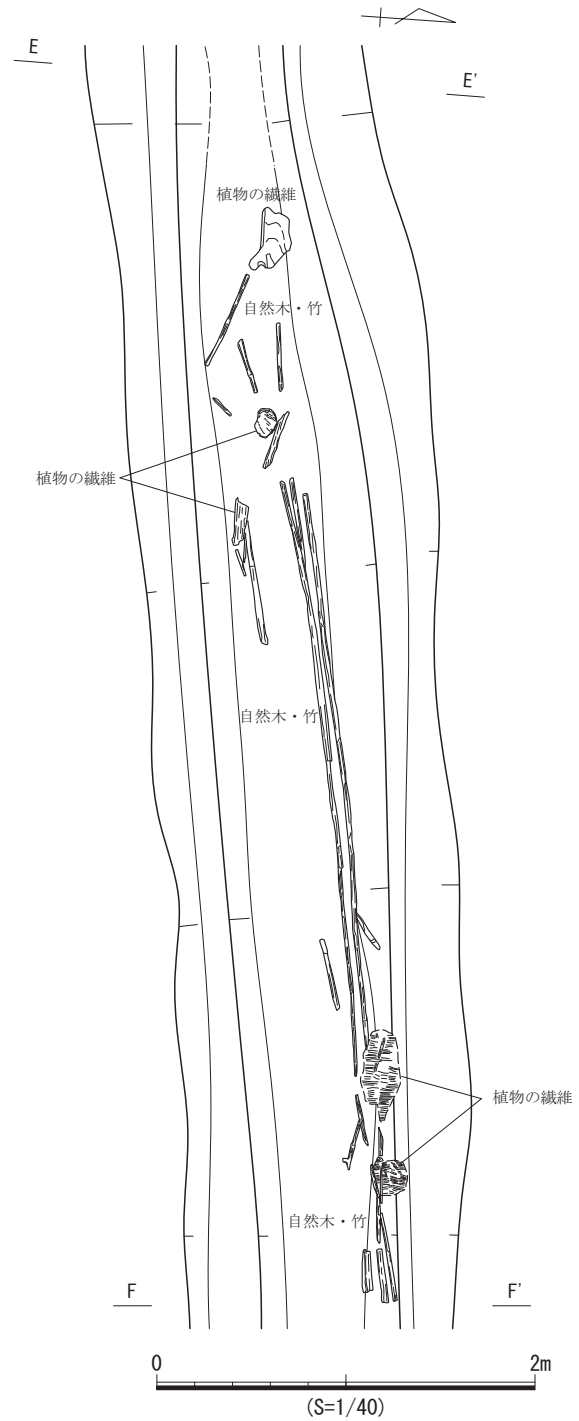
図65 SD11遺構図 1

壁面の傾斜が変換する位置でC-C'1層と2層の層界、F-F'2層と3層の層界が認められるため、掘り直しを行った可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。東西溝の底面からは植物の繊維や自然木、竹が出土しており、SD9の北側の東西溝と南北溝にかけての底面でも同じ状況を確認した。
遺物出土状況 埋土から土師器148点、須恵器11点、灰釉陶器6点、山茶碗213点、常滑産陶器35点、

遺物出土状況（上層）



遺物出土状況（底面2）



遺物出土状況（底面1）

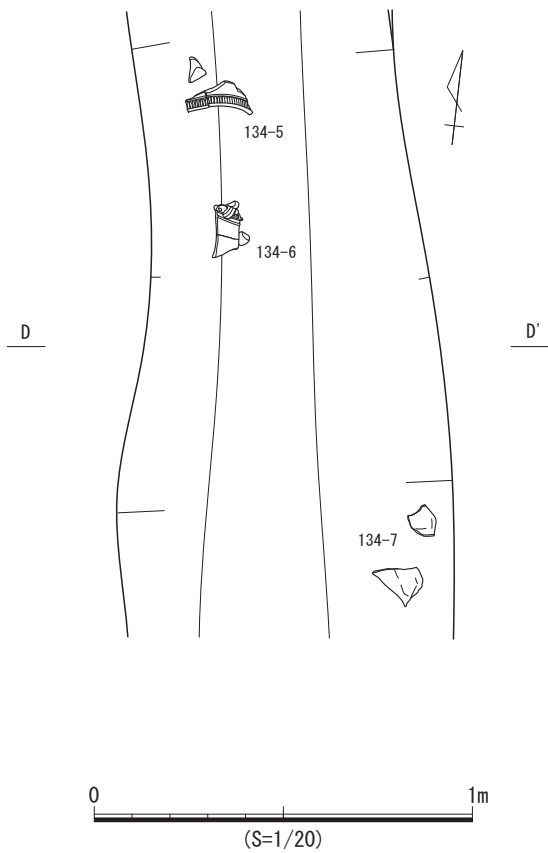


図66 SD11遺構図2

中国産陶磁器5点、瓦質土器25点、土製品1点、金属製品3点、木製品10点がそれぞれ散在して出土した。漆器(135)が底面に接した状態で出土した。また、南北溝の南部で集中して1層～3層から風炉(134)の破片が出土した。遺構の上部が削平されているため、全体の状況は不明であるが、風炉の出土状況から人為的に短期間で埋められた可能性がある。

出土遺物 土師器4点(121～124)、山茶碗3点(125～127)、瀬戸美濃産陶器3点(128～130)、

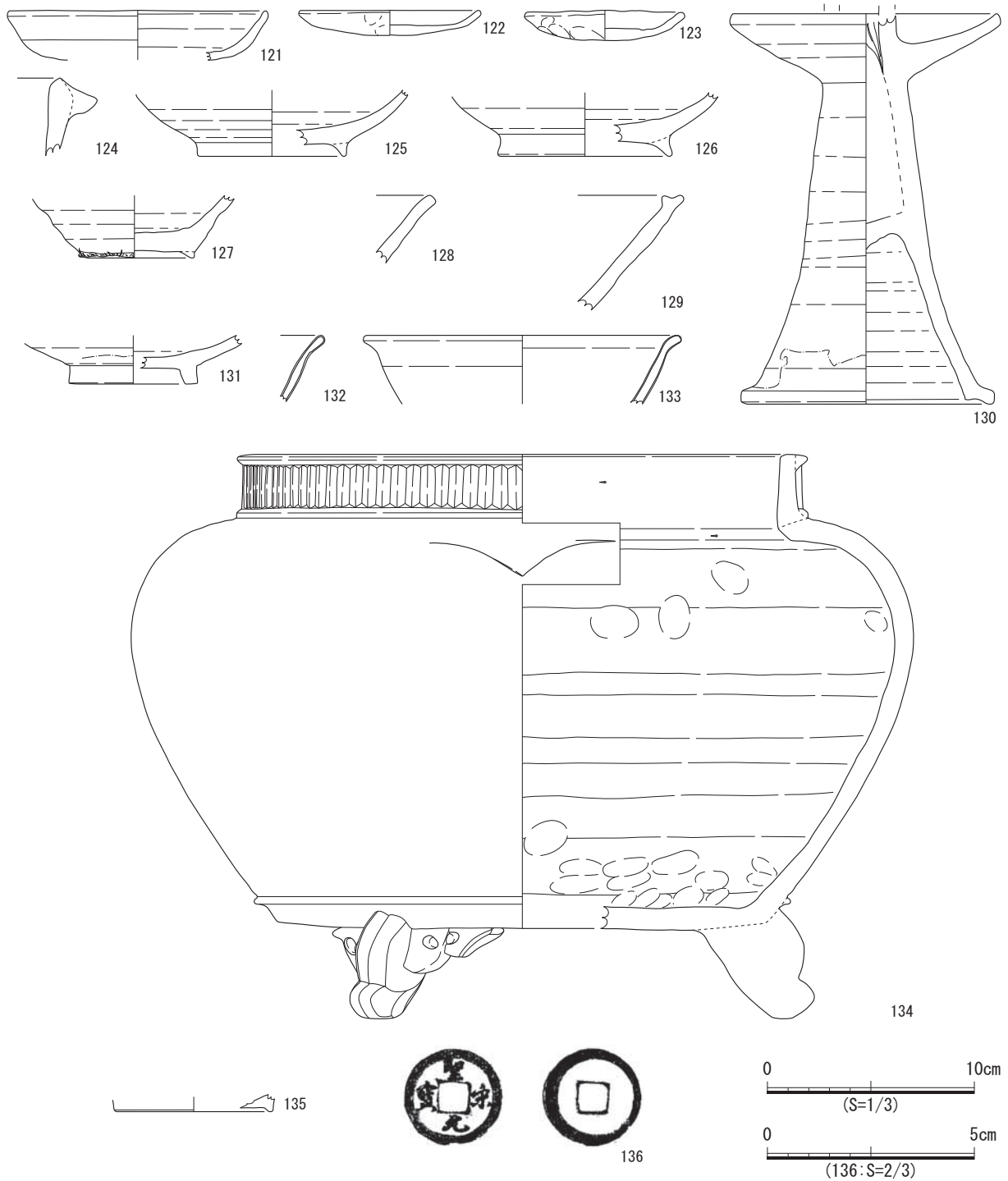


図67 SD11出土遺物実測図

中国産陶磁器3点(131~133)、瓦質土器1点(134)、木製品1点(135)金属製品1点(136)を図示した。121は中世前期土師器皿B2b類、122、123は中世後期土師器皿C1類である。124は清郷型鍋のI類である。125は尾張型第3~4型式、126は矢戸上野2号窯式、127は尾張型7型式の碗である。128は古瀬戸後II期の直縁大皿、129は古瀬戸後III期の卸目付大皿である。130は古瀬戸後III~IV期古段階の燭台で本遺構から出土した体部とSD62から出土した脚部が接合した。131は白磁碗III類である。132、133は龍泉窯系の青磁碗で、132はIV類である。134は風炉で、II-2-b類である。火窓の一部が残存し、文様帯には連子文を施す。135は漆器の椀もしくは皿の高台部分である。136は聖宋元寶である。行書で初鑄年は1101年である。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前葉から中葉のものとする。

SD15 (図68)

検出状況 DR16~EB15グリッド、III層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK282より古く、SD1、SD22、SK194等より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。長軸方位はN-12°-Eで、SD1の屈曲箇所から北側の長軸方位とほぼ重なり、SD1の掘り直しの可能性がある。。屋敷①の東辺となる溝である(図209)。最大幅1.04m、深さ0.19mで、断面形はA-A'付近は逆台形、B-B'付近は皿状である。

埋土 1層~2層に分層した。B-B'1層は中央が窪む堆積である。堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器43点、須恵器1点、灰釉陶器2点、山茶碗59点、瀬戸美濃産陶器5点、常滑産陶器3点、中国産陶磁器3点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿B2a類(137)、古瀬戸後III期の天目茶碗(138)、XI-5期の白磁の輪花皿(139)、龍泉窯系I類の青磁碗(140)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構よりも古いSD1から古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SD17 (図69)

検出状況 EB13~15グリッド、III層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係からSD14、SK203、SK212等より古く、SK208、SK283、SK399等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-87°-Eで、約1.4mに西に位置するSD19の東西溝とほぼ同じである。屋敷①を区画する溝である(図209)。最大幅1.50m、深さ0.41mで、断面形は皿状である。西側には段があり、段より西側が一段高い。一段高い範囲は南北の壁面に沿い、溝の中央付近まで延びる。

埋土 3層に分層した。基本的に中央が窪む堆積だが、B-B'3層上面はほぼ水平である。堆積状況は不明である。壁面の傾斜が変換する位置でB-B'2層と3層の層界が認められるため、掘り直しを行った可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。埋土中から自然木が散在的に出土した。

遺物出土状況 埋土から土師器125点、須恵器6点、灰釉陶器4点、山茶碗77点、瀬戸美濃産陶器5点、常滑産陶器5点、中国産陶磁器2点、木製品27点、種子1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C1類2点(141、142)、尾張型第5型式の山茶碗の碗(143)、古瀬戸後IV期新段階の播鉢(144)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構よりも古いSK283から古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀後半のものと考えられる。

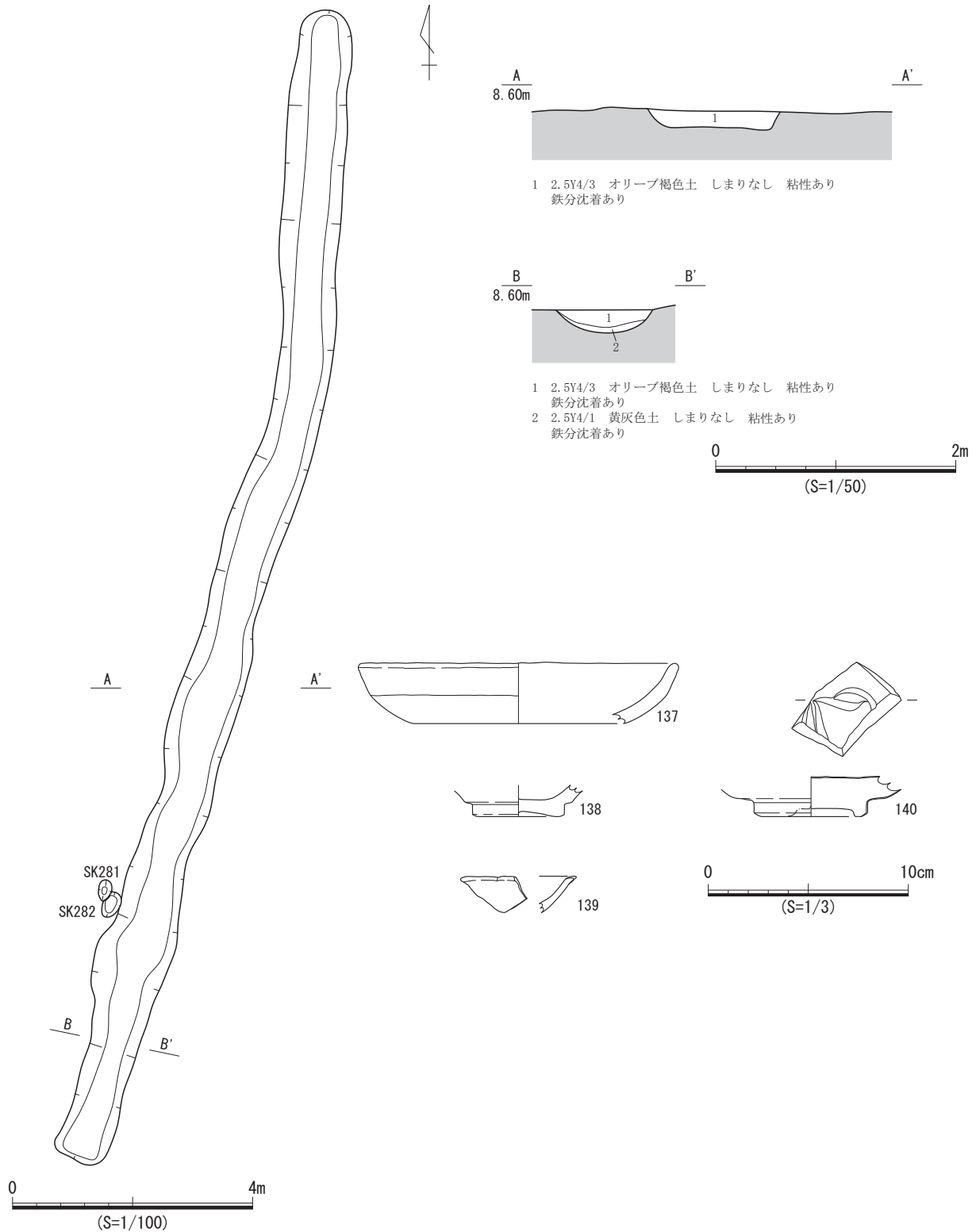


図68 SD15遺構図、出土遺物実測図

SD19 (図70~71)

検出状況 EA 9~EB12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD20、SD24、SK164等より古く、SD21、SK235、SK237等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝で、EB 9グリッド付近ではほぼ直角に北側に屈曲する。長軸方位は東西溝がN-85°-E、南北溝はN-5°-Wで、約2.0m南西に位置するSD11とほぼ同じである。屋敷①を区画する溝である(図209)。最大幅1.42m、深さ0.32mである。断面形は、東西溝は皿状、南北溝は逆台形である。東西溝の東側には段があり、段より東が一段高い。東西溝の西側にも段があり、段より西側が一段高い。一段高い範囲は南北の壁面に沿い東へ延びる。

埋土 1層~3層に分層した。水平な堆積である。2層にブロックを含むことや埋土の中に礫をまばらに含むことから人為的な堆積の可能性がある。壁面の傾斜が変換する位置でB-B'、C-C 2層と3層の層界が認められるため、掘り直しを行った可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器184点、須恵器5点、灰釉陶器3点、山茶碗75点、瀬戸美濃産陶器5点、常滑産陶器7点、中国産陶磁器3点、瓦質土器8点、木製品17点、種子1点がそれぞれ散在して出土した。このうち土師器皿の145~147が正位で、漆器碗の156が正位で、157が横位で底面に接して出土した。

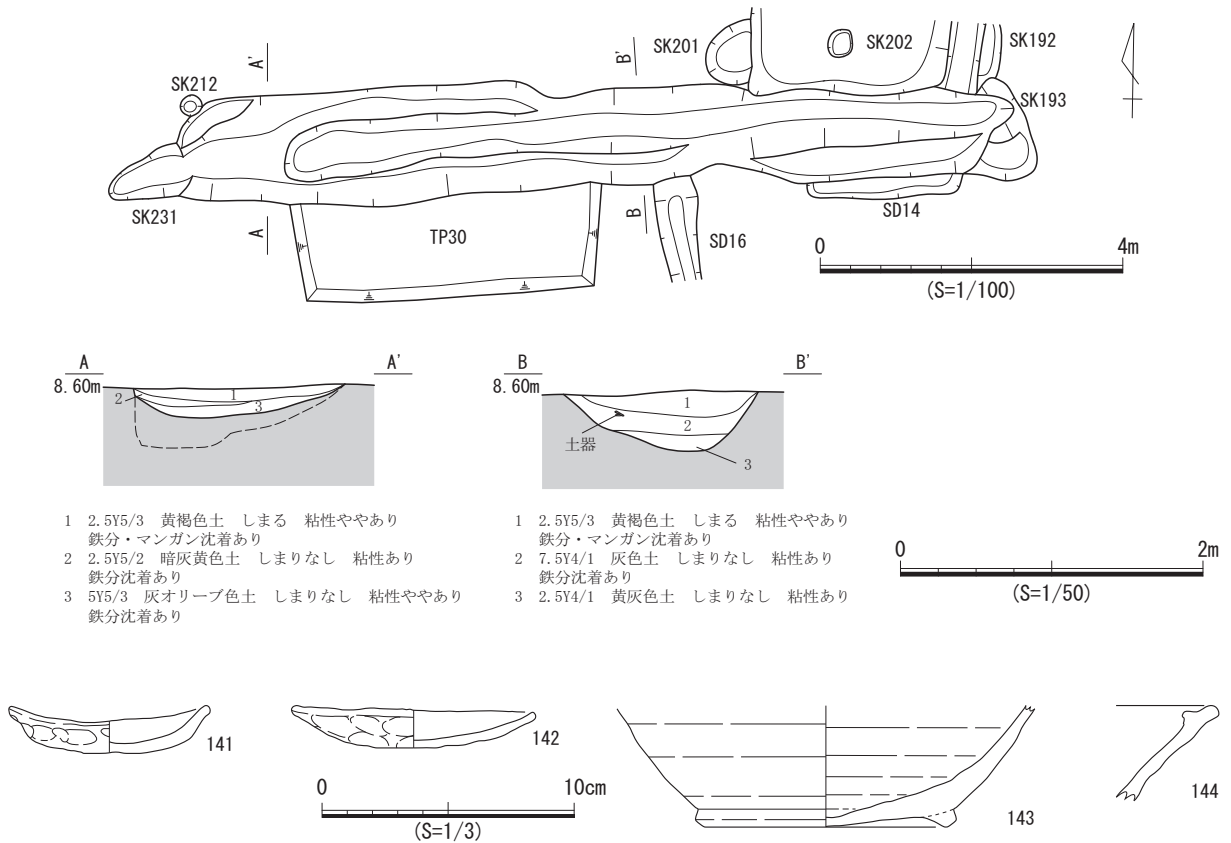


図69 SD17遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 土師器4点(145~148)、山茶碗2点(149、150)、瀬戸美濃産陶器3点(151~153)、中国産陶磁器1点(154)、瓦質土器1点(155)、木製品2点(156、157)を図示した。145~148は中世後期土師器皿C1類である。149は尾張型第3型式の小碗、150は尾張型第5型式の小皿である。151は古瀬戸後Ⅲ期の平碗、152は古瀬戸後Ⅳ期古段階の卸目付大皿、153は古瀬戸後Ⅳ期古段階の桶である。154は龍泉窯系Ⅰ-2類の青磁碗である。155は瓦質土器の風炉でⅡ-2類である。火窓の上部が残存し、文様帯に連子文を施す。156、157は15世紀代の漆碗である。いずれも見込みと外面に赤色漆を用いた手描きの漆絵を施す。156は遺存状態が悪く文様の内容は不明である。157は草花文である。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構より古いSD21から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、15世紀中葉のものとする。

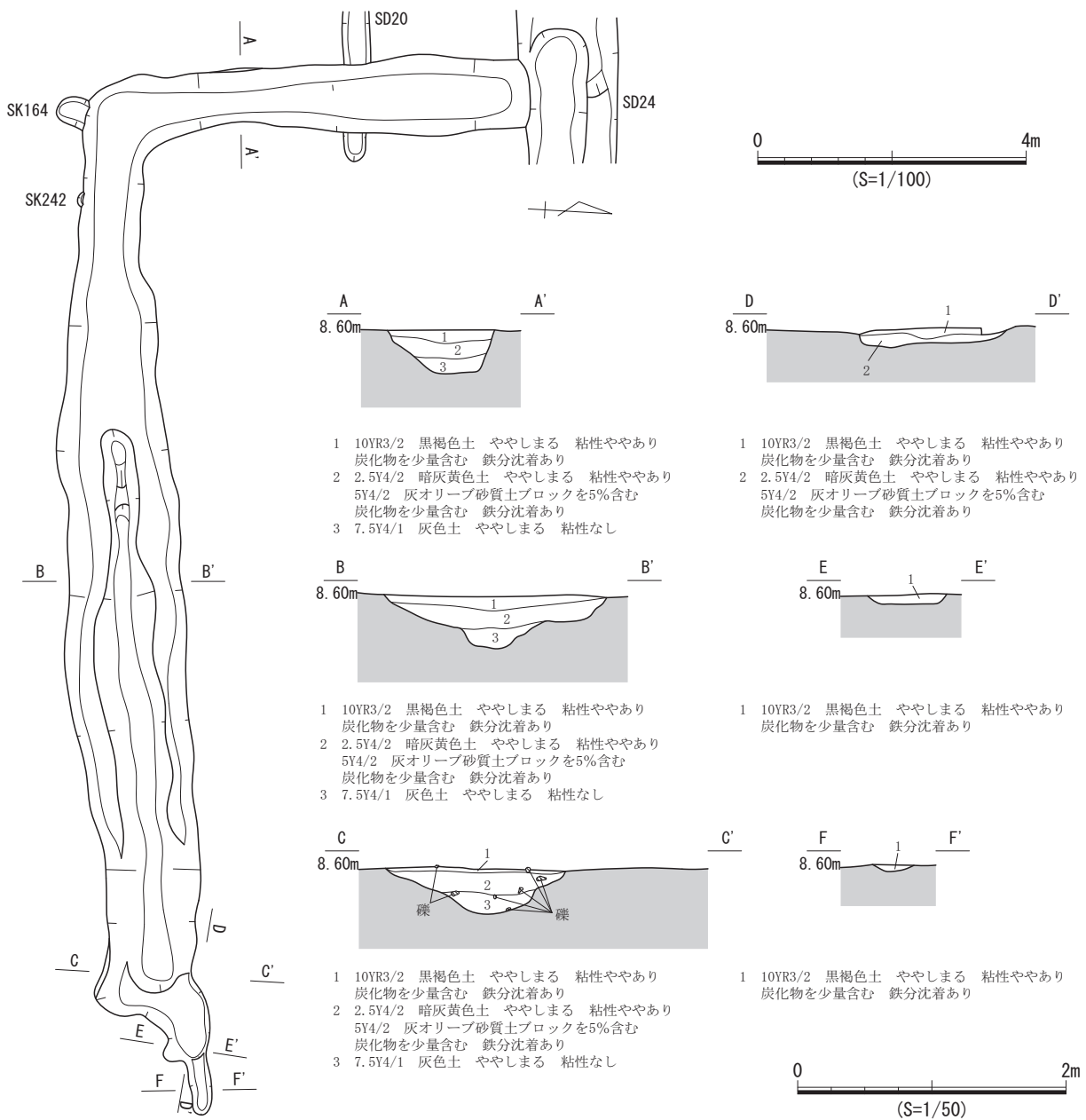


図70 SD19遺構図 1

遺物出土状況

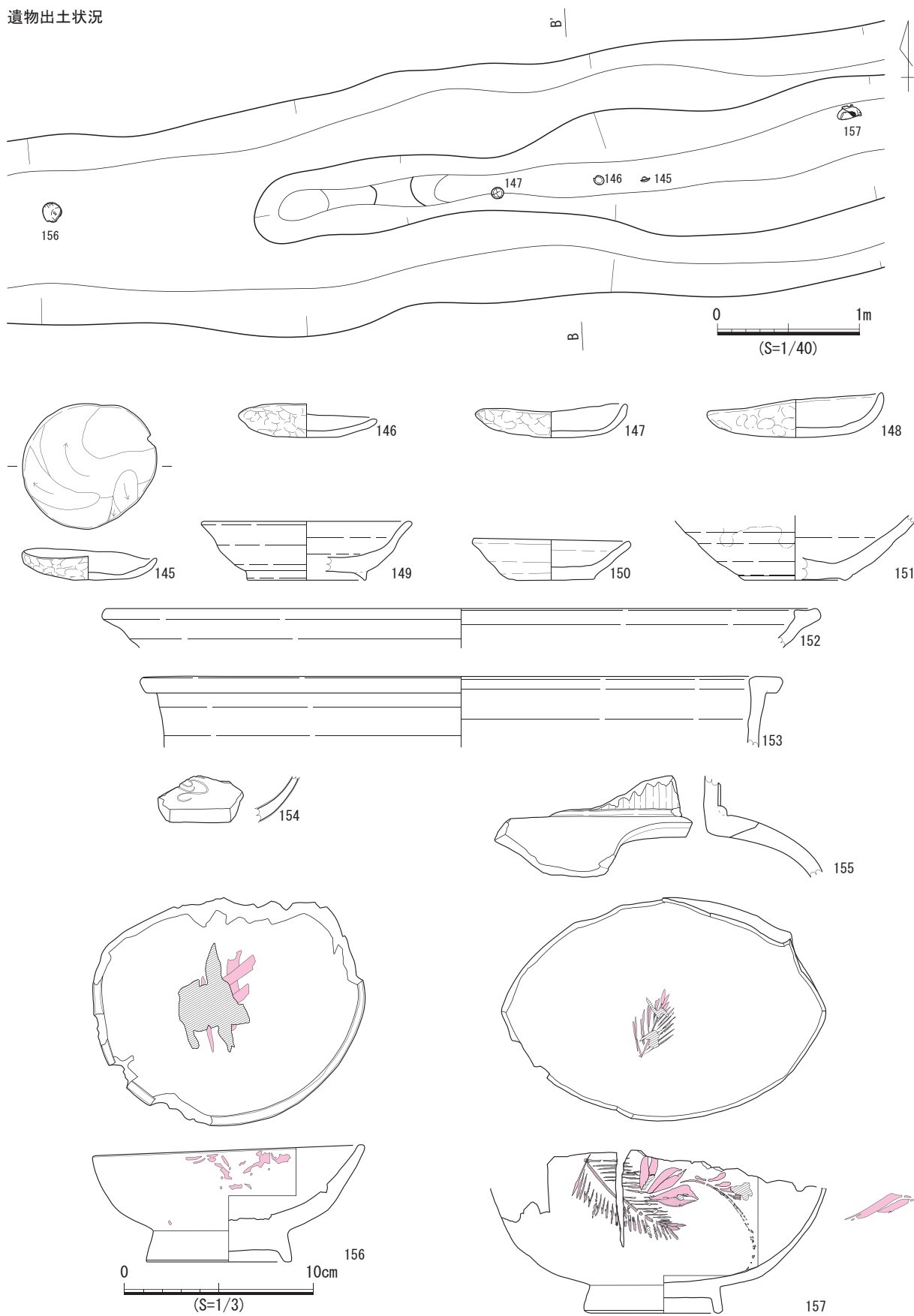


图71 SD19遺構図2、出土遺物実測図

SD20 (図72)

検出状況 EB 9 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD11、SD19、SD21等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-88°-Wで、約2.2m北に位置するSD24やSD25とほぼ同じである。最大幅0.40m、深さ0.07mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器13点、山茶碗6点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛産山茶碗第2期の碗(158)を図示した。

時期 出土遺物と、本遺構よりも古いSD19から古瀬戸後Ⅳ期古段階の卸目付大皿と桶が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SD21 (図73)

検出状況 EA11~EB 6 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD11、SD19、SD24等より古い。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-78°-Eで、約7.2m東に位置するSD23とほぼ同じである。最大幅1.90m、深さ0.41mで、断面形は皿状である。中央付近には段があり、段より東側が一段高い。

埋土 4層に分層した。水平な堆積で、2層と4層にブロックを含むことから人為的な堆積の可能性はある。壁面の傾斜が変換する位置で1層と2層の層界が認められるため、掘り直しを行った可能性はある。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器33点、須恵器4点、灰釉陶器8点、山茶碗120点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器7点、中国産陶磁器8点、土製品1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 土師器1点(159)、須恵器1点(160)、灰釉陶器2点(161、162)、山茶碗7点(163~169)、常滑産陶器1点(170)、中国産陶磁器3点(171~173)、土製品1点(174)を図示した。159は中世前期土師器皿B 2 b 類である。160は美濃須衛Ⅴ期第1小期の無台坏身である。161、162は西坂1号窯式の碗である。163は尾張型第5~6型式の碗で底部外面に「三」の墨書がある。164~166

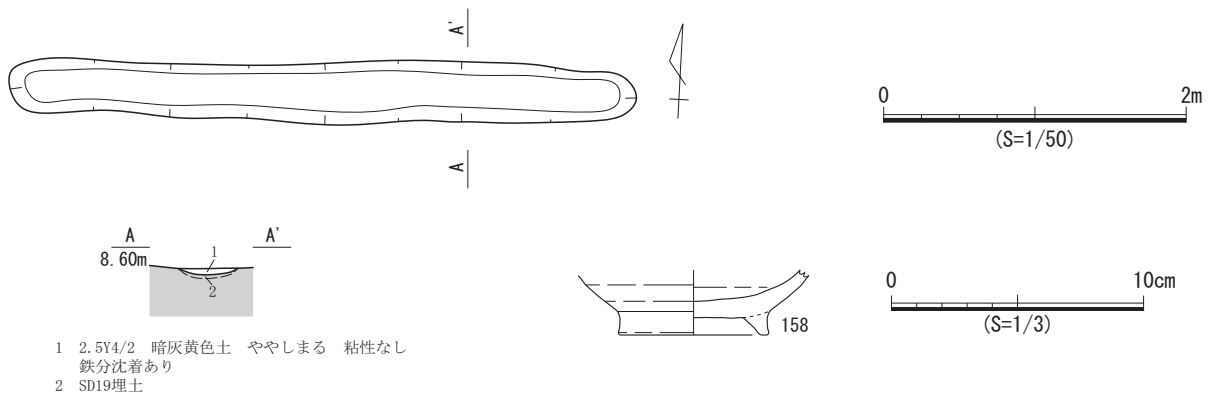


図72 SD20遺構図、出土遺物実測図

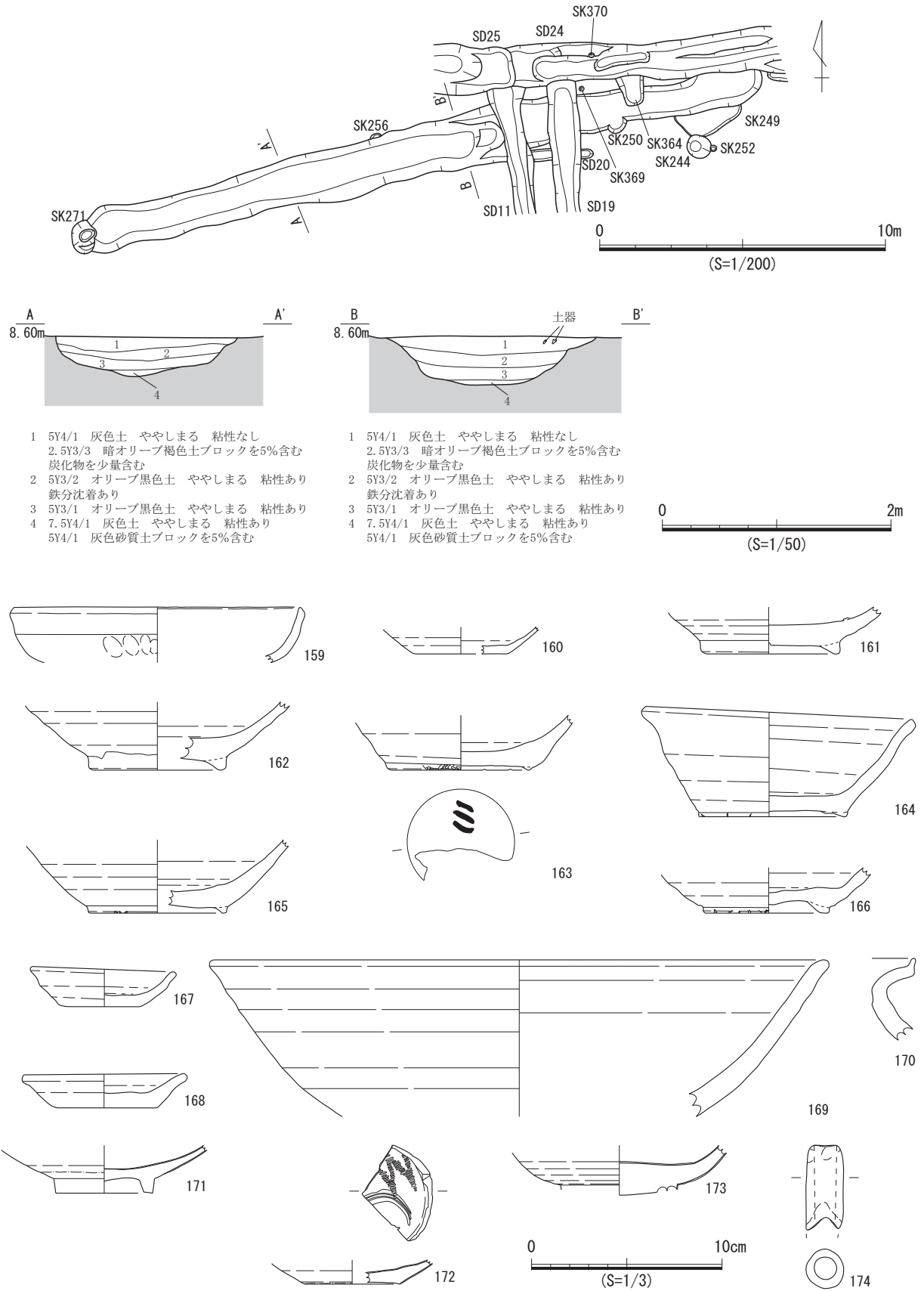


図73 SD21遺構図、出土遺物実測図

は尾張型第6型式の碗である。167は尾張型第5型式、168は尾張型第6型式の小皿である。169は矢戸上野2号窯式の片口鉢である。170は常滑産の甕で4型式である。171は白磁碗Ⅲ類である。172は同安窯系Ⅰ-2b類の青磁皿で見込みに篋による文様とジグザグ状の楡点描文を施す。173は龍泉窯系Ⅰ-1a類の青磁碗である。174は管状土錘である。

時期 出土遺物の最新型式から13世紀前半のものとする。

SD23 (図74)

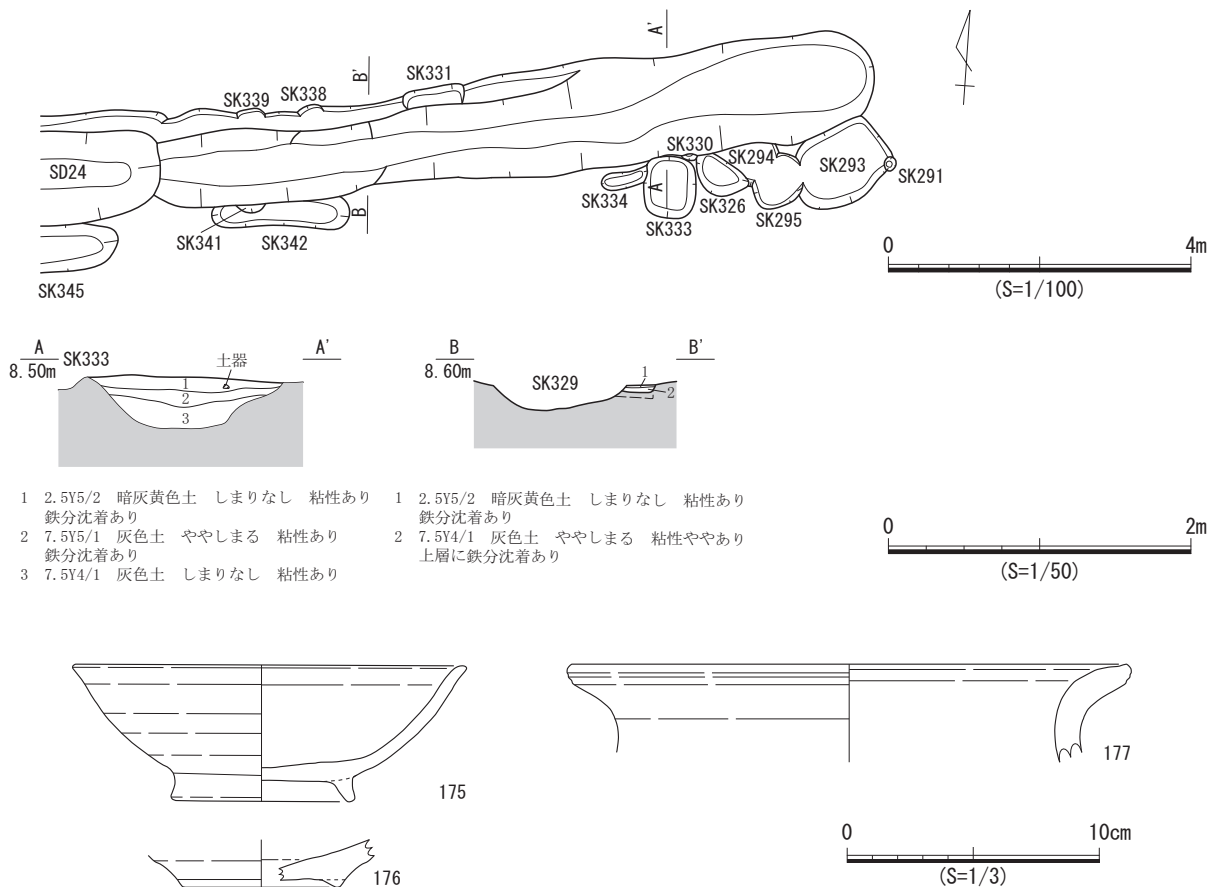
検出状況 DT16~EA12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD24、SK294、SK294等より古く、SA15-P5、SD40、SK403等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-78°-Eで、約7.2m西に位置するSD21とほぼ同じである。最大幅1.41m、深さ0.32mで、断面形は概ね逆台形である。北側の壁面にテラスがある。底面は東に向かって緩やかに低くなる。

埋土 3層に分層した。ほぼ水平な堆積で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器67点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗54点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器1点、中国産陶磁器3点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 明和27号窯式の灰釉陶器の碗(175)、尾張型第6型式の山茶碗の碗(176)、3型式の常滑産の広口壺(177)を図示した。



- | | |
|---|--|
| <p>1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性あり
鉄分沈着あり</p> <p>2 7.5Y5/1 灰色土 ややしまる 粘性あり
鉄分沈着あり</p> <p>3 7.5Y4/1 灰色土 しまりなし 粘性あり</p> | <p>1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 しまりなし 粘性あり
鉄分沈着あり</p> <p>2 7.5Y4/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり
上層に鉄分沈着あり</p> |
|---|--|

図74 SD23遺構図、出土遺物実測図

時期 出土遺物の最新型式と、SD40とSK403から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

SD24 (図75)

検出状況 EA 9～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であったが、SD11、SD25との境は不明瞭であった。重複関係から、SD25、SK354、SK355等より古く、SD11、SD19、SD21、SD23等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-83°-Eで、西側で重複するSD25とほぼ同じである。最大幅1.22m、深さ0.44mで、断面形は皿状だが、壁面に複数のテラスがみられる。底面には凹凸があり、東に向かって緩やかに低くなる。

埋土 4層に分層した。水平な堆積で、ブロックや礫を含むことから人為堆積の可能性がある。3～4層に分層した。A-A'で2層が3層を、B-B'で3層が4層を掘り込むような堆積であることから、2回以上の掘り直しを行ったと考える。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器64点、須恵器10点、灰釉陶器3点、山茶碗133点、瀬戸美濃産陶器12点、常滑産陶器10点、中国産陶磁器6点、土製品1点、木製品8点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 土師器1点(178)、山茶碗4点(179～182)、瀬戸美濃産陶器4点(183～186)、常滑産陶器1点(187)、中国産陶磁器3点(188～190)、木製品(191)を図示した。178は中世後期土師器皿C1類である。179は尾張型第3型式の碗である。180は脇之島3号窯式の碗で、内面に朱墨が付着する。181は尾張型第3型式の小碗である。182は尾張型第5型式の小皿である。183は古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿である。184は古瀬戸後Ⅲ期の卸皿である。185は古瀬戸後Ⅰ期の直縁大皿である。186は古瀬戸後Ⅱ期の卸目付大皿である。187は常滑産の甕で6a型式である。188はⅣ-1a類の白磁碗である。189は龍泉窯系Ⅰ-1a類、190は龍泉窯系Ⅱ-a類の青磁碗である。191は漆椀である。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構よりも古いSD11から古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期古段階の燭台が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SD25 (図76～79)

検出状況 EA・EB 5～EA 9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であったが、SD11、SD24との境は不明瞭であった。重複関係から、SK273、SK377、SK383等より古く、SD11、SD24より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝で西端は発掘区外に延びる。長軸方位はN-84°-Eで、東側で重複するSD24とほぼ同じである。最大幅1.78m、深さ0.72mで、断面形は皿状である。A-A'、B-B'付近では北壁面にテラスがみられる。東側には段があり、段より東が一段高い。底面は西に向かって緩やかに低くなる。

埋土 4層～5層に分層した。A-A'、B-B'は水平、C-C'は中央が窪む堆積で、ブロックや礫を含むことから人為堆積の可能性がある。B-B'では1層～4層が5層を掘り込むような堆積を確認したことから掘り直しを行ったと考える。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器167点、須恵器5点、灰釉陶器5点、山茶碗93点、瀬戸美濃産陶器32点、常滑産陶器35点、中国産陶磁器1点、木製品54点、骨1点がそれぞれ散在して出土した。このうち、古瀬戸の四耳壺の破片(197)が内面を上に向けて、柄杓(212)が側面を上に向けて、合子(211)と香炉(198)が正位で底面に接して出土した。

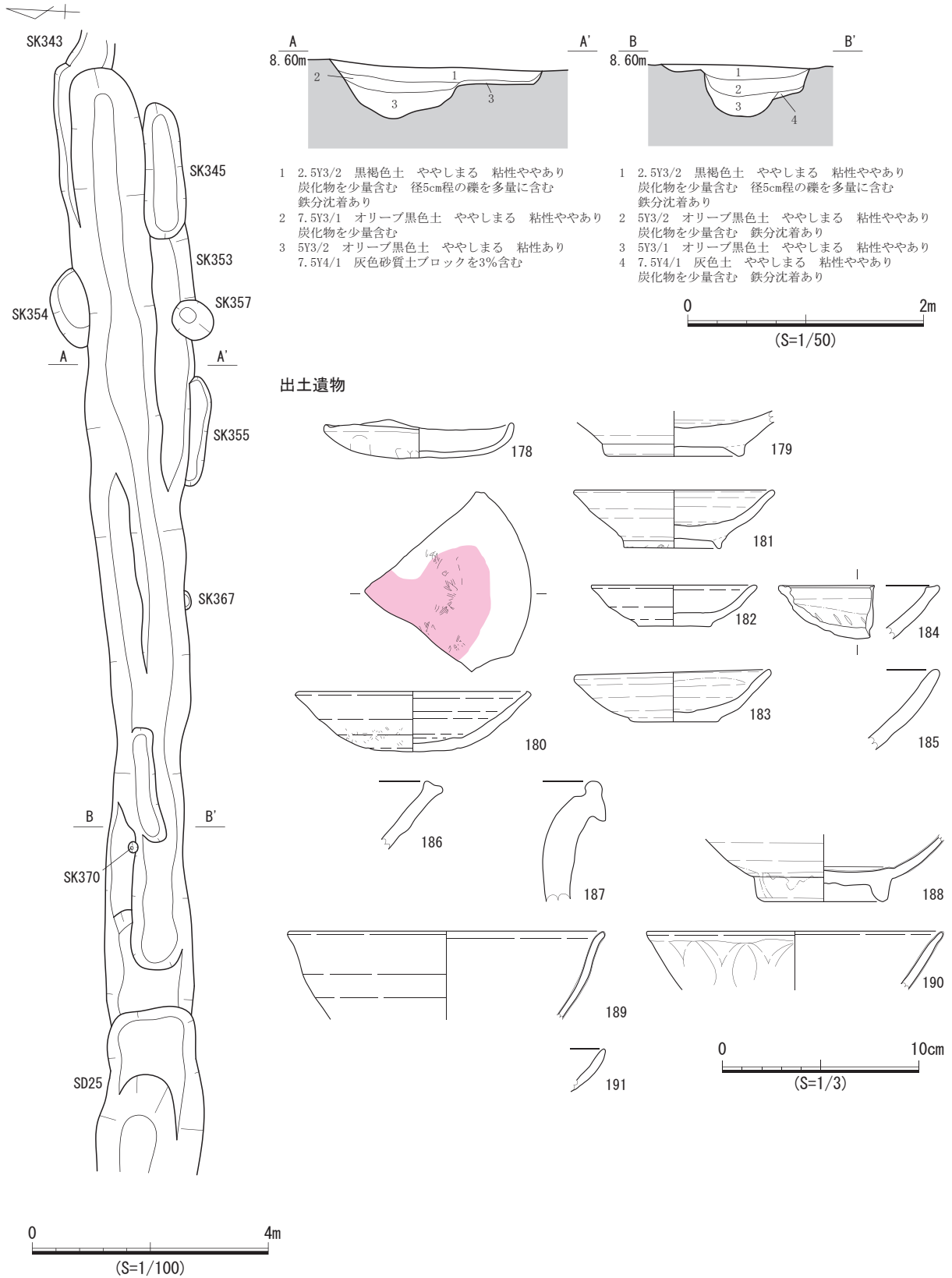


図75 SD24遺構図、出土遺物実測図

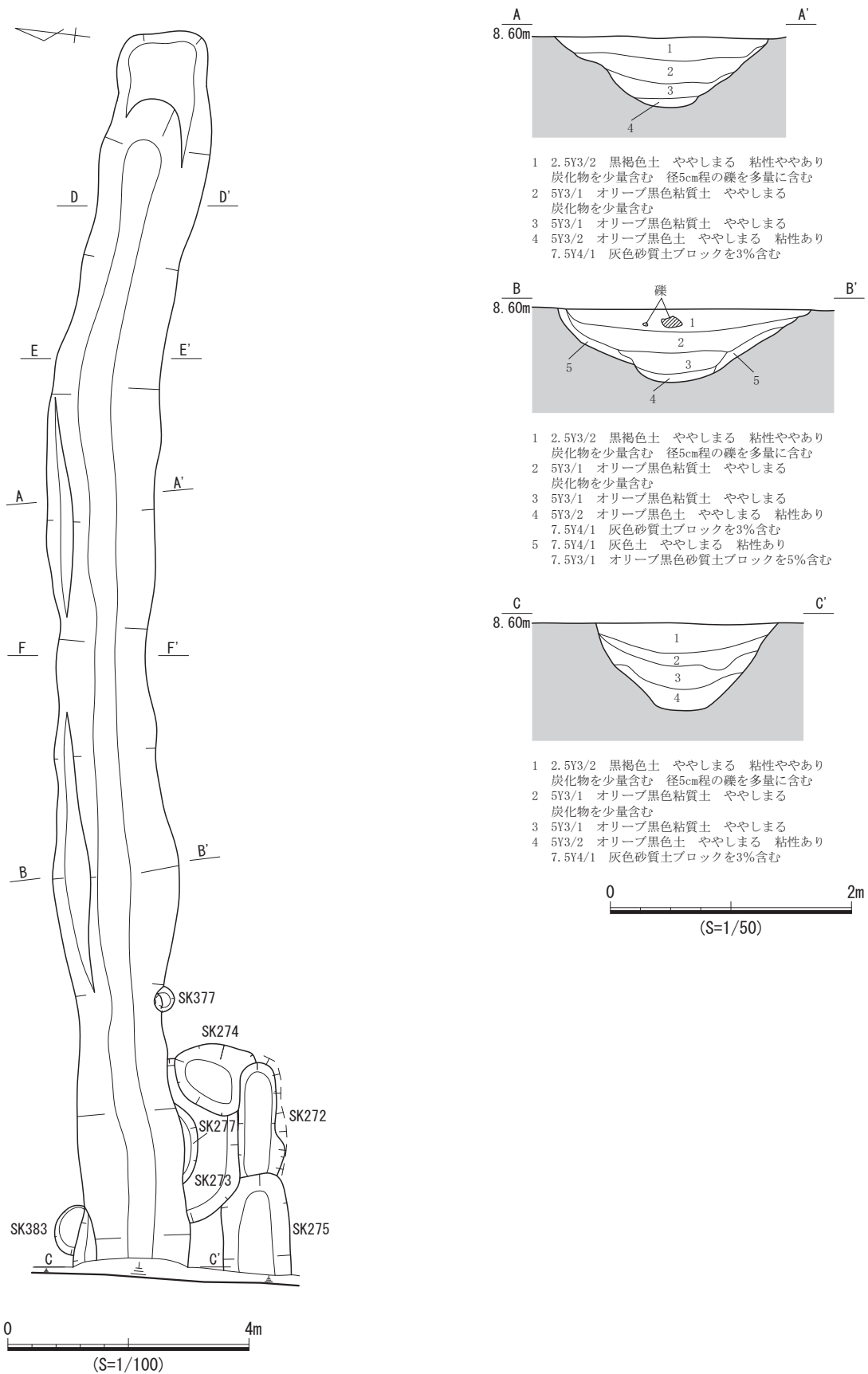


図76 SD25遺構図 1

遺物出土状況

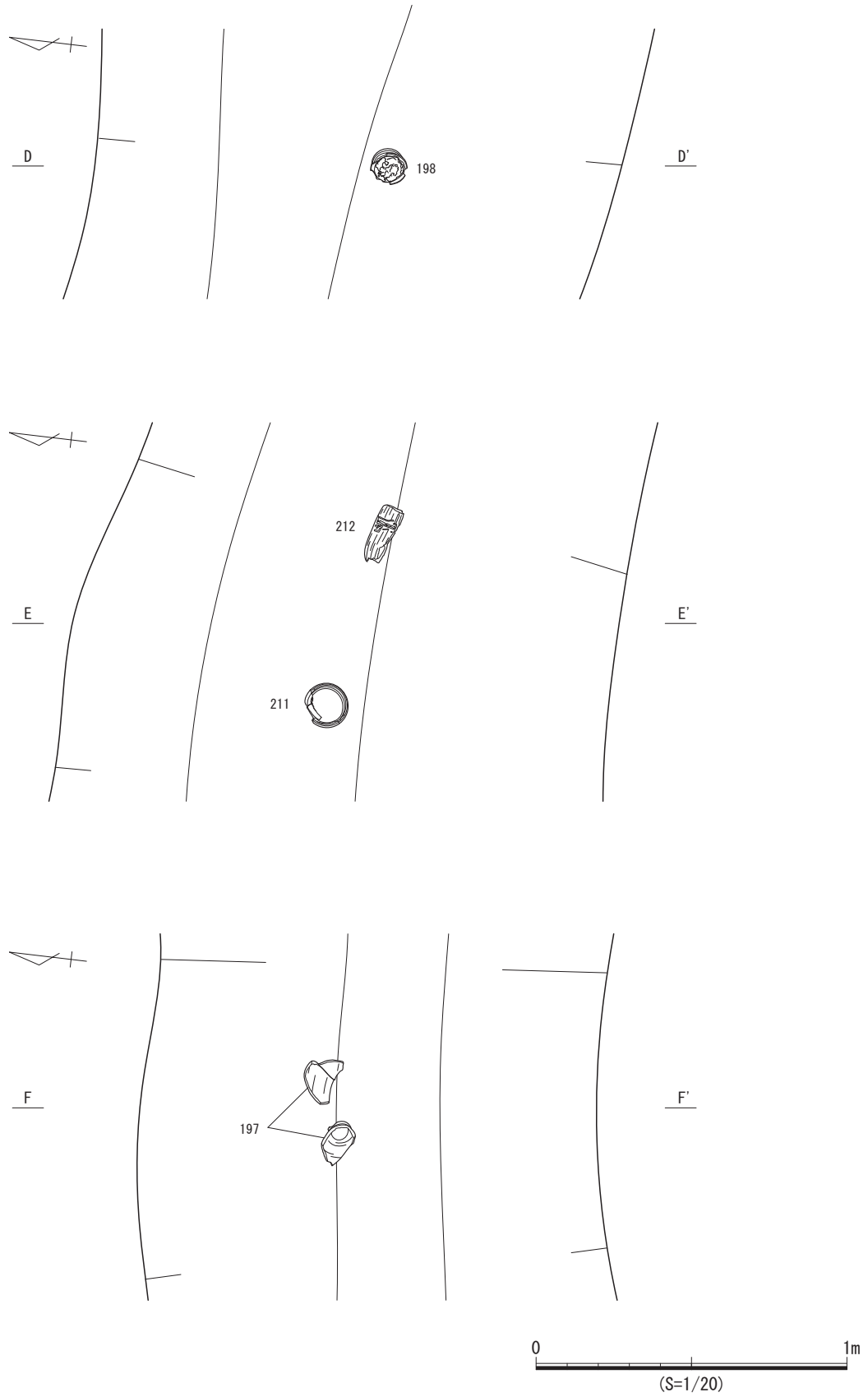


図77 SD25遺構図2

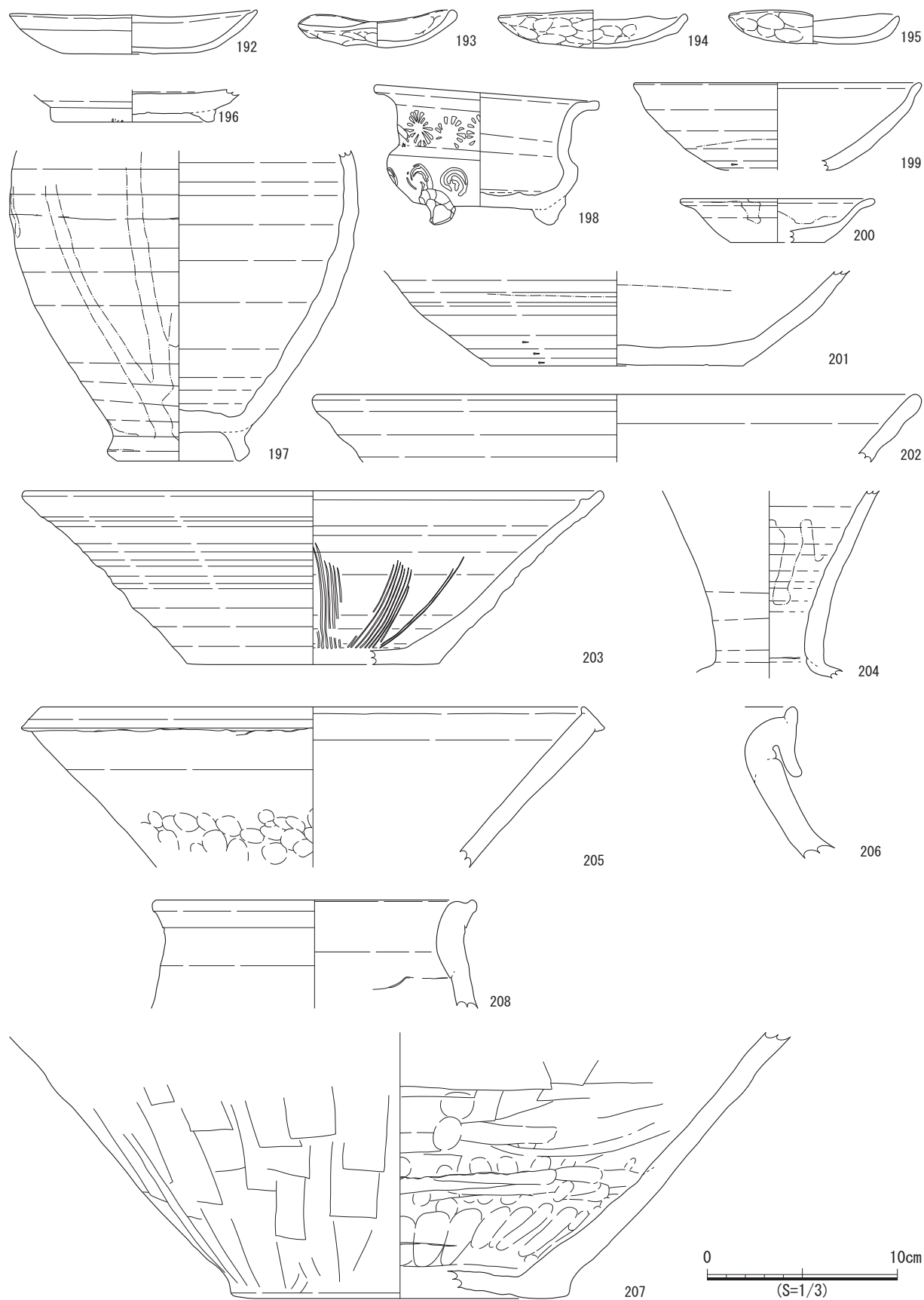


图78 SD25出土遺物実測图 1

出土遺物 土師器4点(192~195)、山茶碗1点(196)、瀬戸美濃産陶器8点(197~204)、常滑産陶器4点(205~208)、木製品5点(209~213)を図示した。192は中世後期土師器皿A3類、193~195は中世後期土師器皿C1類である。196は尾張型第5型式の碗である。197は古瀬戸草創期の四耳壺である。198は古瀬戸中I期の袴腰形香炉で、外面に印による菊花文と手書きの渦巻き状の模様が施される。199は古瀬戸後IV期古段階の平碗である。200は古瀬戸後IV古段階の縁釉小皿である。201は古瀬戸後III~IV期の盤類である。202は古瀬戸後I期の直縁大皿である。203は古瀬戸後IV期新段階の播

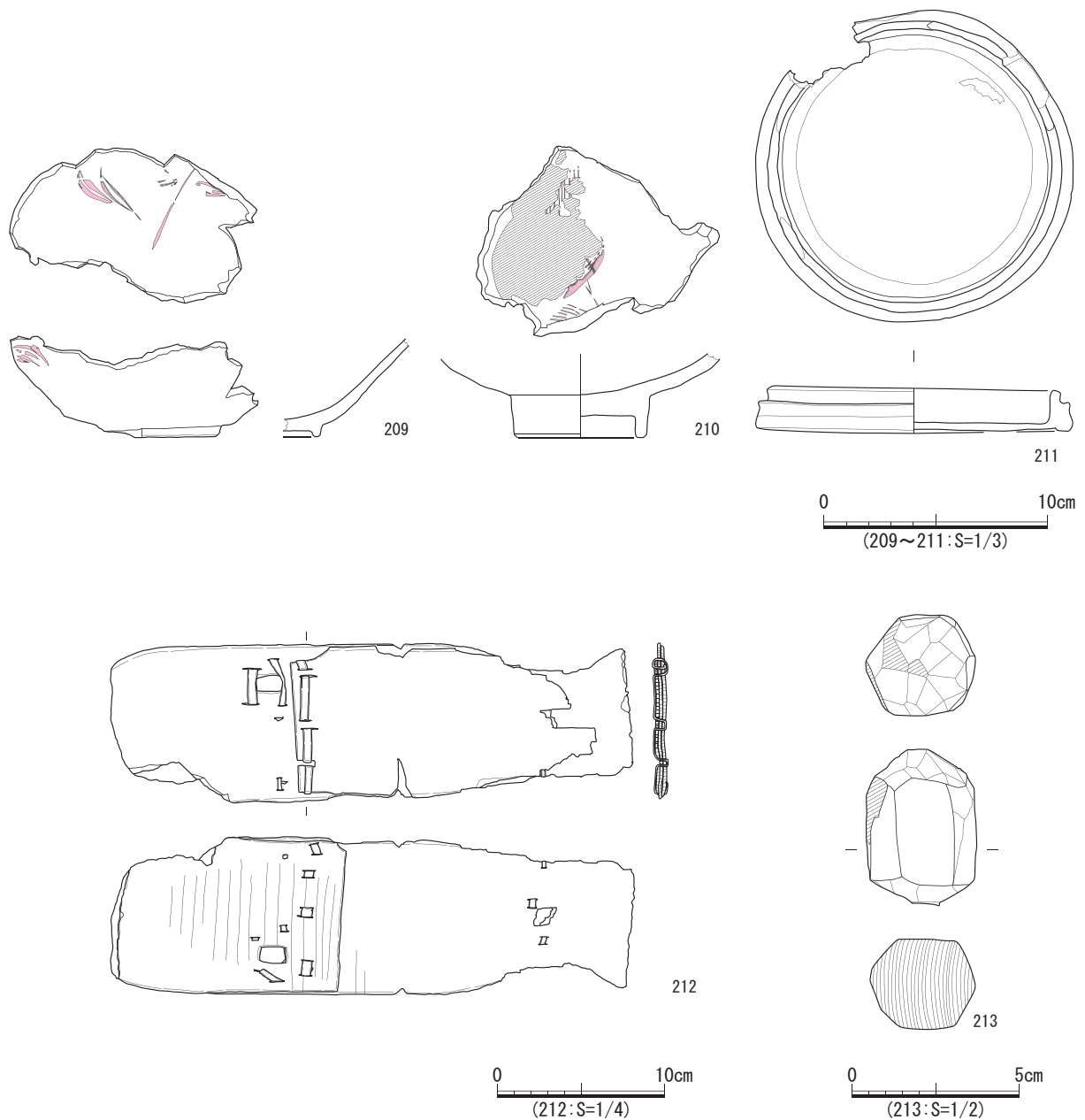


図79 SD25出土遺物実測図2

鉢である。204は古瀬戸後Ⅰ期の花瓶である。205は常滑産の片口鉢で10型式である。206は8型式の常滑産の甕である。207は常滑産の甕の底部である。208は7型式の常滑産の広口壺である。復元口径は16.6cmで小型のものである。209と210は15世紀代の漆椀である。いずれも赤色漆を用いた手描きの漆絵を施す。209は見込みに草花文を施すが、外面は遺存状態が悪く文様の内容は不明である。210は見込みに模様を施すが、遺存状態が悪く内容は不明である。211は漆器の合子の身である。平面形が円形で浅いことから鏡箱として使用された可能性がある。212は柄杓の合で、開いた状態である。側板を固定した樹皮が残存する。体部に柄を通すための方形の孔が穿たれる。213は用途不明の木製品である。側面と小口には区画稜線が認められ、断面形がおおよそ7角形に面取りし、両端が窄まるように加工する。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構よりも古いSD11から古瀬戸後Ⅲ～Ⅳ期古段階の燭台が出土していることから、15世紀後半のものとする。

SD26 (図80)

検出状況 DT・EA5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD37、SD39、SK546等より古く、SK386、SK529より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝で西端は発掘区外に延びる。長軸方位はN-85°-Eで、約3.0m南側に位置するSD25とほぼ同じである。最大幅1.31m、深さ0.41mで、断面形は皿状である。東側には2段の段差があり、東に向かうほど高くなる。底面は東に向かって緩やかに低くなる。

埋土 3層～4層に分層した。中央が窪む堆積で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器116点、灰釉陶器1点、山茶碗26点、常滑産陶器1点、木製品2点がそれぞれ散在して出土した。このうち、羽釜(215)が逆位で底面に接して出土した。

出土遺物 土師器2点(214、215)、灰釉陶器1点(216)、山茶碗1点(217)を図示した。214は中世後期土師器皿C1類で、口縁部付近に煤が付着することから灯明皿として使用されたと考える。215はA3～A4類の羽釜で、SK384から出土した破片と接合した。216は丸石2号窯式の灰釉陶器の皿で、内面は使用痕が認められる。内面に青色の付着物があり、鉄とリンを多く含むことから、周辺に動物遺体が存在した可能性がある(第4章第6節)。217は尾張型第5型式の碗である。

時期 出土遺物の最新型式から15世紀のものとする。

溝状遺構群 (SD27～SD34・SD40)

DS13グリッド、DT13～15グリッドで南北にほぼ同一方向に延びる9条の溝状遺構を検出した。いずれも直線的で、深さが類似することから、耕作の痕跡の可能性はある。以下それぞれの溝について報告する。

SD27 (図81～82)

検出状況 DS13～DT14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK403、SK576より古く、SD40、SK426、SK607等より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。南端はSK576と重複する。長軸方位はN-15°-Wである。最大幅0.78m、深さ0.21mで、断面形は概ね逆台形である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器75点、山茶碗19点、常滑産陶器5点、鉄滓1点がそれぞれ散在して出土した。このうち、土師器皿、伊勢型鍋（218）、山茶碗の小皿（219）と片口鉢（220）、常滑産陶器の甕の破片が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 A4類の伊勢型鍋（218）と尾張型第5型式の山茶碗（219）の小皿と片口鉢（220）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構よりも古いSD40から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

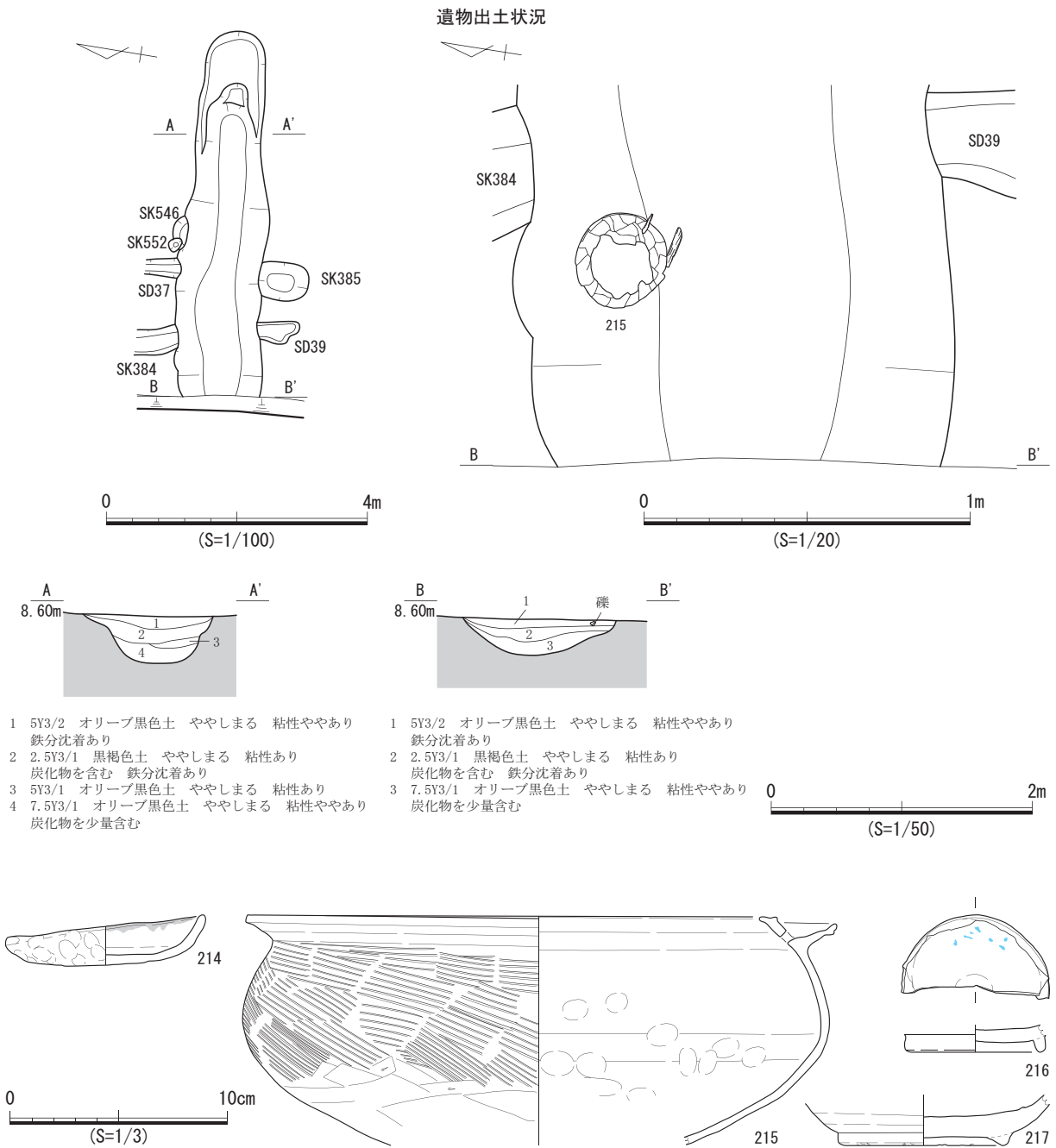


図80 SD26遺構図、出土遺物実測図

SD28 (図81)

検出状況 DS13～DT13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD23、SK410、SK588等より古く、SA15-P5、SK608より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSK588、南端はSD23、南端はSK410と重複し南北が断絶するが、幅や埋土が類似することから同一の遺構と判断した。長軸方位はN-4°-Wで、周辺に集中して存在するSD27、SD29、SD30、SD31、SD32、SD33、SD34、SD40とは異なる。最大幅0.28m、深さ0.04mで、断面形は皿状である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 本遺構よりも古い遺構からは時期が判断できる遺物が出土していないが、SD23よりも古いことから、13世紀前半以前のものの可能性がある。

SD29 (図81～82)

検出状況 DS13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK410、SK412、SK414より古い。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSK410、南端はSK403と重複する。長軸方位はN-27°-Wである。最大幅0.13m、深さ0.08mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器4点、山茶碗2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(221)を図示した。

時期 出土遺物から12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SD30 (図81～82)

検出状況 DS13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD23、SK403、SK418より古い。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。南端はSD23と重複する。長軸方位はN-14°-Wである。最大幅0.23m、深さ0.09mで、断面形は皿状である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗1点がそれぞれ散在して出土した。このうち、完形の山茶碗の小皿(222)が底面から正位で出土した。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の小皿(222)を図示した。

時期 出土遺物から13世紀前半のものとする。

SD31 (図81～82)

検出状況 DS13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD23、SK403より古く、SD32より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSD32、南端はSD23と重複する。長軸方位はN-14°-Wである。最大幅0.20m、深さ0.15mで、断面形は逆台形である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器3点、灰釉陶器1点、山茶碗2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 西坂1号窯式の灰釉陶器の碗(223)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と、本遺構より古いSD32から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土していることから、12世紀後葉から13世紀前葉以降のものとする。

SD32 (図81~82)

検出状況 DS・DT13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD31、SK403、SK583等より古く、SD33、SK423、SK609より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSK583、南端はSD31、SK403と重複する。長軸方位はN-18°-Wである。最大幅0.30m、深さ0.17mで、断面形は逆台形である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器21点、山茶碗14点、土製品1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(224)を図示した。

時期 出土遺物と、本遺構より古いSD33から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土していることから、12世紀後葉から13世紀前葉以降のものとする。

SD33 (図81~82)

検出状況 DS・DT13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。重複関係から、SD32、SK586、SK601等より古く、SD34、SK426、SK621より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSK609と重複する。長軸方位はN-23°-Wである。最大幅0.35m、深さ0.13mで、断面形は逆台形である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器8点、山茶碗4点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(225)を図示した。

時期 出土遺物から12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SD34 (図81)

検出状況 DS13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD33、SK586、SK591より古く、SK621より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSD45と重複する。長軸方位はN-10°-Wである。最大幅0.28m、深さ0.06mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器11点、山茶碗3点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 山茶碗が出土していることから11世紀後葉以降のものとする。

SD40 (図81~82)

検出状況 DS13~DT14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD27、SE1、SK576等より古く、SK622、SK626より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSE 1、南端はSD23と重複する。SK576と重複し南北が断絶するが、幅や埋土が類似することから同一の遺構と判断した。本遺構から約0.84m南に位置するSK324と埋土や幅が類似するため、本来は同一遺構でさらに南に延びていた可能性がある。長軸方位はN-14°-Wである。最大幅0.36m、深さ0.28mで、断面形は皿状と逆三角形である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

埋土 2層に分層した。水平な堆積で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器42点、山茶碗37点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A 2 b類 (226) と尾張型第4～5型式 (227)、尾張型第6型式 (228) の山茶碗の碗、尾張型第6型式の山茶碗の小皿 (229) を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から13世紀前半のものとする。

SD41 (図83)

検出状況 DT12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD45より古く、SK429より新しい。

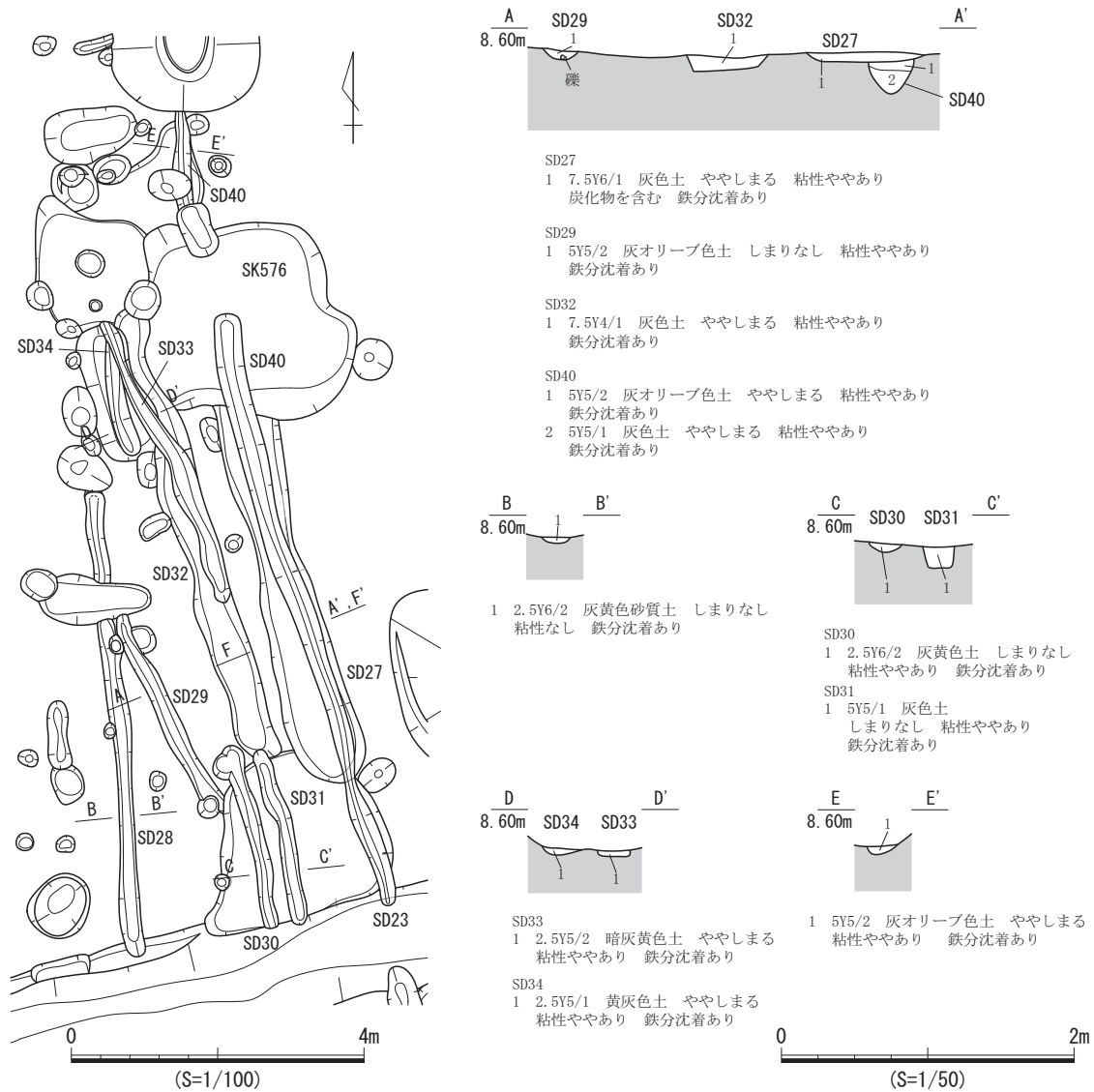
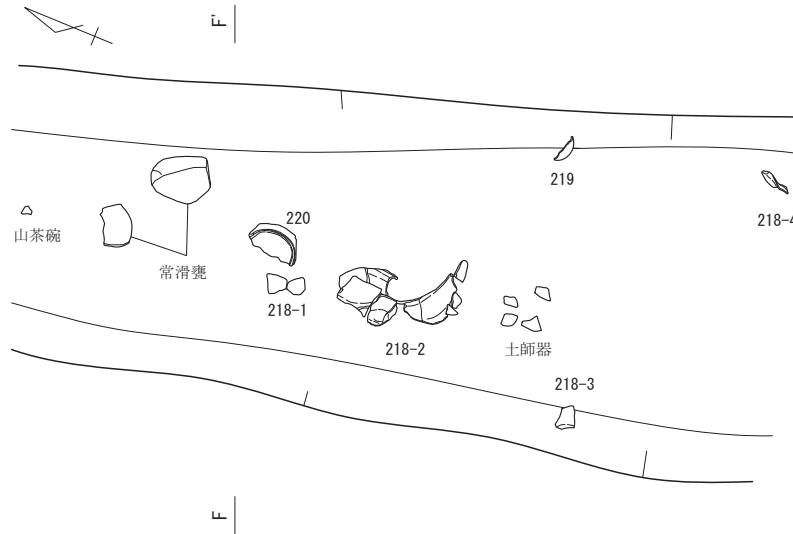


図81 SD27～SD34・SD40遺構図

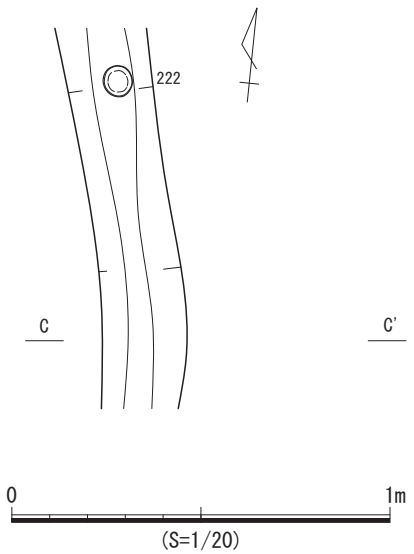
規模・形状 南北方向に延びる溝である。長軸方位はN-1°-Wで、約7.1m南に位置するSD19の東西溝、約1.1m南に位置するSD24とほぼ直行する。最大幅1.06m、深さ0.37mで、断面形は概ね皿状である。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪む堆積で、北西部からは焼土ブロックや炭化物がまとまって出土したことから、人為堆積の可能性がある。2層の堆積状況は不明である。壁面の傾斜が変換する位置で層界が認められるため、掘り直しを行った可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。

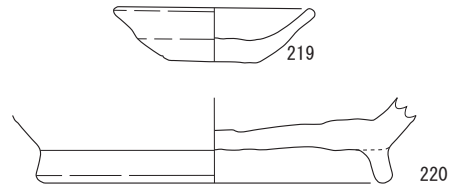
SD27遺物出土状況



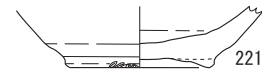
SD30遺物出土状況



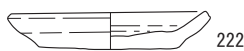
SD27出土遺物



SD29出土遺物



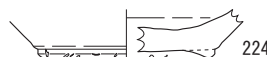
SD30出土遺物



SD31出土遺物



SD32出土遺物



SD33出土遺物



SD40出土遺物

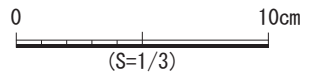
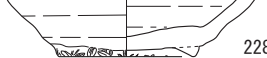


図82 SD27・SD30遺構図2、SD27・SD29～SD33・SD40出土遺物実測図

遺物出土状況 埋土から土師器45点、山茶碗18点、瀬戸美濃産陶器2点、常滑産陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後IV期～大窯第1段階の播鉢(230)を図示した。

時期 出土遺物から15世紀中葉から16世紀前葉のものとする。

溝状遺構群 (SD45～SD49・SD53)

DR・DS・DT・EA 9～12グリッドで東西にほぼ同一方向に延びる6条の溝状遺構を検出した。いずれも直線的で、深さが類似することから、耕作の痕跡の可能性はある。以下それぞれの溝について報告する。

SD45 (図84)

検出状況 DT11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD41、SK435より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-85°-Eである。最大幅0.96m、深さ0.07mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器5点、山茶碗2点、中国産陶磁器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 龍泉窯系青磁碗I-6b類(231)を図示した。

時期 出土遺物と、本遺構よりも古いSD41から古瀬戸後IV期～大窯第1段階の播鉢が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SD46 (図84)

検出状況 DT10～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK458より古い。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-86°-Eである。最大幅0.58m、深さ0.09mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から山茶碗3点、中国産陶磁器1点がそれぞれ散在して出土した。

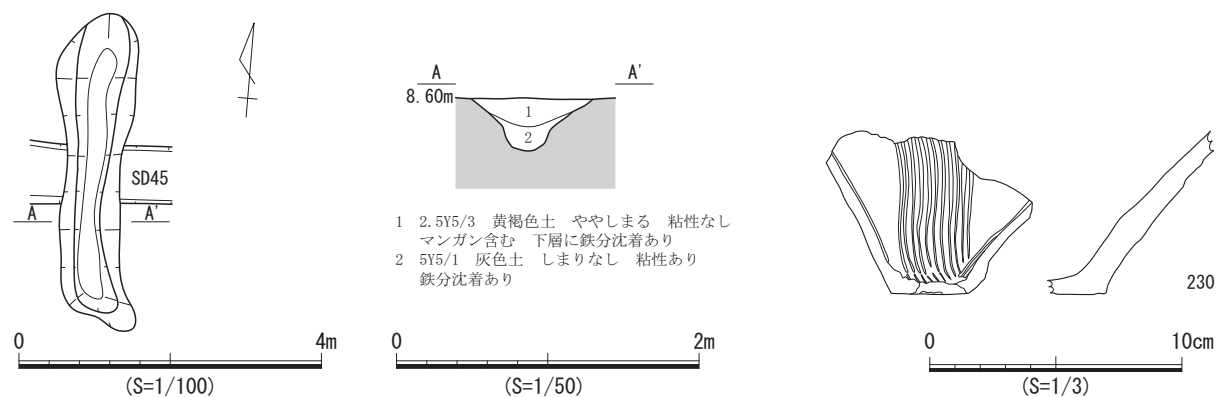


図83 SD41遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 龍泉窯系青磁碗Ⅱ-a類(232)を図示した。

時期 中世前期までの遺物しか出土していないが、周辺の東西方向に延びる溝であるSD45、SD47、SD48、SD49、SD53と向きや規模・形状が似ることから15世紀以降のものとする。

SD47 (図84)

検出状況 DS10～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK676より古く、SA17-P1、SA17-P2、SK652等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-87°-Eである。最大幅1.26m、深さ0.10mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗5点、中国産陶磁器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗(233)とⅡ-3類もしくはⅡ-4類の白磁碗(234)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と、SP13から古瀬戸後Ⅳ期新段階の播鉢が出土していることから、15世紀後半以降のものとする。

SD48 (図84)

検出状況 DS10～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK641より古く、SK656、SK657、SK687等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。DS10グリッドより西側で幅が狭くなる。長軸方位はN-83°-Eである。最大幅1.14m、深さ0.06mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、灰釉陶器1点、山茶碗4点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 重複する遺構からも時期が判断できる遺物は出土していないが、SD47と近接することから15世紀後半以降のものとの可能性がある。

SD49 (図84)

検出状況 DS9～10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK688より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-89°-Eである。最大幅0.47m、深さ0.13mで、断面形は逆台形である。底面はほぼ水平である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、山茶碗2点、瀬戸美濃産陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅳ期古段階の直縁大皿(235)を図示した。

時期 出土遺物から15世紀中葉のものとする。

SD53 (図84)

検出状況 DR9～11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SP26、SD11、SK881等より古く、SD56、SK935、SK936等より新しい。本遺構とSD11は埋土が類似しており、重複関係は極めて不明瞭であった。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。西端はSD11と重複する。長軸方位はN-86°-Eである。最大幅0.48m、深さ0.07mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器14点、須恵器2点、山茶碗16点、瀬戸美濃産陶器2点、常滑産陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿(236)を図示した。

時期 出土遺物から、15世紀中葉のものとする。

SD52 (図85)

検出状況 DR15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK557、SK778より古い。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSK778、南端はSK557と重複する。長軸方位はN-3°-Wである。最大幅0.35m、深さ0.18mで、断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器32点、山茶碗6点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 尾張型第4型式の山茶碗の小碗(237)と尾張型第6型式の山茶碗の小皿(238)を図示した。237の内面には赤色の付着物があり、朱墨の可能性はある。

時期 出土遺物から、13世紀前半のものとする。

SD56 (図86)

検出状況 DQ・DR10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD53より古い。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-86°-Eである。最大幅1.15m、深さ0.30mで、断面形は皿状である。東側には段があり、段より東側が一段高い。

埋土 3層に分層した。南側は本遺構よりも新しいSD53に掘り込まれているため、1層の堆積状況は不明である。2層は中央が窪む堆積で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器125点、須恵器4点、灰釉陶器7点、山茶碗33点、常滑産陶器3点、土製品1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C1類(239)と尾張型第6型式の山茶碗の碗(240)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀のものとする。

SD57 (図86)

検出状況 DQ・DR9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD11、SD60、SK944等より古く、SK941、SK1193、SK1197より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。長軸方位はN-4°-Wである。最大幅0.93m、深さ0.25mで、断面形は概ね皿状である。

埋土 2層に分層した。1層はほぼ水平な堆積で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器4点、須恵器1点、山茶碗15点、瀬戸美濃産陶器4点がそれぞれ散在して出土した。

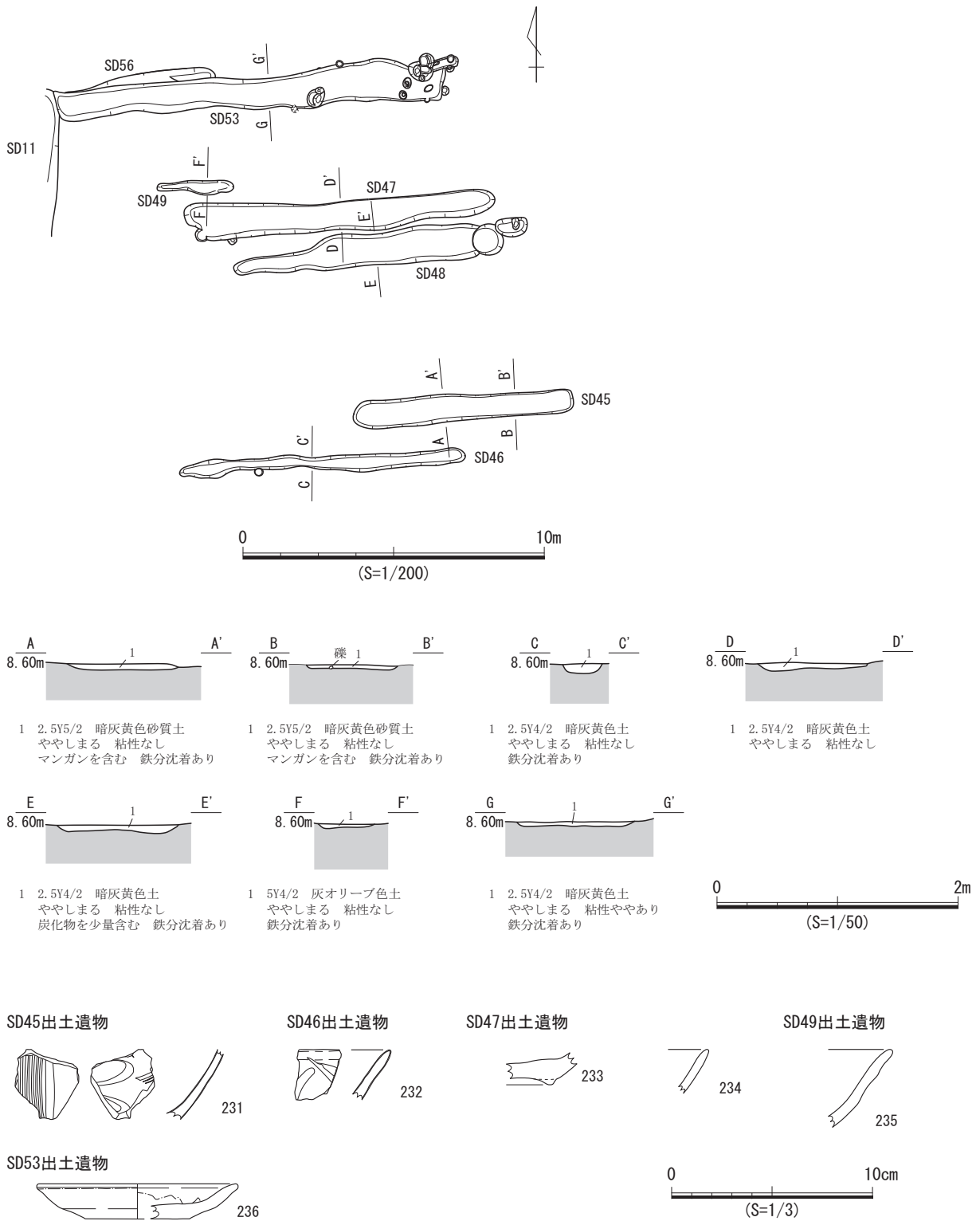


図84 SD45～SD49・SD53遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 古瀬戸中期の卸皿（241）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀後葉から14世紀中葉のものとする。

SD58（図86）

検出状況 DQ・DR 8 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD60、SK944、SK945、SK950等より古い。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。長軸方位はN-5°-Wである。最大幅1.27m、深さ0.20mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器4点、山茶碗16点、常滑産陶器6点、中国産陶磁器1点、木製品2点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 10型式の常滑産の片口鉢（242）と龍泉窯系I-1a類の青磁碗（243）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前半のものとする。

SD61（図87）

検出状況 DM14~15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD69、SK1226、SK1231等より古く、SD68、SK1229、SK1232等より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝で、南端付近ではやや幅が狭くなる。北端は、部分的に攪乱を受け、SD69と重複する。長軸方位はN-20°-Wで、約1.2m西に位置するSD62とほぼ同じである。最大幅3.22m、深さ0.21mで、断面形は逆台形である。底面は南に向かって緩やかに低くなる。

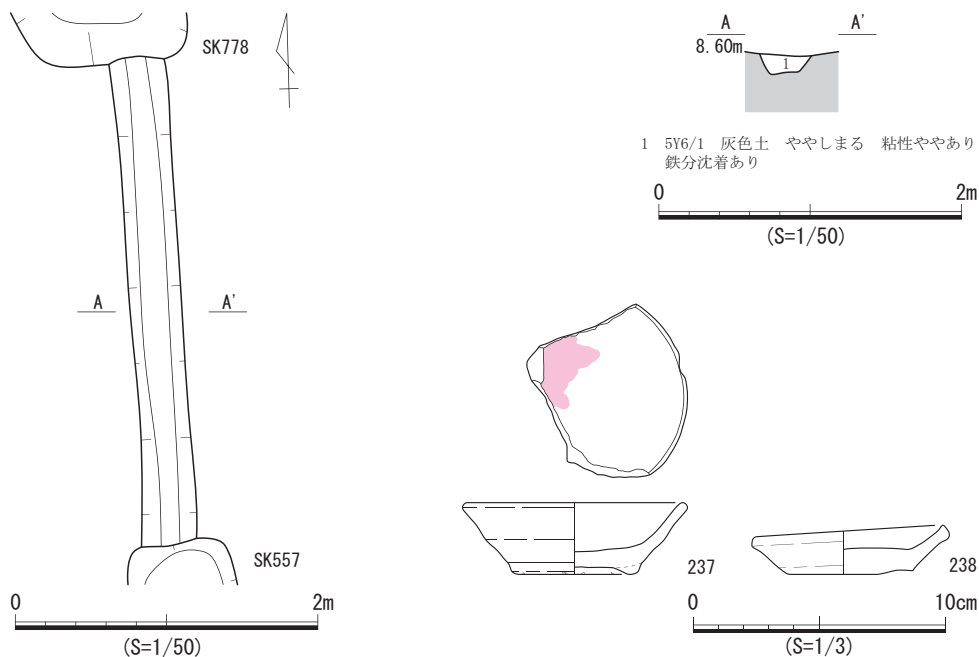


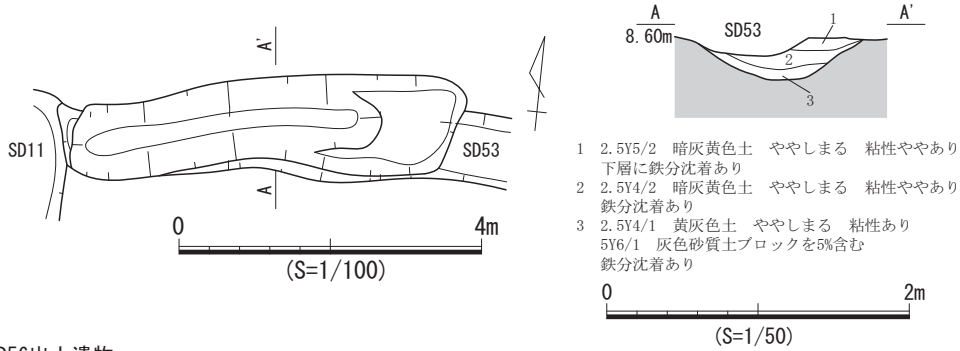
図85 SD52遺構図、出土遺物実測図

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

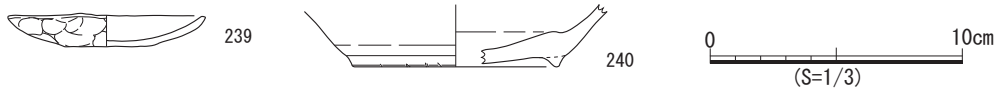
遺物出土状況 埋土から土師器330点、須恵器14点、灰釉陶器1点、山茶碗356点、瀬戸美濃産陶器7点、常滑産陶器100点、中国産陶磁器9点、土製品9点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 土師器3点(244~246)、山茶碗4点(247~250)、中国産陶磁器2点(251、252)、土製品2点(253、254)を図示した。244はロクロ成形の土師器の小皿である。245は中世前期土師器皿

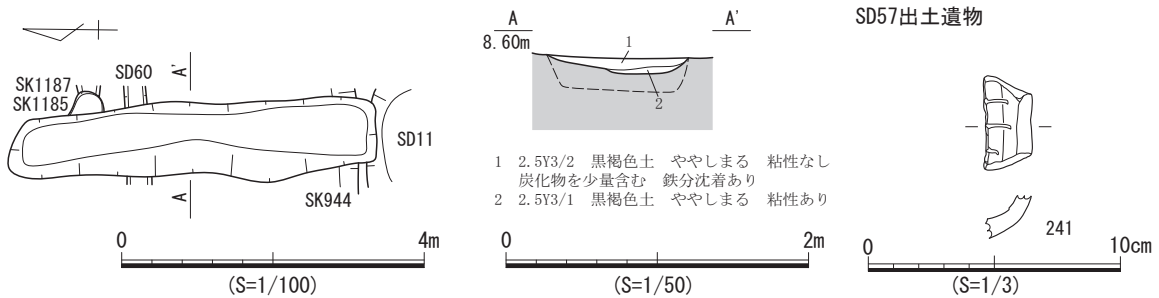
SD56



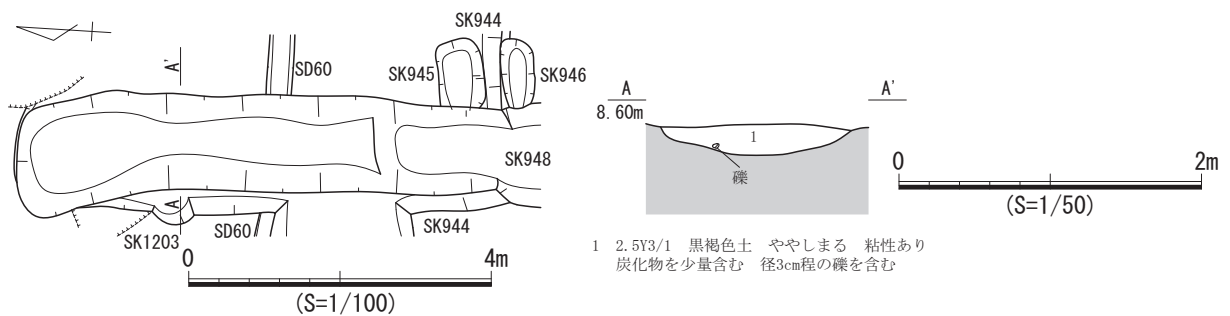
SD56出土遺物



SD57



SD58



SD58出土遺物

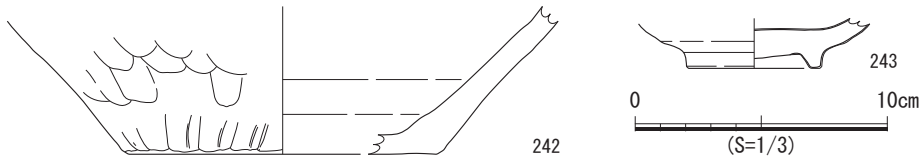


図86 SD56~SD58遺構図、出土遺物実測図

A 2 b類、246は分類不明の土師器皿である。247は尾張型第4型式の碗で、底部外面に墨書があるが積読は不能である。248は尾張型第4型式の小碗である。249は尾張型第6型式の小皿である。250は大畑大洞4号窯式の小皿である。251、252はIV類の白磁の碗である。253、254は管状土錘である。

時期 出土遺物と本遺構より古いSD65から大窯第1段階の播鉢(277)が出土していることから、15世紀後葉以降のものとする。

SD62 (図88~91)

検出状況 DN12~DS15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SA13-P1、SA13-P2、SD43等より古く、SK780、SK1247より新しい。

規模・形状 DQ14グリッド付近で緩やかに西に屈曲し、DN13グリッド付近でほぼ直角に西へ屈曲するL字の溝である。長軸方位は南北溝でDQ14グリッド付近の屈曲の北側がN-32°-W、南側N-7°-W、東西溝がN-87°-Eである。東西溝の延長線上にあるSD66と向きや埋土、深さが類似しており、本来は同一遺構であった可能性がある。屋敷①の北辺と東辺となる溝である。最大幅2.40m、深さは0.24mで断面形は概ね逆台形であるが、A-A'は2段の掘り込みである。DN13グリッド付近には段差があり、東西溝の方が南北溝より一段高い。

埋土 1層~3層に分層した。ほぼ水平に堆積する。堆積状況は不明である。壁面の傾斜が変換する位置でA-A'1層と2層の層界が認められるため、掘り直しを行った可能性がある。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器414点、須恵器47点、灰釉陶器11点、山茶碗291点、瀬戸美濃産陶器42点、常滑産陶器187点、中国産陶磁器7点、土製品5点、石製品3点、種子3点がそれぞれ散在して出土した。このうち、ロクロ土師器(255)、土師器皿(257)、古瀬戸の縁釉小皿(265、268)、常滑産の甕(272)、砥石(274、275)が底面に接した状態で出土した。

出土遺物 土師器3点(255~257)、須恵器1点(258)、灰釉陶器1点(259)、山茶碗4点(260~263)、瀬戸美濃産陶器7点(264~270)、常滑産陶器2点(271、272)、土製品1点(273)石製品3点(274~276)を図示した。255はロクロ成形の土師器の台付小皿である。256は中世前期土師器皿B1a類、257は中世後期土師器皿C1類である。258は美濃須衛V期第1小期の有台坏身で底部外面にヘラ記号がある。259は丸石2号窯式の皿である。260は谷迫間2号窯式、261は尾張型第6型式の碗である。262は尾張型第5型式、263は尾張型第6型式の小皿である。264~268は古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿で、264は灰釉、265~268には鉄釉が施される。269は古瀬戸後III期の碗型鉢である。270は古瀬戸後IV期古段階の播鉢である。271は10型式の常滑産の片口鉢で内面の使用痕が顕著である。272は10型式の常滑産の甕である。肩部付近は接合しないが、いずれの破片も遺構の底面から近接して出土したため、同一個体の可能性が高い。底部の内面と外面には、割れた範囲の上に布をあて、その上から漆を塗った状態が認められ、修理をしたことが分かる。273は管状土錘である。274と275は砥石である。274は砥面の範囲が狭く、欠損している。欠損した面には全体に被熱痕が認められる。276は温石で、横断面の形状から石鍋の体部から底部にかけての範囲を加工して再利用したと考える。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀中葉のものとする。

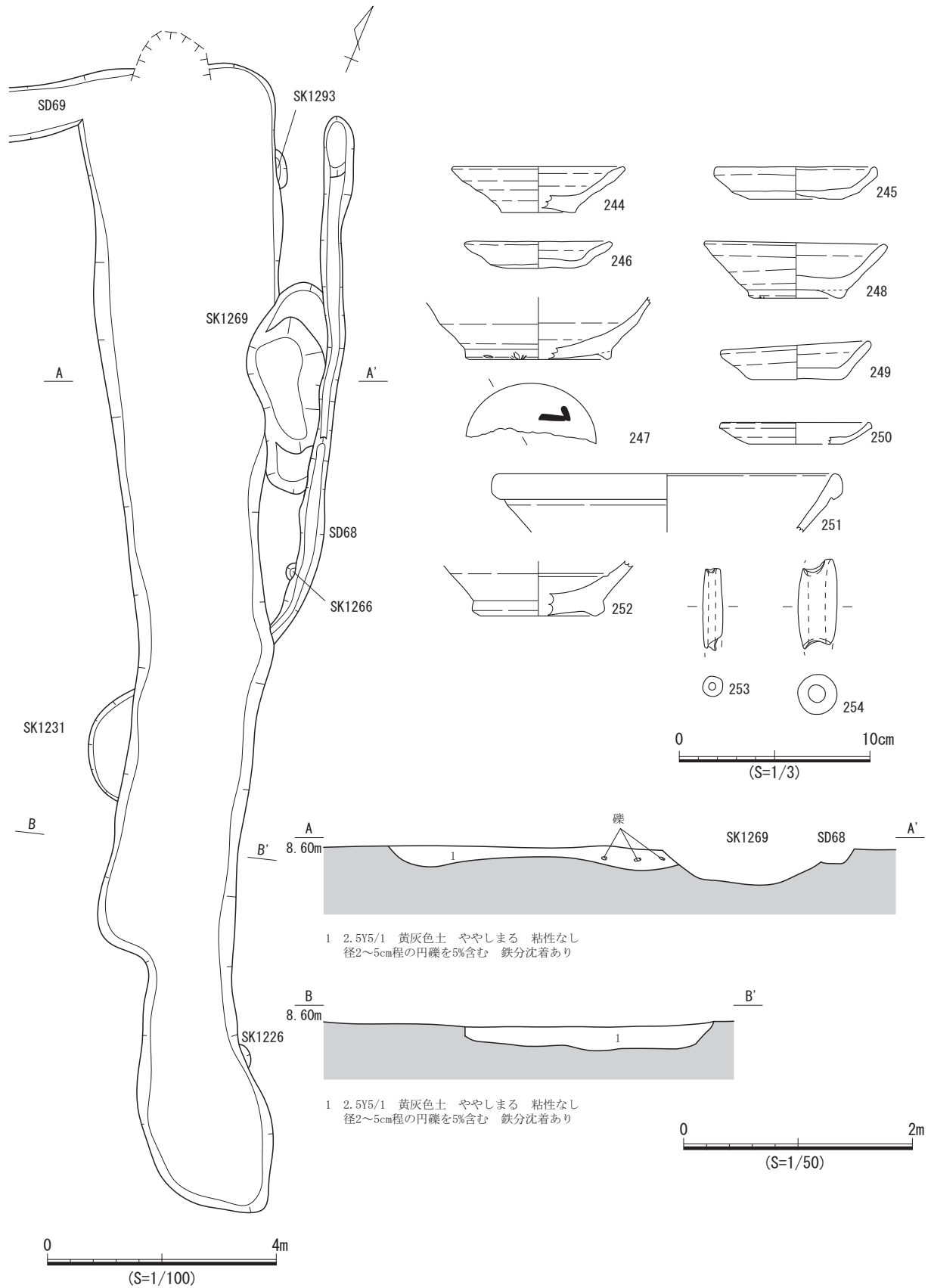


図87 SD61遺構図、出土遺物実測図

SD65 (図92)

検出状況 D014~DP15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD68、SK1265より古い。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。北端はSD68と重複する。SK1265と重複し南北が断絶するが、幅や埋土が類似することから同一の遺構と判断した。長軸方位はN-15°-Wで、約0.5m西に位置するSD61とほぼ同じである。最大幅0.35m、深さ0.13mで、断面形は逆台形である。

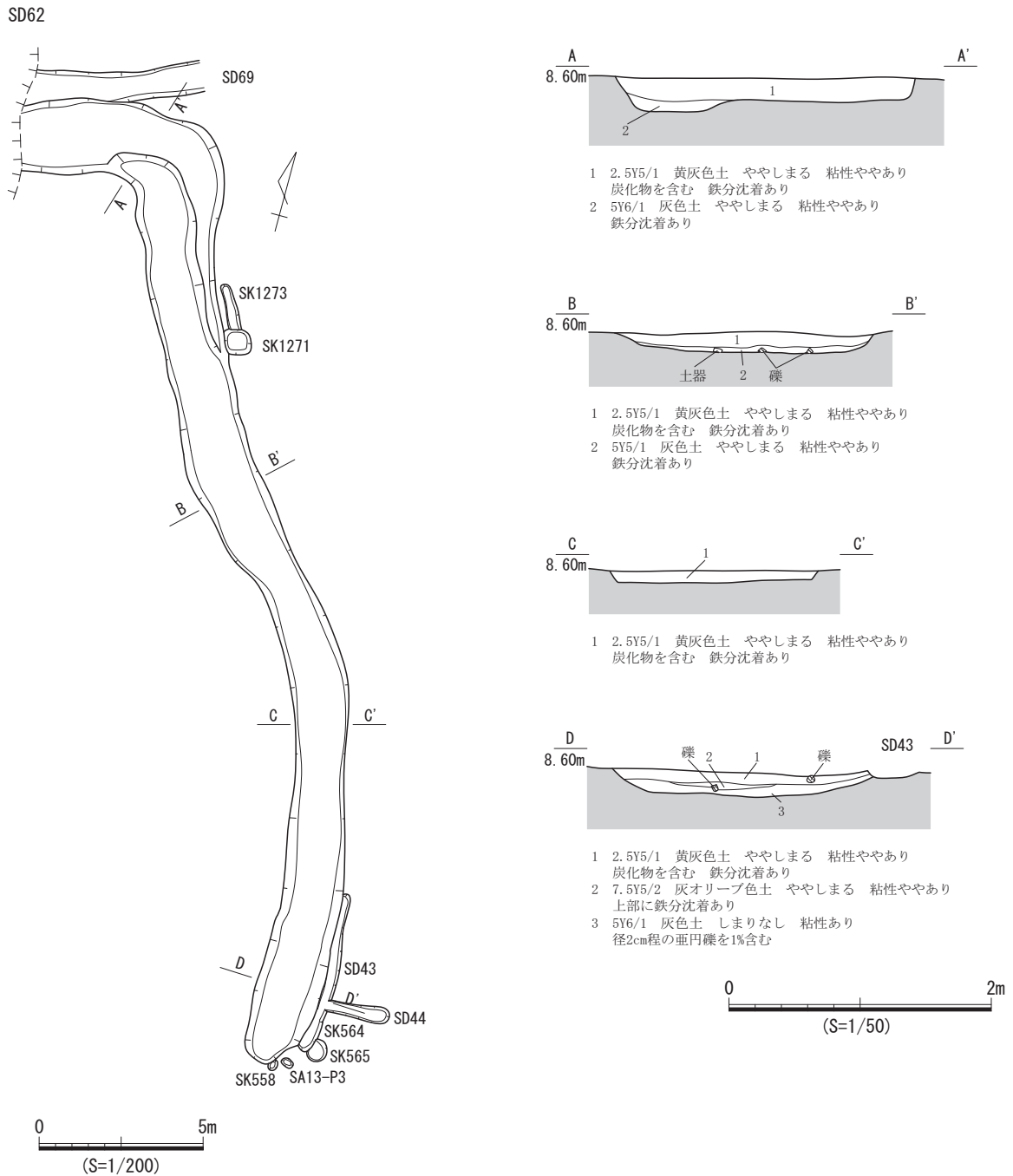


図88 SD62遺構図 1

遺物出土状況

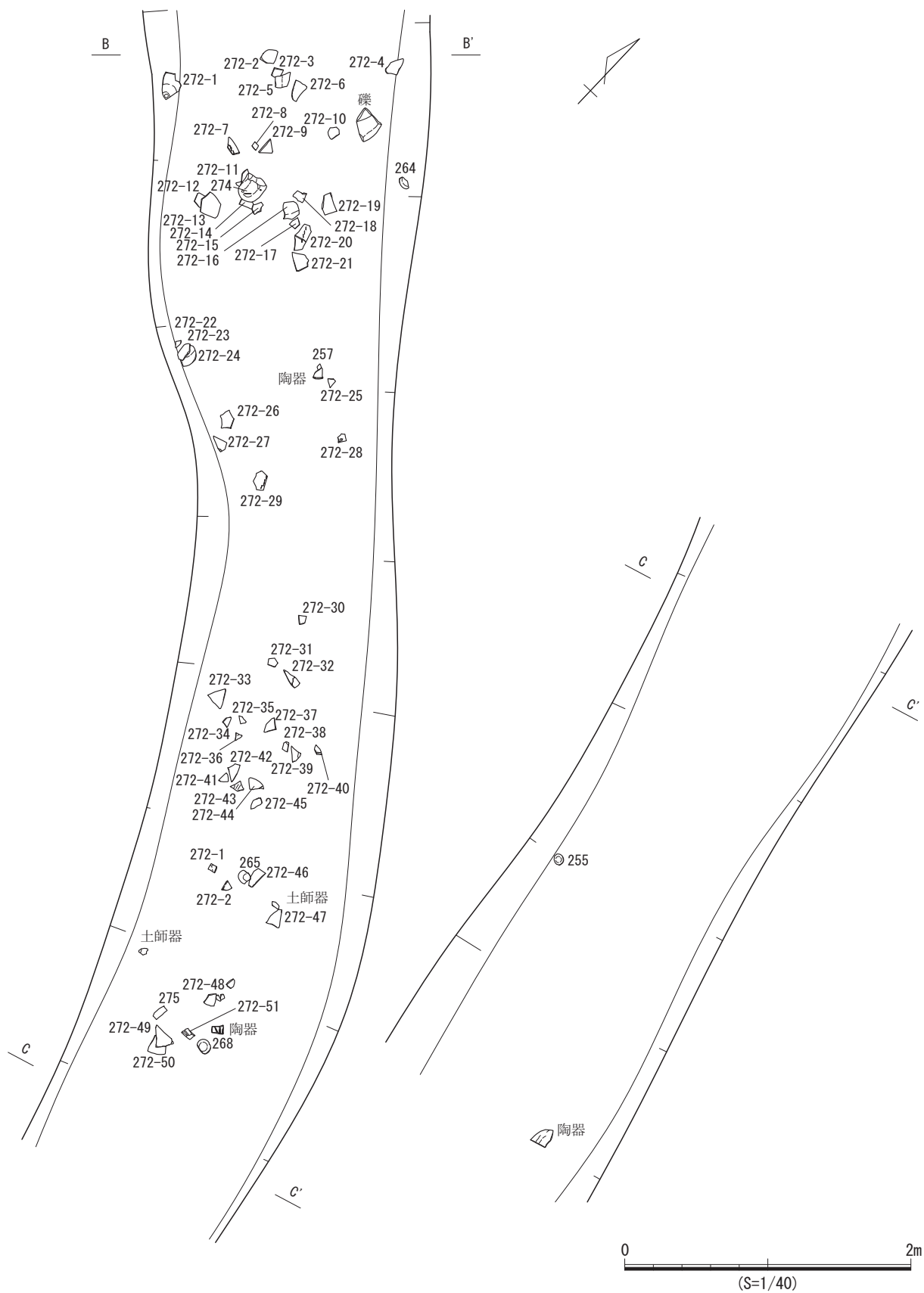


図89 SD62遺構図 2

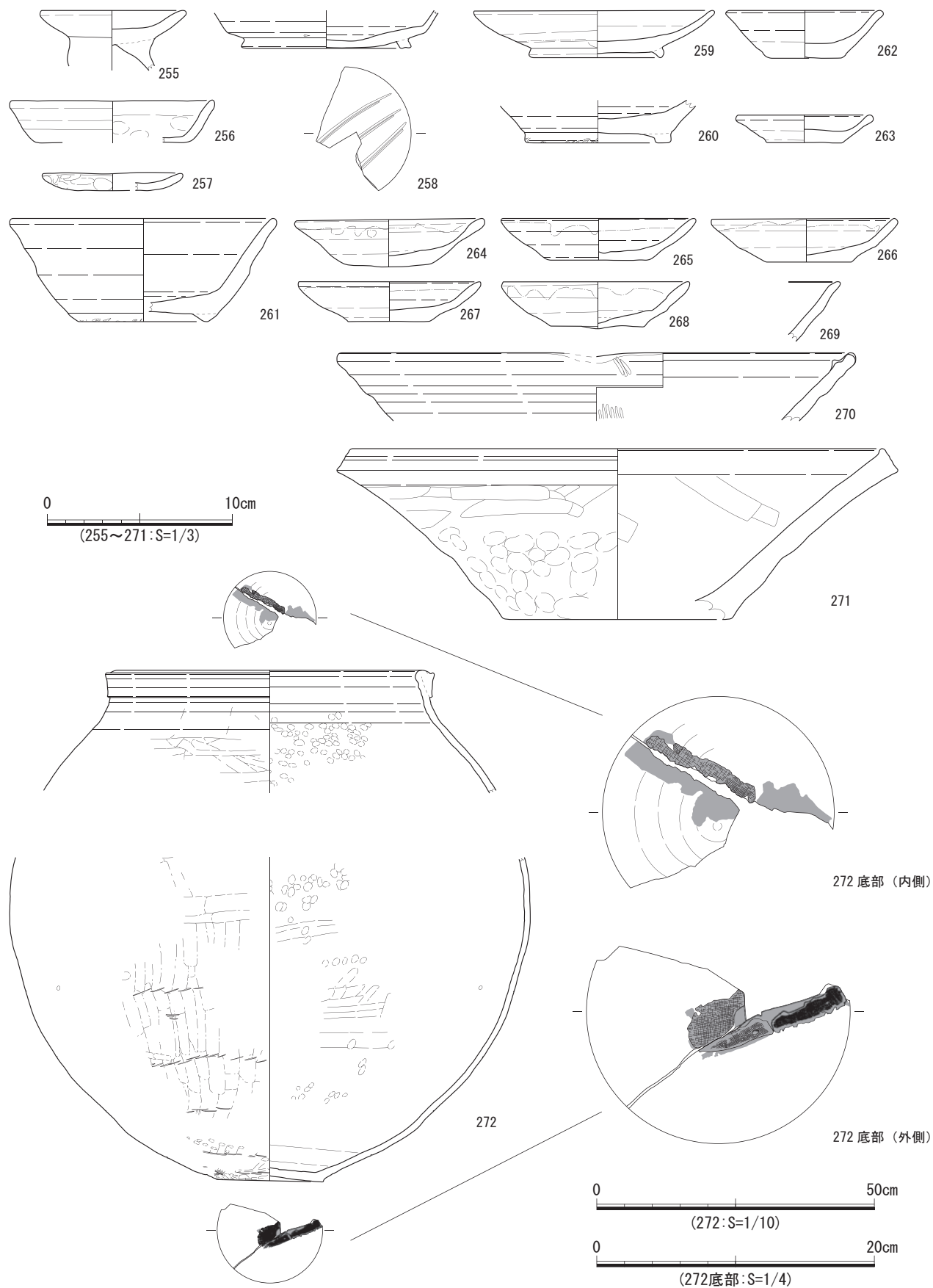


図90 SD62出土遺物実測図 1

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗3点、瀬戸美濃産陶器1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 大窯第1段階の播鉢(277)を図示した。

時期 出土遺物から、15世紀後葉から16世紀前葉のものとする。

SD66 (図92)

検出状況 D09グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。南側と東側を攪乱により掘り込まれる。長軸方位はN-78°-Eで、延長線上にあるSD62の東西溝と向きや埋土、深さが類似しており、本来は同一遺構であった可能性がある。屋敷①の北辺と西辺となる溝である。最大幅0.51m以上、深さ0.09mで、断面形は不明である。

埋土 確認できる範囲では単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、須恵器1点、山茶碗1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

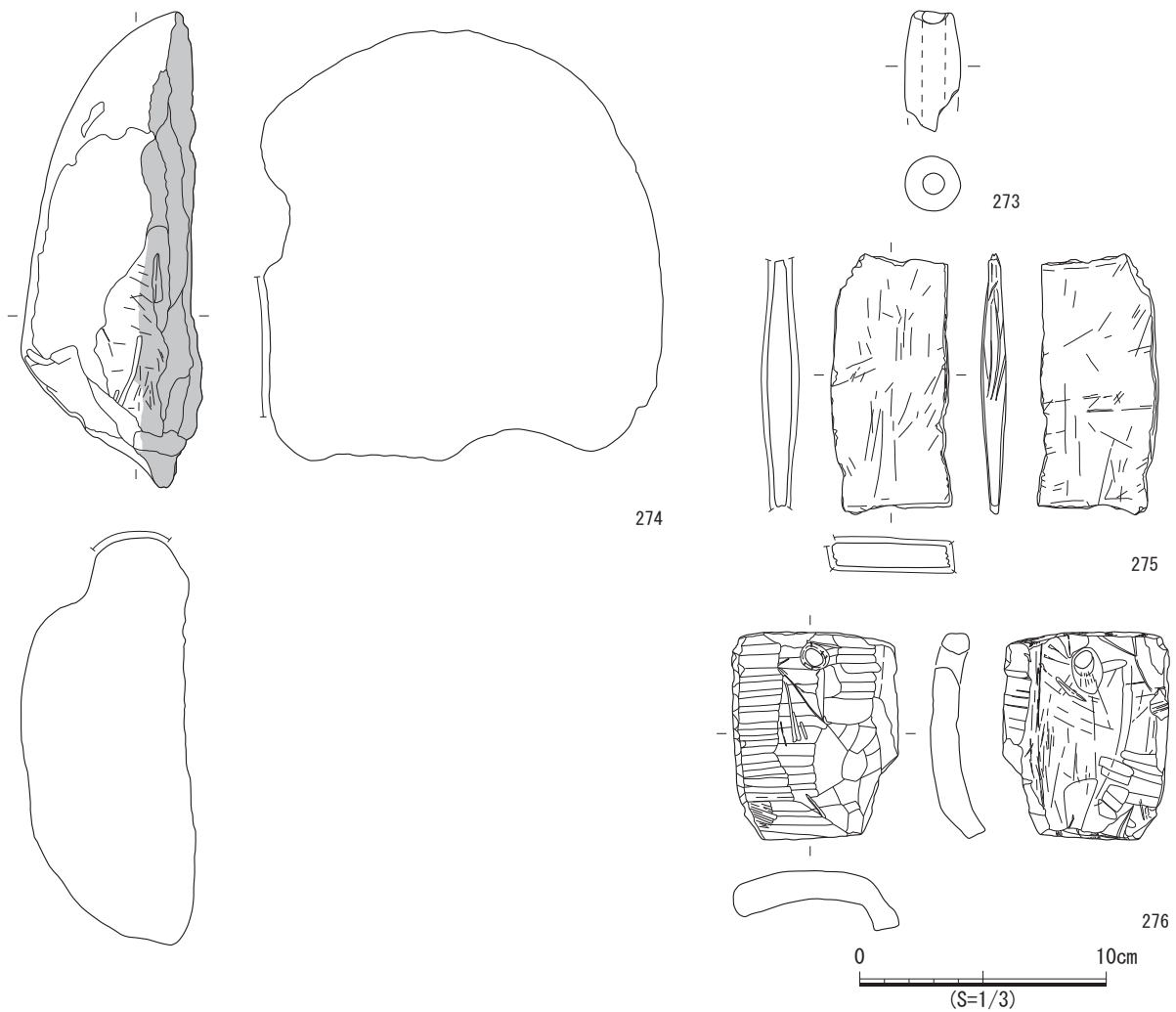


図91 SD62出土遺物実測図 2

時期 SD62と同一遺構の可能性があり、15世紀中葉のものとする。

SD68 (図92)

検出状況 DM・D014グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD61、SK1266、SK1269等より古く、SD65より新しい。

規模・形状 南北方向に延びる溝である。南端はSD61と重複する。長軸方位はN-15°-WだがD014グリッド付近で西側にやや屈曲する。最大幅0.20m、深さ0.32mで、断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器14点、須恵器1点、山茶碗27点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器5点、中国産陶磁器1点、土製品1点、石製品1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 丸石3型式の山茶碗の碗(278)を図示した。

時期 出土遺物と本遺構より古いSD65から大窯第1段階の播鉢が出土していることから、15世紀後葉以降のものとする。

SD86 (図92)

検出状況 DI10~11グリッド、I b層基底面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 南北方向に延びる溝で、長軸方位はN-39°-Wである。最大幅0.39m、深さ0.06mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、山茶碗1点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 山茶碗が出土していることから、11世紀後葉以降のものとする。

SD87 (図92)

検出状況 DI6~8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD88、SK1586、SK1590等より古く、SK1589より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。西端はSD88と重複する。長軸方位はN-88°-Eである。最大幅0.59m、深さ0.11mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

遺物出土状況 埋土から土師器40点、須恵器11点、灰釉陶器2点、山茶碗13点がそれぞれ散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の盤(279)と尾張型第5型式の山茶碗の碗(280)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SD88 (図93)

検出状況 DI4~6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD87、SK1607、SK1608等より新しい。

規模・形状 東西方向に延びる溝である。長軸方位はN-86°-Eである。最大幅0.78m、深さ0.11mで、断面形は皿状である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。流水の痕跡は認められなかった。

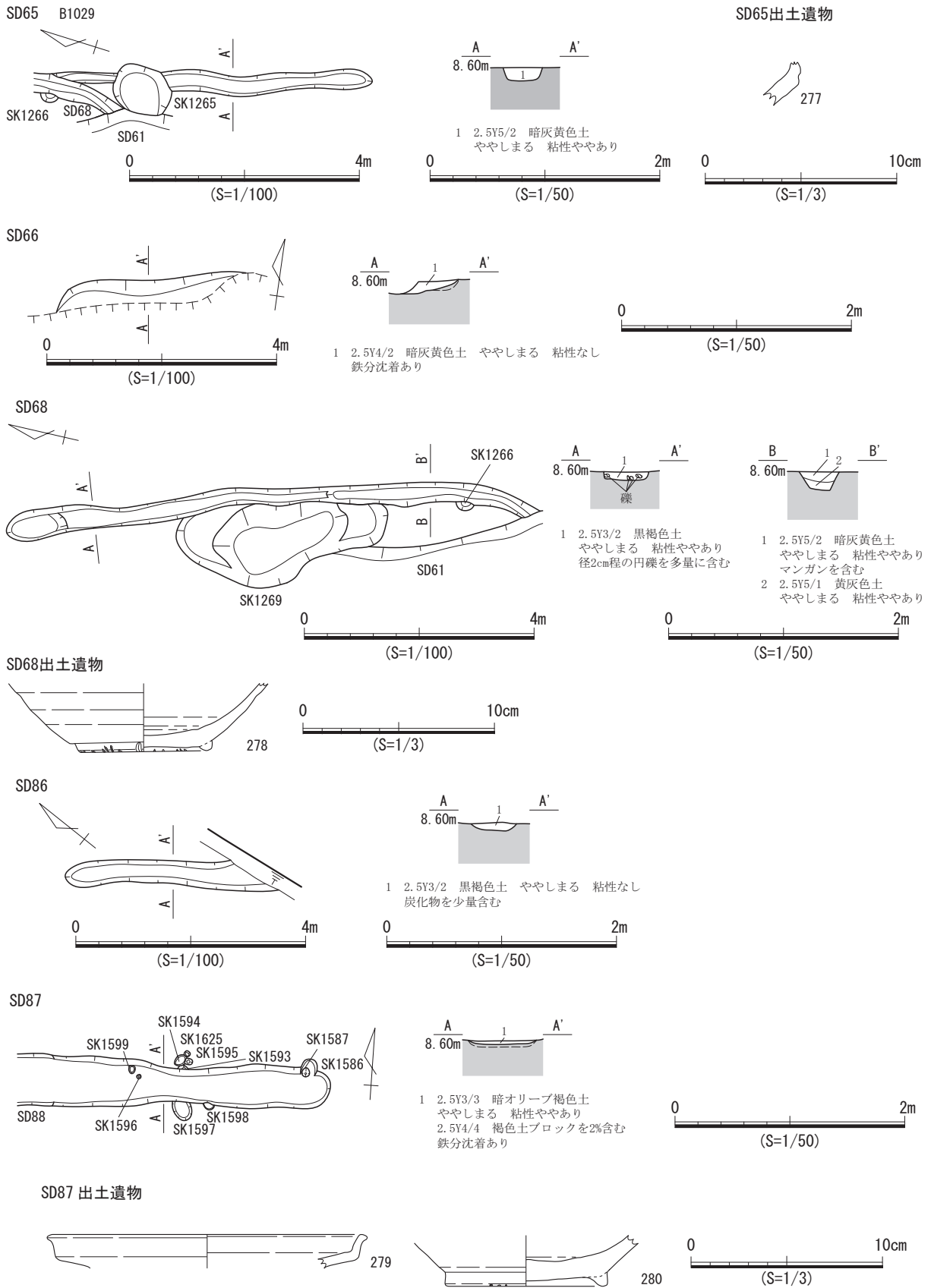


図92 SD65・SD66・SD68・SD86・SD87遺構図、出土遺物実測図

遺物出土状況 埋土から土師器5点、須恵器6点、灰釉陶器4点、山茶碗25点がそれぞれ散在して出土した。このうち山茶碗の碗（282）が底面に接した状態でやや傾いて出土した。

出土遺物 美濃須衛第3期の山茶碗の碗（281、282）を図示した。282の見込には「×」のヘラ記号がある。

時期 出土遺物の最新型式とSD87から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土していることから、12世紀後葉以降のものとする。

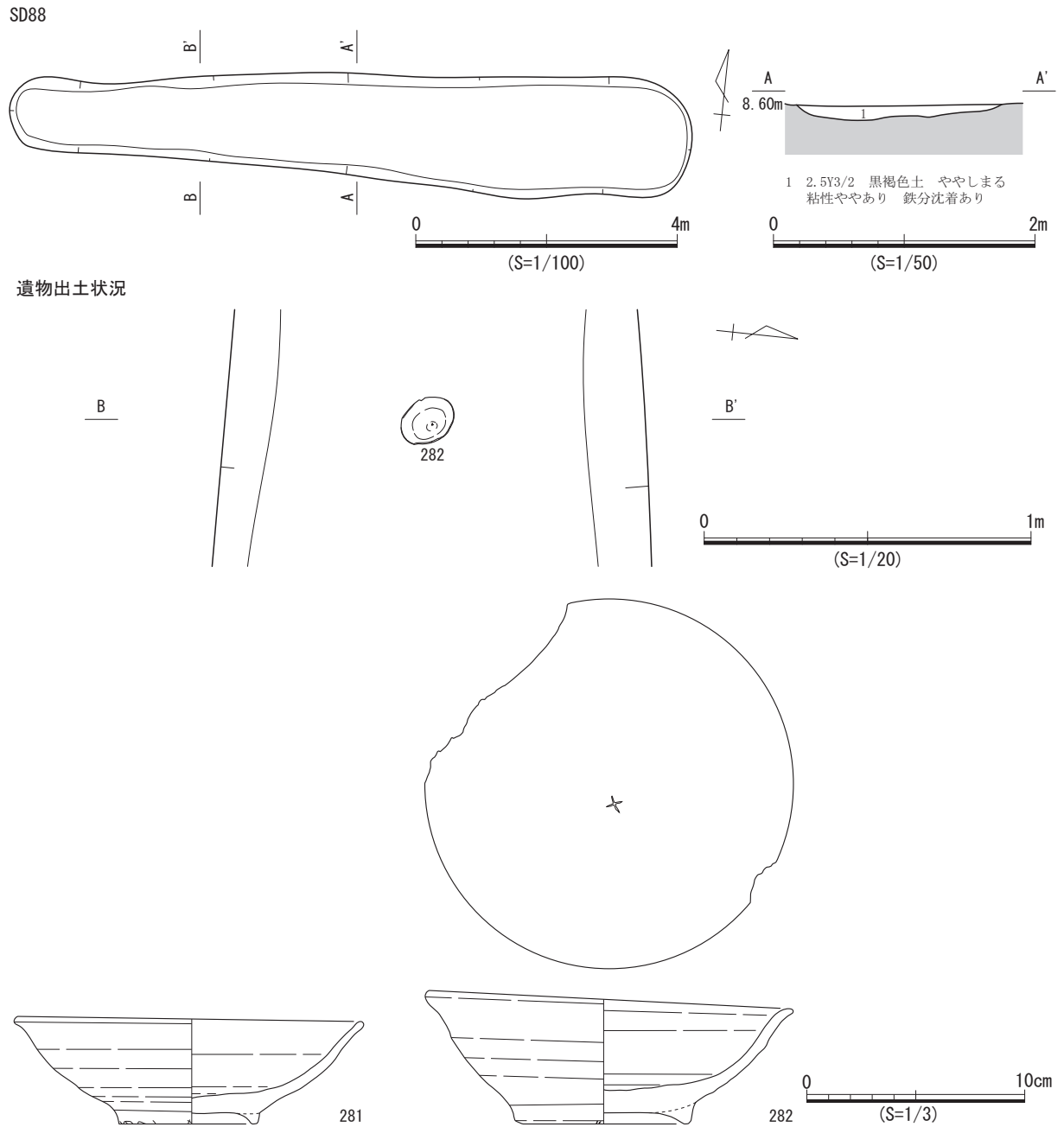


図93 SD88遺構図、出土遺物実測図

5 井戸

SE 1 (図94~95)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD40、SK809、SK822より新しい。

規模・形状 平面形はほぼ円形で、直径2.00m、深さは0.64mである。集水施設や井戸枠、地上施設は確認できなかったが、堀方埋土を確認したことや、その内側に平面形が楕円形で、長軸長0.84m、短軸長0.60m、深さ0.30mのほぼ垂直に立ち上がる埋土を確認したことから、井戸と判断した。

構造 埋土を6層に分層した。1層～4層は廃絶後の堆積で、5層、6層は堀方埋土と判断した。3層が、5層を掘り込むような堆積状況を示すため、1層～3層は廃絶後の掘り込みの埋土、もしくは井戸枠を抜き取る際の掘り込みの埋土の可能性がある。4層と5層・6層の層界の立ち上がりはほぼ垂直だが、北側ではやや緩やかである。また、4層上面の平面形は楕円形であることや、4層と5層・6層との間に井戸枠が確認できないことから、機能時の形状を保ったままではなく、集水施設や井戸枠を抜き取った跡の可能性もある。4層は5層・6層と土色は似るが、しまりはない。

付属施設 P1～P4を井戸の周囲で検出した。重複関係からP3はSK813より新しい。桁行1間(2.24m)、梁行1間(1.8m)で、井戸の覆屋と考える。長軸方位は、N-16°-Wである。P1のみ柱痕跡を確認した。

遺物出土状況 井戸の埋土から土師器241点、須恵器5点、灰釉陶器7点、山茶碗158点、常滑産陶器16点、中国産陶器4点、石製品1点、木製品47点が出土した。4層を約10cm掘り下げたところで容器の蓋板もしくは底板(291)が平らな面を上に向けて、漆皿(290)が逆位で出土した。さらに掘り下げると容器の蓋板もしくは底板(292)が側面を上に向けて傾いた状態で、曲物の側板の破片(293)が内面を上に向けて出土した。また、底面付近で漆皿(289)が出土した。曲物は集水施設や井戸枠の一部であった可能性があるが、詳細は不明である。P1の埋土から土師器1点、P2の埋土から土師器16点、須恵器1点、山茶碗1点、P3の埋土から土師器1点、山茶碗1点、P4の埋土から土師器17点、山茶碗6点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A2c類(283)、尾張型第5型式(284)と尾張型第6型式(285)の山茶碗の碗、尾張型第6型式の山茶碗の小皿(286)、10型式の常滑産の片口鉢(287)、白磁皿Ⅳ～Ⅵ類(288)、漆皿(289、290)、容器の底板もしくは蓋板(291、292)、曲物の側板(293)を図示した。287はSK427や包含層から出土した破片と接合した。290の底部外面には6本の線刻が格子状に施され、所有印と考えられる。291、292の表面と裏面には切削痕が認められる。切削痕の断面形は弧を描くように凹むことから、ヤリガンナによる加工と考える。293は側板を固定した樹皮が残存し下部には底板を取り付けるために木釘を打ちつけたと考えられる円形の孔が2か所確認できる。

時期 出土遺物の最新型式と、重複するSD40とSK813から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、15世紀前半のものとする。

SE 2 (図96~97)

検出状況 DQ13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1019より古い。

規模・形状 平面形はほぼ円形で、直径2.04m、深さ0.55mである。堀方埋土を確認し、その内側に

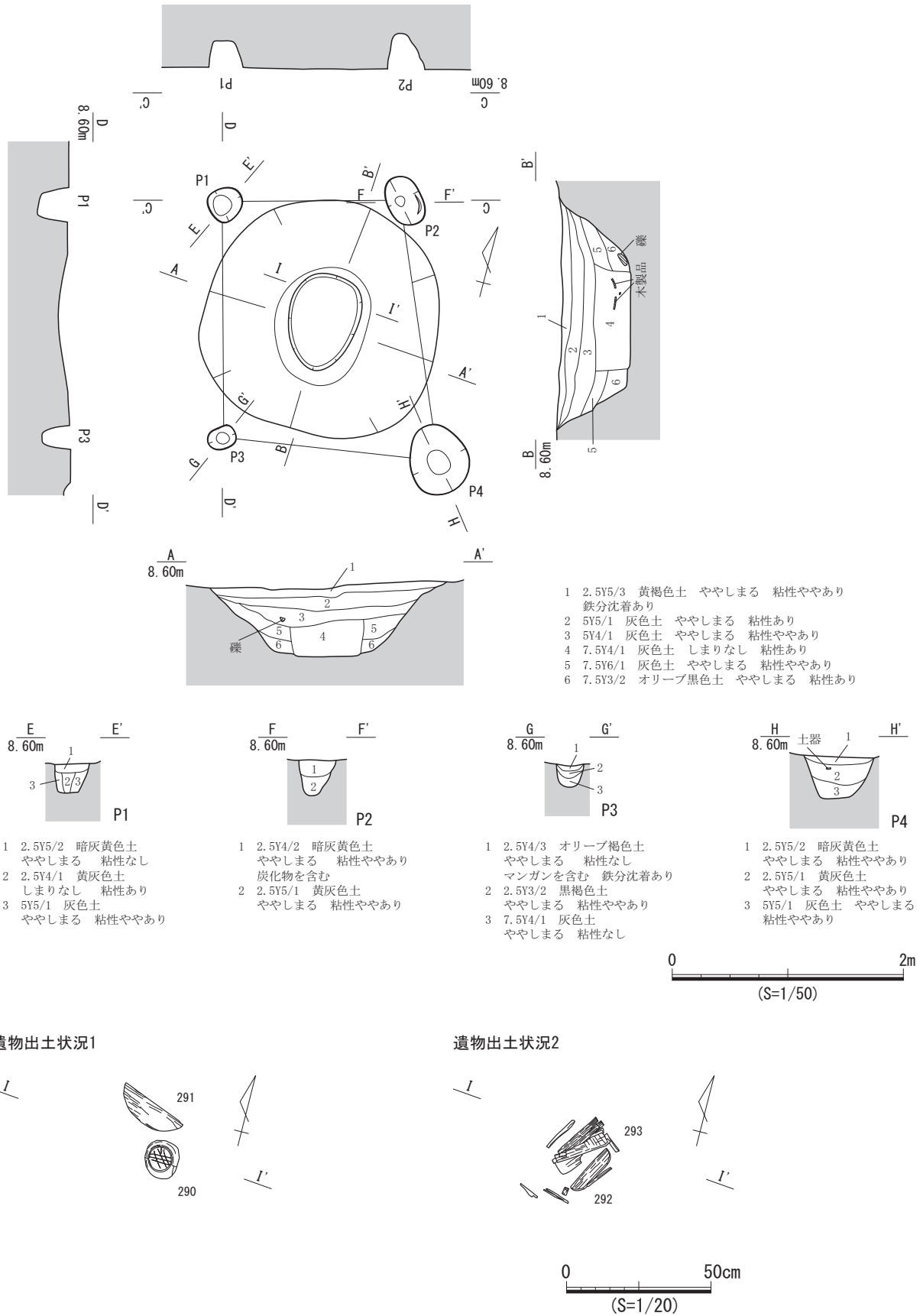


図94 SE 1 遺構図

平面形が楕円形で、長軸長0.60m、短軸長0.44m、深さ0.05mのほぼ垂直に立ち上がる埋土と井戸枠を確認したため、井戸と判断した。地上施設は確認できなかった。

構造 埋土を5層に分層した。1層～3層は廃絶後の堆積で、4層、5層を機能時の堆積と判断した。2層と3層・4層との層界に傾斜変換点が認められることから、1層と2層は廃絶後の掘り込みの埋土、もしくは井戸枠を抜き取る際の掘り込みの埋土の可能性はある。3層と4層の層界の立ち上がりはほぼ垂直で、3層は井戸枠内埋土、4層は堀方埋土である。5層は井戸を構築する際に敷いた土で

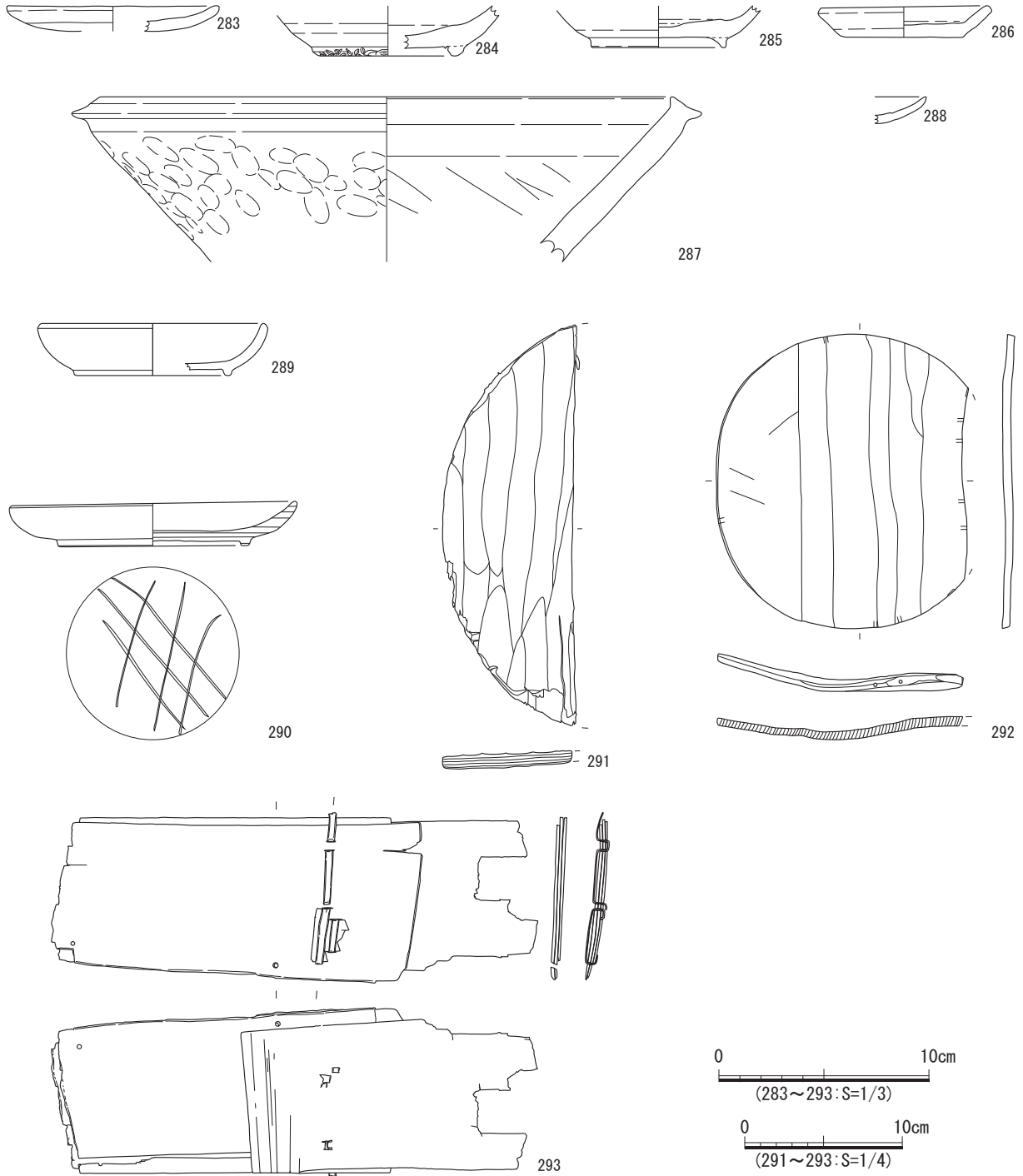
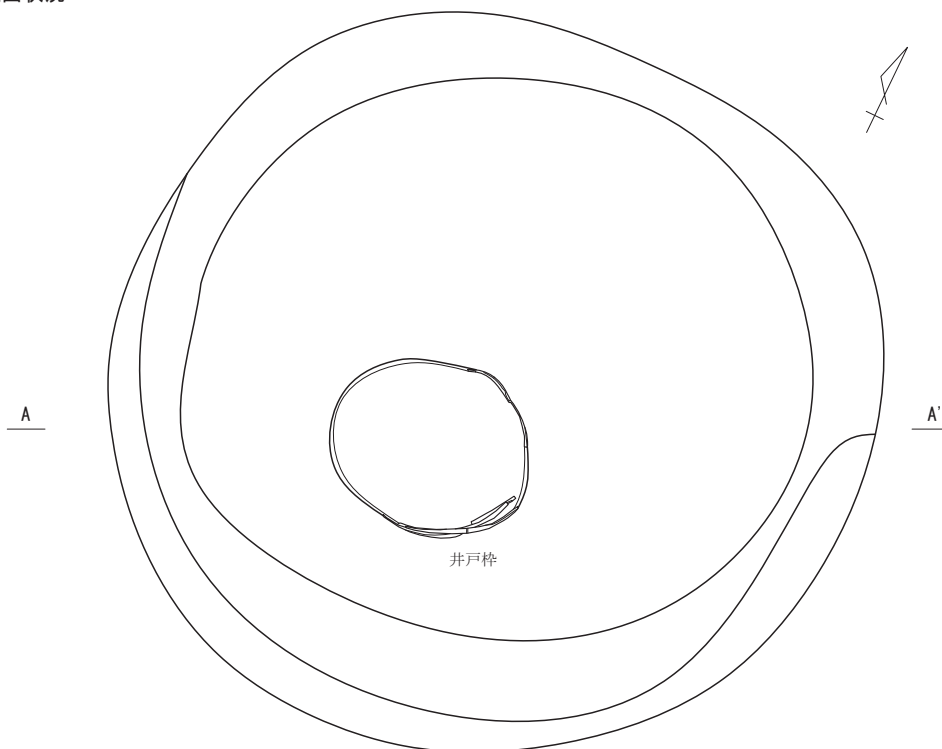


図95 SE 1 出土遺物実測図

SE 2 井戸枠検出状況



SE 2 完掘状況

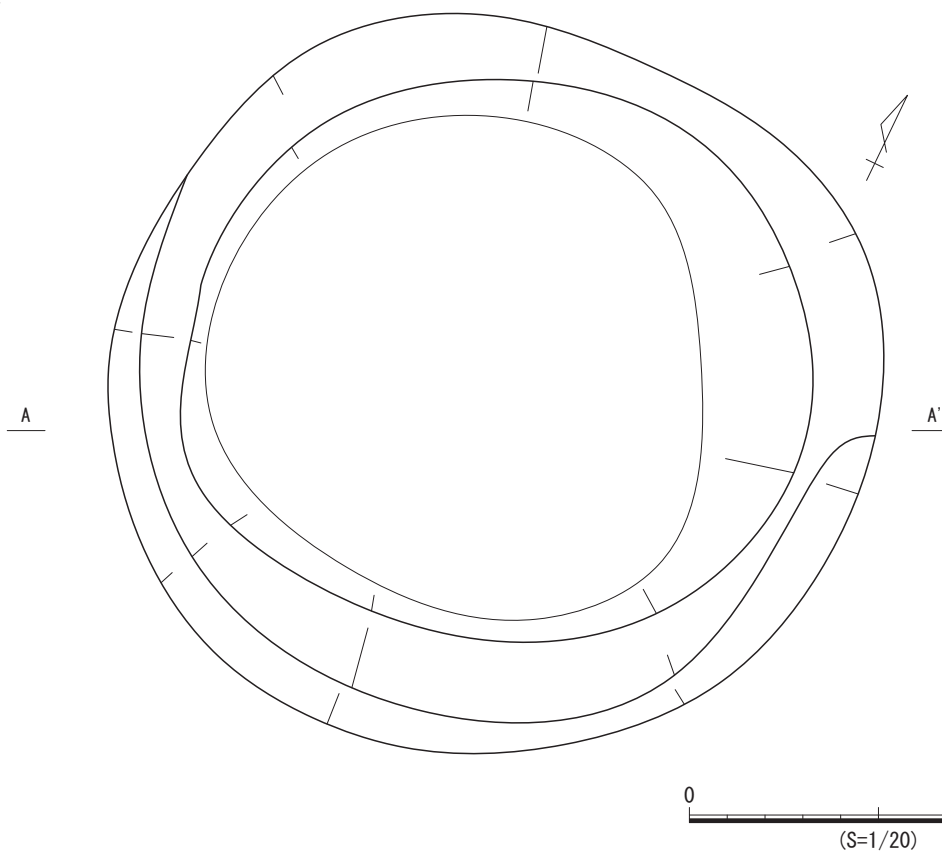


図96 SE 2 遺構図 1

SE 2 土層断面図

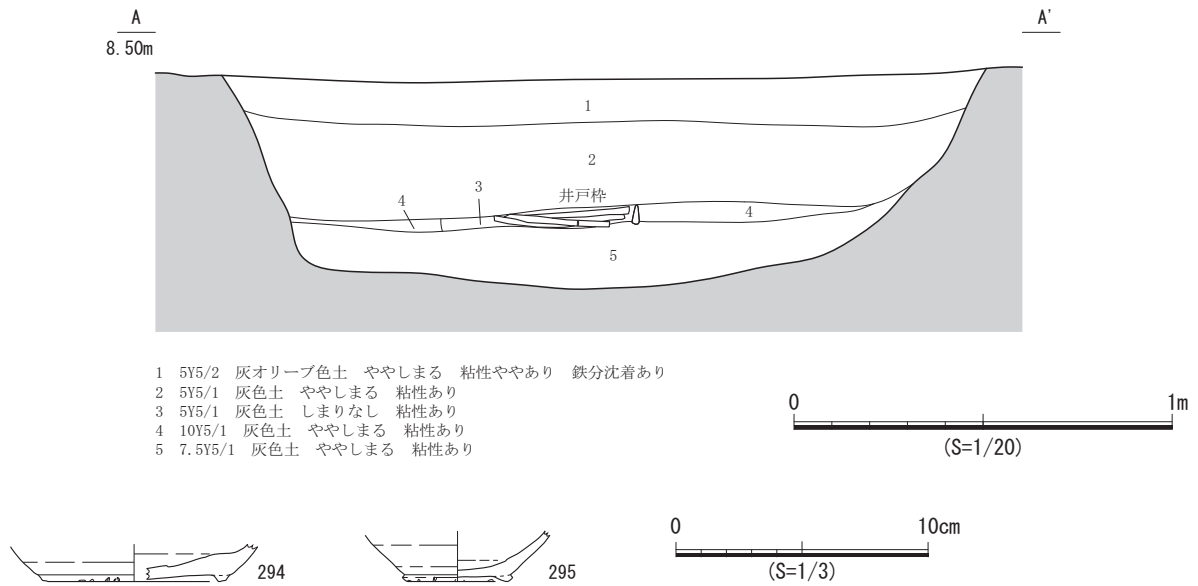


図97 SE 2 遺構図 2、出土遺物実測図

ある可能性があるが、粘性があり詳細は不明である。3層が堆積していた範囲の中央付近の位置で、5層から小口を上に向けた状態の竹が出土した(図版19)。井戸を廃絶する際の祭祀に用いられた可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器115点、須恵器2点、灰釉陶器2点、山茶碗95点、常滑産陶器4点、中国産陶磁器2点、土製品1点、木製品1点が出土した。3層と4層の間からは竹材が編まれたような状態で出土し、桶等の容器のたがと考える。井戸枠や集水施設として用いた桶等の容器を抜き取った際に脱落した可能性がある。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗(294)、明和1号窯式～大畑大洞4号窯式の子茶碗の碗(295)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から13世紀中葉から14世紀前葉のものとする。

6 土坑

SK28 (図98)

検出状況 EF 8～9 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長3.80m、短軸長1.66m、深さ0.11mで、平面形は東西方向に長い不整隅丸長方形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器9点、山茶碗9点、中国産陶磁器2点、炭化物2点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物から中世のものとする。

SK91 (図98)

検出状況 ED 8～9 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長1.05m、短軸長1.00m、深さ0.51mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。周辺の遺構と比べて深いため、井戸として機能していた可能性がある。

埋土 6層に分層した。概ね中央が窪む堆積である。1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換するため、1層は別遺構の可能性がある。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗3点が散在して出土した。

出土遺物 土師器の甕の口縁部の破片(296)と尾張型第3型式の山茶碗の碗(297)を図示した。297は内面に使用痕と墨痕が認められ、硯として使用された可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式から、11世紀後半から12世紀前葉のものとする。

SK100 (図98)

検出状況 ED 7 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK105より古く、SK113より新しい。

規模・形状 長軸長2.23m、短軸長1.23m、深さ0.26mで、平面形は東西方向に長い楕円形である。断面形は概ね逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪む堆積である。ブロック土や帯状に炭化物が集中する部分があることから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器30点、山茶碗5点、瀬戸美濃産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 生田2号窯式の山茶碗の碗(298)を図示した。底部外面に積読不能の墨書がある。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀後半のものとする。

SK121 (図99～102)

検出状況 EB15～EC16 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD1、SK122より古い。

規模・形状 長軸長5.34m、短軸長4.70m、深さ0.74mである。東端は発掘区外に広がり、平面形は不明である。A-A'から、東側の立ち上がりは発掘区外でも検出範囲に近接した位置にあると考える。断面形は概ね逆台形である。南側にはテラスを有し、立ち上がりは緩やかである。

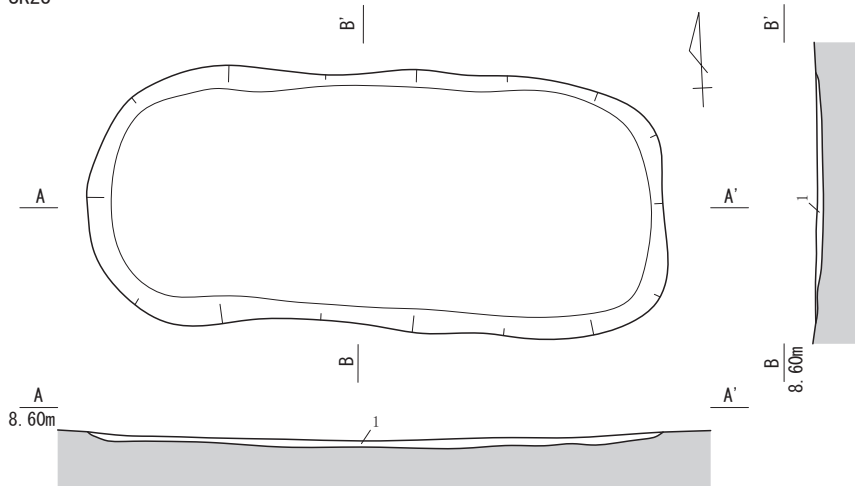
埋土 14層に分層した。ほとんどの層に炭化物を多量に含み、しまりがなく、粘性がある類似した土質の埋土である。また、埋土中には多数の遺物を含む。338の山茶碗の碗は1層と4層、342の山茶碗の碗は4層と13層から出土した破片同士が接合したことから、短期間に人為的に埋められたと考える。廃棄土坑と考えられる。

遺物出土状況 埋土から土師器類1038点、須恵器8点、灰釉陶器17点、山茶碗614点、常滑産陶器12点、中国産陶磁器51点、土製品4点、石製品1点、金属製品1点、木製品32点、種子2点が散在して出土した。

出土遺物 土師器29点(299～327)、灰釉陶器4点(328～331)、山茶碗18点(332～349)、常滑産陶器1点(350)、中国産陶磁器14点(351～363)、木製品3点(364～366)、金属製品1点(367)を図示した。299はロクロ成形の土師器の碗である。300は器壁が厚く、ロクロ成形の土師器の碗の可能性はある。301は立ち上がりが直線的で、ロクロ成形の台付鉢の可能性はある。302も器壁が厚く、

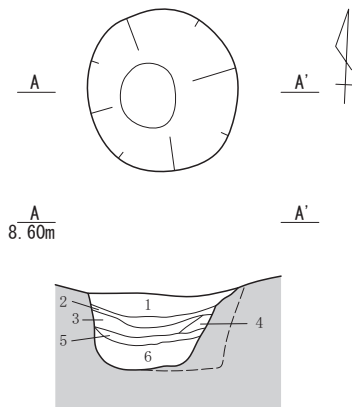
立ち上がりが直線的であることからロクロ成形の台付鉢の可能性はある。破片の端部を外側から打ち欠いた痕跡がある。303～313はロクロ成形の小皿である。小皿は柱状高台が低い303～308、柱状高台がやや高く直線的な309～311、柱状高台が高くハの字状に開く312、313の3種類が認められる。314～318は中世前期土師器皿A 1 a類である。315の内面には漆と考えられる黒色の付着物が認められる。319は中世前期土師器皿A 2 a類、320、321は中世前期土師器皿A 2 b類である。322～324は中世前期土師器皿B 1 a類、325は中世前期土師器皿B 2 a類である。326はA 2類の伊勢型鍋で外面に煤、内

SK28



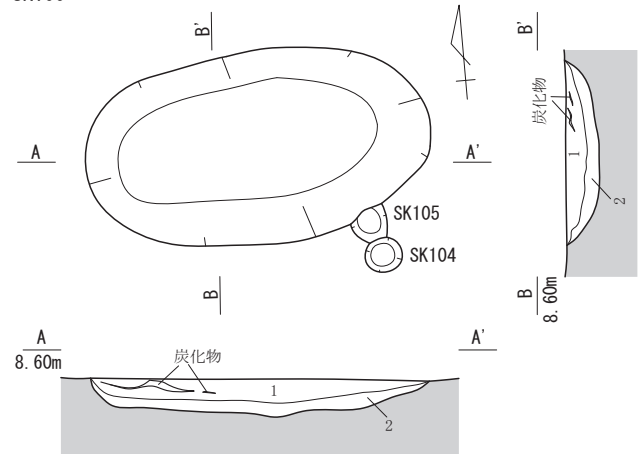
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし 2.5Y4/2 暗灰黄色土ブロックを5%含む
炭化物をやや多量に含む 鉄分沈着あり

SK91



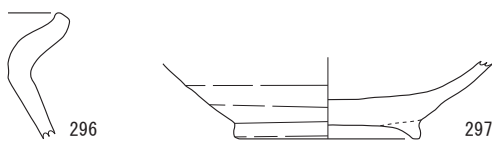
- 1 7.5Y4/1 灰色粘質土 ややしまる 粘性あり
5Y4/3 暗オリーブ粘質土ブロックを5%含む
2 5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 ややしまる 粘性あり
3 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 ややしまる 粘性あり
4 7.5Y4/1 灰色粘質土 ややしまる 粘性あり
5 2.5Y3/1 黒褐色粘質土 ややしまる 粘性あり
6 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 ややしまる 粘性あり
7.5Y4/1 灰色土ブロックを7%含む

SK100



- 1 5Y4/2 灰オリーブ色土 ややしまる 粘性なし
10YR4/3 にぶい黄褐色土ブロックを5%含む
炭化物を多量に含む 鉄分沈着あり
2 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を少量含む

SK91出土遺物



SK100出土遺物

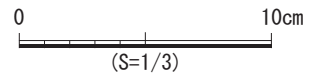
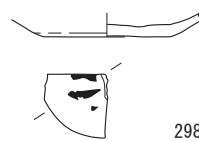


図98 SK28・SK91・SK100遺構図、出土遺物実測図

面にコゲが認められる。また、頸部外面に赤色の付着物があり、朱の可能性もある。327はA3類の伊勢型鍋で、外面に煤、内面にコゲが認められる。328は大原2号窯式、329は西坂1号窯式の碗である。330は西坂1号窯式の輪花碗である。331は丸石2号窯式の段皿である。332は尾張型第3～4型式、333～335は尾張型第4型式、336、337は尾張型第4～5型式、338～346は尾張型第5型式の碗である。336はSK122から出土した破片と接合した。339、342には内外面に煤が付着する。335の内面には漆が認められる。精製漆であることや縮みがないことから意図的に塗られたものとする。また、底部外面に墨書があるものが複数認められる。334は「○」内に「上」と「一」、336、343、344は「上」、341は「ササ（菩薩）」、342は「の」が認められる。345、346は釈読不能で、346は記号の可能性もある。347～349は尾張型第4型式の小碗で、349の内面には漆が認められる。精製漆であることや縮みがないことから意図的に塗られたものとする。350は2～4型式の常滑産の三筋壺である。351はⅡ類、352～354はⅡ～Ⅳ類、355、356はⅣ類の白磁碗である。357はⅤ～Ⅷ類、358～360はⅥ—1b類、361はⅥ～Ⅷ類の白磁皿である。362はⅪ—7類の白磁輪花皿である。363はⅠ—4類の龍泉窯系青磁碗である。364は曲物の底板若しくは蓋板である。側面に木釘が打たれていた痕跡があり、側板が取り付けられていたことが想定される。365、366は箸と考えられ、側面は切削により面取りされる。367は天聖元寶である。篆書で初鑄年は1023年である。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK122 (図103)

検出状況 EB15～EC15グリッド、Ⅲ層上面、SD1の底面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。重複関係からSD1より古く、SK121より新しい。

規模・形状 長軸長2.45m、短軸長1.12m、深さ0.36mで、平面形は東西方向に長く不定形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。1層、2層の堆積が東側壁面に偏り、3層は西側からの崩落土の可能性もある。1層と2層・3層の層界で壁面の傾斜が変換することから1層は別遺構の可能性もある。

遺物出土状況 土師器33点、灰釉陶器2点、山茶碗46点、常滑産陶器4点、中国産陶磁器2点、木製品3点が出土した。

出土遺物 土師器1点(368)、灰釉陶器1点(369)、山茶碗3点(370～372)、中国産陶磁器1点(373)を図示した。368は中世前期土師器皿B1a類で、内面には漆と考えられる黒色の付着物が認められる。369はO-53号窯式～H-72号窯式の広口瓶である。370、371は尾張型第5型式の碗である。370は「□こ」、371は釈読不能の墨書が底部外面に認められる。372は尾張型第4型式の小碗で、内面に粘土積上痕が認められる。373はⅣ類の白磁碗である。

時期 出土遺物の最新型式や、本遺構よりも古いSK121から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土していることから、12世紀後葉以降のものとする。

SK148 (図104)

検出状況 EB12～EC12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK147より古く、SK152より新しい。

規模・形状 長軸長0.44m、短軸長0.43m、深さ0.16mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、瀬戸美濃産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅲ期の卸皿(374)を図示した。

時期 出土遺物から、15世紀前半のものと考えられる。

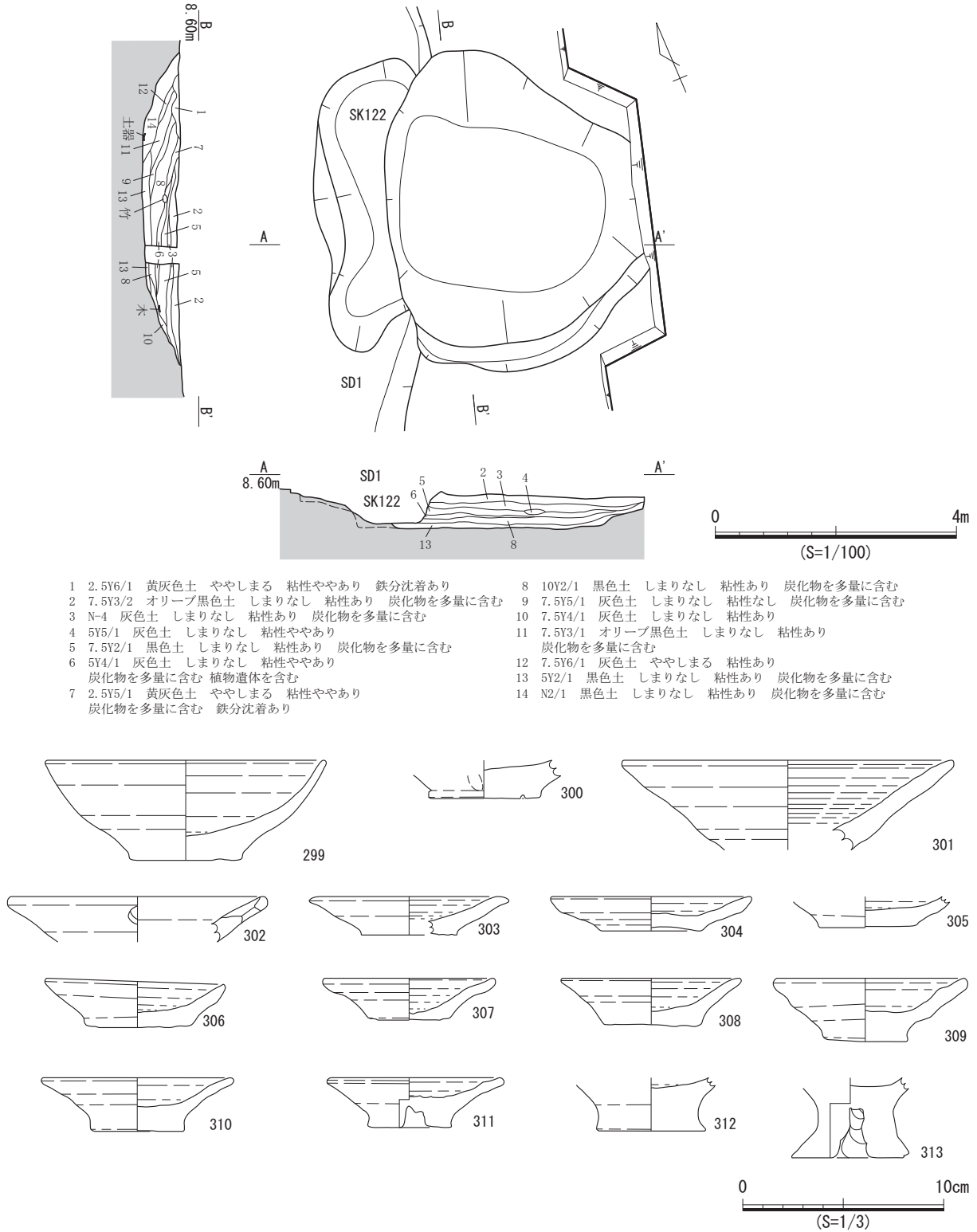


図99 SK121遺構図、出土遺物実測図1

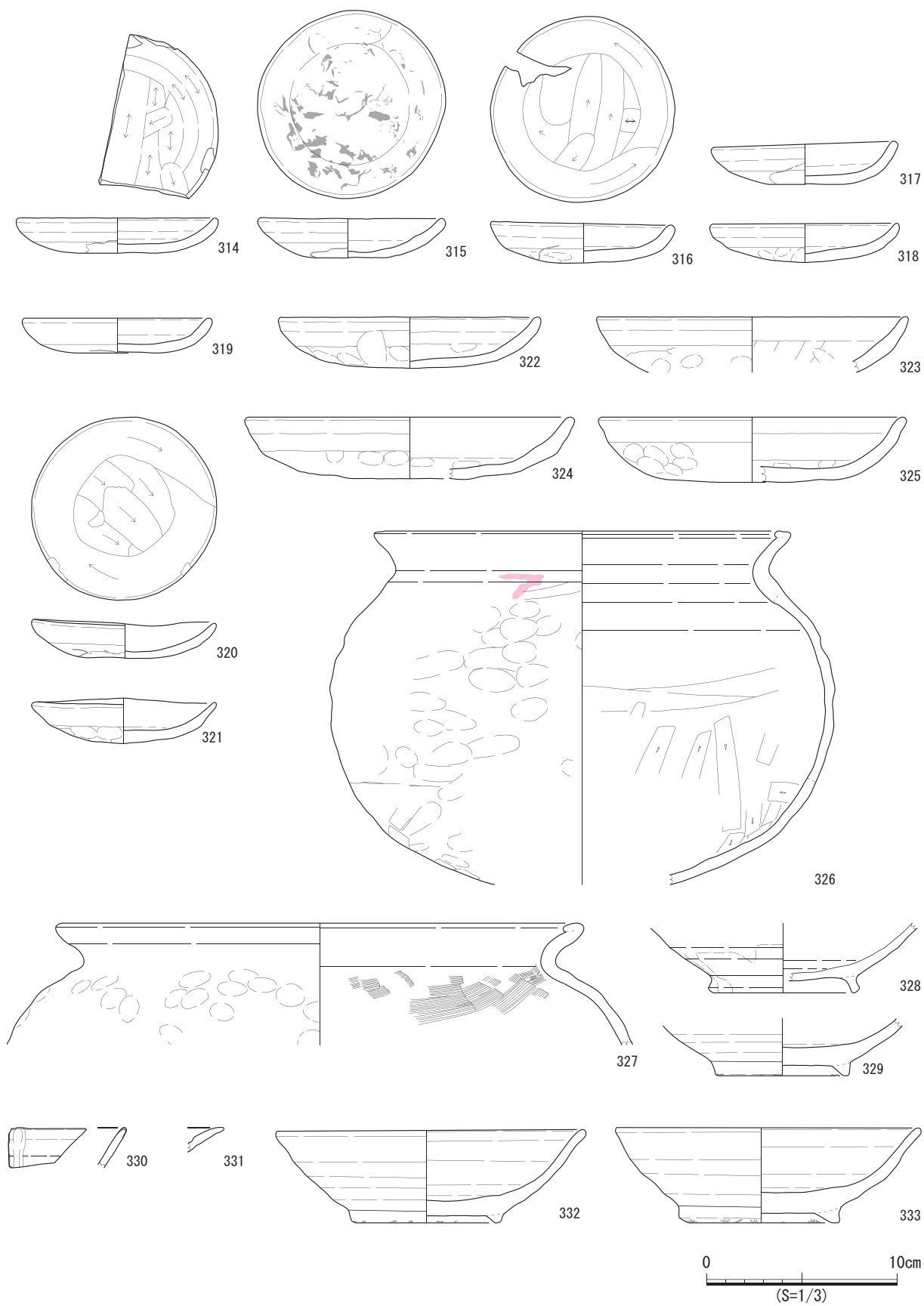


図100 SK121出土遺物実測図2

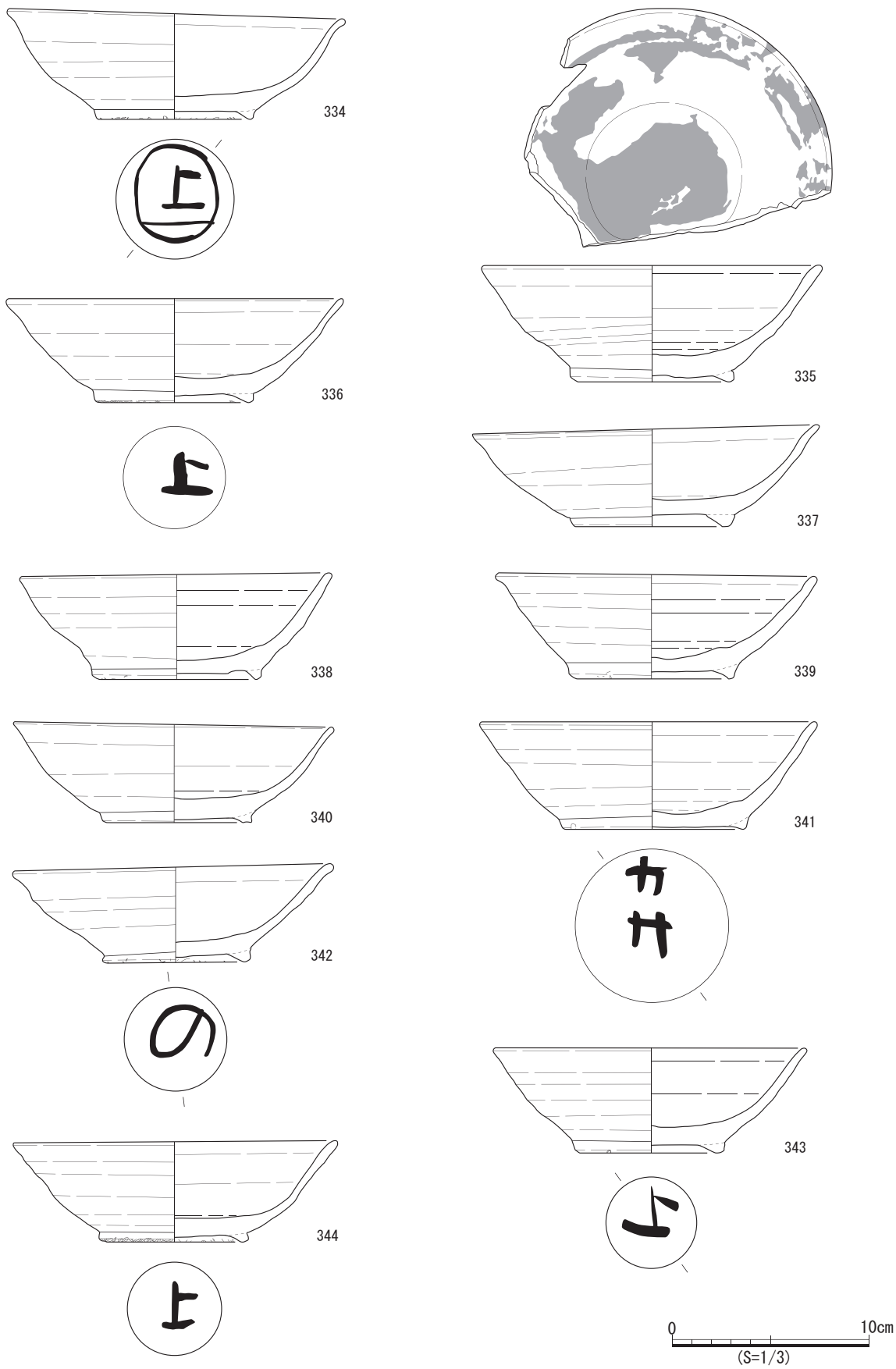


図101 SK121出土遺物実測図3

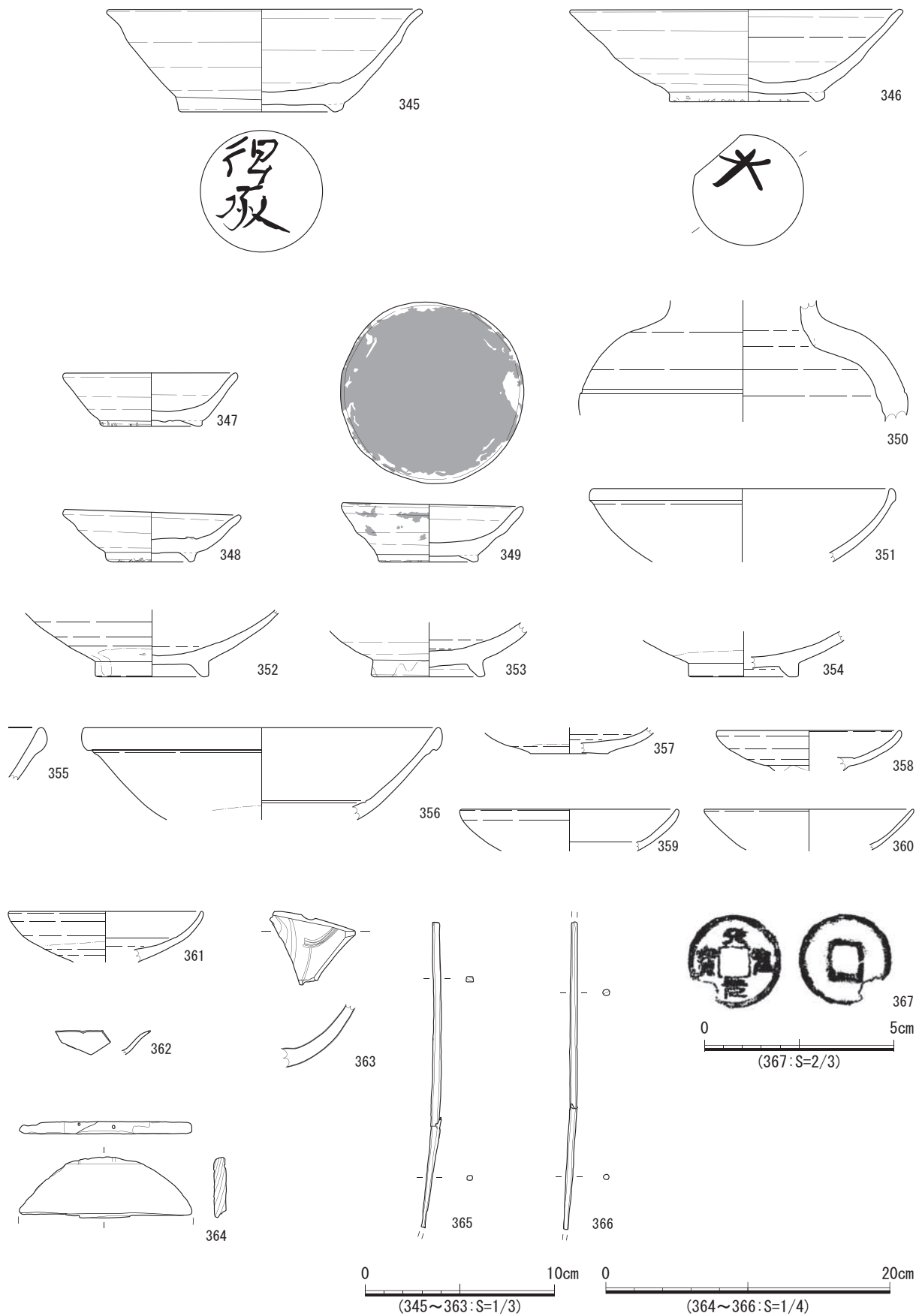


図102 SK121出土遺物実測図4

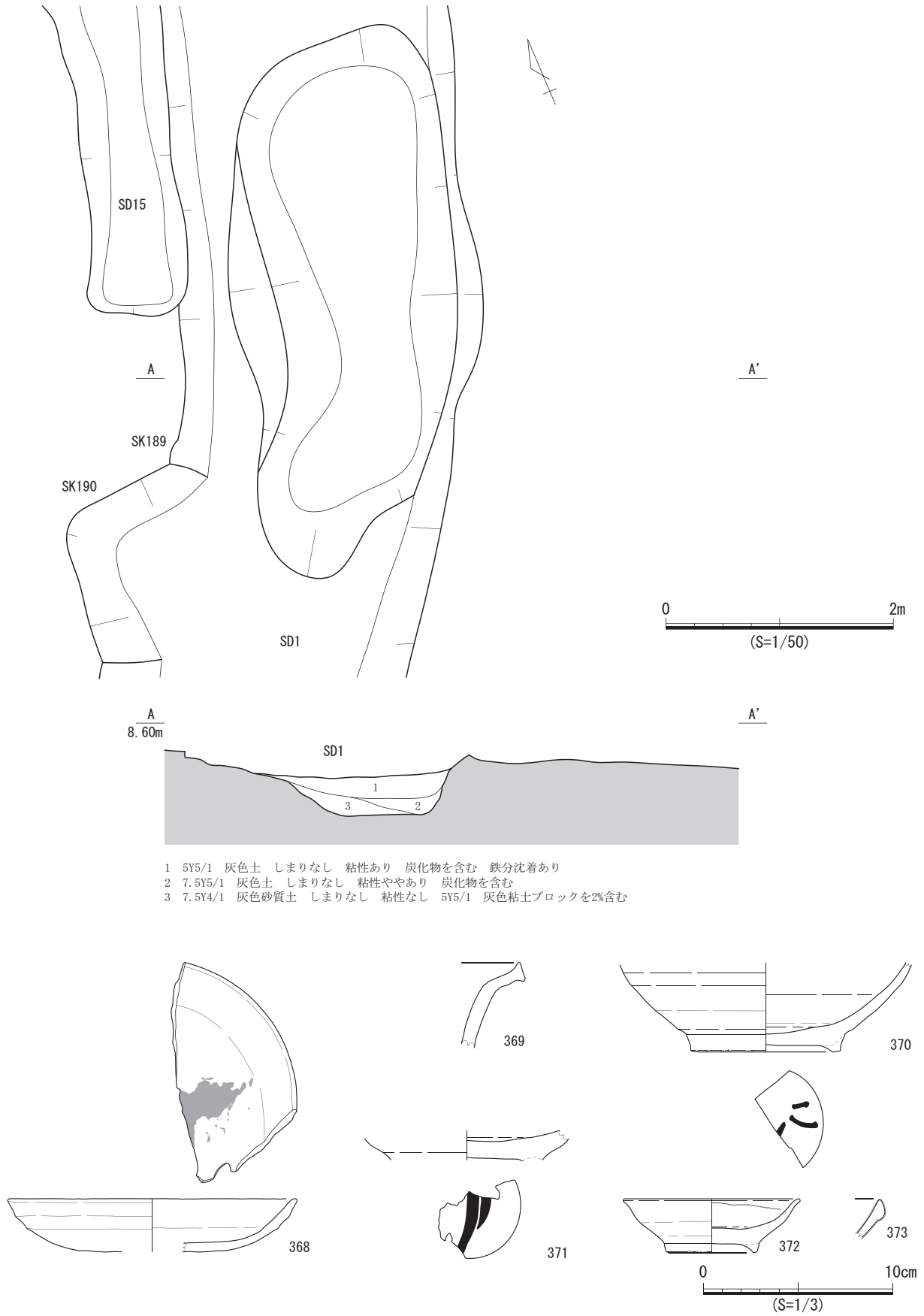


図103 SK122遺構図、出土遺物実測図

SK153 (図104)

検出状況 EC11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD11より古い。

規模・形状 長軸長1.06m、短軸長0.48m以上、深さ0.08mである。北側がSD11と重複するため、平面形と断面形は不明である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器5点、灰釉陶器2点、山茶碗1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(375)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式とから、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK197 (図104)

検出状況 EA15～EB15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSD14、SK192、SK193、SK283等より古く、SK399より新しい。

規模・形状 長軸長2.44m、短軸長0.79m、深さ0.19mで、平面形は南北方向に長い長楕円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器8点、灰釉陶器1点、山茶碗9点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A2b類(376)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK399から中世後期土師器皿C1類が出土していることから、15世紀以降のものとする。

SK237 (図104)

検出状況 EB11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。本遺構は、重複関係からSD19より古い。

規模・形状 長軸長2.25m、短軸長0.99m以上、深さ0.12mである。南側がSD19と重複するため、平面形と断面形は不明である。東側の壁面はやや外傾して立ち上がり、底面は平坦となる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 土師器3点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗18点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 西坂1号窯式の灰釉陶器の輪花碗(377)と尾張型第4型式の山茶碗の小碗(378)を図示した。378の口縁部には漆と考えられる黒色の付着物が認められる。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀前葉から中葉のものとする。

SK271 (図105)

検出状況 EB6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。本遺構は、重複関係からSD21より新しい。

規模・形状 長軸長1.24m、短軸長1.12m、深さ0.50mで、平面形は不整形である。南東側にはテラスを有する。断面形は2段の掘り込みである。

埋土 3層に分層した。1層、2層は中央が窪む堆積である。1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換することから1層は別遺構の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器13点、須恵器1点、山茶碗5点、瀬戸美濃産陶器1点、中国産陶磁器

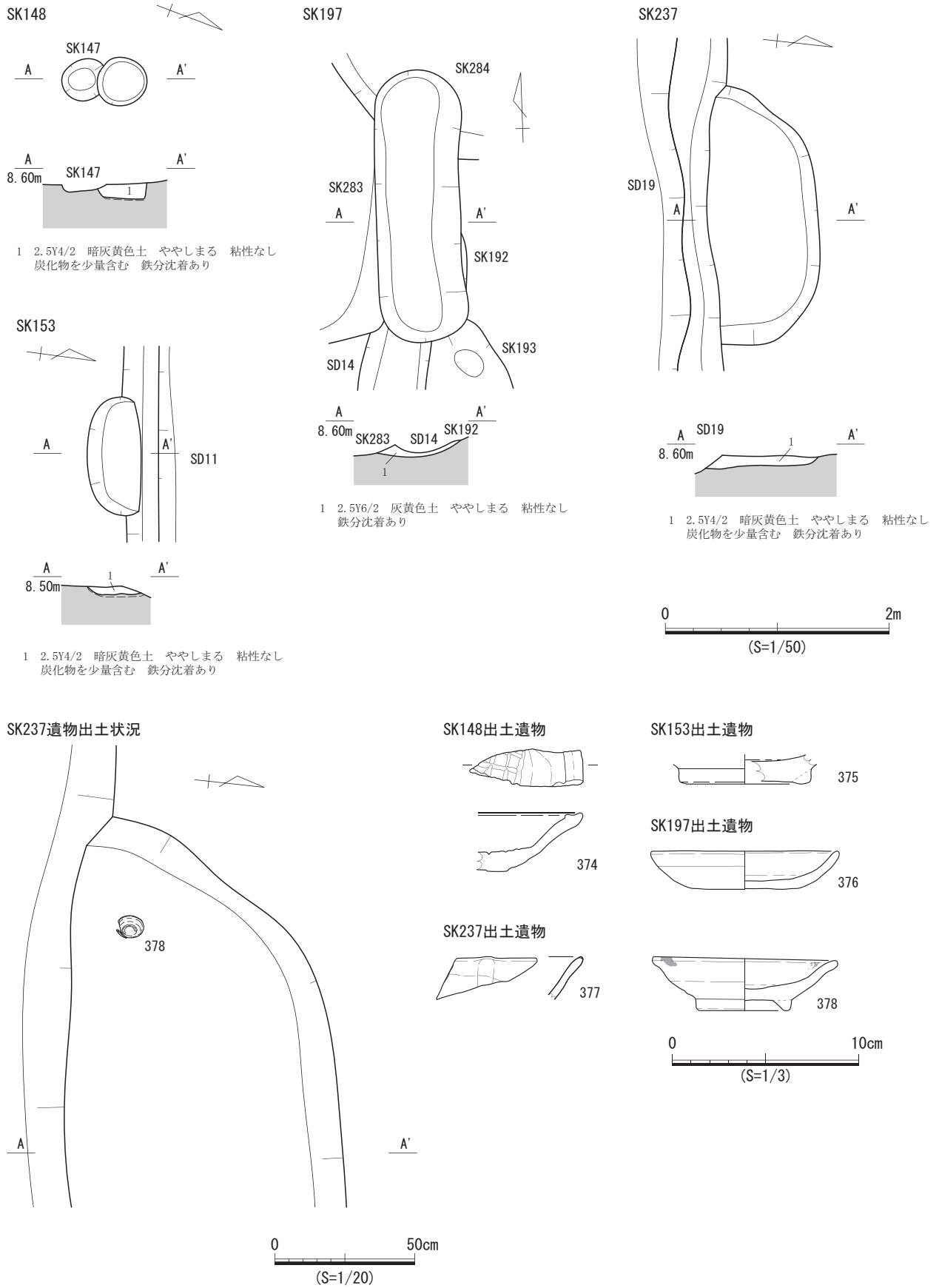


図104 SK148・SK153・SK197・SK237遺構図、出土遺物実測図

1点、土製品1点が散在して出土した。

出土遺物 I—2 a類の龍泉窯系の青磁碗（379）と管状土錘（380）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSD21から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

SK272（図105）

検出状況 EB5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。上部は攪乱によって消失するが、平面形は明瞭であった。重複関係からSK273、SK274、SK275より新しい。

規模・形状 長軸長2.08m、短軸長0.61m、深さ0.09mで、平面形は東西方向に長い不整楕円形である。断面形は概ね逆台形で、底面には凹凸がみられる。

埋土 2層に分層した。水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器46点、山茶碗8点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A 1 a類（381）、中世前期土師器皿B 2 b類（382）、尾張型第6型式の山茶碗の碗（383）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK275から尾張型第7型式の山茶碗の小皿が出土していることから、13世紀中葉以降のものとする。

SK274（図105）

検出状況 EB5～6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK272、SK273より古い。

規模・形状 長軸長1.36m、短軸長1.21m、深さ0.20mである。南側がSK272と重複するため、平面形は不明である。断面形は逆台形である。

埋土 4層に分層した。概ね水平な堆積である。埋土の中央付近に遺物を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器13点、山茶碗11点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の小皿（384）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK275（図106）

検出状況 EB5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は北側が明瞭、南側は不明瞭であった。重複関係から、SK272より古く、SK273より新しい。

規模・形状 長軸長1.65m以上、短軸長0.37m、深さ0.26mである。西側が発掘区外に広がるため、平面形は不明である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。概ね水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器82点、須恵器2点、山茶碗14点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A 2 b類（385）、A 2類の羽釜（386）、尾張型第7型式の山茶碗の小皿（387）を図示した。386の外表面底部から体部にかけては煤、内面の底部付近にはコゲが認められる。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀中葉のものとする。

SK279（図106）

検出状況 EA15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.22m、短軸長0.20m、深さ0.09mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土製品1点が出土した。

出土遺物 用途不明の土製品(388)を図示した。表面に文様、裏面に粘土が剥落した痕跡が認められる。瓦の瓦当部の可能性がある。

時期 周辺に中世の遺構が多くみられることから中世のものとする。

SK283 (図107)

検出状況 EA・EB14~15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD14、SD17、SK284等より古く、SK197、SK207、SK316等より新しい。

規模・形状 長軸長4.10m、短軸長2.44m、深さ0.19mで、平面形は南北方向に長い不整隅丸長方形だが、北東側はSK284に掘り込まれる。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器78点、須恵器2点、山茶碗80点、瀬戸美濃産陶器6点、中国産陶磁器6点、木製品2点が散在して出土した。

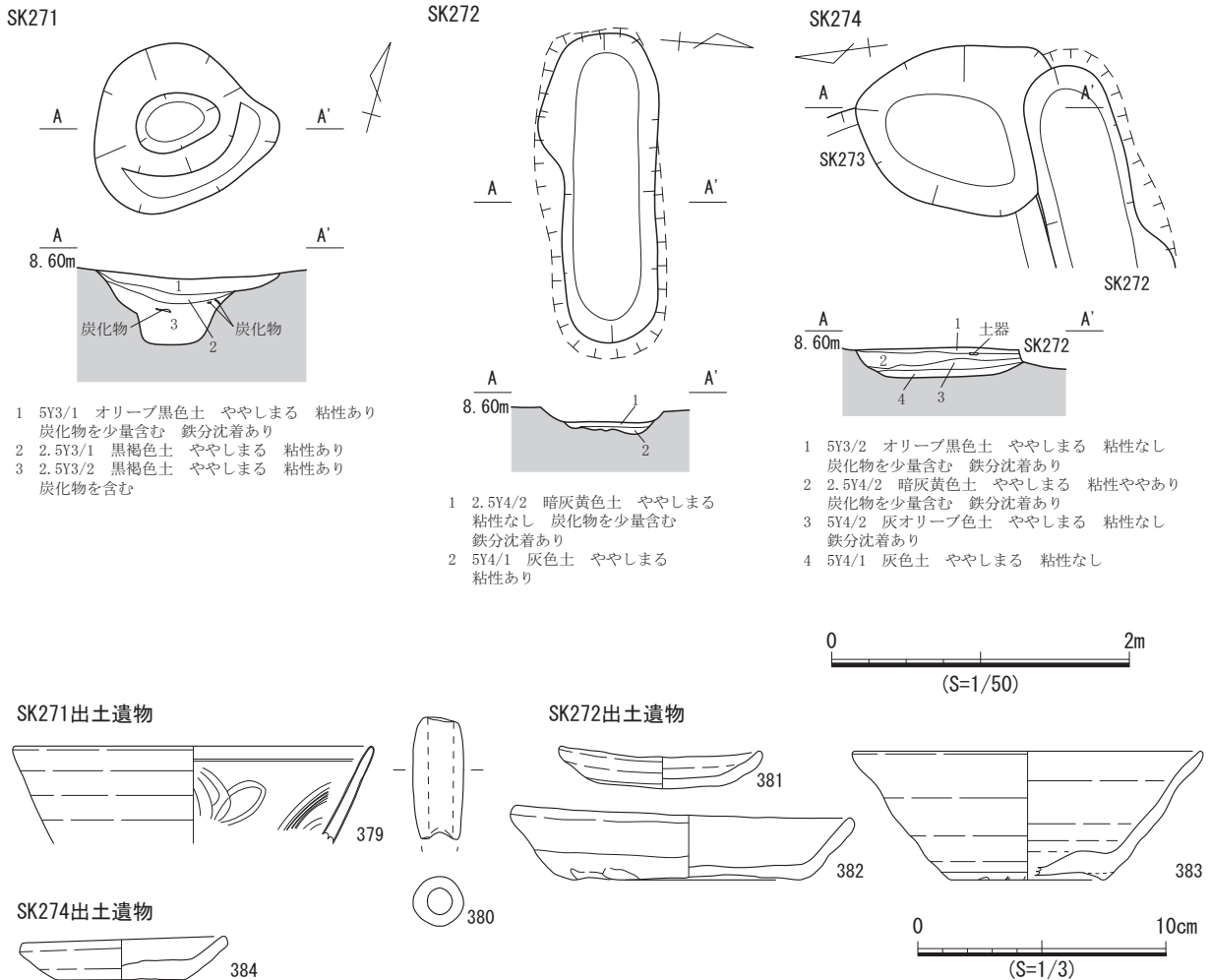


図105 SK271・SK272・SK274遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 中世後期土師器皿C 1類 (389)、J類の清郷型鍋 (390)、古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿 (391)、IV類の白磁碗 (392) を図示した。389の内・外面の口縁部付近には煤が付着しており、灯明皿として用いられた可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀中葉のものとする。

SK284 (図108)

検出状況 DT・EA14~15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSD22、SK297、SK389等より新しく、SD14、SK283、SK318等より新しい。

規模・形状 長軸長5.10m、短軸長3.74m、深さ0.19mで、平面形は南北方向に長い不整隅丸長方形である。断面形は逆台形で、底面は概ね平坦になるが、一部にやや凹凸がみられる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器92点、須恵器4点、灰釉陶器12点、山茶碗115点、常滑産陶器1点、中国産陶磁器4点が散在して出土した。

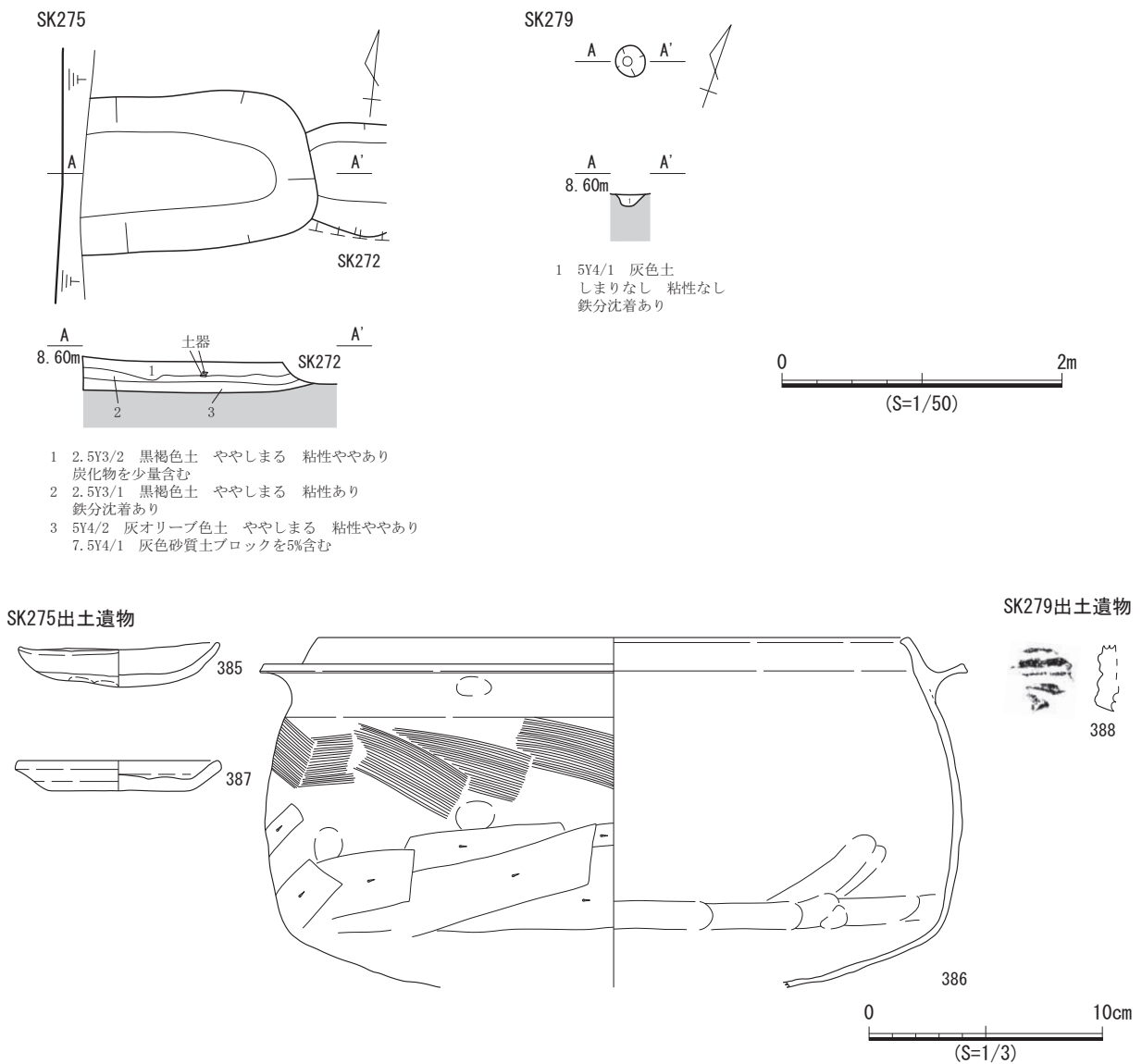


図106 SK275・SK279遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗（393）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK283から古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SK289（図108）

検出状況 EA14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.55m、短軸長0.53m、深さ0.25mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

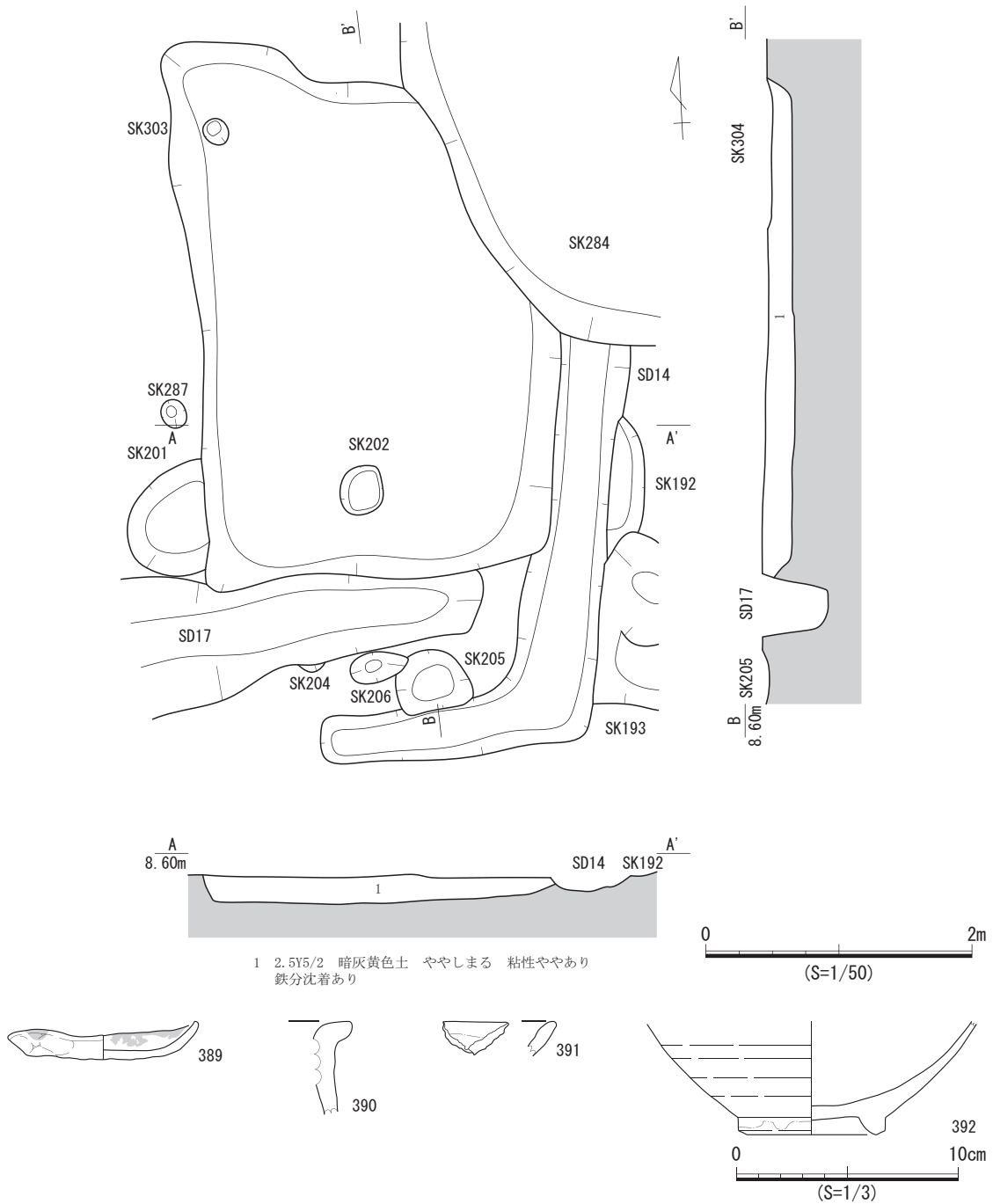


図107 SK283遺構図、出土遺物実測図

埋土 3層に分層した。概ね水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器18点、山茶碗11点が散在して出土した。このうち欠損した山茶碗(395)が正位で底面に接した状態で出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C 1類(394)、尾張型第6型式の山茶碗の碗(395)、足鍋の脚部(396)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀のものとする。

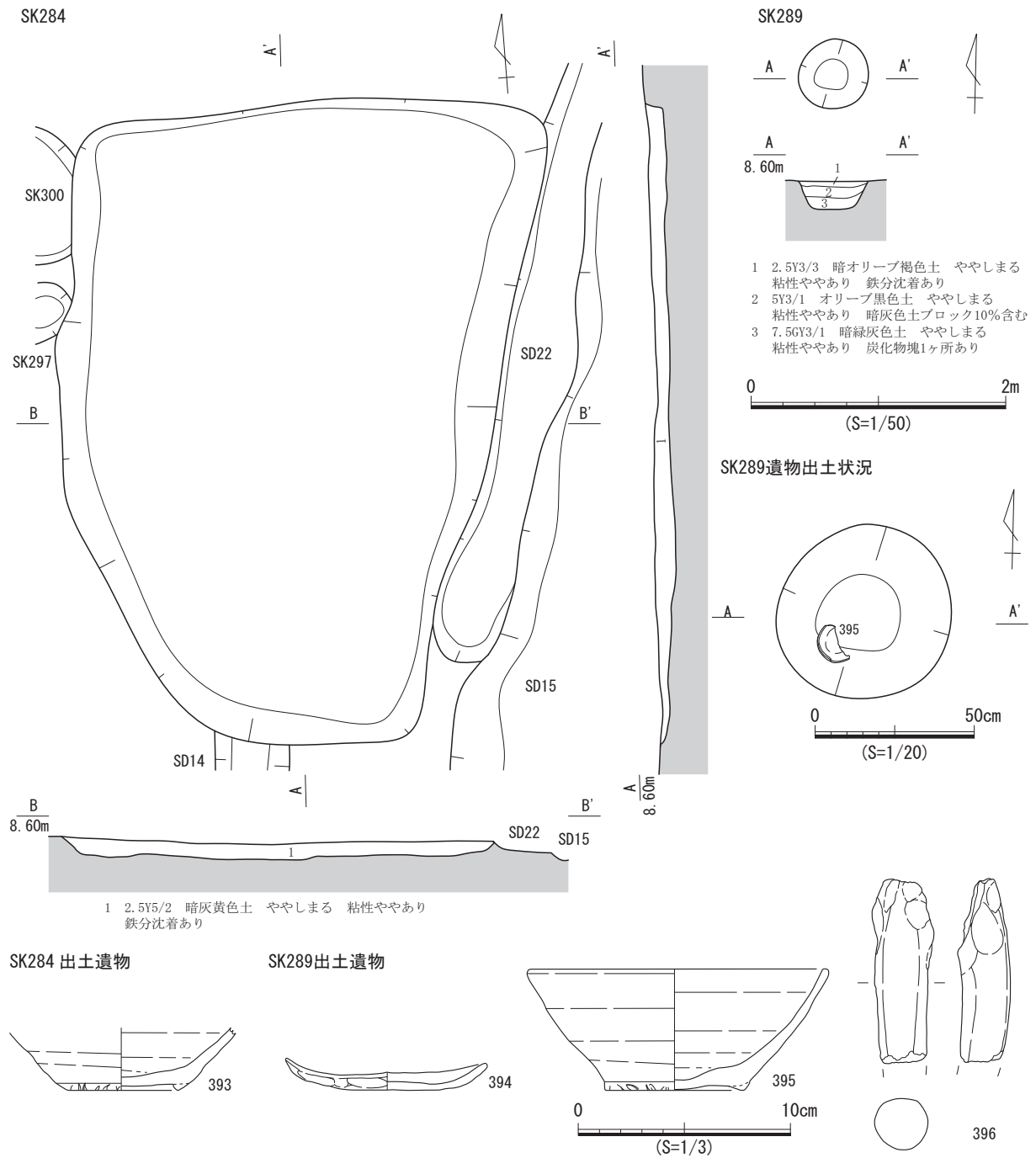


図108 SK284・SK289遺構図、出土遺物実測図

SK311 (図109)

検出状況 EA14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK307、SK308より古く、SK317、SK318、SK320等より新しい。

規模・形状 長軸長1.89m以上、短軸長0.51m、深さ0.14mで、平面形は南北に長い不定形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器17点、須恵器1点、山茶碗12点が散在して出土した。このうち割れた伊勢型鍋(397)が北端付近で内面を上に向けて底面に接した状態で出土した。

出土遺物 A4a類の伊勢型鍋(397)を図示した。体部外面下半と口縁部付近に煤、体部内面にコゲが認められる。SK293から出土した破片と接合した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK318から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

SK322 (図109)

検出状況 EA14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK293、SK294、SK295等より古く、SK324、SK325より新しい。

規模・形状 長軸長1.65m、短軸長1.08m、深さ0.25mで、平面形は東西方向に長い不整長方形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。層界にやや凹凸がみられる。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器53点、須恵器2点、灰釉陶器3点、山茶碗40点、常滑産陶器4点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A2b類(398)、A4a類の伊勢型鍋(399)、尾張型第6型式の山茶碗の小皿(400)、Ⅲ類の白磁皿(401)を図示した。399は体部外面から口縁部付近に煤、体部内面にコゲが認められる。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK325からA1系1類若しくは2類の白磁の四耳壺が出土していることから、13世紀前半のものとする。

SK325 (図110)

検出状況 EA14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK291、SK292、SK293等より古い。

規模・形状 長軸長1.66m、短軸長0.38m、深さ0.21mである。複数の遺構と重複しており、平面形と断面形は不明である。

埋土 2層に分層した。1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換することから1層は別遺構の可能性が
ある。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点、山茶碗6点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 A1系1類若しくは2類の白磁の四耳壺(402)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、11世紀前葉から12世紀中葉のものとする。

SK343 (図110)

検出状況 EA12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。本遺構は、重複関係からSK341、

SK342より古く、SD23、SD24、SK329より新しい。

規模・形状 長軸長1.98m、短軸長0.75m、深さ0.19mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。概ね水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器19点、山茶碗6点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器1点、中国産陶

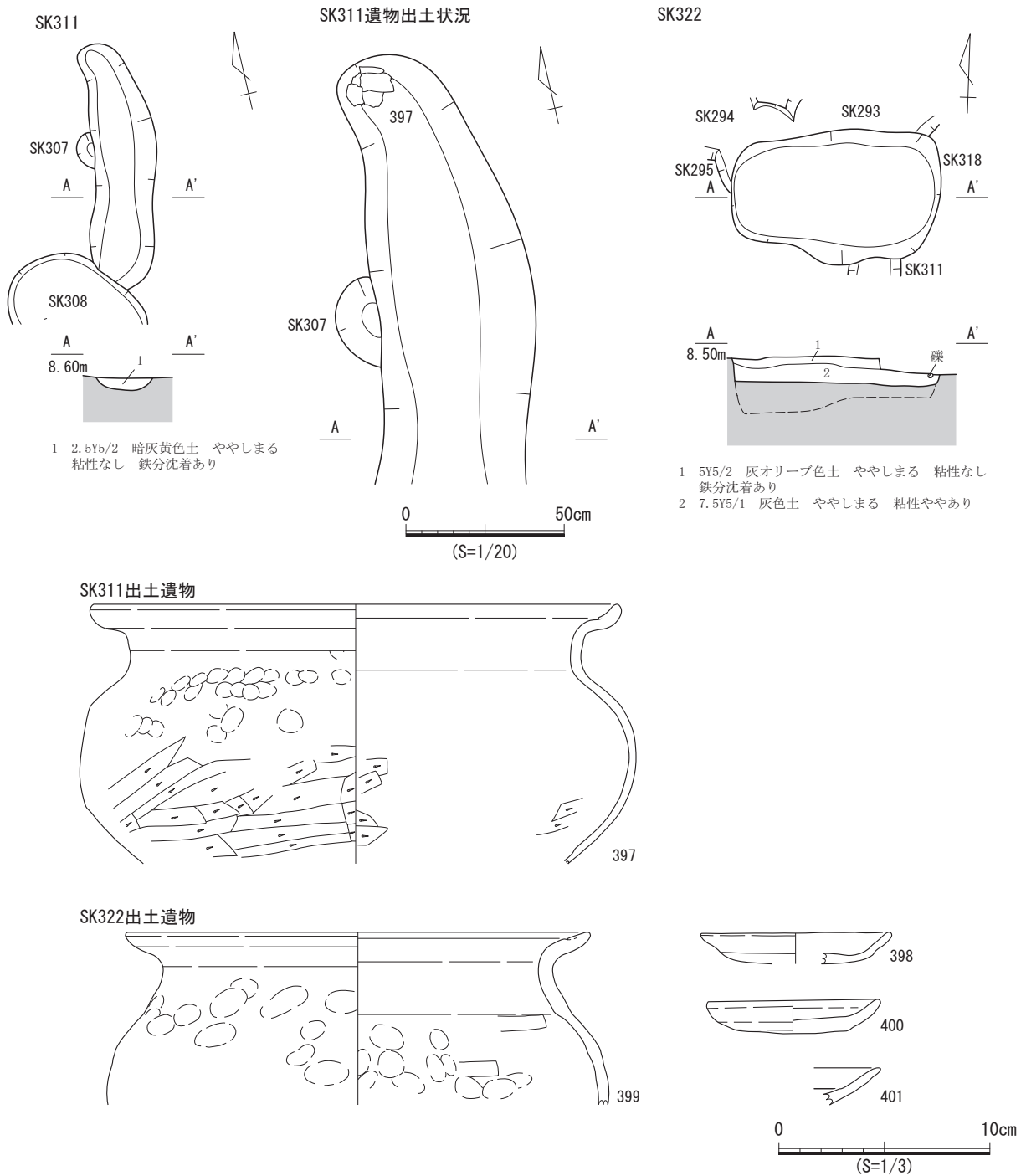


図109 SK311・SK322遺構図、出土遺物実測図

磁器1点、木製品1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅲ期の卸目付大皿(403)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSD23から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、15世紀前半のものとする。

SK364 (図110)

検出状況 EA10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係からSD24より古く、SD21より新しい。

規模・形状 長軸長1.13m以上、短軸長0.81m、深さ0.15mである。北側がSD24と重複するため平面形は不明である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。層界に凹凸がみられる。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗3点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗(404)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSD21から尾張型第6型式の山茶碗の小皿が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

SK374 (図110)

検出状況 EA7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD36、SK376、SK493より新しい。

規模・形状 長軸長1.07m、短軸長1.00m、深さ0.08mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器3点、山茶碗1点、瀬戸美濃産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅳ期古段階の播鉢(405)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀中葉のものとする。

SK399 (図111~112)

検出状況 DT14~EB15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。本遺構は、重複関係からSD14、SD17、SK283等より古く、SK325より新しい。

規模・形状 長軸長6.52m、短軸長4.18m、深さ0.30mで、平面形は南北方向に長い不整隅丸長方形である。断面形は逆台形である。南側はSD17に大きく掘り込まれる。北西側にはテラスを有する。

埋土 3層に分層した。ほぼ水平な堆積で、3層は西側の一部のみに堆積する。堆積状況は不明である。また、2層目の埋土中からは拳大の石灰岩が1点出土した。

遺物出土状況 埋土から土師器96点、須恵器3点、灰釉陶器5点、山茶碗125点、瀬戸美濃産陶器6点、常滑産陶器6点、中国産陶磁器14点、石製品1点、金属製品1点、木製品30点が散在して出土した。このうち、南端付近で漆椀(415)が正位で底面に接した状態で出土した。

出土遺物 土師器3点(406~408)、山茶碗2点(409~410)、常滑産陶器1点(411)、中国産陶磁器2点(412、413)、木製品2点(414、415)、金属製品1点(416)を図示した。406は中世後期土師器皿C1類である。407と408は分類不能である。体部中ほどからやや外傾して立ち上がり、体部外面には指頭圧痕を消しきらない弱い2段のヨコナデがなされ、底部内面にはミガキのような痕

跡が認められる。408は体部中ほどからやや外傾して立ち上がり、体部外面は指頭圧痕が顕著に認められる。類例として、池田町六之井深池遺跡の報告においてD類とされたものが挙げられる（池田町教育委員会1997）。409は尾張型第6型式の山茶碗の碗、410は谷迫間2号窯式の山茶碗の片口鉢である。411は4～8型式の常滑産の広口壺である。412はⅧ—4類の白磁碗、413はⅠ—2若しくは3類の龍泉窯系青磁碗である。414、415は漆碗で、15世紀代のものである。いずれも赤色漆を用いた手描きの漆絵が認められる。415は赤色漆の種類を変えて描き分けをしている点が特徴的である。分析を実施していないため詳細は不明であるが、赤色の差はベンガラと朱を使い分けて表現したものの可能性がある。414は体部外面に漆絵が認められるが、内容は不明である。415の外面と内面には草花文を施すが、内面の葉を大きく描く点が特徴的である。416は元豊通寶である。篆書で初鑄年は1078年である。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀以降のものとする。

SK401 (図113)

検出状況 DT14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。本遺構は、重複関係からSD23より古い。

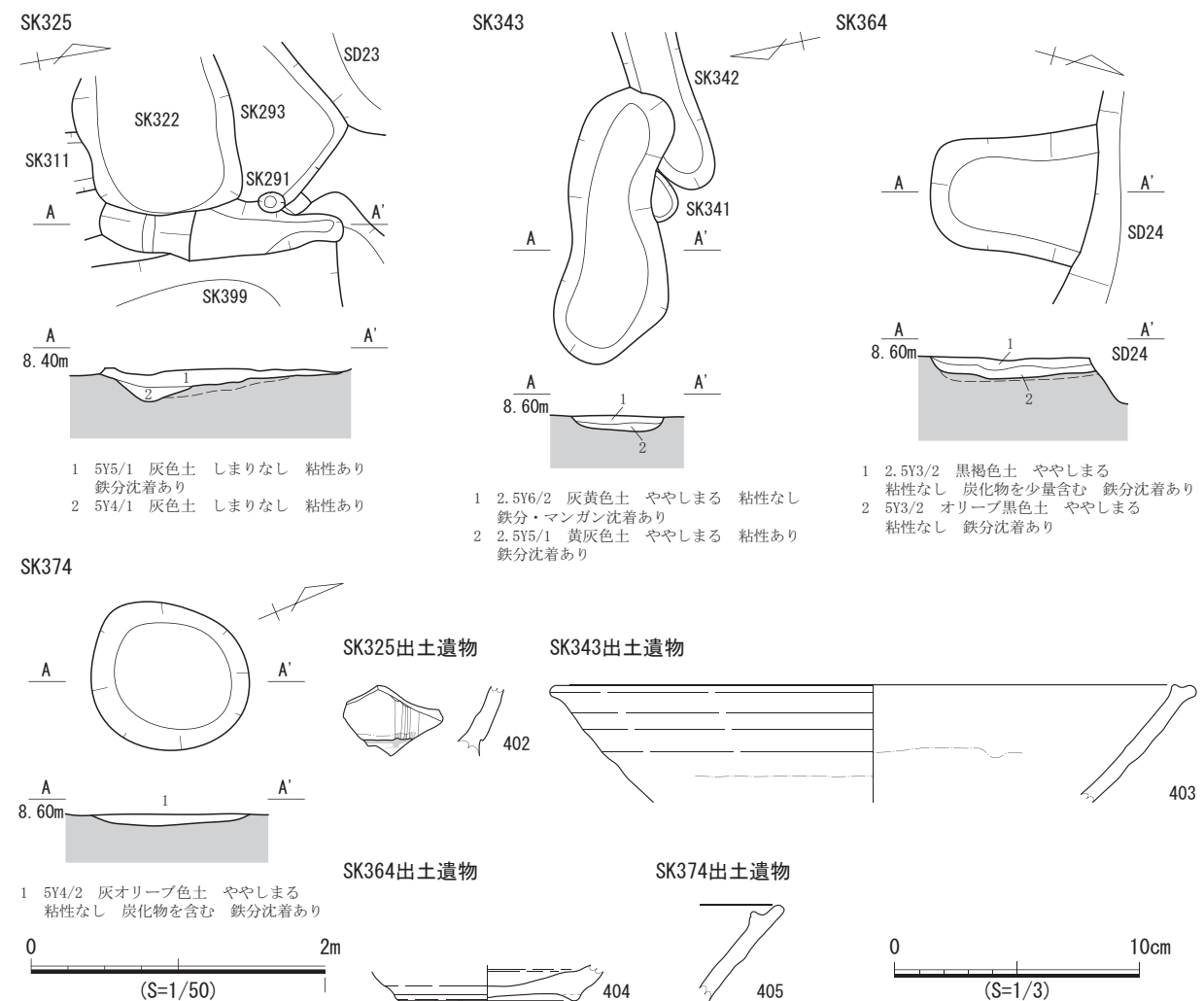


図110 SK325・SK343・SK364・SK374遺構図、出土遺物実測図

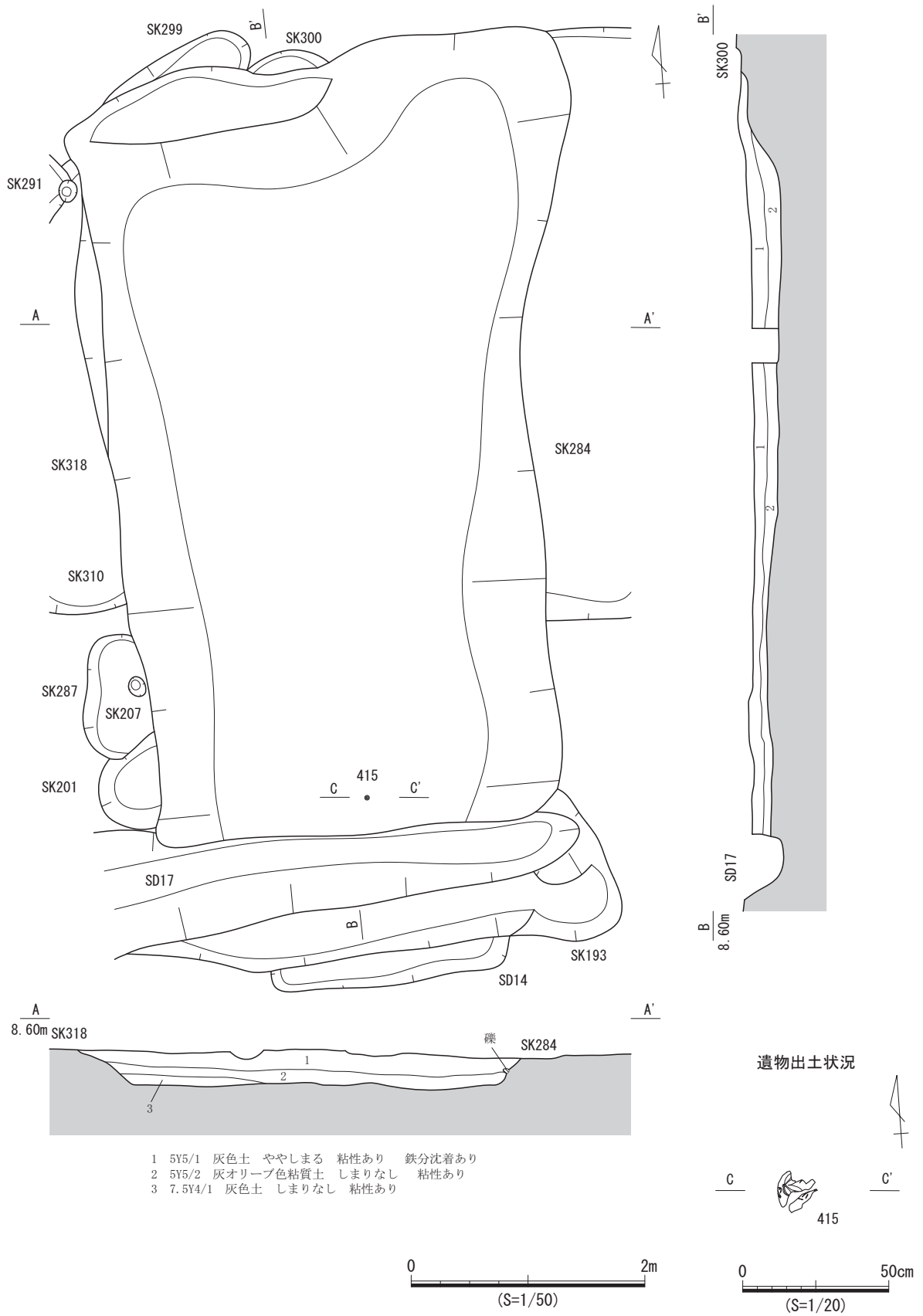


図111 SK399遺構図

規模・形状 長軸長2.10m、短軸長1.62m、深さ0.25mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積で、堆積状況は不明である。また、1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換することから1層は別遺構の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器76点、須恵器3点、灰釉陶器4点、山茶碗47点、中国産陶磁器3点、

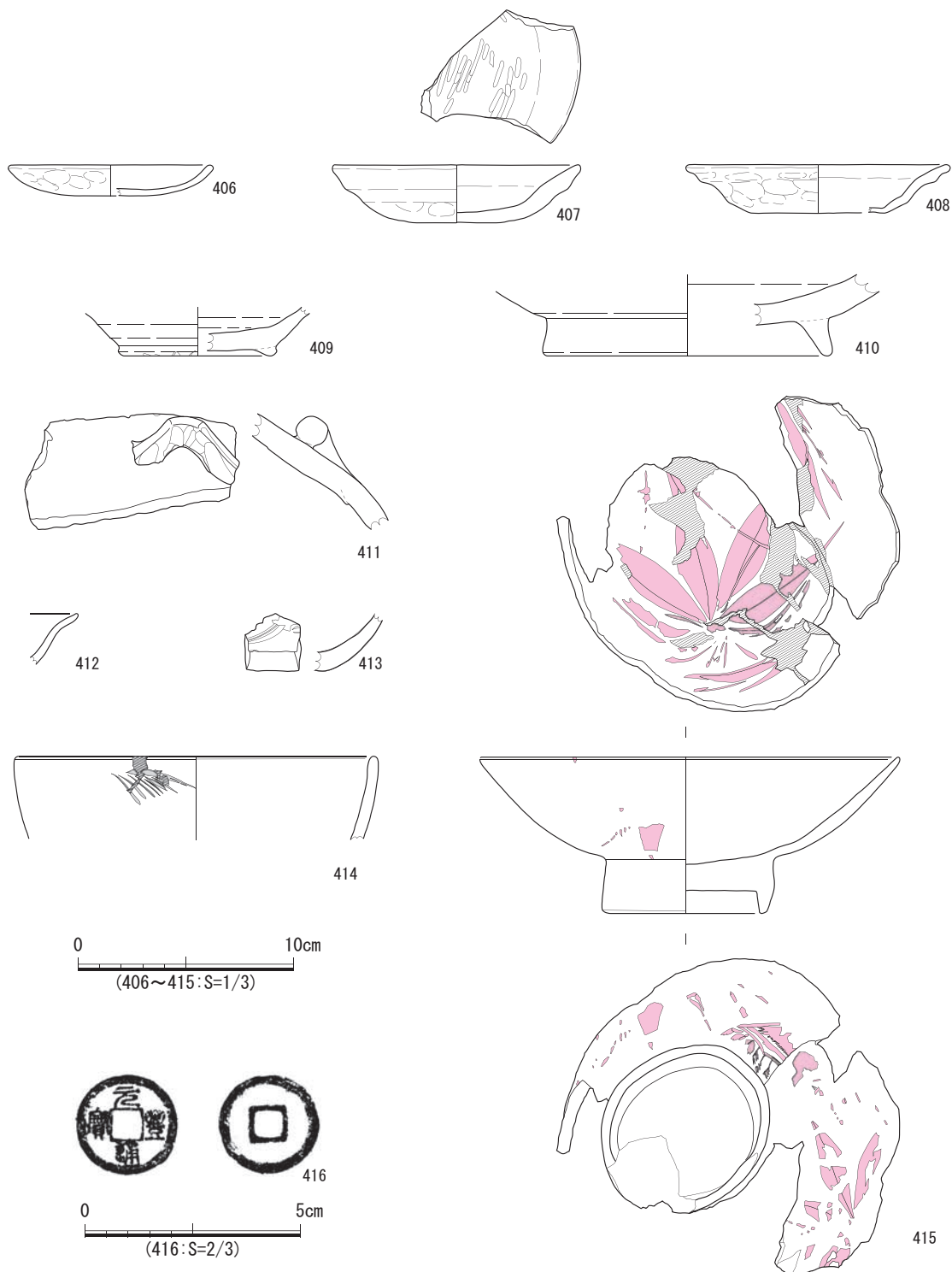


図112 SK399出土遺物実測図

瓦質土器1点、土製品2点が散在して出土した。

出土遺物 大原2号窯式で長頸瓶の可能性のある灰釉陶器の瓶類(417)、尾張型第6型式の山茶碗の碗(418)、瓦質土器の足鍋の脚部(419)、管状土錘(420)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK402 (図114)

検出状況 DT14~DS14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長2.71m、短軸長2.52m、深さ0.94mで、平面形は不整円形である。断面形はおおよそ逆台形で、底面は平坦になる。また、1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換することから1層は別遺構の可能性もある。周辺の遺構と比べて深いため、井戸として機能していた可能性がある。

埋土 3層に分層した。1層と2層は薄くほぼ水平に堆積する。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器301点、須恵器7点、灰釉陶器6点、山茶碗280点、常滑産陶器1点、中国産陶磁器12点、土製品3点、木製品58点が散在して出土した。このうち、破損して柄が脱落した柄杓(428)が底面に接した状態で出土した。柄杓の部材は底面南部でまとまって出土したが、底板は確認できなかった。

出土遺物 土師器2点(421、422)、山茶碗3点(423~425)、中国産陶磁器2点(426、427)、木製品1点(428)、土製品1点(429)を図示した。421は中世前期土師器皿B2b類である。422は分類不能の土師器皿である。調整は磨滅が著しく判然としないが、体部中ほどからやや外傾して立ち上がる。423は尾張型第3型式、424、425は尾張型第5型式の碗である。426はIV類の白磁碗である。427は龍泉窯系の青磁碗である。428は柄杓である。428-1は合の側板で、破損して開いた状態である。側板を固定するための樹皮が残存する。428-2は柄の部分で、先端が細くなるように加工する。合を

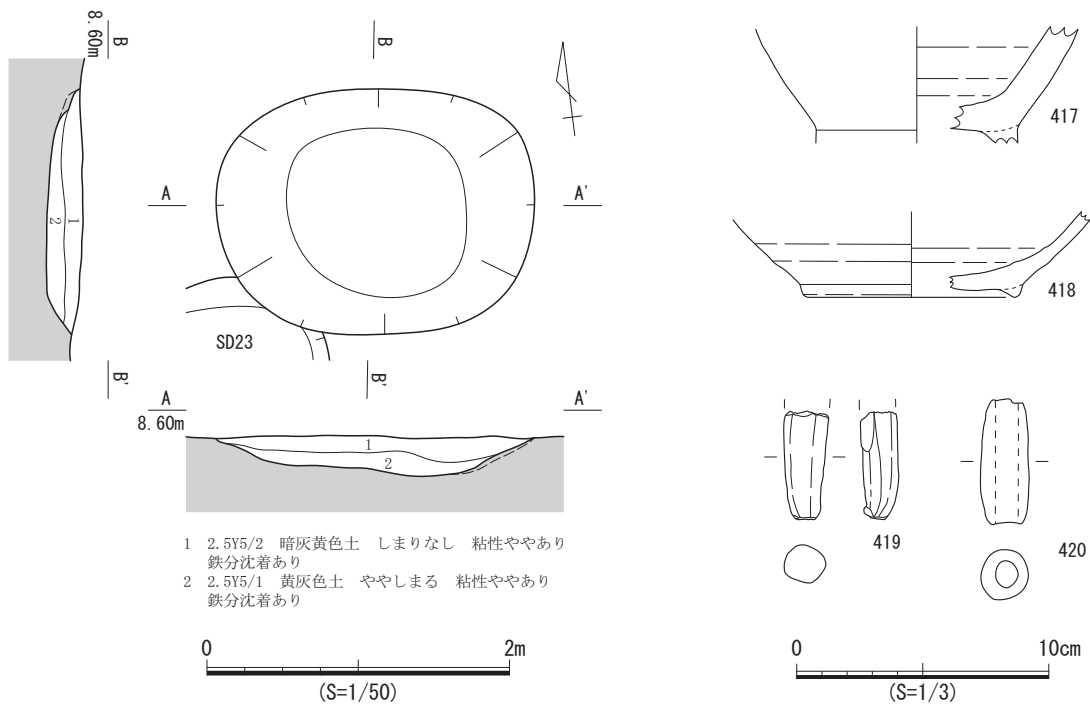


図113 SK401遺構図、出土遺物実測図

固定するための木釘が残存する。429は管状土錘である。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK403 (図115～116)

検出状況 DT・DS13～14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係はSD23、SK419より古く、SD27、SD30、SD31等よりも新しい。

規模・形状 長軸長2.80m、短軸長2.32m、深さ0.14mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器49点、山茶碗36点、常滑産陶器1点が散在して出土した。このうち、伊勢型鍋(430)と山茶碗の破片(431)が逆位で底面に接した状態で出土した。

出土遺物 A5類の伊勢型鍋(430)、尾張型第6型式の山茶碗の碗(431)を図示した。430の体部外面に煤、体部内面下半にコゲが認められる。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀のものとする。

SK409 (図117)

検出状況 DT13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.90m、短軸長0.79m、深さ0.40mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形である。

埋土 7層に分層した。5層～7層を掘り込むように4層が堆積することや4層を掘り込むように2層、3層が堆積することから本来複数の遺構であった可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器16点、山茶碗9点、中国産陶磁器2点が散在して出土した。

出土遺物 IV類の白磁碗(432)、龍泉窯系I類の青磁皿(433)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀のものとする。

SK427 (図117)

検出状況 DT12～13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長3.07m、短軸長2.92m、深さ0.41mで、平面形は不整形である。断面形は概ね半円形で、底面は緩やかに丸くなる。北西側にテラスを有する。

埋土 3層に分層した。層界にやや凹凸がみられるが、概ね中央が窪む堆積である。また、2層と3層の層界で壁面の傾斜が変換することから、1層と2層は別遺構の可能性もある。

遺物出土状況 埋土から土師器160点、須恵器8点、灰釉陶器2点、山茶碗129点、瀬戸美濃産陶器2点、常滑産陶器2点、中国産陶磁器3点、土製品1点が散在して出土した。

出土遺物 A3類(434)の羽釜と古瀬戸後IV期古段階の卸皿(435)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀中葉のものとする。

SK440 (図118)

検出状況 DT11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK442より新しい。

規模・形状 長軸長1.63m、短軸長1.38m、深さ0.29mで、平面形は円形である。断面形は半円形で、底面は緩やかに丸くなる。北半に弧状のテラスを有する。

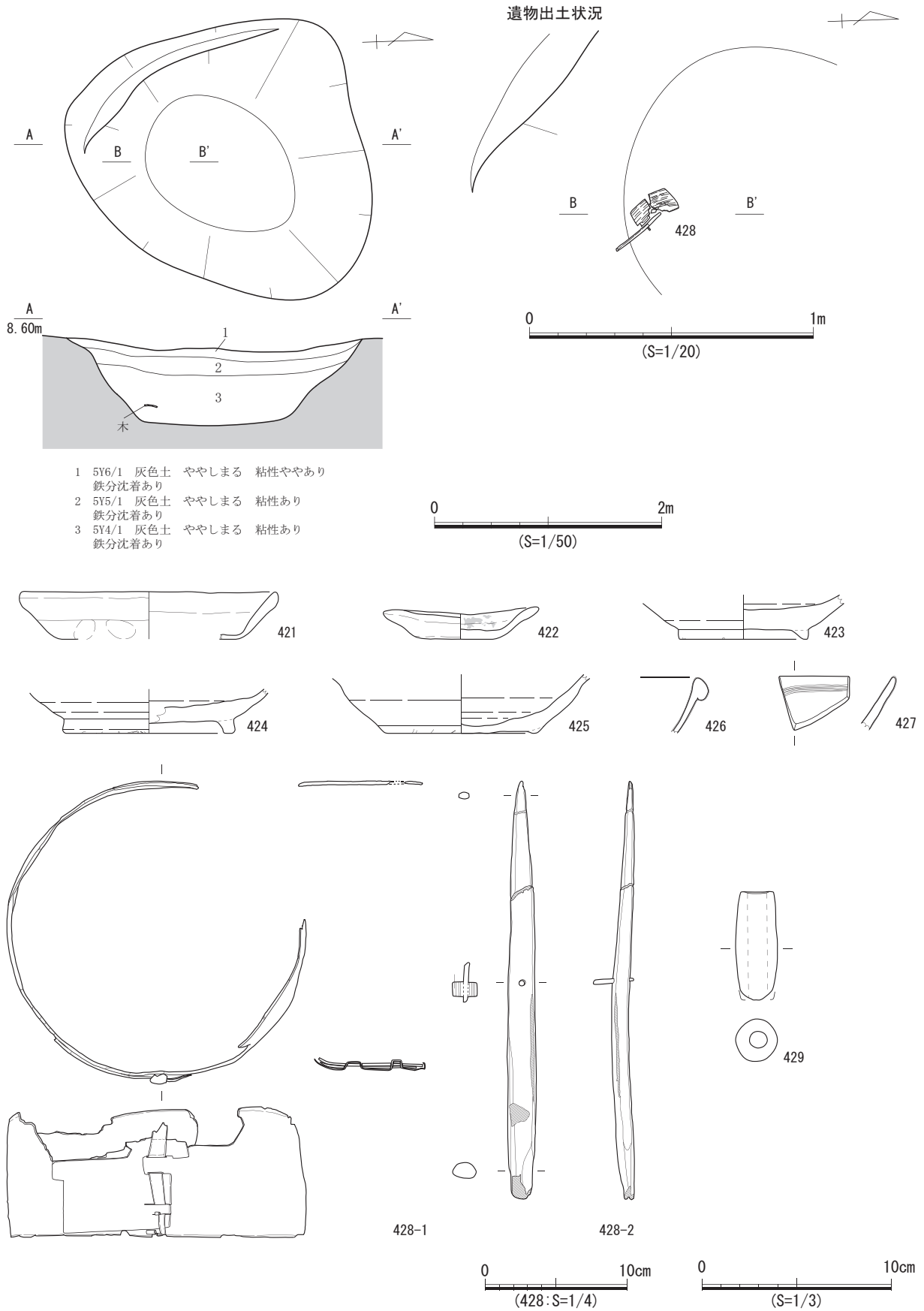
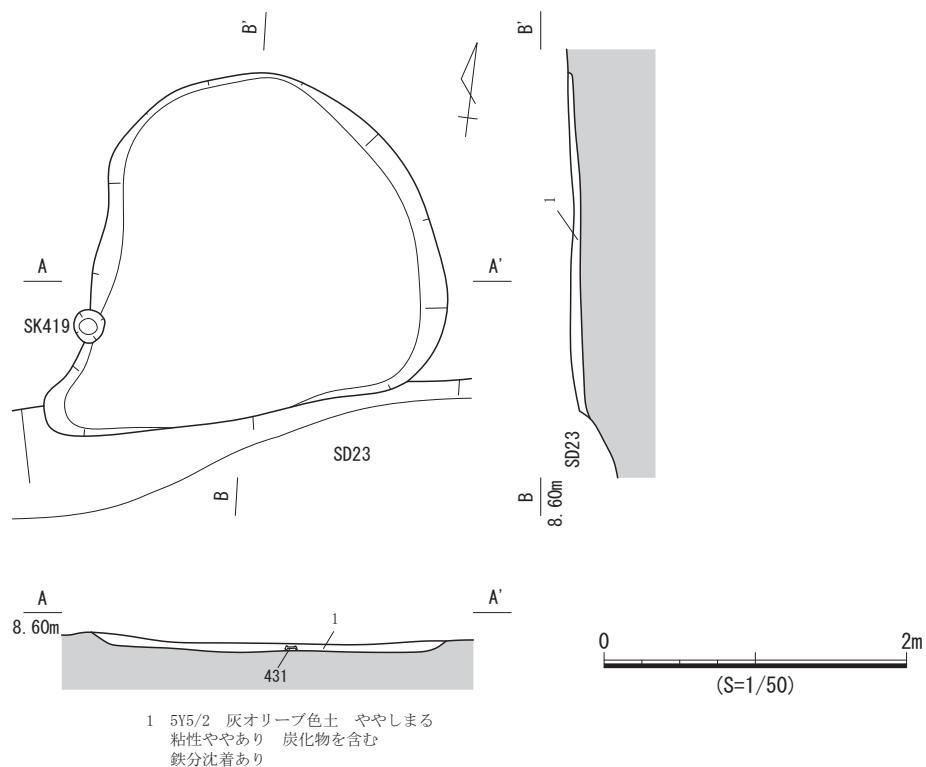


図114 SK402遺構図、出土遺物実測図



遺物出土状況

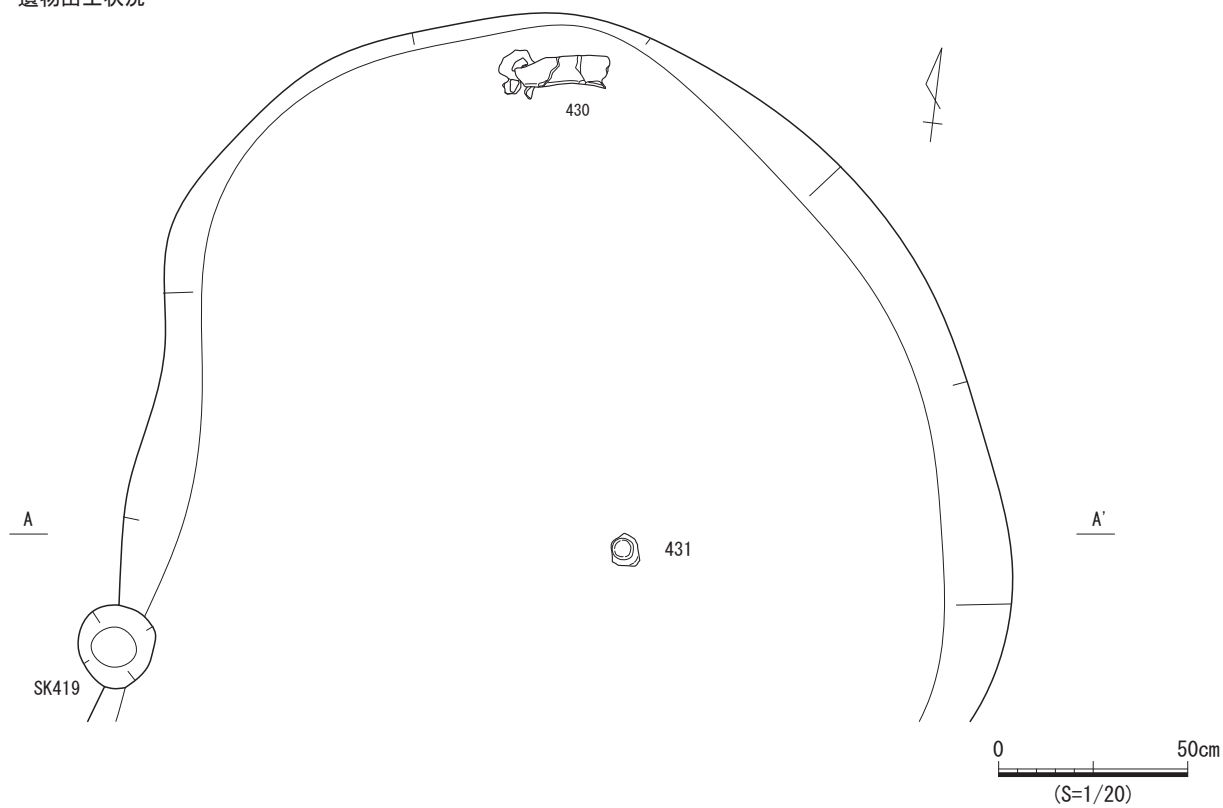


図115 SK403遺構図

埋土 2層に分層し、中央が窪む堆積である。埋土の中央付近から拳大の石材が出土したことや2層にブロックを含むことから、人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器69点、須恵器1点、山茶碗21点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C1類(436)、分類不明の土師器皿(437)、尾張型第7型式の山茶碗の碗(438)、尾張型第4型式の山茶碗の小碗(439)を図示した。437は体部外面に弱い2段のヨコナデがなされる。439は口縁部に煤が付着する。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀のものとする。

SK459 (図118)

検出状況 DS・DT9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK693、SK694、SK695より古い。

規模・形状 長軸長4.30m、短軸長1.42m、深さ0.33mで、平面形は南北方向に長い不整楕円形である。断面形は逆三角形である。南西側が一段深くなる。

埋土 3層に分層した。2層の堆積が西側に偏る。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器41点、須恵器3点、山茶碗26点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器2点、中国産陶磁器2点、土製品1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅳ期の播鉢(440)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀中葉から後葉のものとする。

SK460 (図119)

検出状況 DT8～9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD11、SK476、SK477等より古く、SK462、SK696、SK702等より新しい。

規模・形状 長軸長6.64m、短軸長1.88m以上、深さ0.15mで、複数の遺構と重複しており、平面形は不明である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器21点、須恵器2点、灰釉陶器2点、山茶碗26点、瀬戸美濃産陶器3点、常滑産陶器8点、瓦質土器1点が散在して出土した。

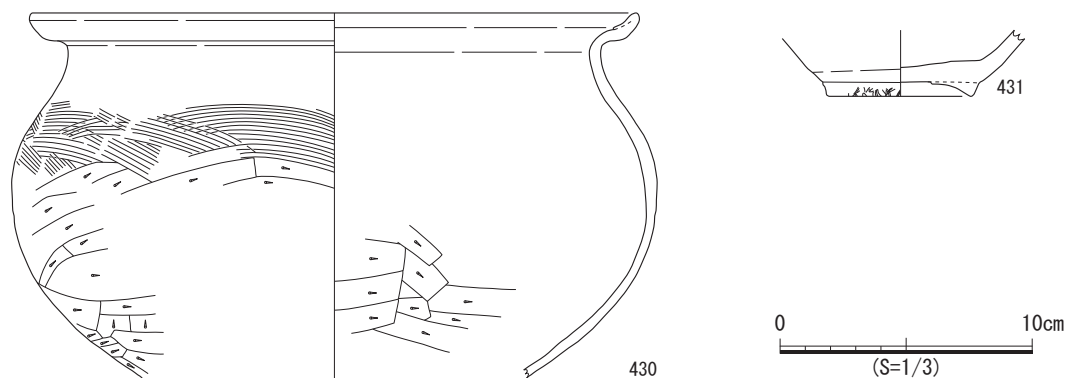
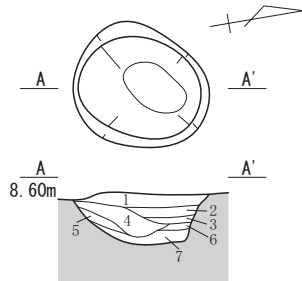


図116 SK403出土遺物実測図

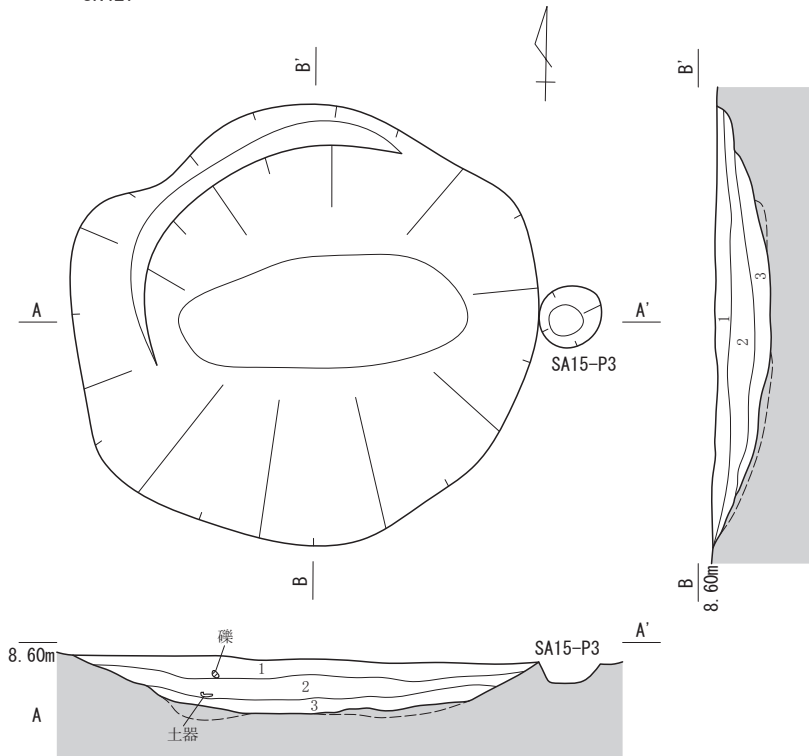
出土遺物 明和27～西坂1号窯式の輪花碗(441)、尾張型第6型式の山茶碗の碗(442)、尾張型第5型式の山茶碗の片口鉢(443)、古瀬戸前II期の花瓶(444)、白磁四耳壺(445)を図示した。

SK409

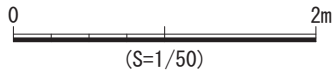


- 1 5Y6/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガンを含む 鉄分沈着あり
- 2 5Y5/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり
鉄分沈着あり
- 3 7.5Y6/1 灰色土 しまりなし 粘性ややあり
- 4 7.5Y4/1 灰色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を含む 7.5Y6/2 灰オリーブ色
粘土ブロックを2%含む
- 5 5Y4/1 灰色土 しまりなし 粘性あり
- 6 7.5Y4/1 灰色土 しまりなし 粘性あり
- 7 7.5Y5/1 灰色土 しまりなし 粘性なし

SK427



- 1 5Y6/2 灰オリーブ色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン含む 鉄分沈着あり
- 2 5Y5/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり
木端を含む 鉄分沈着あり
- 3 5Y4/1 灰色土 しまりなし 粘性あり



SK409出土遺物



SK427出土遺物

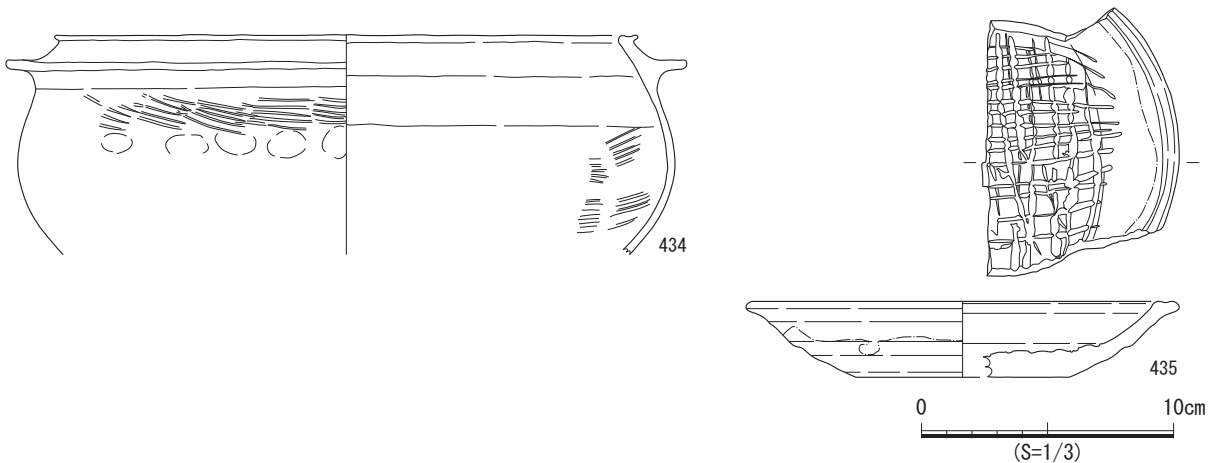


図117 SK409・SK427遺構図、出土遺物実測図

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK715から尾張型第3～4型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半以降のものと考えられる。

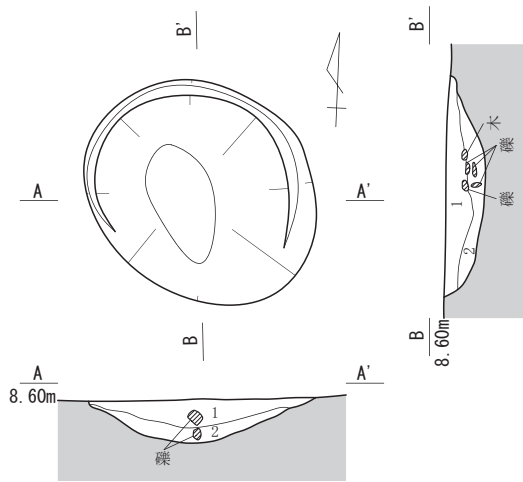
SK462 (図120)

検出状況 DT 8～9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD11、SK460、SK476、SK477等より古く、SK715より新しい。

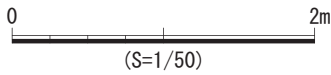
規模・形状 長軸長1.72m、短軸長1.57m以上、深さ0.24mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形で、底面には凹凸がみられる。

埋土 4層に分層した。堆積状況は不明である。

SK440



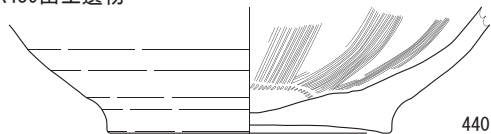
- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性あり
マンガン・炭化物を含む 下層に鉄分沈着あり
- 2 7.5Y5/1 灰色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を含む 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土ブロックを20%含む
鉄分沈着あり



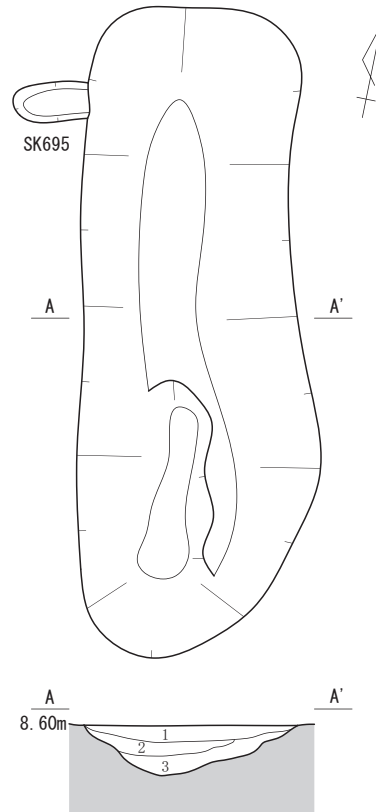
SK440出土遺物



SK459出土遺物



SK459



- 1 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし
鉄分沈着あり
- 2 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を少量含む

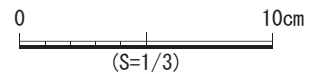


図118 SK440・SK459遺構図、出土遺物実測図

遺物出土状況 埋土から土師器11点、灰釉陶器3点、山茶碗3点、常滑産陶器1点、土製品1点、木製品1点が散在して出土した。

出土遺物 木製の把手(446)を図示した。両端付近には紐を通すための穿孔が認められる。

時期 本遺構より古いSK715から尾張型第3～4型式の山茶碗の碗が出土していることから、11世紀後半以降のものとする。

SK483 (図120)

検出状況 DT7～8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK488より古い。

規模・形状 長軸長1.74m、短軸長1.72m、深さ0.39mで、平面形は隅丸方形である。断面形は逆台形である。南側にテラスを有する。

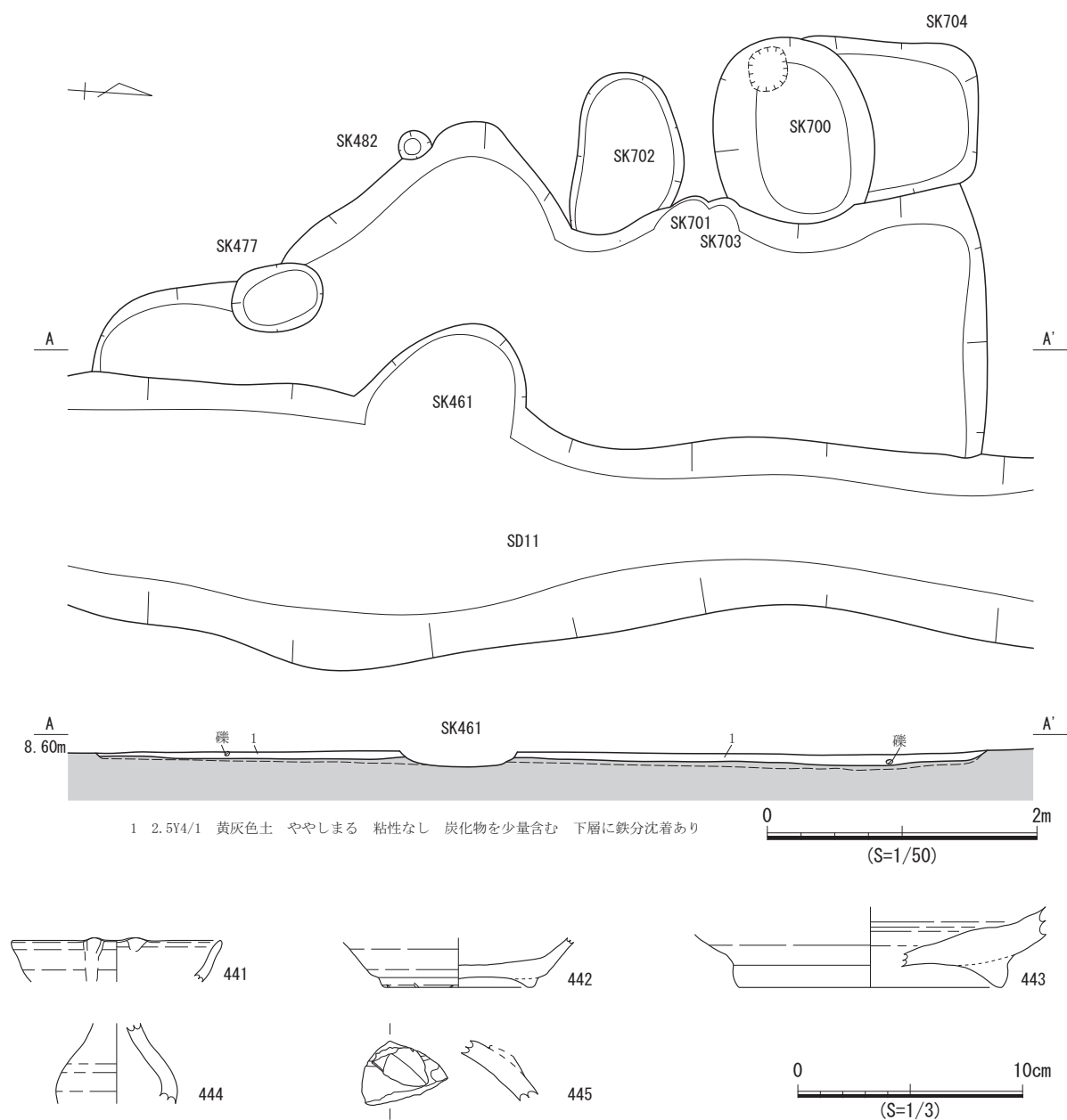


図119 SK460遺構図、出土遺物実測図

埋土 3層に分層した。ほぼ水平な堆積で、1層には多量の円礫を含む。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器15点、山茶碗12点、土製品1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(447)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK495 (図120)

検出状況 DT7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK505より古い。

規模・形状 長軸長0.33m、短軸長0.31m、深さ0.08mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器3点、山茶碗1点、石製品1点が散在して出土した。

出土遺物 砥石(448)を図示した。側面に製作時の摺切りの痕跡が残存する。

時期 周辺に中世の遺構が多く認められることから、中世のものとする。

SK502 (図120)

検出状況 DS・DT7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSA18-P3、SK719、SK720より古い。

規模・形状 長軸長1.43m、短軸長0.82m、深さ0.27mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形で南東部が一段低くなる。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点、山茶碗5点が散在して出土した。また、両小口を切断した木材1点が底面に接した状態で出土した

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗(449)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK506 (図121)

検出状況 DS・DT6～7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係からSK504、SK724、SK745等より新しい。

規模・形状 長軸長2.78m、短軸長2.08m、深さ0.09mで、平面形は楕円形である。断面形は浅い逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器11点、山茶碗8点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C1類(450)、尾張型第6型式の山茶碗の小皿(451)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀のものとする。

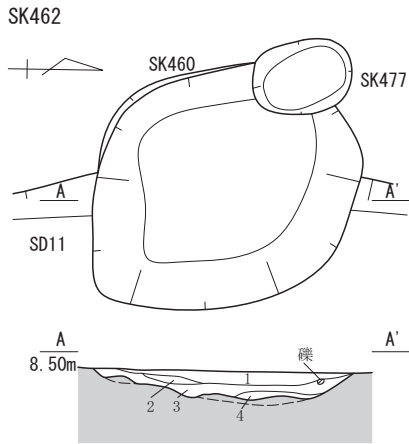
SK560 (図121)

検出状況 DS15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

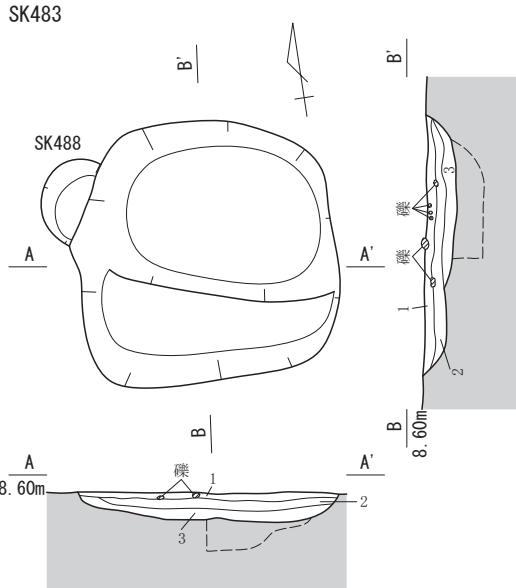
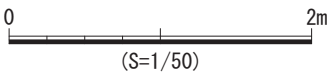
規模・形状 長軸長0.82m、短軸長0.80m、深さ0.11mで、平面形は不整形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。ブロック土や炭化物をまばらに含むことから人為的な堆積の可能性がある。

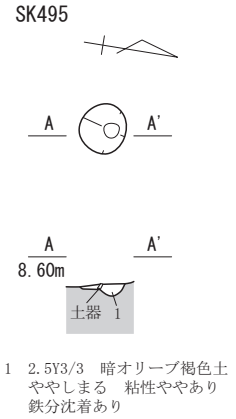
遺物出土状況 埋土から土師器44点、山茶碗2点が散在して出土した。このうち土師器皿2点(452、



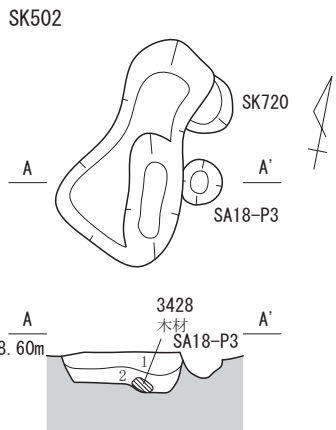
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を少量含む 鉄分沈着あり
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし
鉄分沈着あり
- 3 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり
- 4 7.5Y4/1 灰色土 ややしまる 粘性なし



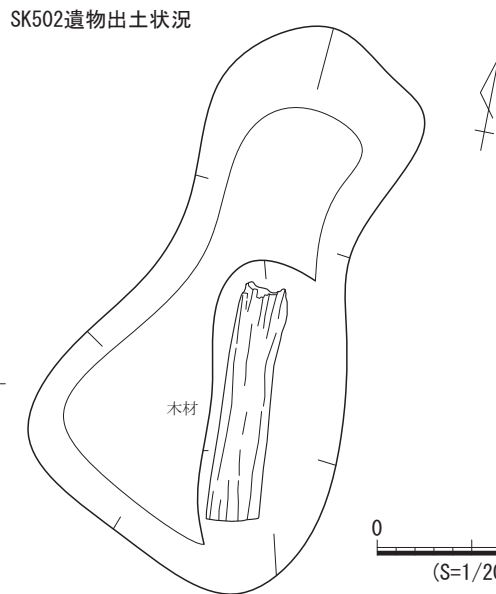
- 1 10YR3/3 暗褐色土 ややしまる 粘性なし
径5~10cmの円礫を多量に含む 鉄分沈着あり
- 2 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
鉄分沈着あり
- 3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性あり
炭化物を含む 鉄分沈着あり



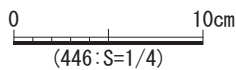
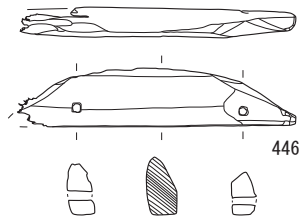
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土
ややしまる 粘性ややあり
鉄分沈着あり



- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる
粘性ややあり 上層に鉄分沈着あり
- 2 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる
粘性ややあり



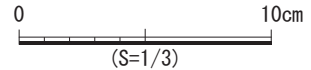
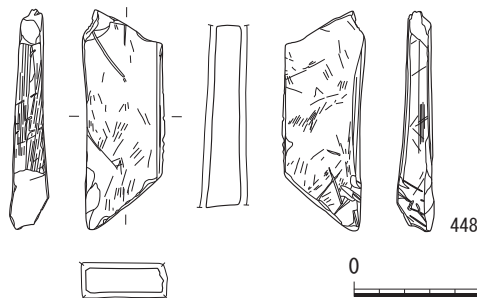
SK462出土遺物



SK483出土遺物



SK495出土遺物



SK502出土遺物



図120 SK462・SK483・SK495・SK502遺構図、出土遺物実測図

453) は1層を掘削中に完形に近い状態で出土した。出土した土師器皿にはいずれも被熱の痕跡が認められた。

出土遺物 分類不能の土師器皿2点(452、453)を図示した。452は体部外面に1段の弱いヨコナデがなされ体部は直線的に立ち上がる。453は体部外面に2段の弱いヨコナデがなされ、体部中ほどからやや外傾して立ち上がる。SK399から出土した408に形態が似る。

時期 出土遺物から中世のものとする。

SK576 (図122)

検出状況 DS13~14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD32、SK583、SK586等より古く、SD27、SK615、SK616等より新しい。

規模・形状 長軸長3.30m、短軸長2.70m、深さ0.14mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形だが、底面には凹凸がみられる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。埋土から拳大の石灰岩が2点出土した。

遺物出土状況 埋土から土師器150点、須恵器4点、灰釉陶器1点、山茶碗56点、常滑産陶器2点が散

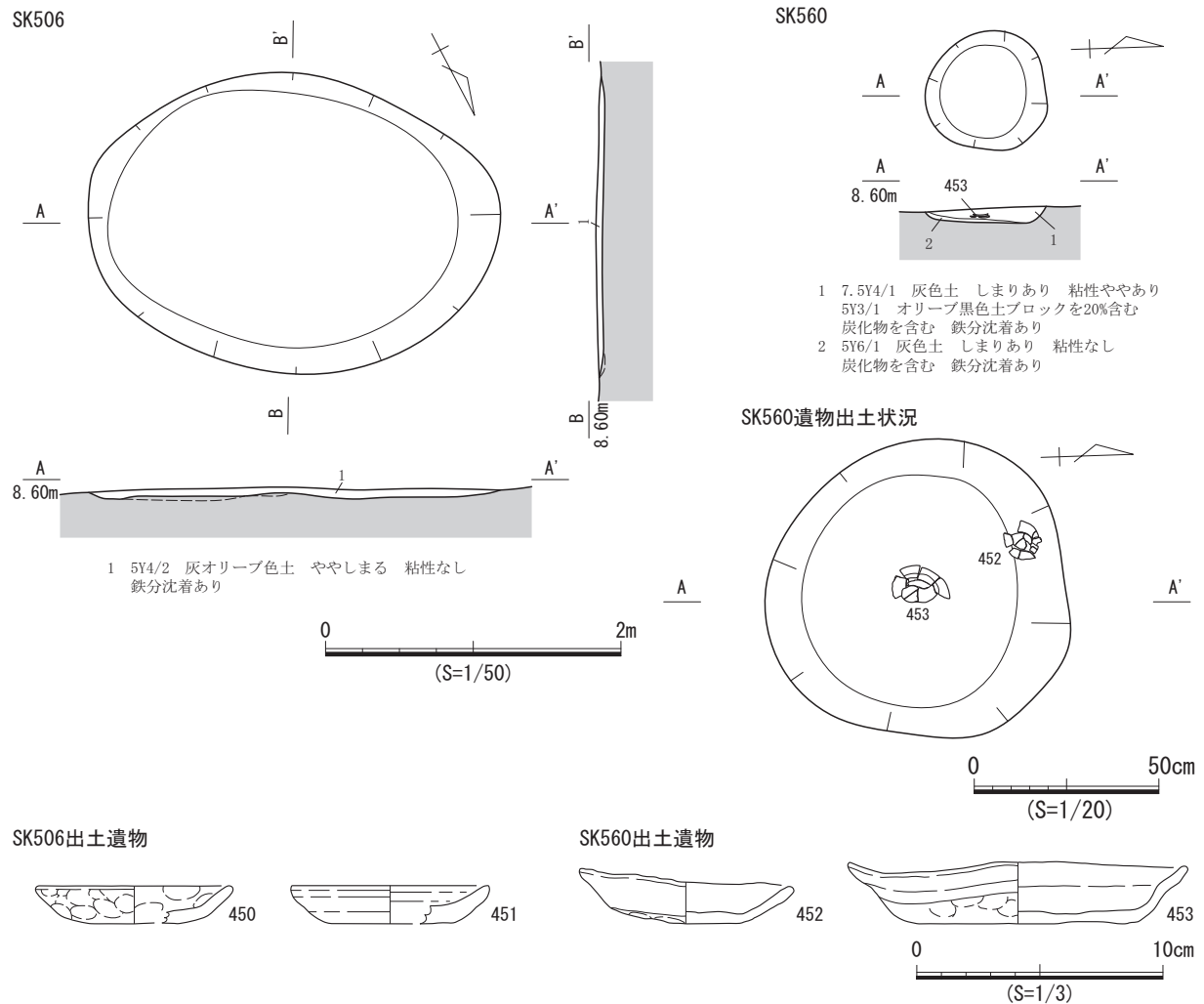


図121 SK506・SK560遺構図、出土遺物実測図

在して出土した。

出土遺物 ロクロ成形の土師器の小皿（454）、中世前期土師器皿A 2 C類（455）、尾張型第3型式の山茶碗の碗（456）、尾張型第6型式の山茶碗の小皿（457）を図示した。456の内面には朱墨が付着しており、硯として使用された可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構よりSD40から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半以降のものとする。

SK578 (図123)

検出状況 DS14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK404より古い。

規模・形状 長軸長0.75m、短軸長0.58m、深さ0.36mで、平面形は西側がSK404と重複しており不明である。北東側にテラスを有する。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点、種子1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第4型式の山茶碗の小碗（458）を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀前葉から中葉のものとする。

SK636 (図123)

検出状況 DS12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.32m、短軸長0.19m、深さ0.15mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形

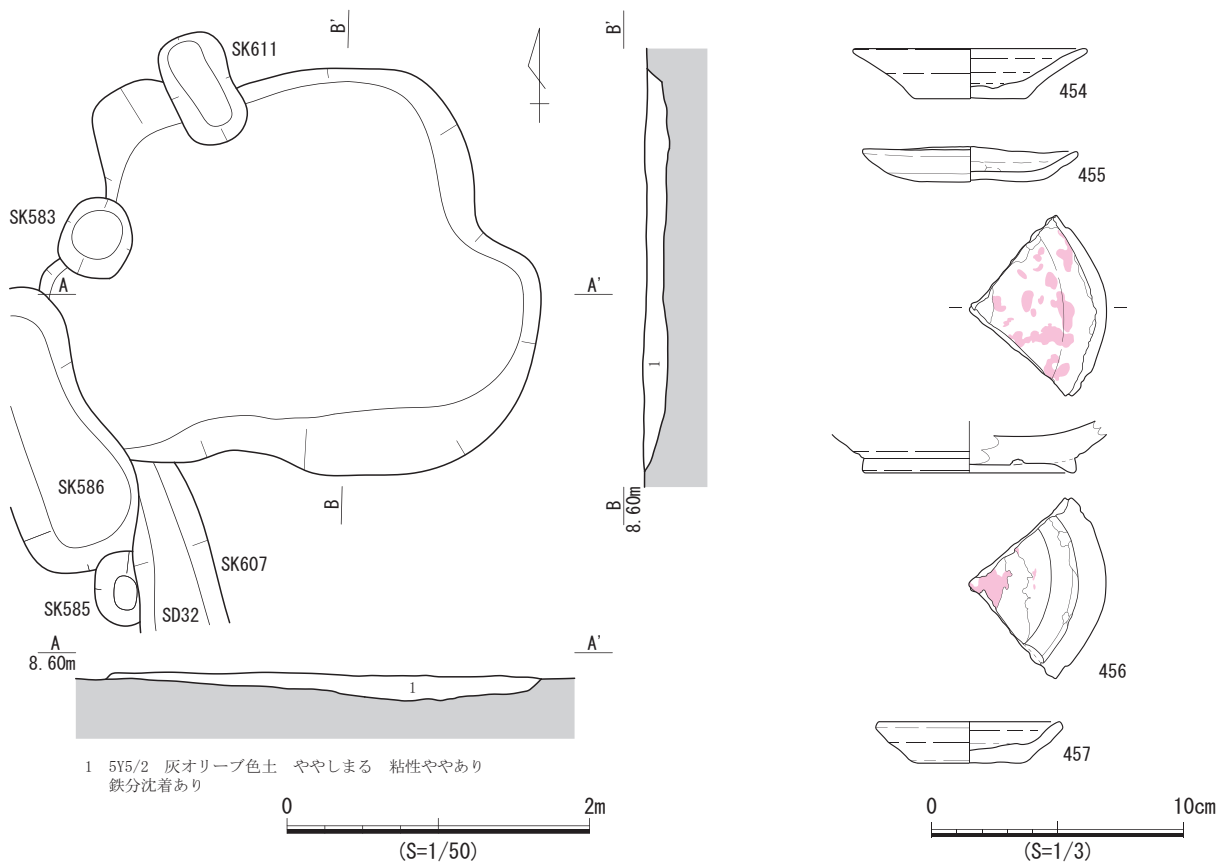


図122 SK576遺構図、出土遺物実測図

である。

埋土 2層に分層した。層界には凹凸がみられる。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器19点、山茶碗1点が出土した。山茶碗の碗と土師器皿が底面に接した状態で出土した。それぞれ逆位で山茶碗(460)が上、土師器(459)が下となるように重なっていた。

遺物の出土状況から人為的に埋められた可能性がある。

出土遺物 中世前期土師器皿A 2 g類(459)、尾張型第5型式の山茶碗の碗(460)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK643 (図123)

検出状況 DS12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK644より新しい。

規模・形状 長軸長1.09m、短軸長0.87m、深さ0.27mで、平面形は円形である。断面形はほぼ逆台形だが、西側にテラスを有する。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器60点、山茶碗5点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿B 2 b類(461)、中世後期土師器皿C 1類(462)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀のものとする。

SK644 (図123)

検出状況 DS12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSK643より古い。

規模・形状 長軸長1.33m、短軸長1.01m、深さ0.23mで、平面形は楕円形である。断面形は半円形で、底面にはやや凹凸がみられる。

埋土 2層に分層した。1層が厚く、中央が窪む堆積である。

遺物出土状況 埋土から土師器3点、灰釉陶器5点、山茶碗3点が散在して出土した。

出土遺物 西坂1号窯式の灰釉陶器の碗(463)を図示した。

時期 山茶碗の破片が出土していることから11世紀後葉以降のものとする。

SK662 (図123)

検出状況 DS11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係からSD47より古く、SP11、SK663、SK670より新しい。

規模・形状 長軸長0.87m、短軸長0.80m、深さ0.21mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層である。埋土に中央に礫を含むことから、人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器17点、山茶碗2点、金属製品1点が散在して出土した。

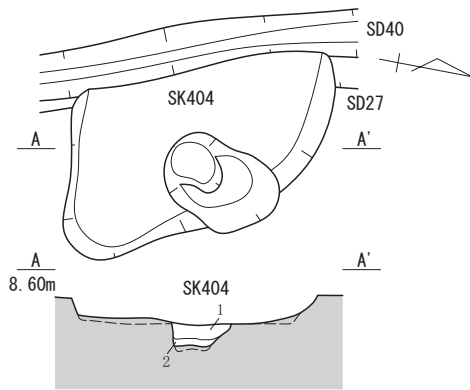
出土遺物 銭貨(464)を図示した。欠損しており、全体の文字を読むことができないが、「元寶」の2文字が判読できる。

時期 山茶碗の破片が出土していることから11世紀後葉以降のものとする。

SK704 (図124)

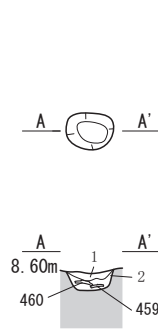
検出状況 DS8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係からSK700より古い。

SK578



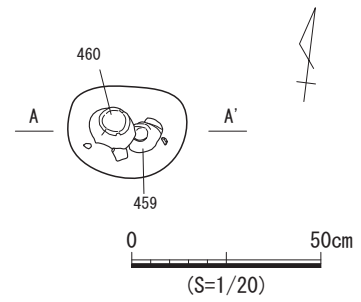
- 1 5Y4/1 灰色土 しまりなし 粘性なし
- 2 7.5Y4/1 灰色土 ややしまる 粘性あり

SK636

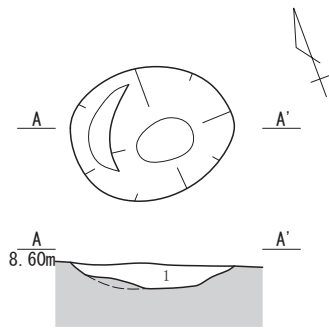


- 1 5Y6/2 灰オリーブ色土 しまりなし 粘性なし
マンガンを含む 鉄分沈着あり
- 2 5Y5/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり

SK636遺物出土状況

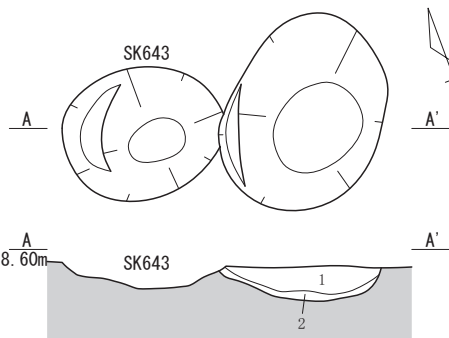


SK643



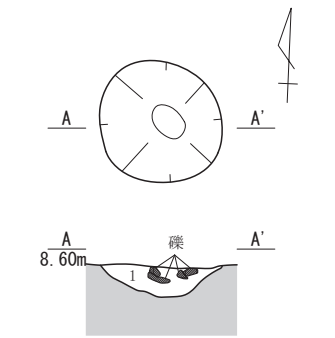
- 1 5Y5/1 灰色土 しまりなし 粘性ややあり
マンガンを含む 下層に鉄分沈着あり

SK644



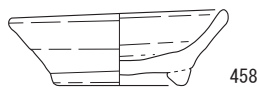
- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガンを含む 下層に鉄分沈着あり
- 2 2.5Y6/2 灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
鉄分沈着あり

SK662

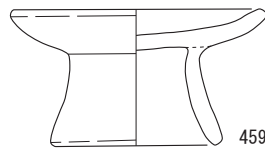


- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性ややあり
マンガン・炭化物を含む

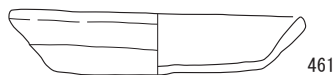
SK578出土遺物



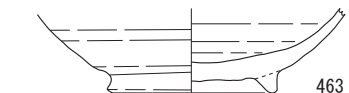
SK636出土遺物



SK643出土遺物



SK644出土遺物



SK662出土遺物

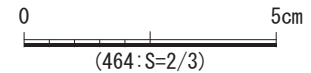
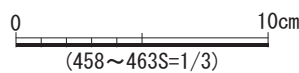


図123 SK578・SK636・SK643・SK644・SK662遺構図、出土遺物実測図

規模・形状 長軸長1.18m、短軸長0.85m以上、深さ0.11mである。南側がSK700と重複し、平面形は不明である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。概ね水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、山茶碗5点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 常滑10型式の甕(465)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前半のものとする。

SK715 (図124)

検出状況 DS8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係からSK460、SK461、SK462等より古い。

規模・形状 長軸長1.89m、短軸長1.04m、深さ0.18mで、平面形は不定形である。断面形は2段の掘り込みである。北辺から西辺にかけてと南西側にテラスを有する。

埋土 2層に分層した。概ね中央がやや窪む堆積だが、層界には凹凸がある。埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器45点、須恵器4点、灰釉陶器2点、山茶碗9点、中国産陶磁器4点が散在して出土した。火鉢(506)がSK954から出土した破片と接合した。

出土遺物 尾張型第3～4型式の山茶碗の碗(466)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀後半から15世紀前半のものとする。

SK733 (図124)

検出状況 DS6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SA20-P4、SK746より新しい。

規模・形状 長軸長0.45m、短軸長0.40m、深さ0.18mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器7点、山茶碗1点、瀬戸美濃産陶器2点、石製品1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅲ期の播鉢(467)と砥石(468)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀前半のものとする。

SK737 (図124)

検出状況 DS6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK736より古く、SB5-P3より新しい。

規模・形状 長軸長0.46m、短軸長0.30m以上、深さ0.07mである。東側がSK736と重複するため、平面形と断面形は不明である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

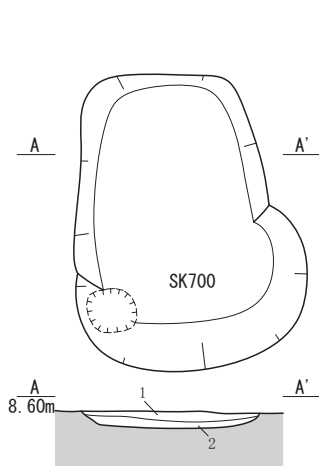
遺物出土状況 埋土から土師器2点、瀬戸美濃産陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅰ～Ⅲ期の天目茶碗(469)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀後半から15世紀前半のものとする。

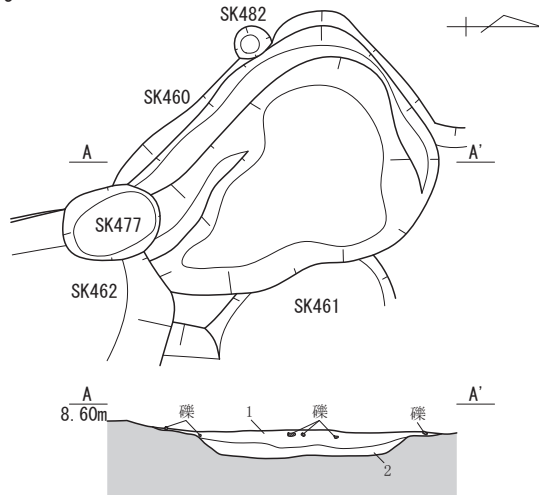
SK785 (図124)

SK704



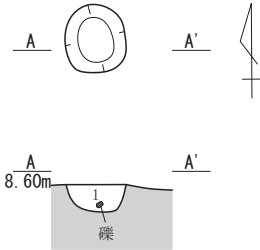
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
炭化物を少量含む 鉄分沈着あり
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし
鉄分沈着あり

SK715



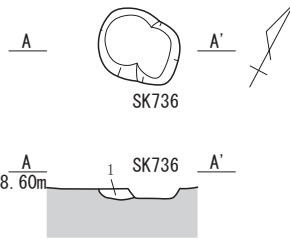
- 1 10YR3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり
炭化物を少量含む 径5cm程の円礫を含む
- 2 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性ややあり

SK733



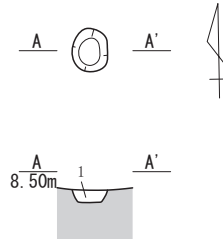
- 1 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 ややしまる 粘性なし
炭化物を含む 鉄分沈着あり

SK737

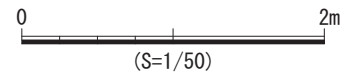


- 1 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし
鉄分沈着あり

SK785



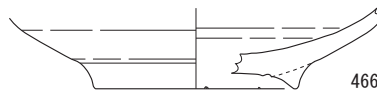
- 1 5Y5/2 灰オリーブ色土 ややしまる 粘性ややあり
鉄分沈着あり



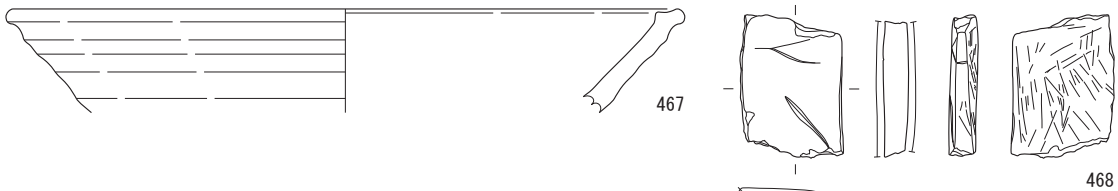
SK704出土遺物



SK715出土遺物



SK733出土遺物



SK737出土遺物



SK785出土遺物

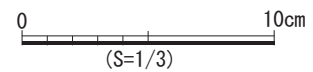
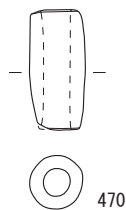


図124 SK704・SK715・SK733・SK737・SK785遺構図、出土遺物実測図

検出状況 DR15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK786より新しい。

規模・形状 長軸長0.28m、短軸長0.23m、深さ0.10mで、平面形は不整円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土製品1点が出土した。

出土遺物 管状土錘(470)を図示した。

時期 時期の判断できる遺物が出土しておらず不明である。

SK788 (図125)

検出状況 DR14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK797より新しい。

規模・形状 長軸長1.17m、短軸長0.74m、深さ0.31mで、平面形は不整円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。概ね水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器16点、須恵器3点、山茶碗21点、中国産陶器2点、土製品1点が散在して出土した。このうち、検出時に山茶碗の片口鉢(472)、白磁がまとまって出土した。

出土遺物 ロクロ成形の土師器の小皿(471)と尾張型第5型式の山茶碗の片口鉢(472)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK789 (図125)

検出状況 DR14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。

規模・形状 長軸長2.07m、短軸長1.56m、深さ0.14mで、平面形は不整楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器13点、山茶碗6点が散在して出土した。

出土遺物 ロクロ成形の土師器の小皿(473)と尾張型第4～5型式の山茶碗の碗(474)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀前葉から13世紀前葉のものとする。

SK813 (図125)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。重複関係から、SK811より古く、SK814より新しい。

規模・形状 長軸長1.29m、短軸長0.75m、深さ0.23mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器29点、山茶碗9点、常滑産陶器1点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A1a類(475)と尾張型第6型式の山茶碗の碗(476)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

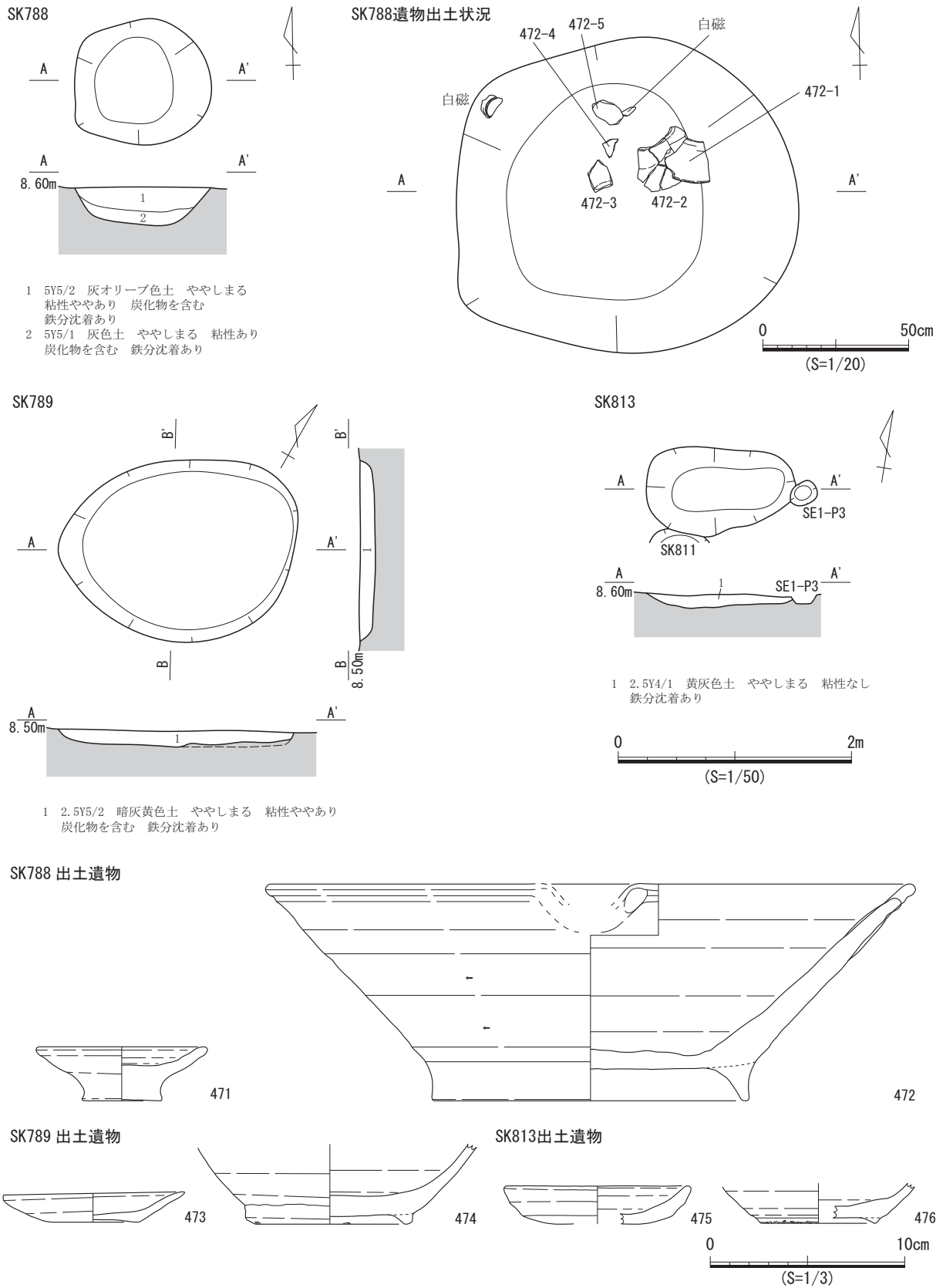


図125 SK788・SK789・SK813遺構図、出土遺物実測図

SK819 (図126)

検出状況 DR13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや不明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.60m、短軸長0.50m、深さ0.36mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。1層、2層は中央が窪む堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器17点、山茶碗6点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第3型式の山茶碗の碗(477)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、11世紀後半から12世紀前葉のものとする。

SK874 (図126)

検出状況 DR12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SA23-P4、SK830より古い。

規模・形状 長軸長0.31m、短軸長0.22m、深さ0.40mである。SA23-P4、SK830と重複するが、平面系は円形と考えられる。断面形は方形である。

埋土 2層に分層した。1層は中央が窪む堆積である。ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗(478)を図示した。内面の使用痕が顕著で墨痕が認められることから硯として使用された可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK893 (図126)

検出状況 DR11グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK884、SK892より古い。

規模・形状 長軸長0.39m、短軸長0.25m、深さ0.11mで、平面形は楕円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層である。

遺物出土状況 埋土中から、一部が底面に接地する状況で、ほぼ完形の山茶碗の碗(479)が正位で出土した。遺物の出土状況から人為的な堆積の可能性はある。

出土遺物 尾張型第3型式の山茶碗の碗(479)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、11世紀後半から12世紀前葉のものとする。

SK941 (図126)

検出状況 DQ9～DR9グリッド、SK944の底面で検出し、平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD57、SK1188、SK1189等より古く、SK943、SK1192、SK1193等より新しい。

規模・形状 長軸長3.11m、短軸長1.11m、深さ0.15mで、平面形は南北方向に長い不整隅丸長方形である。断面は半円形で、最深部が西に偏る。

埋土 単層で、埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器16点、須恵器3点、山茶碗11点、常滑産陶器6点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(480)と同安窯系Ⅲ類の青磁碗(481)を図示した。

時期 本遺構より古いSK1192から古瀬戸後Ⅳ期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SK942 (図127~129)

検出状況 DQ9~DR9グリッド、本遺構の北側はSK1192の底面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK944、SK1189、SK1192等より古い。

規模・形状 長軸長3.45m、短軸長1.54m、深さ0.23mで、平面形は南北方向に長い不整楕円形である。断面形は半円形で、底面は丸くなる。東側の一部にはテラスを有する。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積である。埋土中に多数の遺物を含み、人為的な堆積と考える。

遺物出土状況 埋土から土師器66点、灰釉陶器1点、山茶碗34点、常滑産陶器2点、中国産陶磁器1点、木製品49点が散在して出土した。本遺構の北部からは漆碗(484)、そのやや南で笊(487)が出

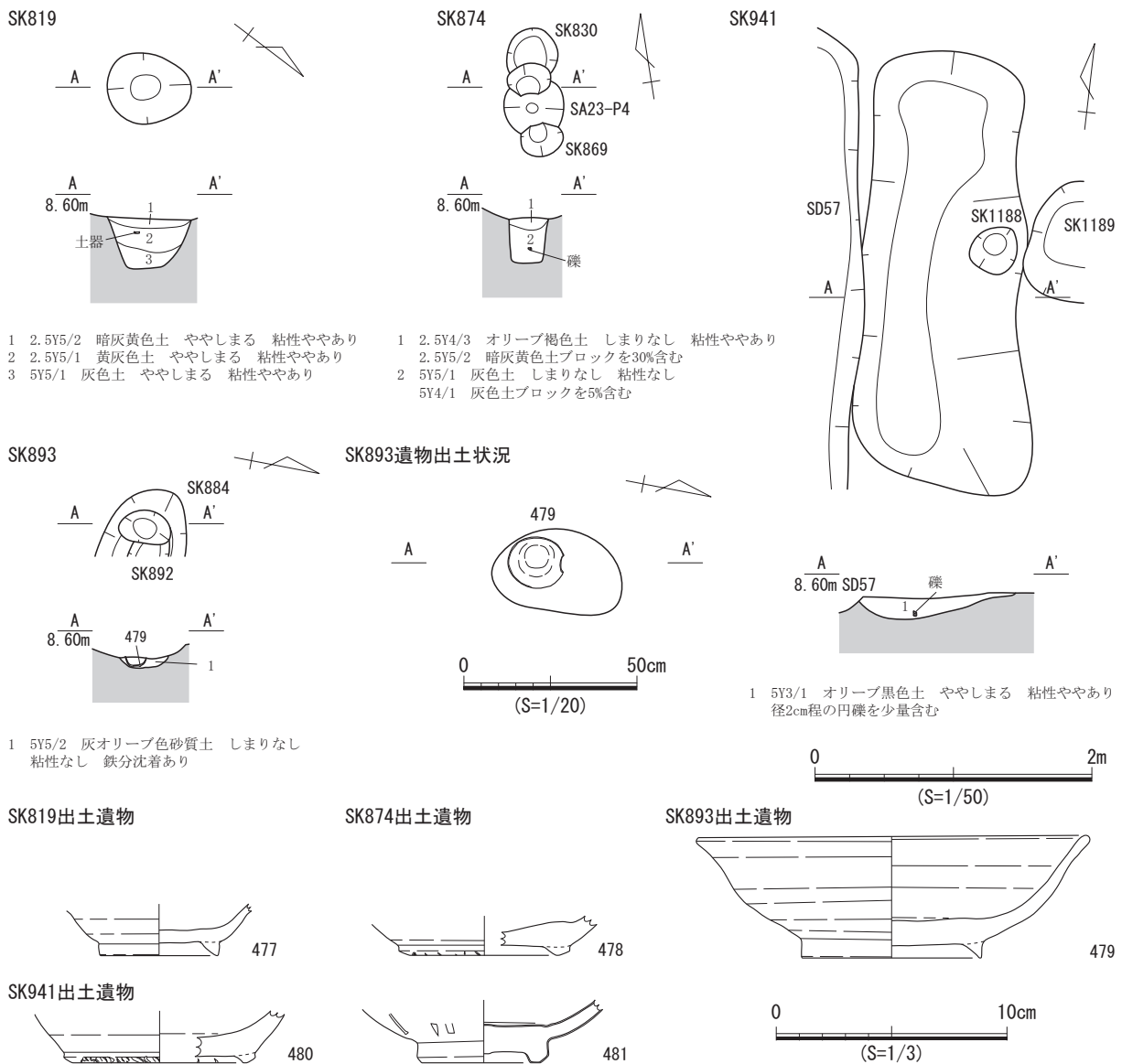


図126 SK819・SK874・SK893・SK941遺構図、出土遺物実測図

土した。筥の下からは漆椀2点(483、485)、杵(486)、建築部材(491)が出土した。漆椀のうち1点(485)は逆位で筥に接していた。遺物の出土状況から、人為的な堆積と考えられ、廃棄土坑の可能性はある。

出土遺物 灰釉陶器1点(482)と木製品8点(483～491)を図示した。482はK-14号窯式の皿である。483～485は漆椀で、いずれも15世紀代のものである。483と485には赤色漆を用いた手書きの漆絵が描かれる。483の体部外面のは草花文が描かれ内面は赤い。また、外面底部にはロクロの目跡と所有印と考えられる「ト」の記号がある。485の体部外面の模様は遺存状態が悪く不明だが、見込みは鶴丸と考えられる。486は堅杵で、側面には切削痕が認められる。487は筥である。正円に近い形状で長軸が64cm、短軸が58.5cmである。縁が残存しており、幅は約1.5cmである。竹条は幅約0.6cmで、3本越え、3本潜り、1本送りで編まれる。竹条の先端は尖るように加工されており、縁を巻き込んで先端を網代に通すことで、縁と竹条を固定している。488は箸と考えられる棒状の製品で、切削により面取りされ断面は多角形になる。489と490は円柱状の用途不明の製品で体部の中央付近に方形または多角形の孔が穿たれる。孔は貫通しており、浮木や網具の錘、木槌の頭等の可能性がある。ただし、小口には加工痕が残存しており、木槌の頭だとすれば未成品若しくはほとんど使用されていない状態で廃棄されたと思われる。491は建築部材で、長軸に沿って溝を穿つことから鴨居若しくは敷居と考えられ、両小口にはほぞが設けられる。溝内には鑿による連続的な先刃痕が認められる。側面には部分的に切削痕が認められ、断面形は丸みを持ち、中央がやや窪むことからヤリガンナによる加工と考える。

時期 出土遺物の最新型式から15世紀代のものとする。

SK944 (図130)

検出状況 DQ8～9、DR8～9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD60、SK948、SK1203等より古くSD58、SD59、SK945等より新しい。

規模・形状 長軸長7.90m、短軸長4.39m以上、深さ0.12mで、北側は攪乱により消失し、平面形は不明である。断面形は浅い皿状で、底面には凹凸がみられる。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器137点、須恵器10点、灰釉陶器13点、山茶碗126点、瀬戸美濃産陶器13点、常滑産陶器13点、瓦質土器2点、中国産陶磁器13点が散在して出土した。

出土遺物 土師器2点(492、493)、山茶碗4点(494～497)を図示した。492、493は中世後期土師器皿C1類で、193には煤が付着する。494、495は尾張型第5型式、496は脇之島3号窯式の碗で495の底面には2条の沈線がある。497は尾張型第6型式の片口鉢である。

時期 出土遺物の最新型式から15世紀中葉のものとする。

SK948 (図131)

検出状況 DR8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK947より古い。

規模・形状 長軸長2.52m、短軸長1.35m、深さ0.45mで、平面形は南北方向に長い楕円形である。断面形は方形である。南東部にややテラスを有する。

埋土 3層に分層した。概ね水平な堆積である。埋土の中央に礫を含むことから人為的な堆積の可能性はある。また、本遺構の北よりでは、底面に接した状態で径約30cmの石灰岩が出土した。

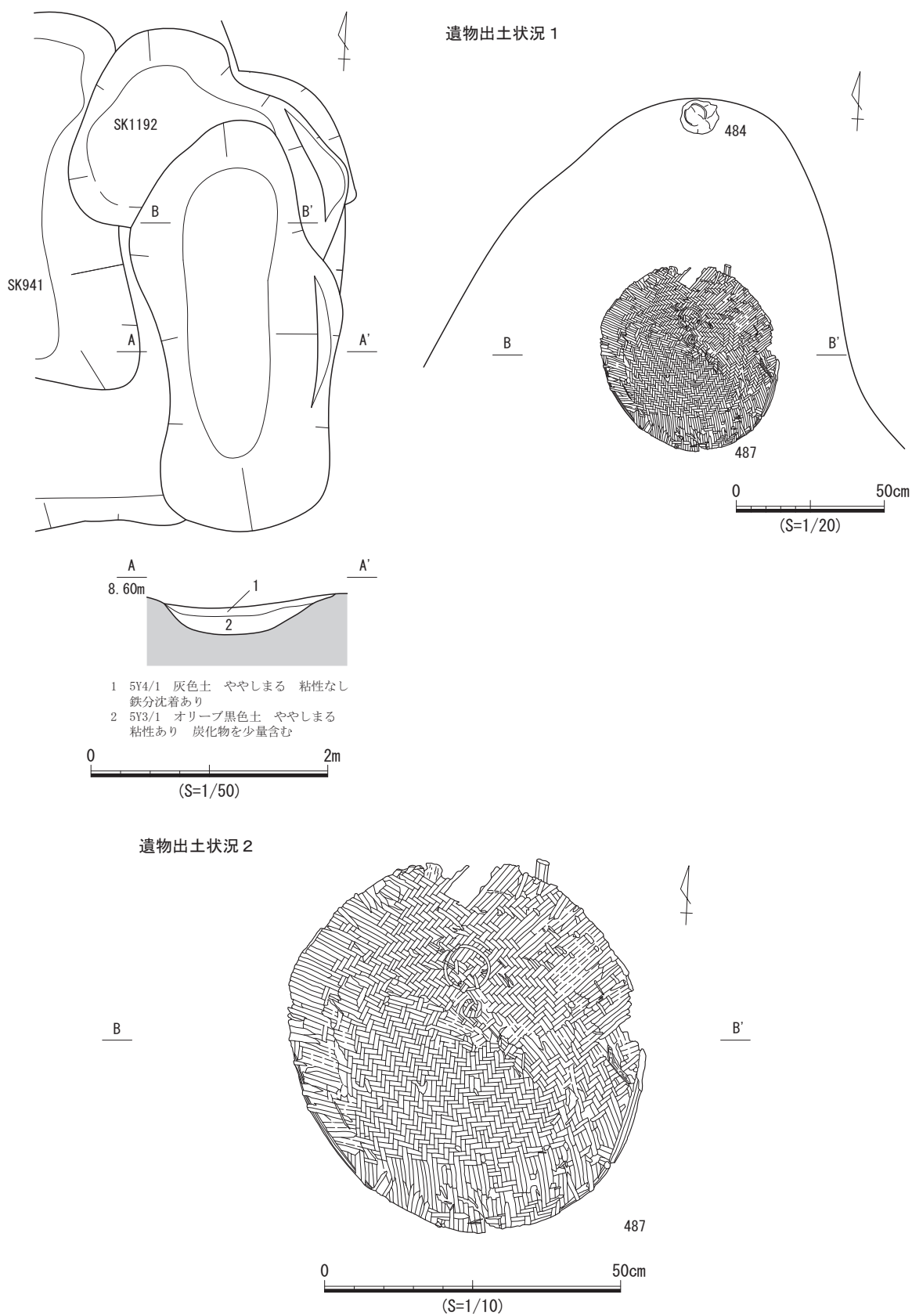


図127 SK942遺構図

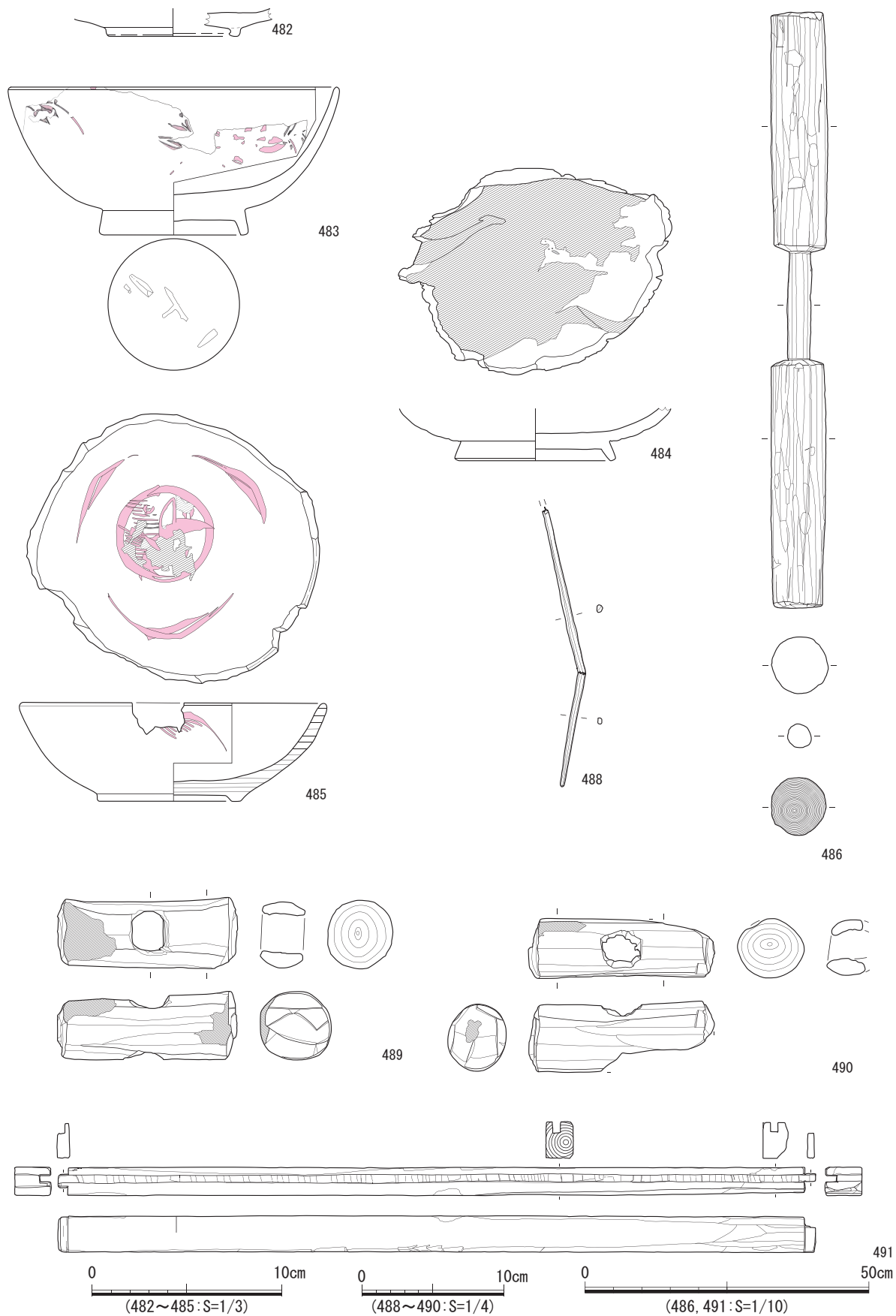


図128 SK942出土遺物実測図 1

遺物出土状況 埋土から土師器8点、須恵器1点、山茶碗28点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器6点、中国産陶磁器1点、木製品3点が散在して出土した。

出土遺物 大窯第1～第2段階の播鉢(498)と漆椀(499)を図示した。499は土圧により変形が著しく反転して図化することは困難であった。体部外面に赤色漆で漆絵を施すが遺存状態が悪く詳細は不明である。

時期 出土遺物の最新型式から15世紀後葉から16世紀中葉のものとする。

SK949 (図131)

検出状況 DQ8～DR8グリッド、SK944の底面で検出し、平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD60、SK944より古い。

規模・形状 長軸長1.82m、短軸長1.52m、深さ0.38mで、平面形は不整円形である。断面形は逆台



図129 SK942出土遺物実測図2

形である。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積で層界には凹凸がある。埋土に炭化物やブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器33点、須恵器2点、灰釉陶器3点、山茶碗46点、常滑産陶器17点、土製品2点、種子2点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛第3期(500)、尾張型第6型式(501)の山茶碗の碗を図示した。501の内面には墨痕が付着しており、硯として使用された可能性がある。

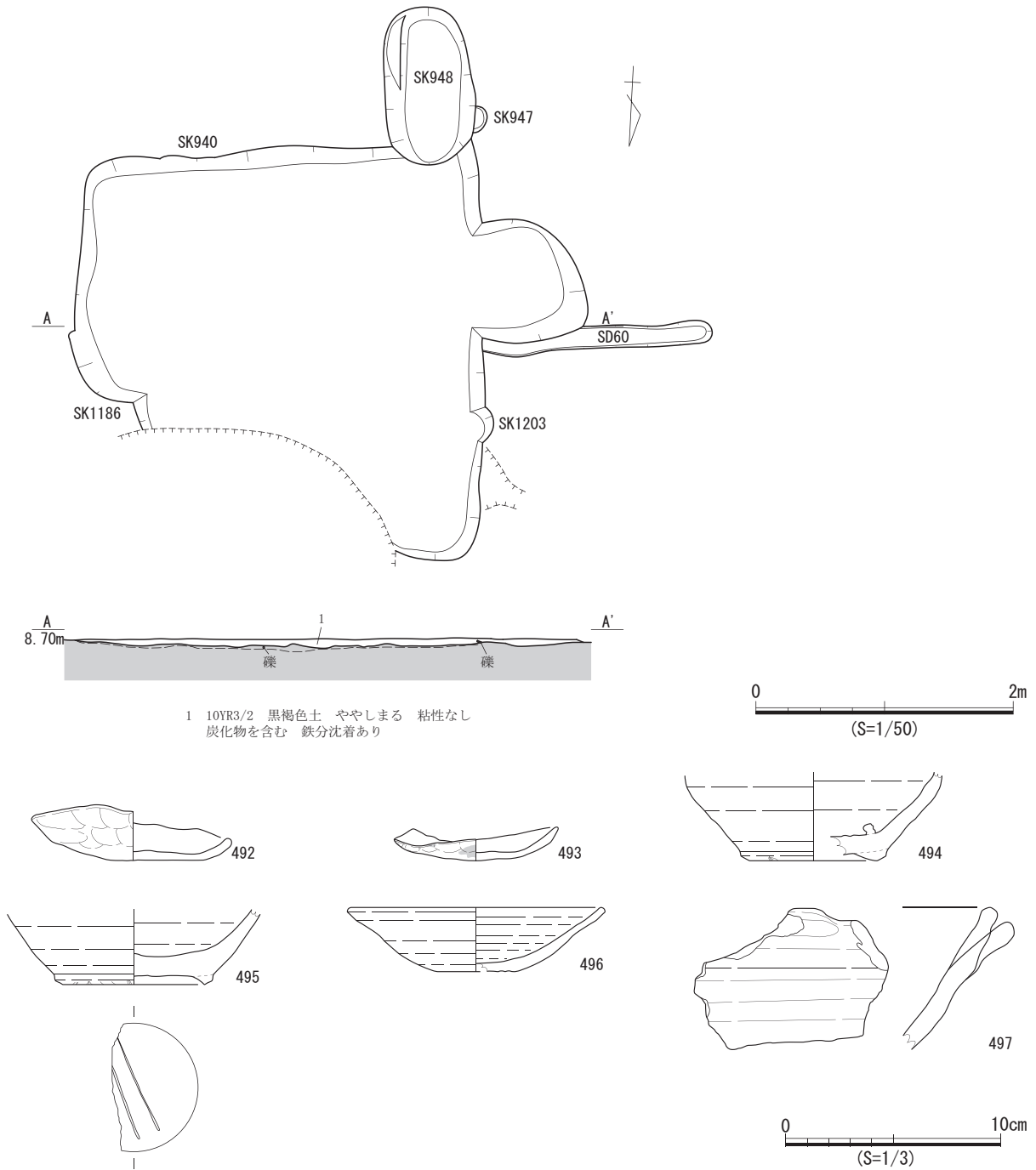


図130 SK944遺構図、出土遺物実測図

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK951 (図132)

検出状況 DR 7～8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK950より古い。

規模・形状 長軸長2.75m、短軸長1.72m、深さ0.21mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。周辺の遺構と比べて深いため、井戸として機能していた可能性がある。

埋土 4層に分層した。やや中央が窪む堆積である。ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器88点、須恵器9点、灰釉陶器9点、山茶碗80点、常滑産陶器14点、中国産陶磁器1点、木製品4点、種子2点が散在して出土した。

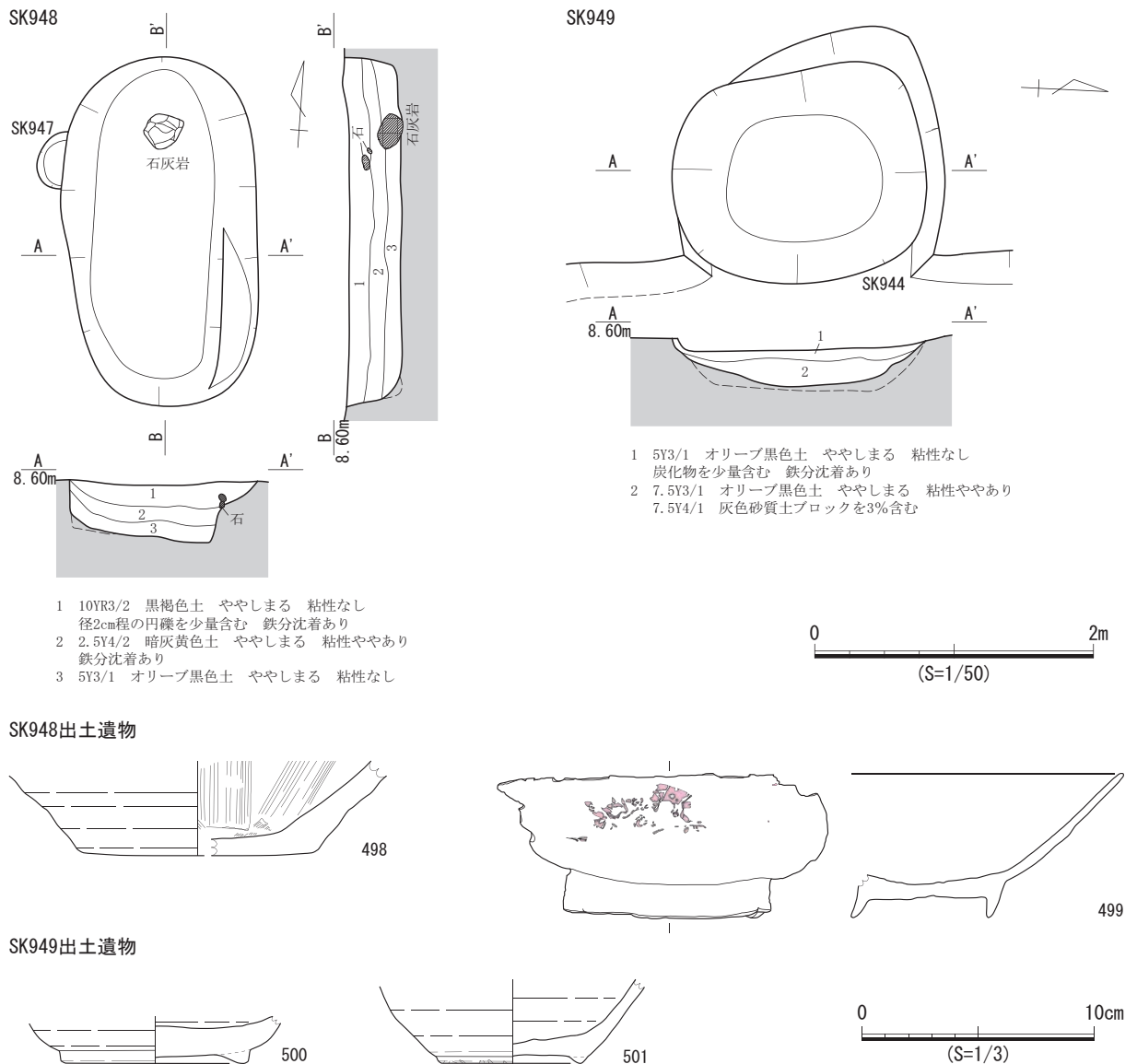


図131 SK948・SK949遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(502)と小皿(503)、尾張型第6型式の山茶碗の片口鉢(504)、龍泉窯系の青磁鉢(505)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK954 (図133)

検出状況 DR7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD55より古く、SK955より新しい。

規模・形状 長軸長0.43m、短軸長0.25m、深さ0.18mで、平面形は楕円形である。断面形は半円形である。

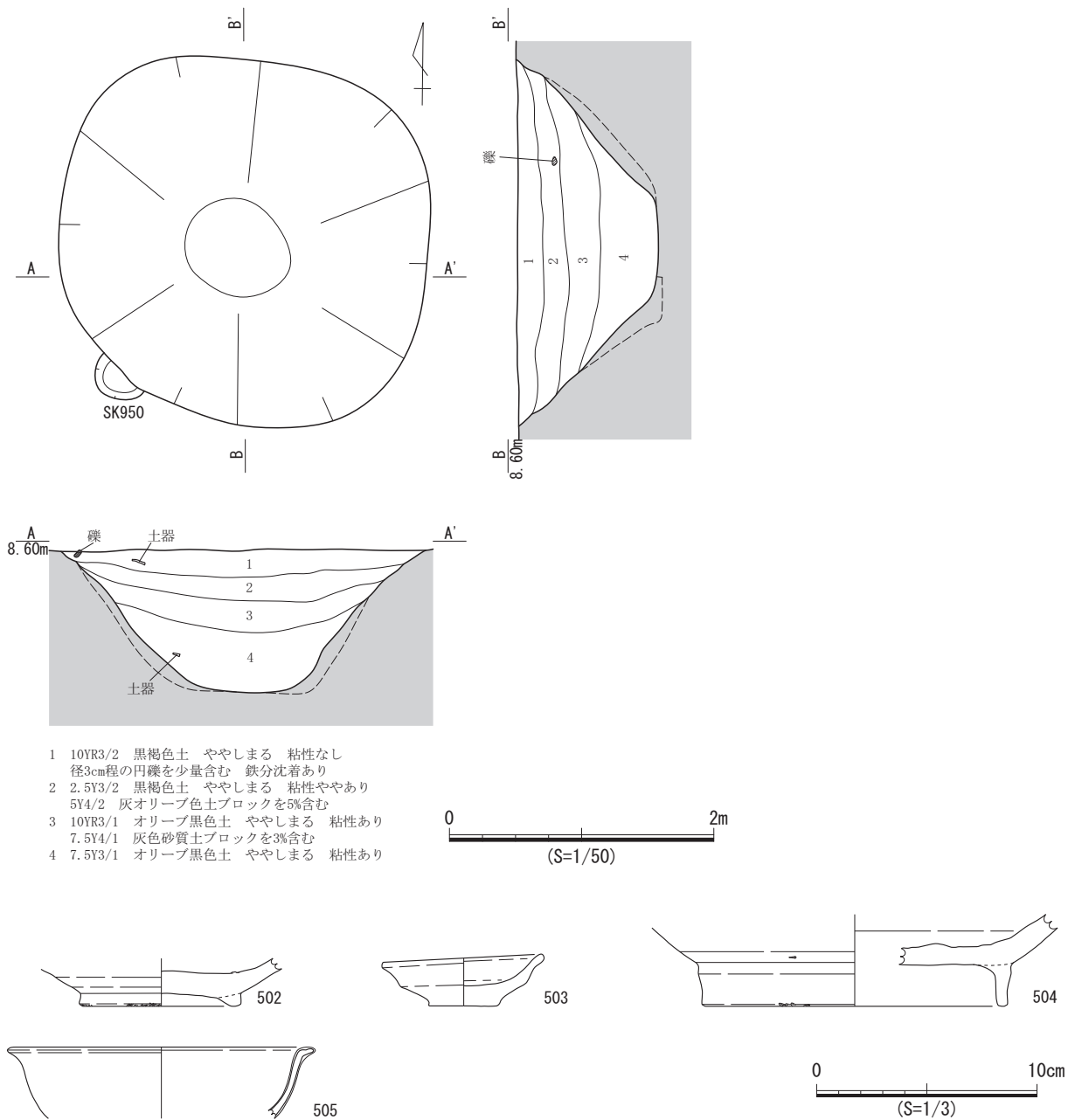


図132 SK951遺構図、出土遺物実測図

埋土 2層に分層した。水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、山茶碗2点、瀬戸美濃産陶器1点、瓦質土器5点が散在して出土した。

出土遺物 瓦質土器の火鉢(506)を図示した。SK517から出土した破片と接合した。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀後半から15世紀前半のものとする。

SK964 (図133)

検出状況 DR6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK976より新しい。

規模・形状 長軸長0.40m、短軸長0.35m、深さ0.10mで、平面形は円形である。断面形は半円形である。

埋土 単層でブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器10点、山茶碗1点が散在して出土した。このうち完形に近い土師器皿(507)の破片が正位で底面に接した状態で出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A2c類(507)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後半から13世紀中葉のものとする。

SK983 (図133)

検出状況 DR5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK982より古く、SK984より新しい。

規模・形状 長軸長0.45m、短軸長0.30m以上、深さ0.20mである。北側が攪乱により消失しているため、平面形は不明である。断面形は方形である。

埋土 3層に分層した。中央が窪む堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器22点、山茶碗2点、瀬戸美濃産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 中世後期土師器皿C1類(508)、古瀬戸後Ⅱ～Ⅲ期の盤類(509)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、14世紀後半から15世紀前半のものとする。

SK1000 (図133)

検出状況 DQ14～15グリッド、Ⅰb層基底面で検出した。平面形は不明瞭で、埋土がⅠb層を類似しており、検出時にやや埋土を掘り下げてしまった。

規模・形状 長軸長2.06m、短軸長1.65m、深さ0.28mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器4点、須恵器3点、山茶碗8点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

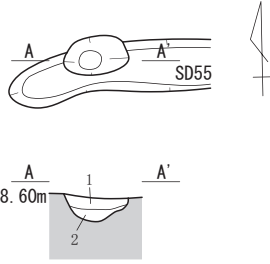
出土遺物 中世前期土師器皿A1a類(510)、尾張型第5型式の山茶碗の碗(511)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後半から13世紀前半のものとする。

SK1034 (図134)

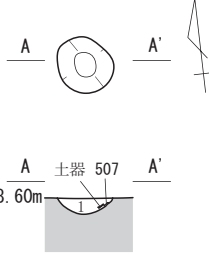
検出状況 DQ12～13グリッド、Ⅲ層上面で検出した。北西部は攪乱によって消失している。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1064、SK1065等より古く、SB6-P5、SK1093等より新しい。

SK954



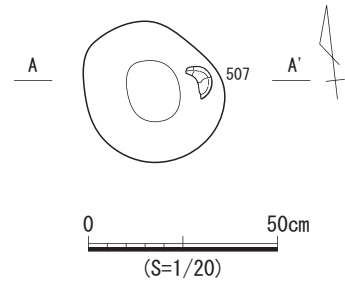
- 1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
下層に鉄分沈着あり
- 2 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし

SK964

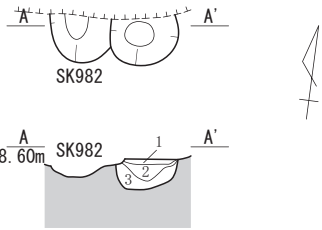


- 1 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり
- 2.5Y4/2 暗灰黄色土ブロックを5%含む
炭化物を少量含む 鉄分沈着あり

SK964 遺物出土状況

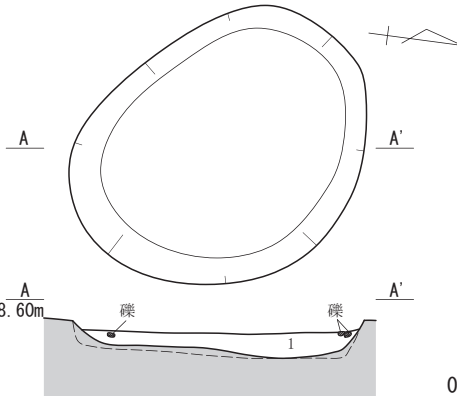


SK983



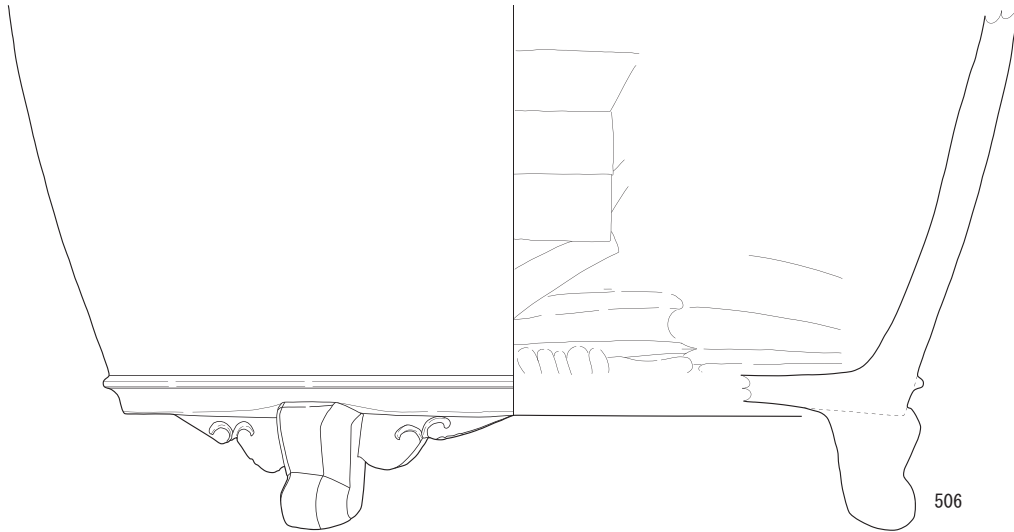
- 1 5Y4/2 灰オリーブ色土 ややしまる 粘性なし
鉄分沈着あり
- 2 7.5Y4/1 灰色土 ややしまる 粘性ややあり
- 3 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり

SK1000

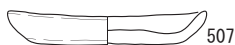


- 1 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性あり
径3cm程の円礫を含む 炭化物を少量含む

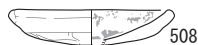
SK954出土遺物



SK964出土遺物



SK983出土遺物



SK1000出土遺物

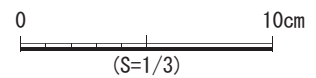


図133 SK954・SK964・SK983・SK1000遺構図、出土遺物実測図

規模・形状 長軸長2.61m、短軸長2.45m、深さ0.19mで、平面形は不定形である。断面形は浅い逆台形で、底部に部分的に凹凸がみられる。

埋土 単層である。ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器46点、灰釉陶器2点、山茶碗33点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の小皿(512)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式とSB7-P5より新しいことから、12世紀前葉以降のものとする。

SK1057 (図134)

検出状況 DQ12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1026、SK1124、SK1125等より古く、SB7-P3、SK1114より新しい。

規模・形状 長軸長3.67m、短軸長2.10m、深さ0.20mで、平面形は不定形である。断面形は概ね浅

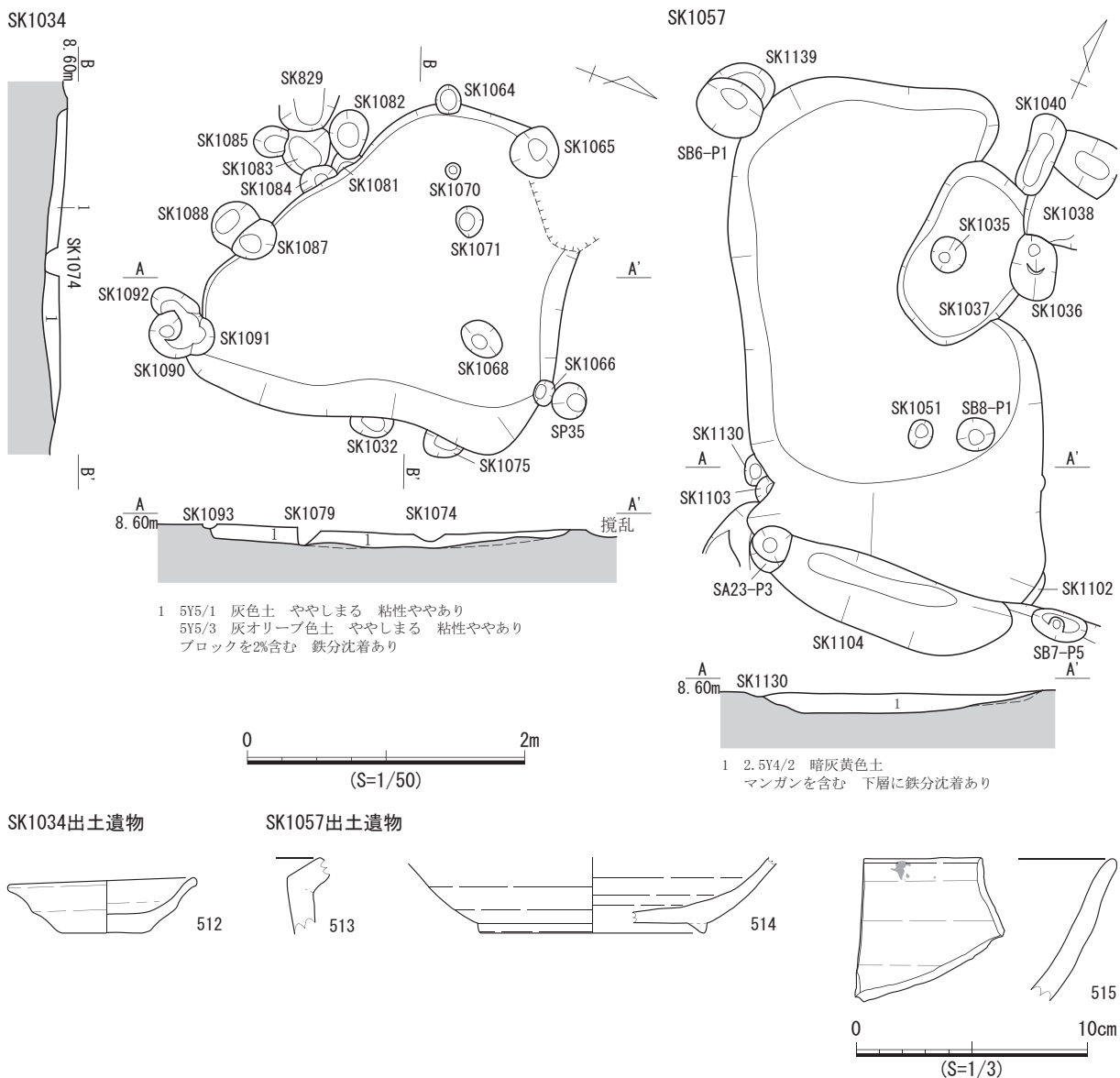


図134 SK1034・SK1057遺構図、出土遺物実測図

い逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器63点、須恵器3点、灰釉陶器21点、山茶碗39点、中国産陶磁器4点、種子1点が散在して出土した。

出土遺物 H類若しくはI類の清郷型鍋(513)、尾張型第5型式の山茶碗の碗(514)、丸石3号窯式～窯洞1号窯式の山茶碗の片口鉢(515)を図示した。515の内面には漆と思われる付着物がある。

時期 出土遺物の最新型式とSB7-P3より新しいことから、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK1114 (図135)

検出状況 DQ11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1124、SK1125、SK1126等より古い。

規模・形状 長軸長3.70m、短軸長1.82m、深さ0.49mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形で、東側にはテラス状の段を有する。底面は部分的に凹凸がみられる。

埋土 3層に分層した。1層がブロック土を含むことや遺物の出土状況から、人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器71点、須恵器3点、灰釉陶器11点、山茶碗76点、瀬戸美濃産陶器3点、中国産陶磁器5点、近世陶磁器1点、土製品1点、木製品2点、炭化物1点、種子6点が散在して出土した。このうち板材2点は、北側のものは底面の直上から、南側のものは底面から10cmほど上の埋土中から出土した。いずれも小口に面があり、人為的に切断したと考える。また、二つの木材の間からは山茶碗の小碗(521)が正位で、一部が底面に接して出土した。近世陶磁器はa層から出土しており、混入と考えられる。

出土遺物 ロクロ成形の土師器の小皿(516)と碗(517)、中世前期土師器皿A1a類(518)、明和27号窯式の灰釉陶器の碗(519)、尾張型第4型式の山茶碗の碗(520)と小碗(521)を図示した。520と521の底部外面にはいずれも「の」の墨書がある。520の内面には墨痕が認められることから硯として使用された可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀のものとする。

SK1124 (図135)

検出状況 DQ11～12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1057、SK1114より新しい。

規模・形状 長軸長0.41m、短軸長0.39m、深さ0.12mで、平面形は不整形である。断面形は半円形である。

埋土 単層である。

遺物出土状況 埋土中からやや西側に傾いた正位の状態の山茶碗の碗(522)が出土しており、北側の一部は底面に接していた。遺物の出土状況から人為的な堆積の可能性がある。

出土遺物 浅間窯下1号窯式の山茶碗の碗(522)を図示した。

時期 出土した山茶碗とSK1057から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土していることから、12世紀後葉以降のものとする。

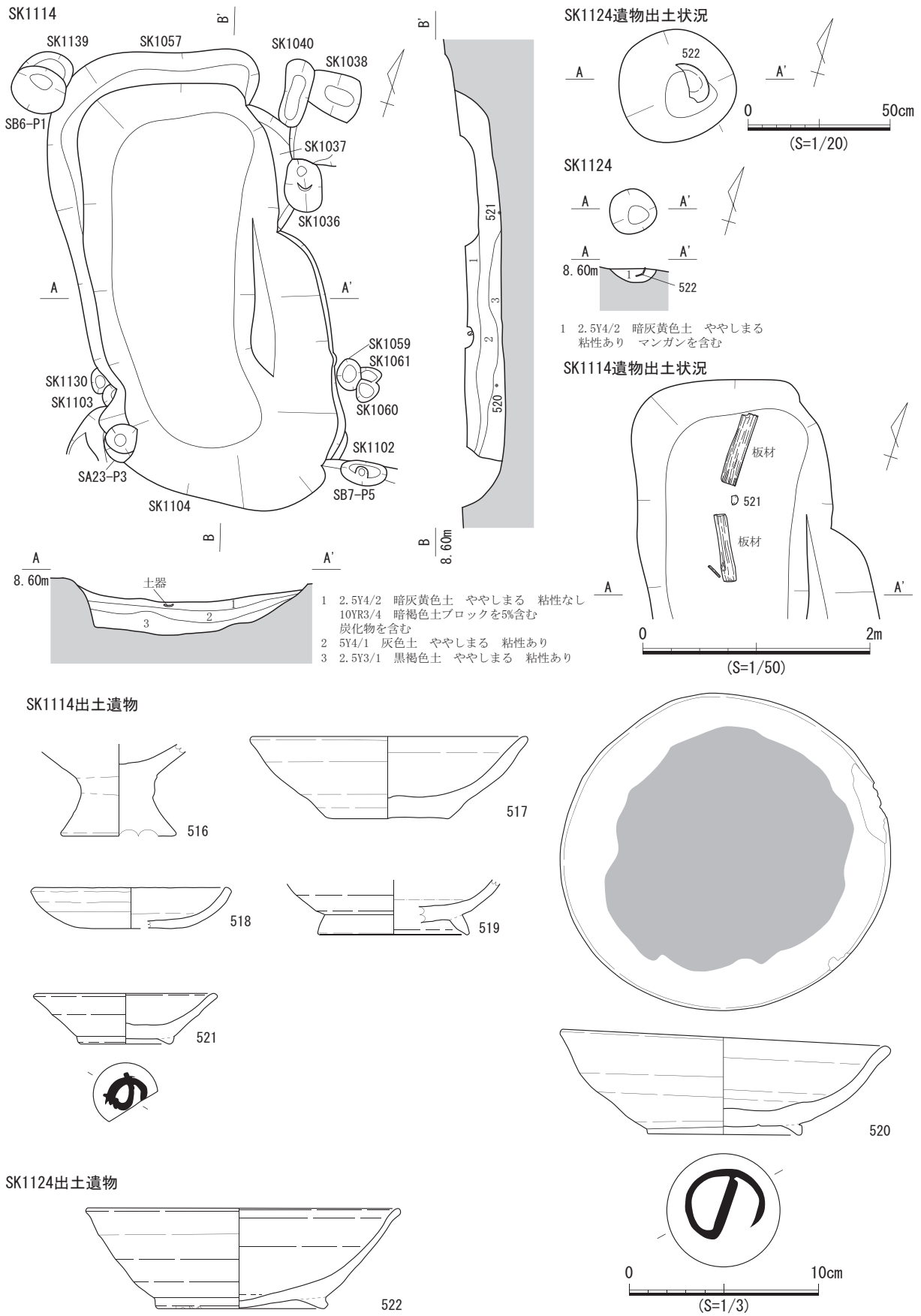


図135 SK1114・SK1124遺構図、出土遺物実測図

SK1190 (図136)

検出状況 DQ9グリッド、SK944の底面で検出し、平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD90、SK944、SK1189等より古く、SK942、SK1191、SK1192より新しい。

規模・形状 長軸長0.65m、短軸長0.41m、深さ0.10mで、平面形は不定形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器42点、山茶碗3点、瀬戸美濃産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後IV期古段階の卸皿(523)を図示した。SD60から出土した破片と接合した。

時期 出土遺物の最新型式とSK1192から古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SK1191 (図136)

検出状況 DQ9グリッド、III層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD60、SK944、SK1190より古く、SK942、SK1192より新しい。

規模・形状 長軸長0.71m、短軸長0.50m、深さ0.16mで、平面形は不整楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器60点、須恵器1点、山茶碗3点、金属製品1点が散在して出土した。

出土遺物 銅製の把手(524)を図示した。

時期 出土遺物とSK1192から古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿が出土していることから、15世紀中葉以降のものとする。

SK1192 (図136)

検出状況 DQ9グリッド、III層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD60、SK941、SK1186等より古く、SK942、SK1195より新しい。

規模・形状 長軸長2.30m、短軸長1.72m、深さ0.18mで、平面形は不定形である。断面形は西側がSK941と重複しており不明だが、概ね浅い皿状である。

埋土 単層で、ブロック土を含むことから人為的な堆積に可能性がある。北西側の底面から面的に広がる炭化物を確認した。

遺物出土状況 埋土から土師器287点、須恵器2点、灰釉陶器5点、山茶碗26点、瀬戸美濃産陶器2点、常滑産陶器2点、炭化物1点が散在して出土した。

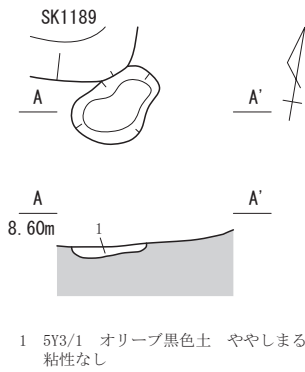
出土遺物 土師器皿(525)、明和27号窯式の灰釉陶器の碗(526)、古瀬戸後IV期古段階の縁釉小皿(527)を図示した。525は体部中ほどからやや外傾して立ち上がり、体部外面は指頭圧痕が顕著に認められる。類例として、池田町六之井深池遺跡の報告においてD類とされたものが挙げられる(408と同様)。

時期 出土遺物の最新型式とSK942から15世紀代のものと考えられる漆碗が出土していることから、15世紀中葉のものとする。

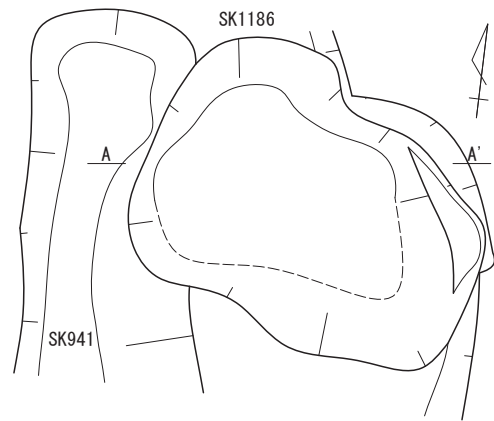
SK1197 (図137)

検出状況 DQ8～9グリッド、III層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD57、

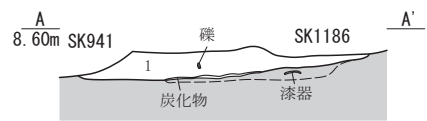
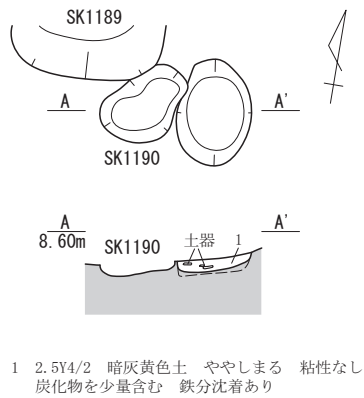
SK1190



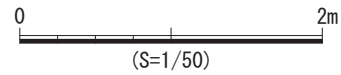
SK1192



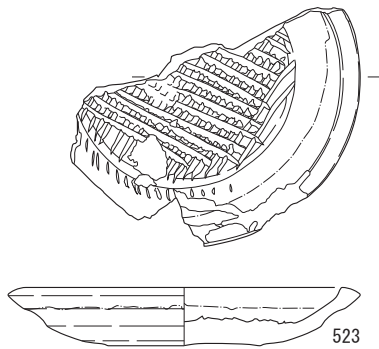
SK1191



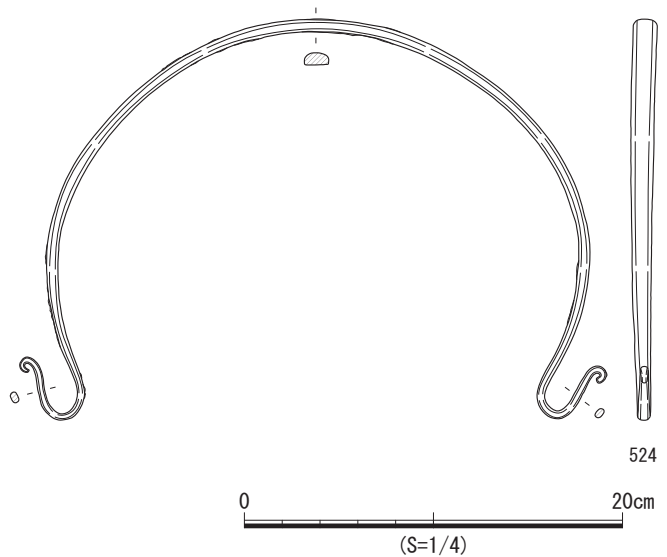
- 1 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性ややあり
2. 5Y2/2 黒褐色土ブロックを5%含む 炭化物を含む



SK1190出土遺物



SK1191出土遺物



SK1192出土遺物

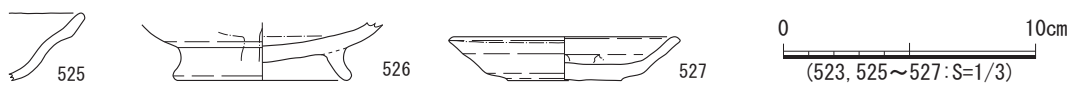


図136 SK1190~SK1192遺構図、出土遺物実測図

SK944より古い。

規模・形状 長軸長0.43m、短軸長0.42m、深さ0.16mで、平面形は不整円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、山茶碗2点、常滑産陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 3型式の常滑産の甕(528)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉のものとする。

SK1207 (図137)

検出状況 DQ7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD60より古く、SK1208より新しい。

規模・形状 長軸長2.31m、短軸長0.63m、深さ0.10mで、北側が攪乱によって消失しているが、平面形は概ね南北方向に長い楕円形である。断面形は逆台形である。本遺構南側のSD50、同じく北側のSD67と長軸方位が揃い、本来は本遺構と同一の溝であった可能性がある。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から須恵器3点、山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身(529)を図示した。

時期 山茶碗の破片が出土していることから11世紀後半以降のものとする。

SK1213 (図137)

検出状況 DQ6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1214より新しい。

規模・形状 長軸長1.25m以上、短軸長0.56m、深さ0.09mである。北側が攪乱により消失するため、平面形は不明である。断面形はおおむね逆台形状だが、西側の壁面に立ち上がりは緩やかである。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、須恵器4点、山茶碗1点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身(530)を図示した。

時期 山茶碗の破片が出土していることから11世紀後半以降のものとする。

SK1229 (図138~141)

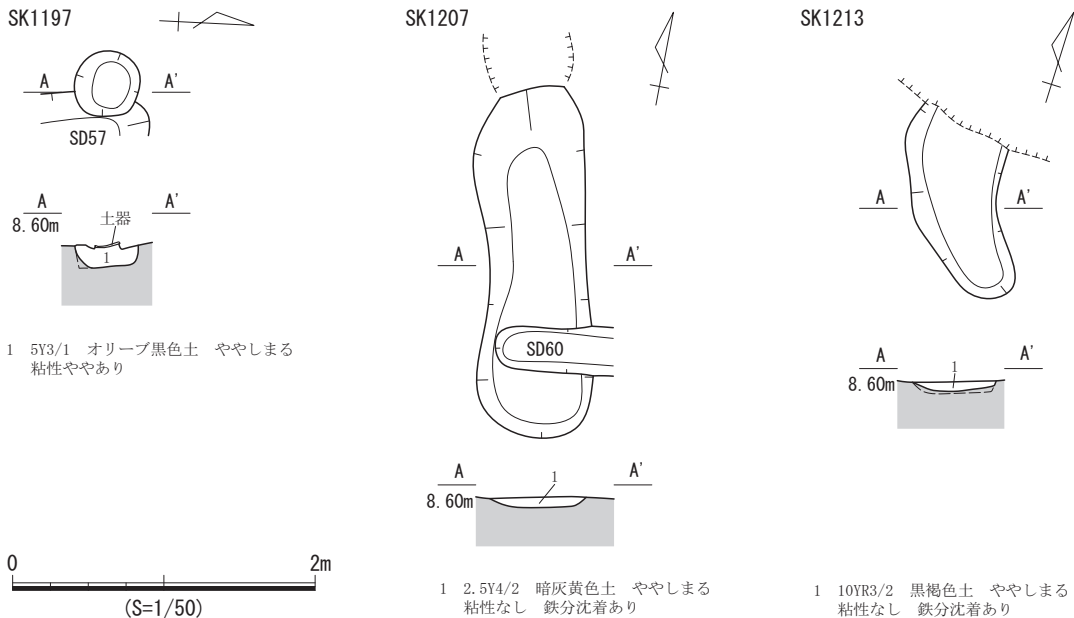
検出状況 DP15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SD61、SK1221、SK1224等より古く、SK1230より新しい。

規模・形状 長軸長3.44m、短軸長2.98m、深さ0.57mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。

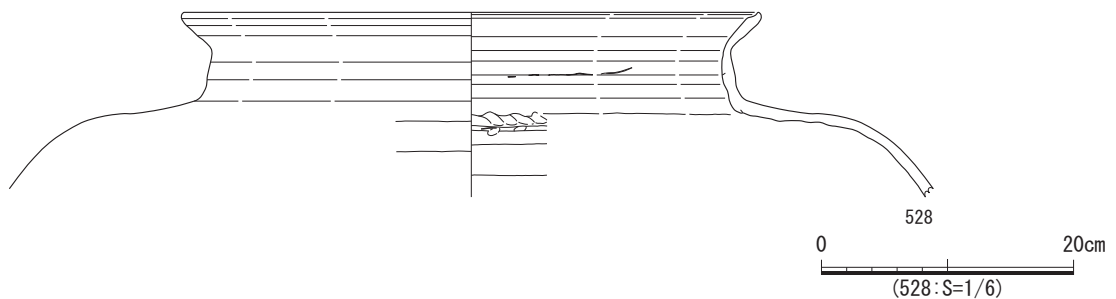
埋土 3層に分層した。層界には凹凸が認められる。ブロック土は認められなかったが、円礫や遺物が多く含まれており、廃棄土坑の可能性はある。底面から径約20cmの石灰岩が出土した。

遺物出土状況 埋土から土師器406点、須恵器4点、灰釉陶器5点、山茶碗605点、常滑産陶器19点、中国産陶磁器32点、土製品28点、木製品129点、種子6点が散在して出土した。このうち、底面から開いた状態の曲物(576、577)が外面を上にして横たわって出土し、その周辺から棒材、灰釉陶器の広口瓶(540、541)、山茶碗の碗(547)等が出土した。

出土遺物 土師器9点(531~539)、灰釉陶器2点(540、541)、山茶碗18点(542~559)、中国産陶磁器5点(560~564)、土製品5点(565~569)、木製品8点(570~577)を図示した。531~533はロクロ成形の小皿である。柱状高台の低い531、532、柱状高台が高くハの字状に開く533の2種類が認められる。534、535はロクロ成形の台付小皿である。536は中世前期土師器皿A 1a類である。537は中世前期土師器皿A 2c類である。538、539はA 2類の伊勢型鍋である。538は外面に煤、539は外面に煤、内面にコゲが認められる。540、541は明和27号窯式の広口瓶でいずれも施釉が荒いハケ塗りを施すことから、同一個体の可能性がある。542は尾張型第3型式、543は尾張型第3~4型式、544、545は尾張型第4型式、546~549は尾張型第4~5型式、550~556は尾張型第5型式の山茶碗の碗である。544、546、552には内外面に煤が付着する。547は全体に被熱が認められる。また、底部外面に墨書があるものが複数認められる。543、547は部分的に墨書のあった範囲が残存するが、釈読不能である。545は確認できる範囲で「こ」、547は記号、548は部分的にしか残存しないが、547と似た記号、若しくは550、551と似た「の」の字に似る記号の可能性はある。550、551は「の」の字に似る記号である。



SK1197出土遺物



SK1207出土遺物



SK1213出土遺物

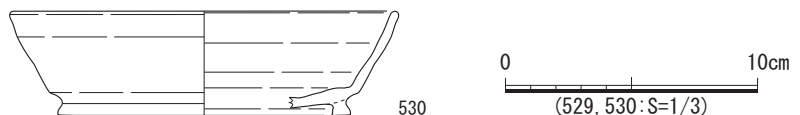
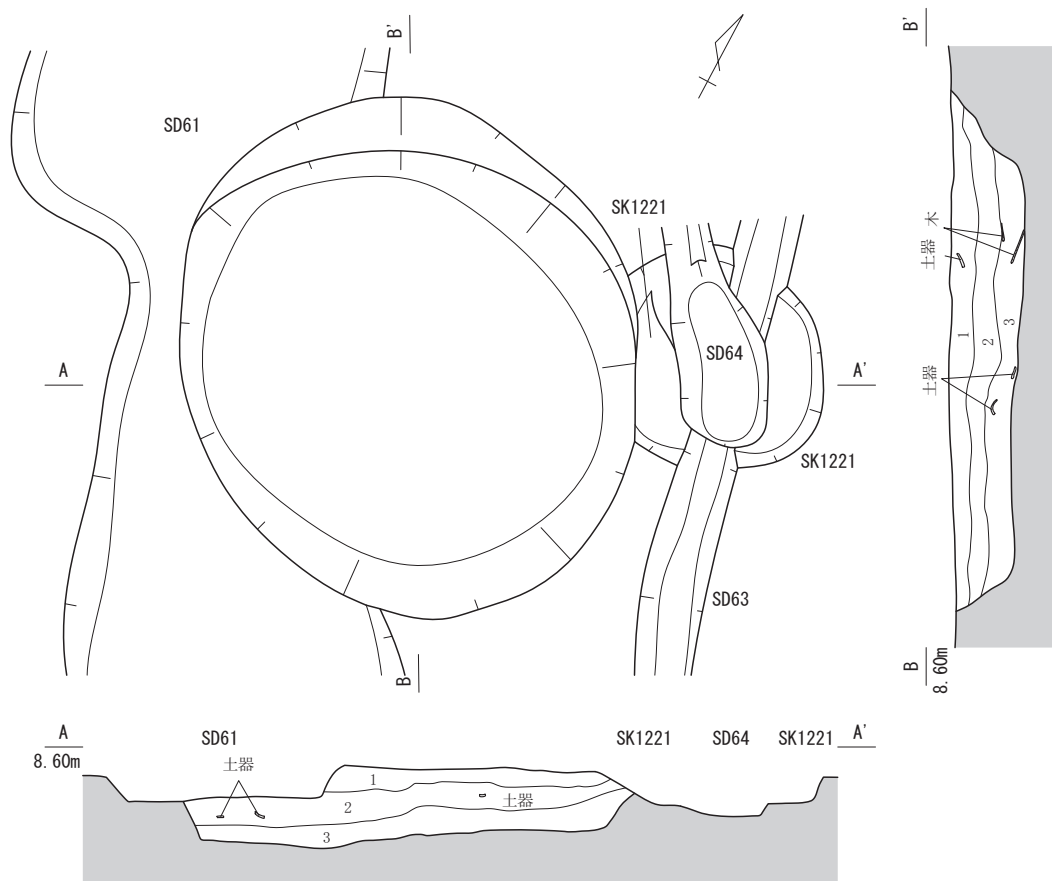


図137 SK1197・SK1207・SK1213遺構図、出土遺物実測図



- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし 鉄分沈着あり
- 2 2.5Y5/1 黄灰色土 ややしまる 粘性あり
径3cm程の円礫を3%含む 炭化物を少量含む 鉄分沈着あり
- 3 5Y5/1 灰色土 しまりなし 粘性あり 径1cm程の円礫を3%含む

遺物出土状況

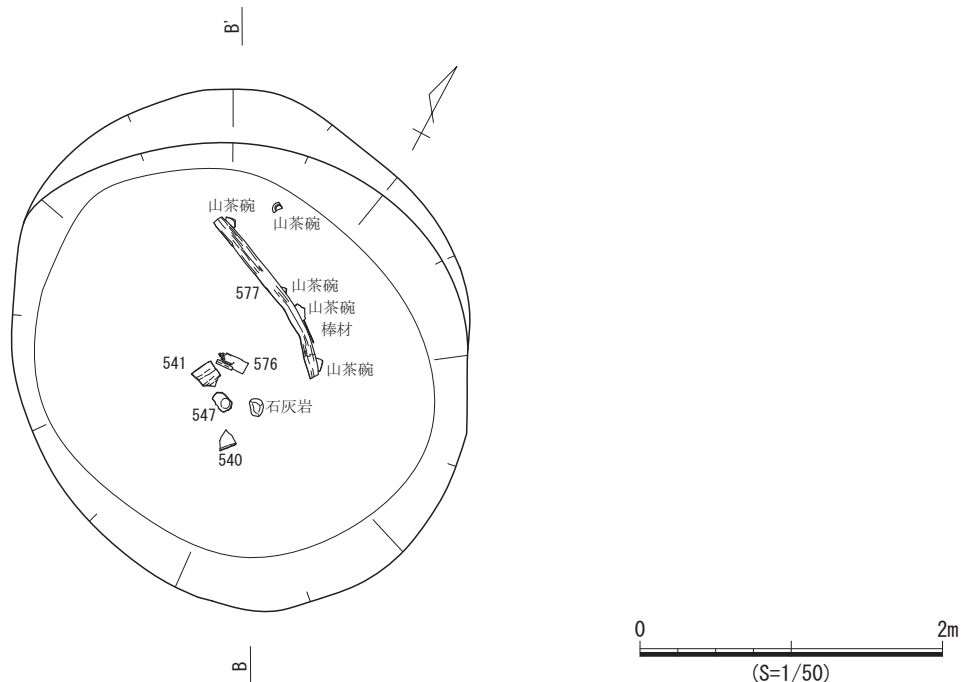


図138 SK1229遺構図

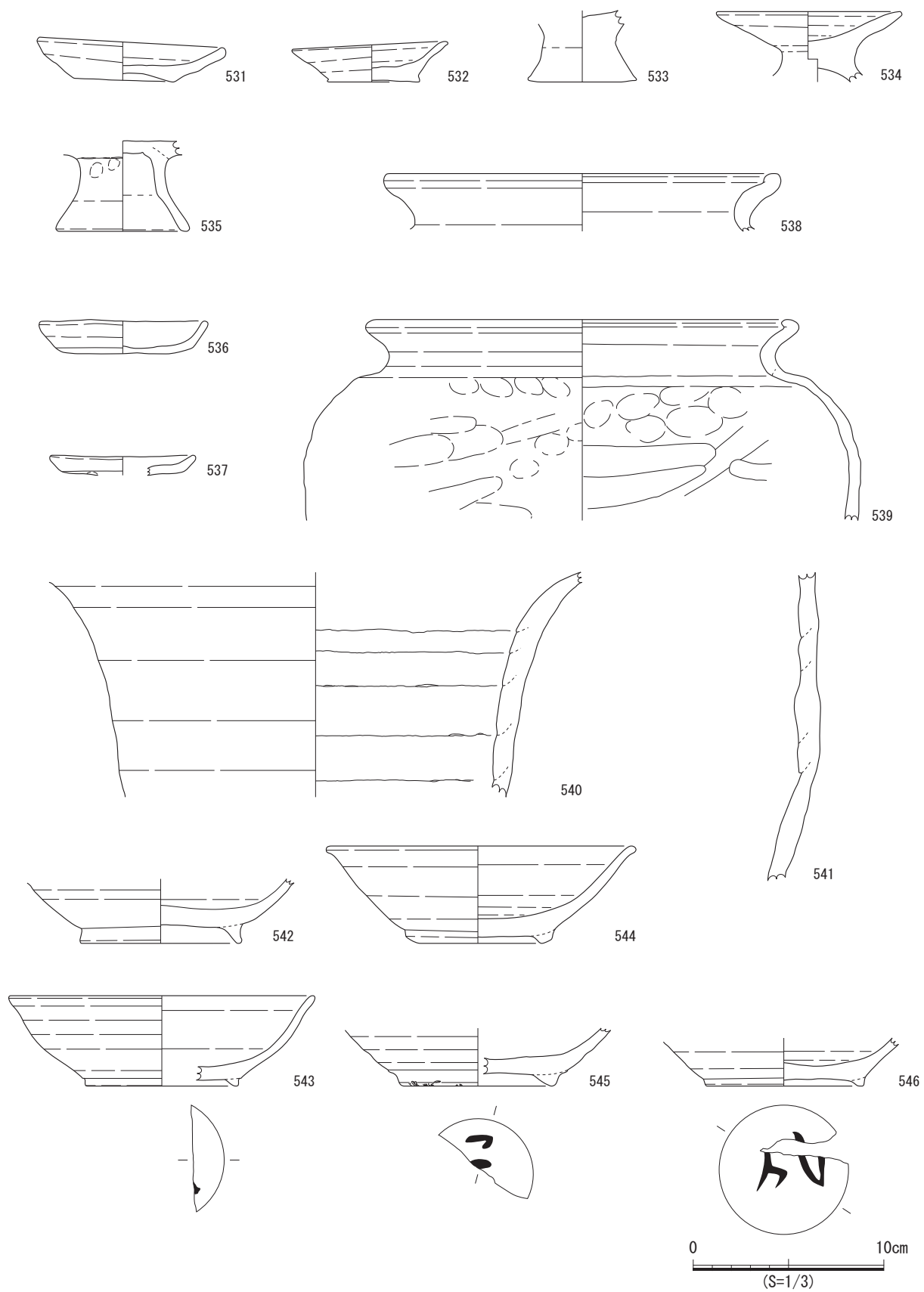


図139 SK1229出土遺物実測図1

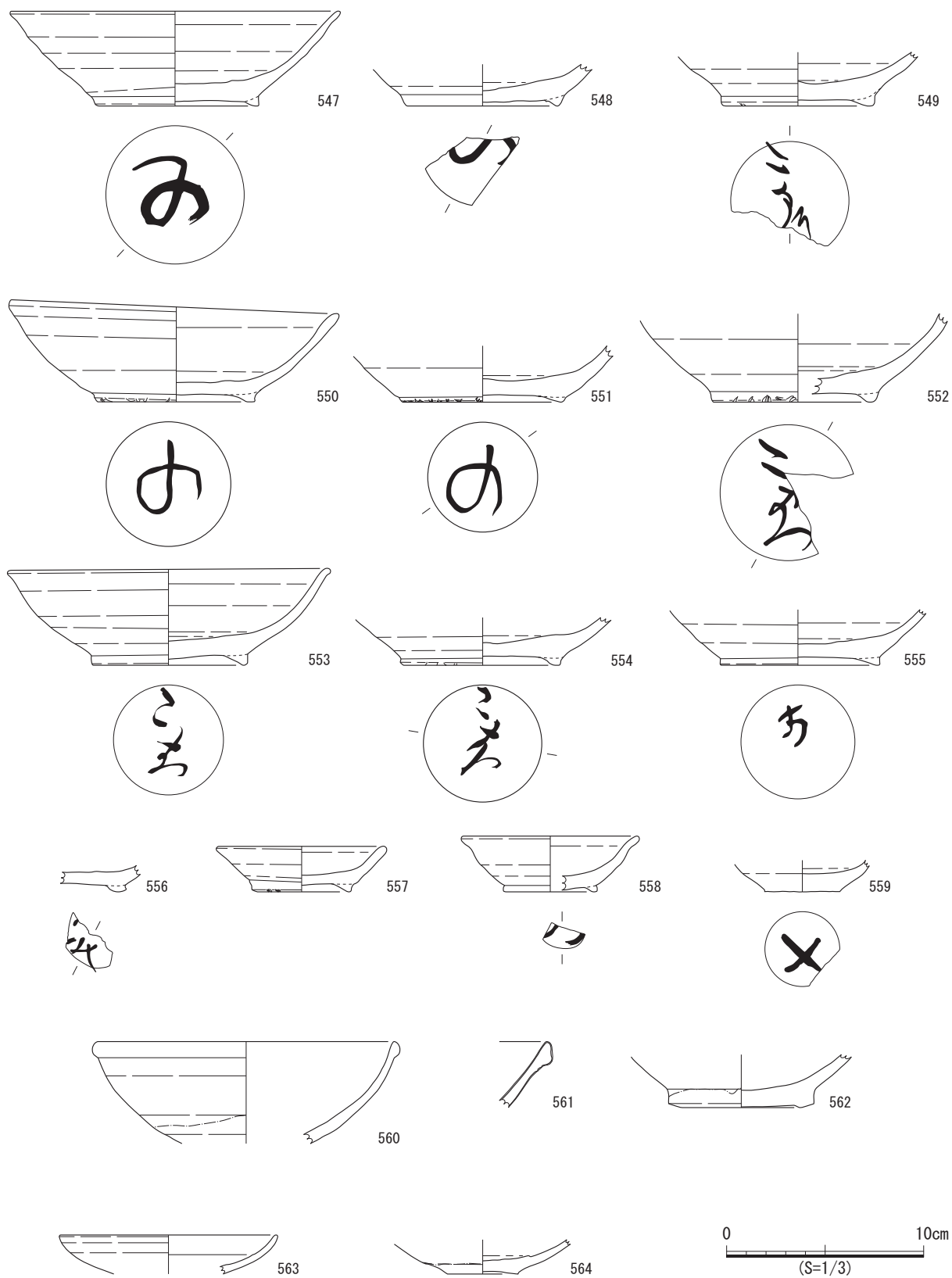


図140 SK1229出土遺物実測図2

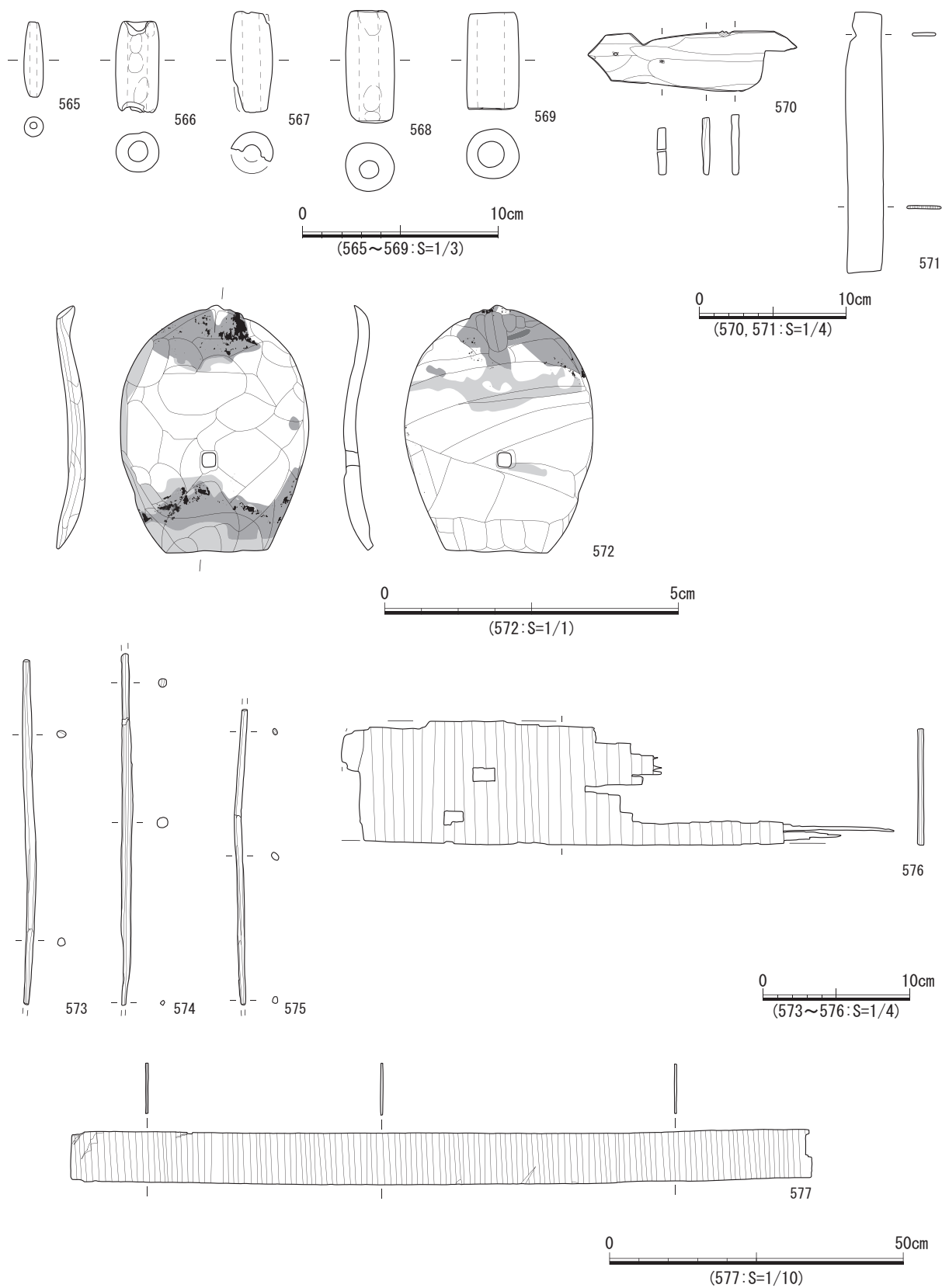


图141 SK1229出土遺物実測図3

549、552、553、554は、いずれも3文字の仮名文字と考えられるが積読不能である。555は「万」、546、556は積読不能である。557、558は尾張型第4型式の山茶碗の小碗である。558の底部外面には部分的に墨書が残存し、547や550、551と同一の記号若しくは「の」の字に似る記号の可能性がある。559は尾張型第5型式の山茶碗の小皿で、底部外面に「×」の墨書がある。560はⅡ類、561はⅣ類、562はⅪ-1類の白磁碗である。563、564はⅥ-1b類の白磁皿である。565～569は管状土錘である。570、571は形代である。570は鳥形の可能性があり、表面には切削痕がある。切削痕の断面形は中央がやや窪み丸みのあることからヤリガンナによる加工と考える。572は蓮弁で表面に漆が塗られ金箔を押す。中央のやや下側に方形の穿孔があることから、別の部材に固定されていたと考えられ、仏像の台座の部品の可能性がある。表面には細かい単位の切削痕が認められる。573～575は箸と考えられる。切削により面取り加工され断面は多角形になる。576と577は曲物の側板である。幅が類似することから、同一個体の可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK1230 (図142)

検出状況 DP14～15グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複するSD61、SK1229、SK1231より古く、SK1232、SK1233より新しい。

規模・形状 長軸長2.35m、短軸長2.01m、深さ0.49mで、平面形は不整円形である。断面形は逆台形で、南側にテラスを有する。

埋土 3層に分層した。3層は西側下層にのみ堆積し、崩落土の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器195点、須恵器3点、灰釉陶器1点、山茶碗80点、常滑産陶器66点、中国産陶磁器1点、土製品3点、木製品1点が散在して出土した。このうち柱根と考えられる木製品(585)が本遺構の西部で、底面に突き刺さった状態で出土した。

出土遺物 中世前期土師器皿A2b類(578)、中世前期土師器皿B2b類(579、580)、尾張型第6型式の山茶碗の碗(581)と小皿(582)、尾張型第5～6型式の山茶碗の片口鉢(583)、古城山B2類の甕(584)、柱根(585)を図示した。583はSD61から、584はSK1231から出土した破片と接合した。585の側面に区画稜線、刃先痕、底面に刃先痕が認められる。側面には上部が欠損しているが、長方形と推定される孔が穿たれており、ほぞ穴として利用された可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式とSK1232から尾張型第4型式の山茶碗の碗が出土していることから、13世紀前半のものとする。

SK1231 (図143)

検出状況 DP14～D014グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD61、SK1232、SK1234等より新しい。

規模・形状 長軸長2.68m、短軸長1.96m、深さ0.11mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層であり、小礫を多量に含むことから人為堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器56点、須恵器8点、山茶碗75点、瀬戸美濃産陶器3点、常滑産陶器110点、石製品1点が散在して出土した。

出土遺物 須恵器1点(586)、山茶碗1点(587)、瀬戸美濃産陶器1点(588)、常滑産陶器2点(589、

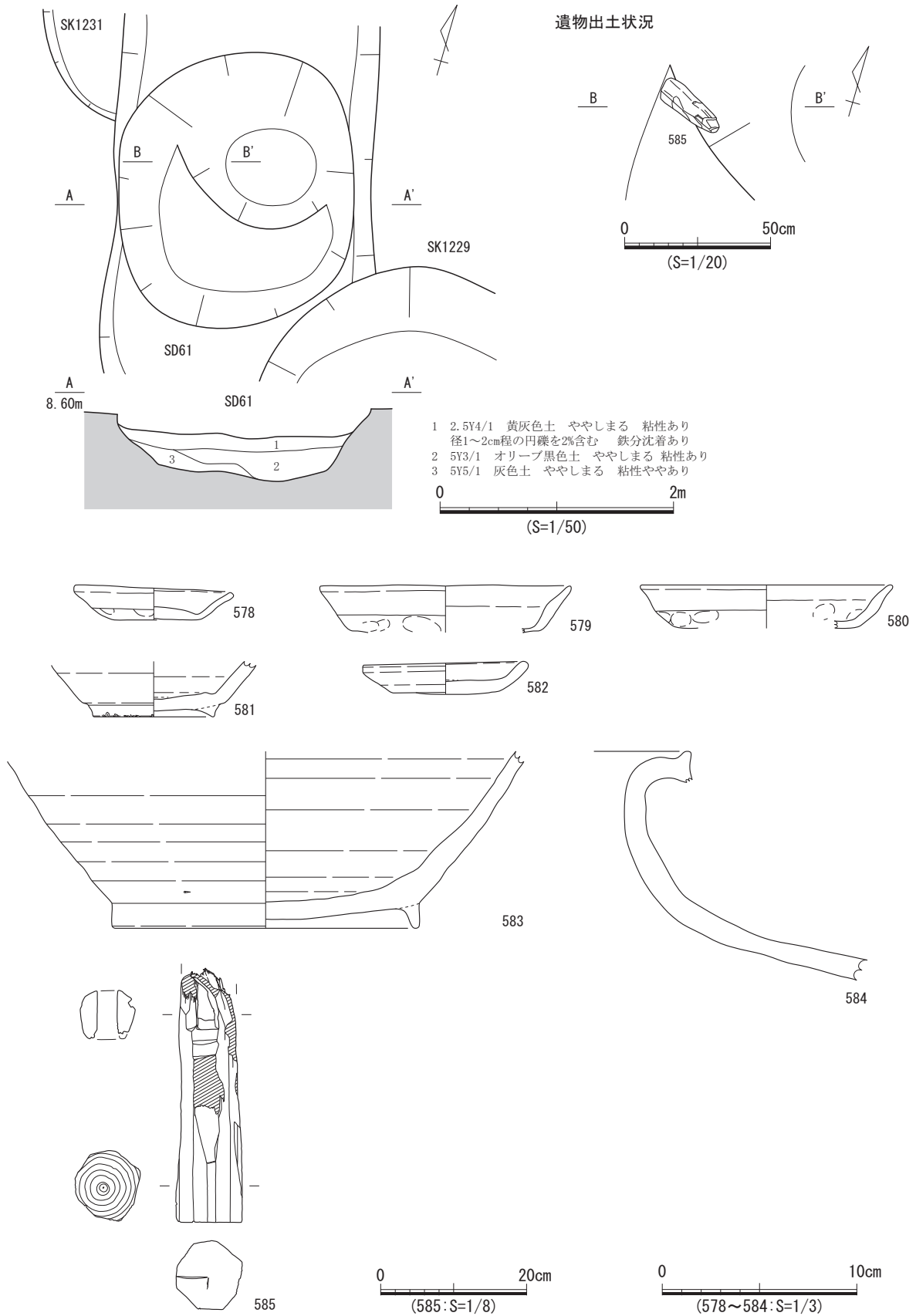


図142 SK1230遺構図、出土遺物実測図

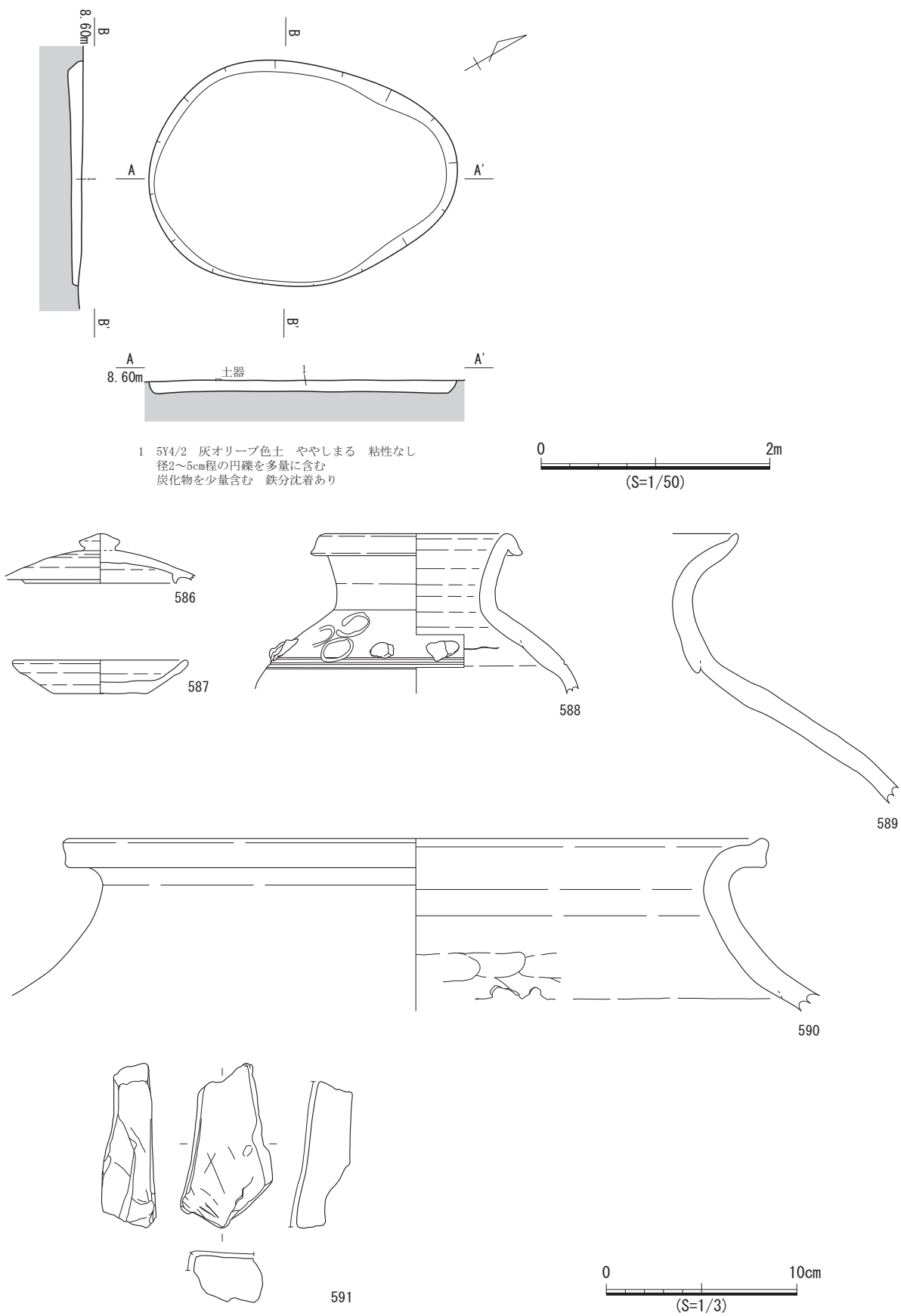


図143 SK1231遺構図、出土遺物実測図

590)、石製品1点(591)を図示した。586はH-15~I-41号窯式の坏蓋で口縁部内面にかえりを有する。587は尾張型第6型式の山茶碗の小皿である。588は古瀬戸草創期の四耳壺で、SD61から出土した破片と接合した。耳部は欠損する。肩部外面には3条の沈線と円形の線刻を三カ所に配置する文様を施す。589は2~3型式、590は5型式の常滑産の甕である。589はSD61から、590はSK1230から出土した破片と接合した。591は砥石で、2面が使用される。

時期 出土遺物の最新型式とSD61よりも新しいことから、15世紀以降のものとする。

SK1234 (図144)

検出状況 D013~DP14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1231、SK1271、SK1273より古い。

規模・形状 長軸長4.35m、短軸長1.35m、深さ0.26mで、平面形は長楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。ほぼ水平な堆積である。2層は埋土の中央付近にも礫を含むことから人為堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器76点、須恵器7点、灰釉陶器1点、山茶碗105点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器14点、中国産陶磁器2点、土製品12点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の小皿(592)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK1269 (図144)

検出状況 D014~DN14グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD61、SD68、SK1270より新しい。

規模・形状 長軸長3.70m、短軸長1.56m、深さ0.32mで、平面形は不定形である。断面形は半円形である。

埋土 単層で、埋土の中央付近にも礫を含むことから人為堆積の可能性はある。

遺物出土状況 埋土から土師器5点、須恵器1点、山茶碗6点、瀬戸美濃産陶器3点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸中期の花瓶(593)を図示した。

時期 SD61より新しいことから、15世紀以降のものとする。

SK1279 (図144)

検出状況 D011グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長2.32m、短軸長0.63m、深さ0.34mで、平面形は長楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。中央が窪む堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器12点、須恵器2点、灰釉陶器2点、山茶碗9点、常滑産陶器1点、金属製品1点が散在して出土した。

出土遺物 尾張型第5型式の山茶碗の碗(594)、尾張型第3型式の山茶碗の小碗(595)、刀子の刃部の破片(596)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK1280 (図145)

検出状況 D011~12グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長4.95m以上、短軸長1.67m、深さ0.17mである。東側は攪乱に掘り込まれており、平面形は不明である。断面形は逆台形で、北西側が一段深くなる。

埋土 3層に分層した。水平な堆積で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、須恵器5点、山茶碗10点、瀬戸美濃産陶器1点、常滑産陶器8点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 古瀬戸後Ⅳ期新段階の折縁深皿(597)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀後半のものとする。

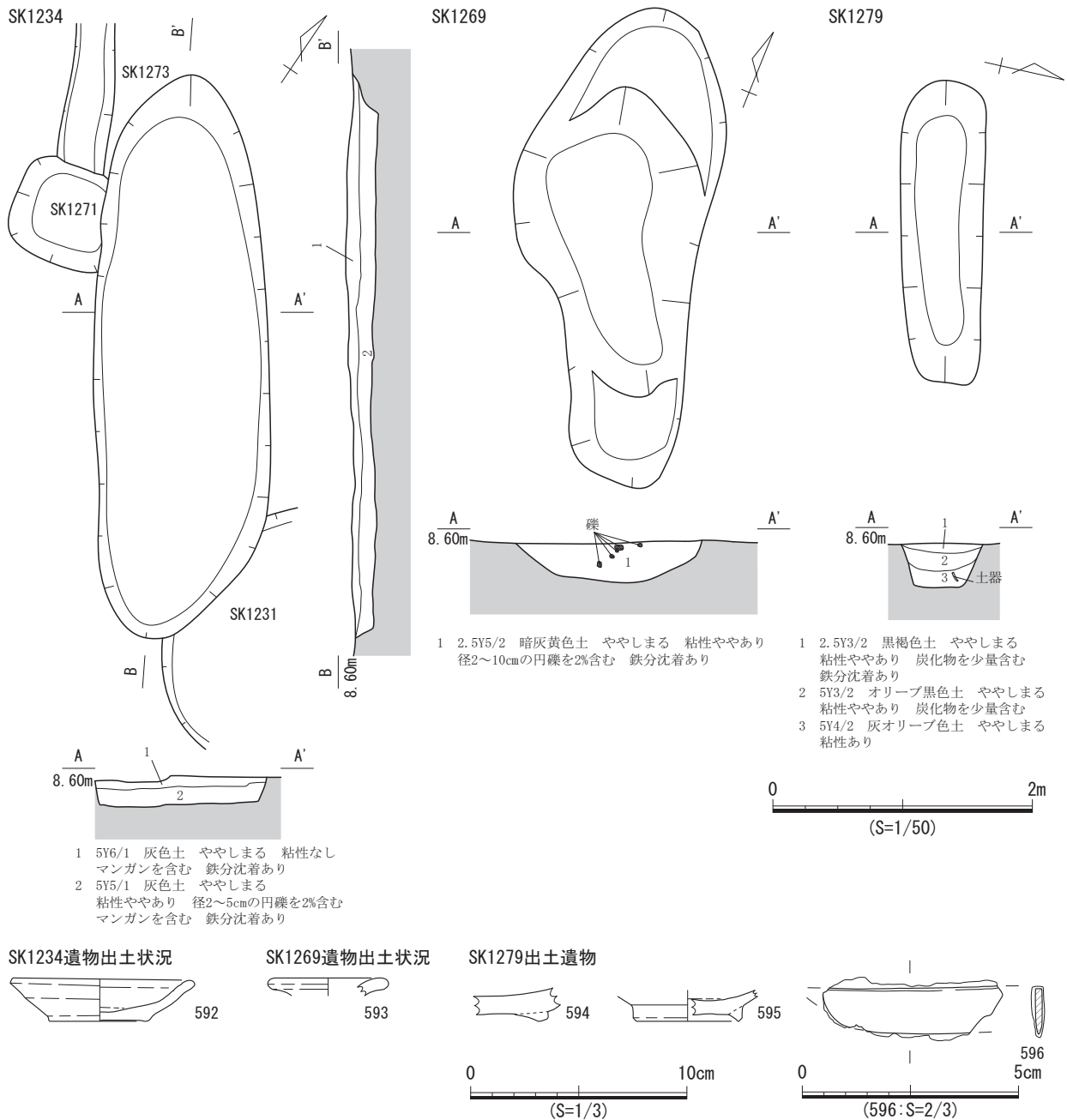


図144 SK1234・SK1269・SK1279遺構図、出土遺物実測図

SK1288 (図145)

検出状況 D07グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係からSK1289より新しい。

規模・形状 長軸長1.21m、短軸長0.80m、深さ0.14mである。平面形は楕円形で、断面形は皿状である。

埋土 単層で埋土の中央付近にも礫を含むことから人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器3点、須恵器1点、灰釉陶器1点、山茶碗9点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 虎溪山1号窯式の短頸壺(598)を図示した。

時期 山茶碗の破片が出土していることから11世紀後半以降のものとする。

SK1298 (図145)

検出状況 DM14~15グリッド、I b層基底面で検出した。平面形は不明瞭で、埋土がI b層と類似しており、検出時にやや埋土を掘り下げてしまった。

規模・形状 長軸長1.62m、短軸長1.14m、深さ0.39mで、平面形は楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。1層は埋土の中央付近にも礫を含んでおり、人為堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器2点、須恵器3点、灰釉陶器4点、山茶碗17点、瀬戸美濃産陶器3点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 大窯第1段階の播鉢(599)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、15世紀後葉から16世紀前葉のものとする。

方形土坑群 (SK1309、SK1310、SK1313、SK1317、SK1320~SK1323、SK1336、SK1339、SK1340、SK1358)

DM4~9グリッドにかけて方形の土坑が集中して存在する。正方形と長方形のものが認められ、長方形ものはいずれも東西方向に長い。以下それぞれの土坑について報告する。SK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから16世紀後半以降のものとする。

SK1309 (図146)

検出状況 DM9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.88m、短軸長0.85m、深さ0.14mで、平面形は隅丸方形である。断面形は二段の掘り込みである。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 出土遺物の最新型式とSK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のものとする。

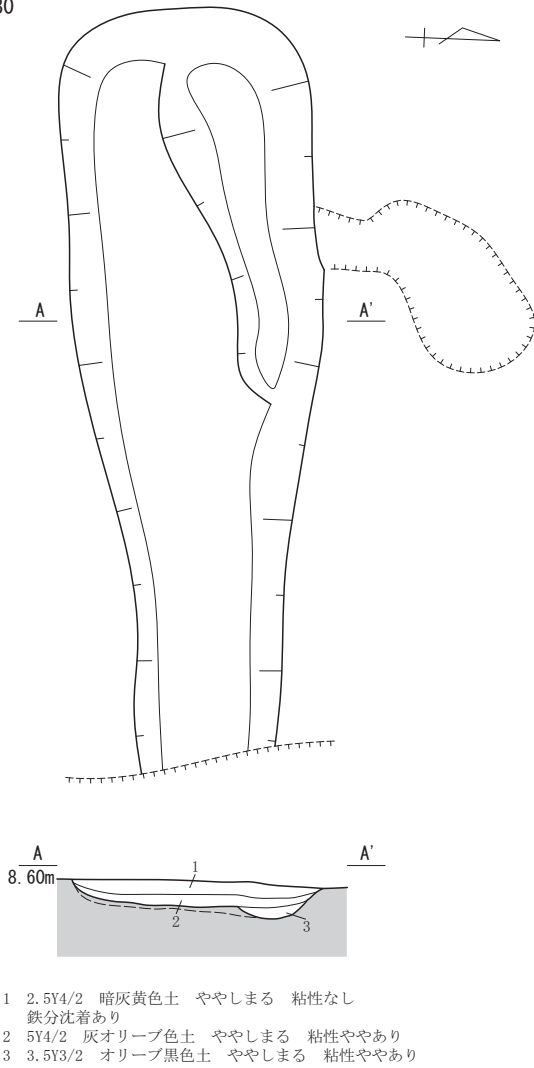
SK1310 (図146)

検出状況 DM9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

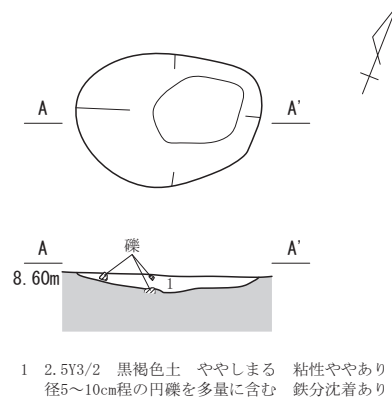
規模・形状 長軸長1.90m、短軸長0.70m、深さ0.25mで、平面形は東西方向に長い隅丸不整形である。断面形は2段の掘り込みである。

埋土 2層に分層した。1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換するため、別遺構の可能性がある。堆

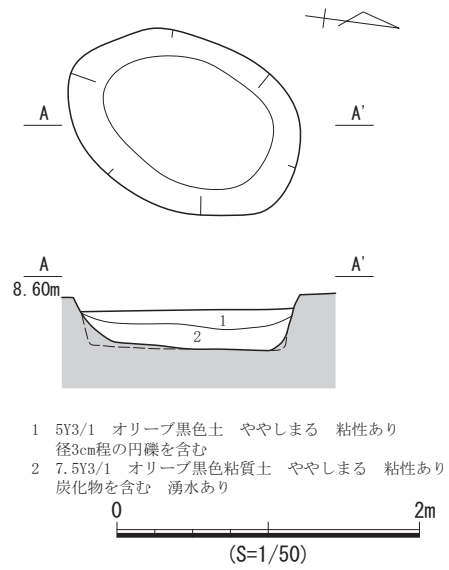
SK1280



SK1288



SK1298



SK1280出土遺物



SK1298出土遺物



SK1288出土遺物

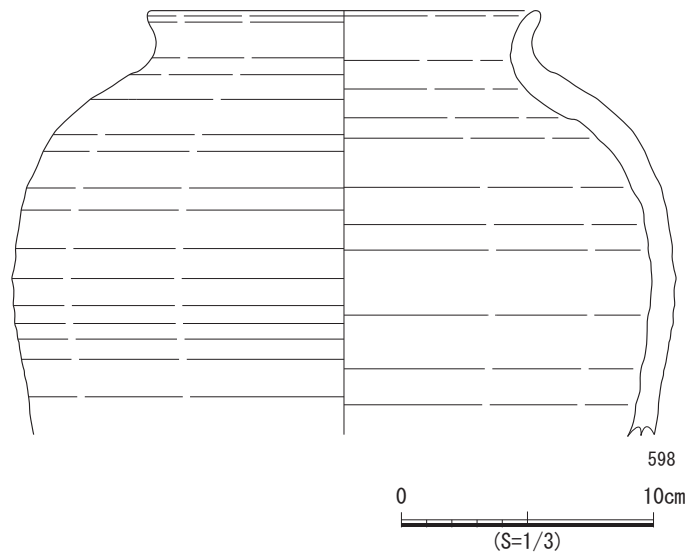


図145 SK1280・SK1288・SK1298遺構図、出土遺物実測図

積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、常滑産陶器1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため、図示しなかった。

時期 出土遺物の最新型式とSK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1313 (図146)

検出状況 DM8～9グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1321より古い。

規模・形状 長軸長1.03m、短軸長0.58m、深さ0.10mで、南西側がSK1321と重複するため、平面形は明確ではないが3か所に角部を確認できることから隅丸方形であったと考える。断面形は皿状で、北西側と南西側にテラスを有する。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点が出土した。

出土遺物 尾張型第6型式の山茶碗の碗(600)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式とSK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1317 (図146)

検出状況 DM8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SD70、SK1318より新しい。

規模・形状 長軸長1.09m、短軸長0.76m、深さ0.07mで、平面形は東西方向に長い隅丸長方形である。断面形は逆台形ある。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1320 (図146)

検出状況 DM8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1319より古い。

規模・形状 長軸長1.16m、短軸長0.71m、深さ0.10mで、平面形は南西側が攪乱に掘り込まれるが3か所に角部を確認できることから隅丸方形であったと考える。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1321 (図146)

検出状況 DM8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。本遺構は、SK1313より新しい。

規模・形状 長軸長1.42m、短軸長0.29m、深さ0.12mで、平面形は東西方向に長い不整隅丸長方形

である。断面形は皿状で、南側が円形に一段低い。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SK1313から尾張型第6型式の山茶碗の碗が出土していることや、SK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1322 (図146)

検出状況 DM7～8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.80m、短軸長0.77m、深さ0.08mで、平面形は隅丸方形である。断面形は概ね逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1323 (図146)

検出状況 DM7～8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1314より新しい。

規模・形状 長軸長2.36m、短軸長0.98m、深さ0.34mで、平面形は東西方向に長い隅丸長方形である。断面形は概ね逆台形となるが、西側が一段低くなり、東側にテラスを有する。

埋土 2層に分層した。1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換するため、別遺構の可能性もある。堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から土師器1点、山茶碗6点、瀬戸美濃産陶器2点が散在して出土した。

出土遺物 大窯第3段階の播鉢(601)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から、16世紀後半のものとする。

SK1336 (図146)

検出状況 DM6～7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。本遺構は、SK1334より古い。

規模・形状 長軸長1.33m、短軸長0.91m、深さ0.14mで、平面形は東西方向に長い隅丸長方形である。断面形は皿状である。

埋土 単層である。埋土の中央に遺物や礫を含むことから人為的な堆積の可能性もある。

遺物出土状況 埋土から須恵器1点が出土した。

出土遺物 須恵器は小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物の最新型式とSK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1339 (図146)

検出状況 DM6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1341、SK1342より新しい。

規模・形状 長軸長1.36m、短軸長0.80m、深さ0.10mで、平面形は東西方向に長い隅丸長方形であ

る。断面形は概ね逆台形である。

埋土 単層である。埋土の中央に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から山茶碗1点、中国産陶磁器1点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物の最新型式とSK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1340 (図146)

検出状況 DM6グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1341より新しい。

規模・形状 長軸長1.45m、短軸長0.88m、深さ0.05mで、平面形は東西方向に長い隅丸長方形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 埋土から山茶碗2点が散在して出土した。

出土遺物 いずれも小片のため図示しなかった。

時期 出土遺物の最新型式とSK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1358 (図146)

検出状況 DM4～5グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1349より新しい。

規模・形状 長軸長1.50m、短軸長1.38m、深さ0.04mで、平面形は東西方向に長い不整隅丸長方形である。断面形は逆台形である。

埋土 単層で、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は出土しなかった。

時期 SK1323から大窯第3段階の播鉢が出土していることから、16世紀後半以降のもの可能性がある。

SK1369 (図147)

検出状況 DL7グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。

規模・形状 長軸長0.92m、短軸長0.78m、深さ0.08mで、平面形は円形である。断面形は皿状である。

埋土 単層である。埋土の中央に遺物を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器51点、山茶碗4点が散在して出土した。このうち伊勢型鍋の破片(602)が重なり合って出土し一部は底面に接していた。

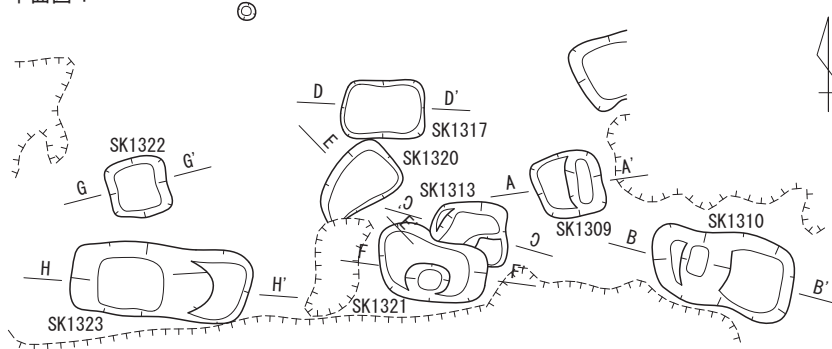
出土遺物 A3類の伊勢型鍋(602)を図示した。

時期 出土遺物の最新型式から12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

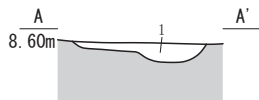
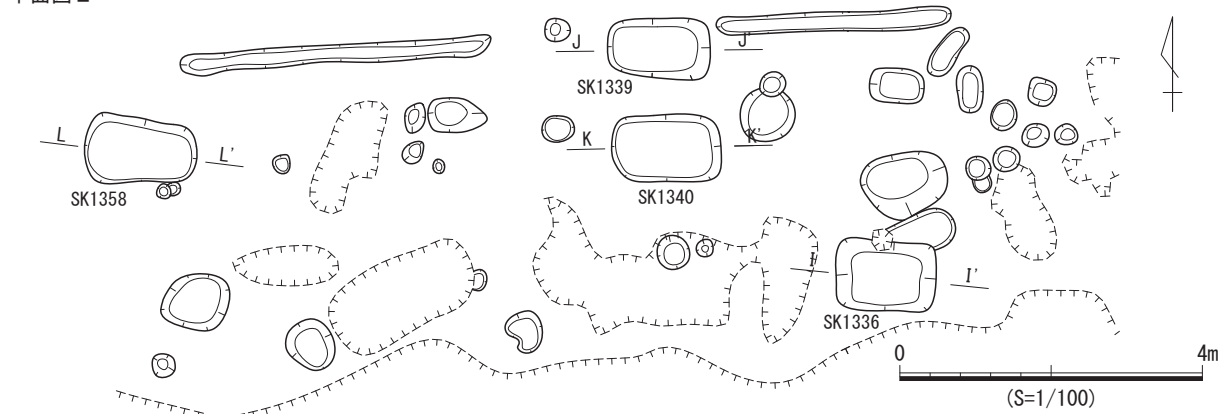
SK1479 (図148～150)

検出状況 DJ10グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1478より古い。

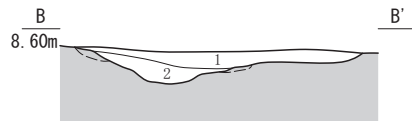
平面図1



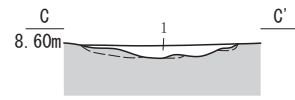
平面図2



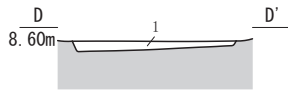
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性なし 鉄分沈着あり



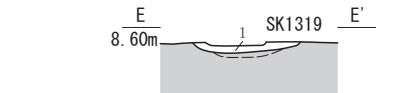
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性なし 鉄分沈着あり
2 2.5Y3/1 黒褐色土 ややしまる 粘性あり



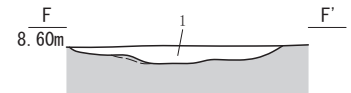
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性なし 鉄分沈着あり



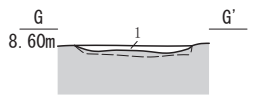
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 鉄分沈着あり



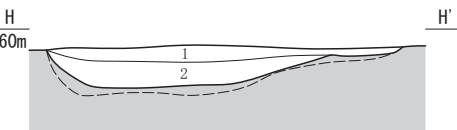
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土 ややしまる
粘性なし 炭化物を少量含む 鉄分沈着あり



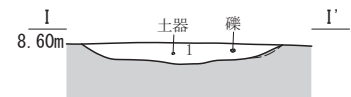
1 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を少量含む
鉄分沈着あり



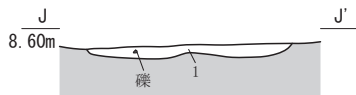
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 鉄分沈着あり



1 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる
粘性なし 鉄分沈着あり
2 7.5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる
粘性ややあり 鉄分沈着あり



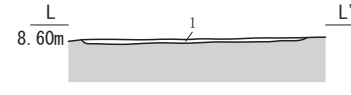
1 5Y4/2 灰オリーブ色土 ややしまる
粘性ややあり 径2cm程の円礫を含む
鉄分沈着あり



1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 鉄分沈着あり



1 5Y3/2 オリーブ黒色土 ややしまる
粘性ややあり 炭化物を少量含む 鉄分沈着あり



1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる
粘性ややあり 鉄分沈着あり

SK1313出土遺物



SK1323出土遺物

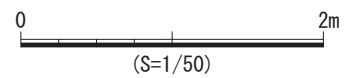
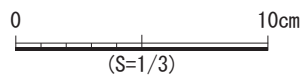


図146 方形土坑群 (SK1309・SK1310・SK1313・SK1317・SK1320~SK1323・SK1336・SK1339・SK1340・SK1358)

遺構図、SK1313・SK1323出土遺物実測図

規模・形状 長軸長1.92m、短軸長1.53m、深さ0.52mで、平面形はやや南北に長い不整円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。埋土の中央付近に円礫、角礫を含むため、人為的な堆積と考える。

遺物出土状況 埋土から土師器57点、須恵器13点、灰釉陶器1点、山茶碗188点、常滑産陶器2点、石製品1点が出土した。埋土を5cm程掘り下げた遺構中央部から山茶碗、角礫、円礫が密集している状況を確認した。同一のレベルで出土したことや、南東部には明瞭に角部が認められることから、意図的に方形に配置されたと考える、山茶碗は、正位と逆位のものが認められた。はじめに検出した山茶碗と礫の集積を外した下からは、初めに検出したよりもやや狭い範囲で山茶碗と礫の集積を確認し、少なくとも2面に及んでいた。また底面に接した状態で、遺構の中央から大型の礫と口縁部の約半分が欠損した正位の山茶碗（605）が並んで出土した。

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の長頸瓶（603）と尾張型第5型式（604、605）尾張型第6型式（606）の山茶碗の碗、尾張型第5型式の山茶碗の片口鉢（607）、第2～4型式の常滑産の三筋壺（608）、砥石（609）を図示した。604の内面には漆と考えられる黒色の付着物がある。605、606の内外面には煤が付着する。

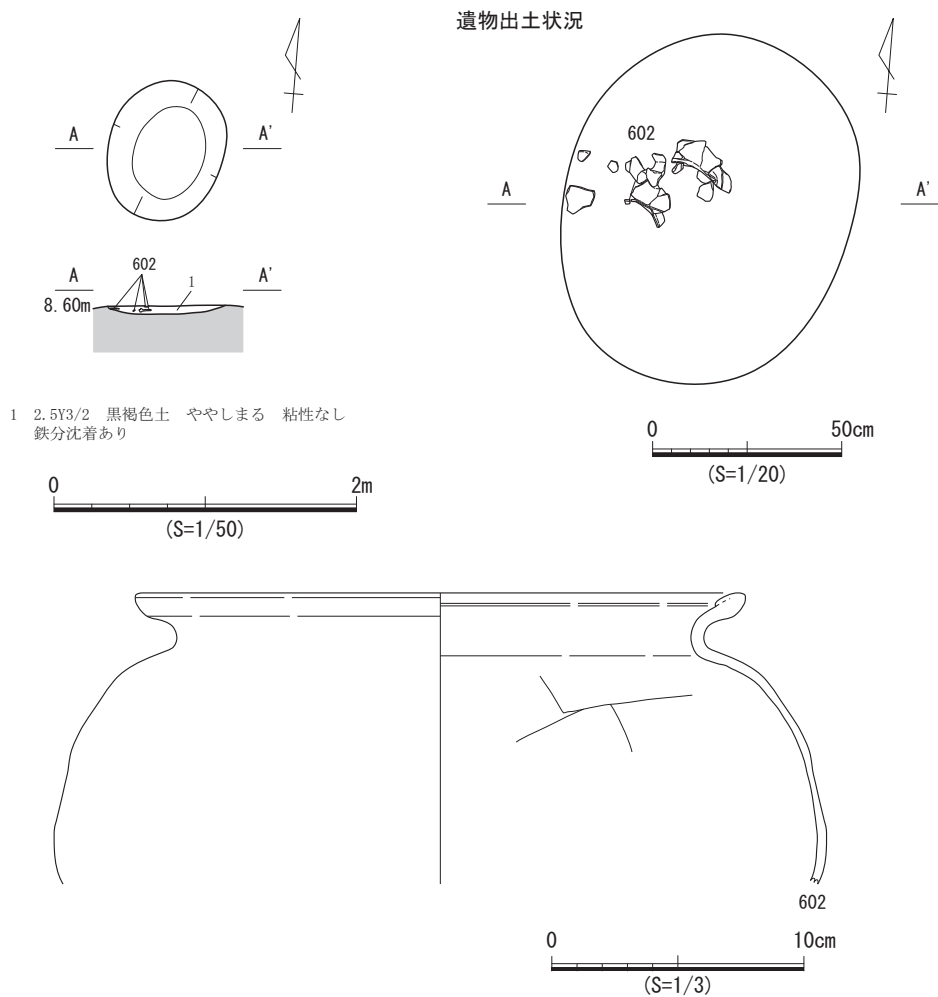
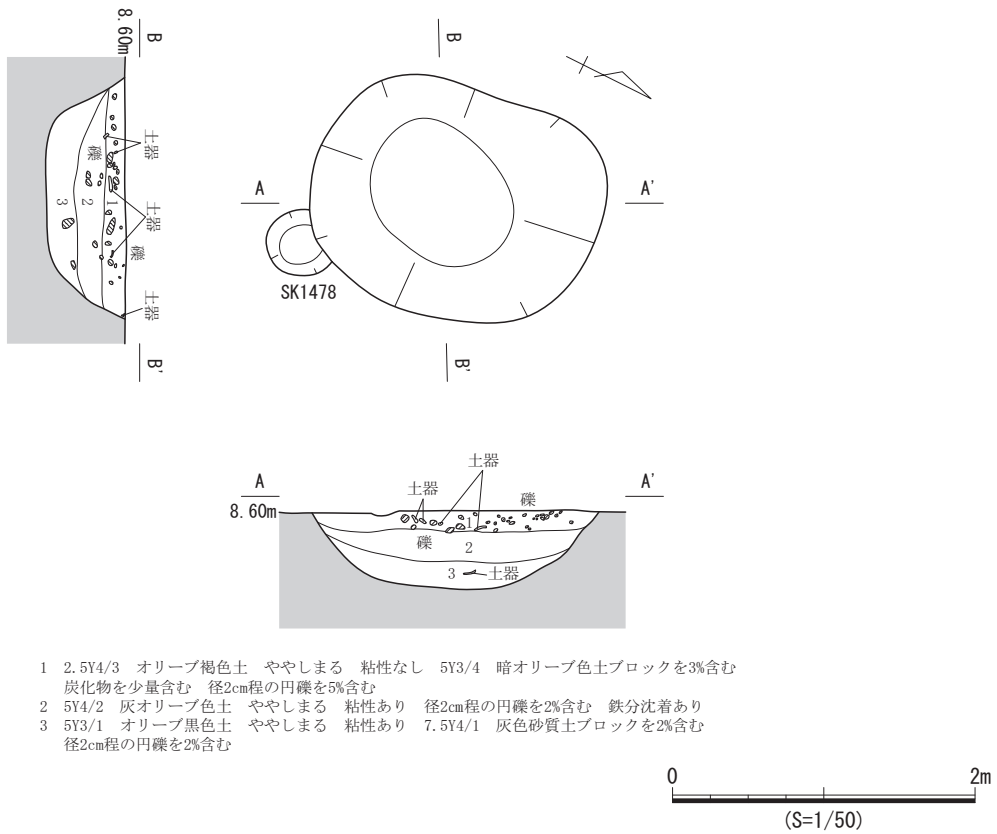


図147 SK1369遺構図、出土遺物実測図



遺物出土状況 (1面)

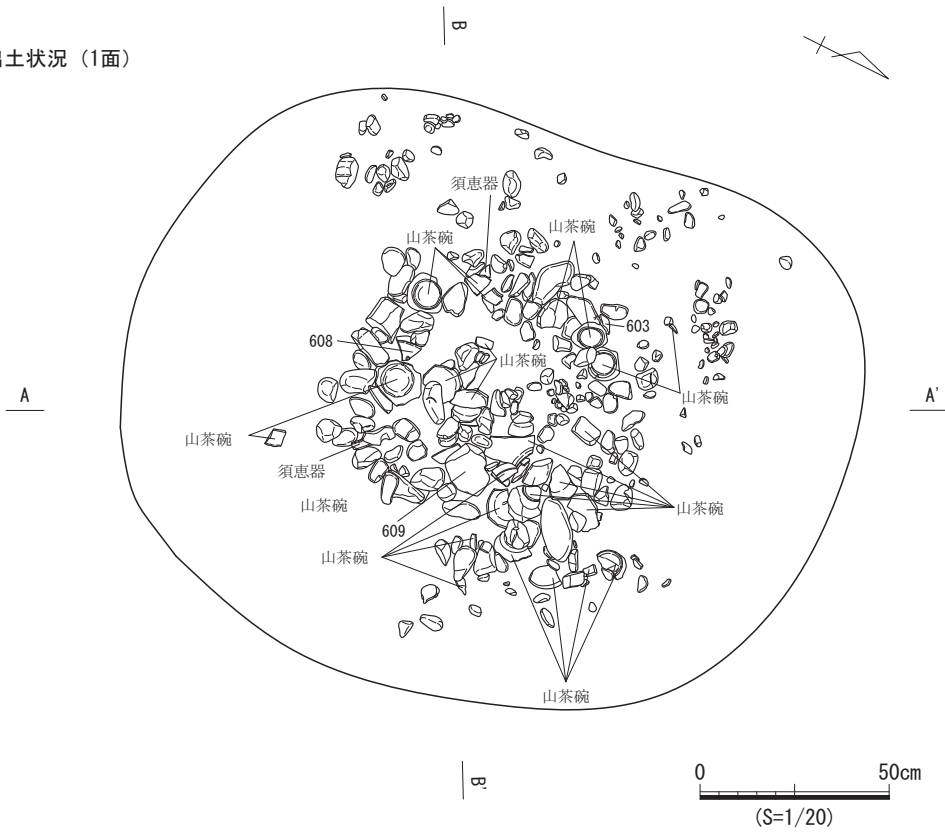


図148 SK1479遺構図 1

時期 出土遺物の最新型式から、13世紀前半のものとする。

SK1485 (図151)

検出状況 DI 9～DJ 9 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。重複関係から、SK1488、SK1499より新しい。

規模・形状 長軸長2.36m、短軸長2.21m、深さ0.40mで、平面形は円形である。断面形は逆台形である。周辺の遺構と比べて深いため、井戸として機能していた可能性がある。

埋土 2層に分層した。埋土に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器23点、須恵器10点、灰釉陶器4点、山茶碗16点、土製品2点が散在して出土した。

出土遺物 A 2 類の伊勢型鍋 (610) を図示した。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK1499から山茶碗が出土していることから、12世紀前葉から中葉のものとする。

SK1499 (図151)

検出状況 DJ 9 グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SD80、SD82、SK1393等より古く、SK1507より新しい。

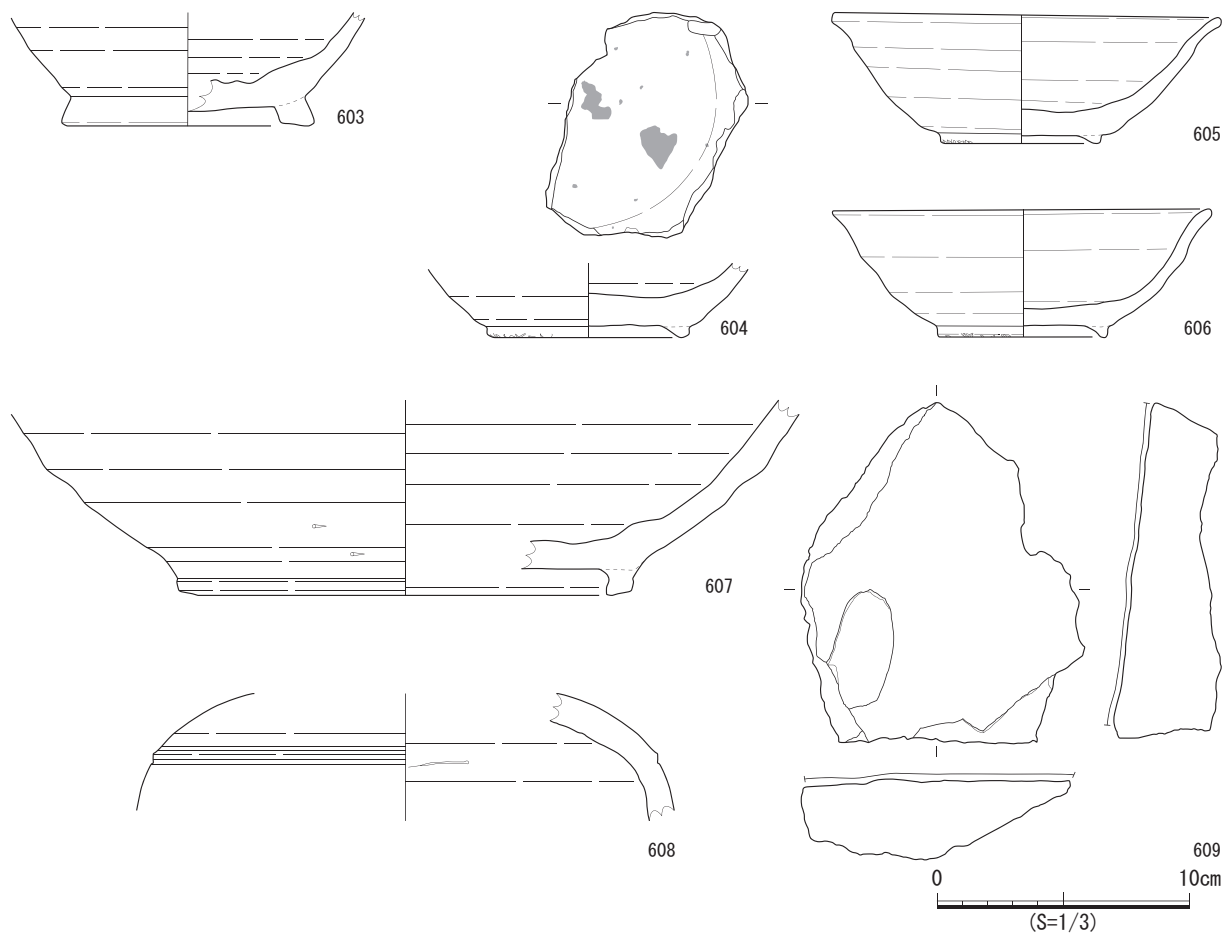


図150 SK1479出土遺物実測図

規模・形状 長軸長4.27m以上、短軸長1.83m、深さ0.19mで、平面形は、北側をSK1485に掘り込まれているが、概ね南北方向に長い不整楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 2層に分層した。ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器28点、須恵器35点、灰釉陶器1点、山茶碗6点、石製品1点が散在して出土した。

出土遺物 砥石(611)を図示した。3面が使用される。

時期 山茶碗の破片が出土していることから11世紀後半以降のものとする。

SK1519 (図151)

検出状況 DI8～DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1580より古く、SK1522、SK1523、SK1524等より新しい。

規模・形状 長軸長2.54m、短軸長1.74m、深さ0.22mで、平面形は南北方向に長い不整楕円形である。断面形は逆台形である。

埋土 3層に分層した。ブロック土を含むことや、埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器28点、須恵器19点、灰釉陶器1点、山茶碗29点が散在して出土した。

出土遺物 ロクロ成形の土師器の碗(612)、尾張型第5型式の山茶碗の碗(613)を図示した。613の底部内面には墨痕が認められ、硯として使用された可能性がある。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK1522から尾張型第5型式の山茶碗の碗が出土していることから、12世紀後葉から13世紀前葉のものとする。

SK1525 (図152)

検出状況 DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1519、SK1520、SK1523より古く、SK1527、SK1528、SK1534等より新しい。

規模・形状 長軸長2.00m、短軸長1.45m以上、深さ0.18mで、平面形は複数の遺構と重複しており、不明である。断面形は皿状である。

埋土 2層に分層した。ブロック土を含むことや、埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

遺物出土状況 埋土から土師器9点、須恵器24点、灰釉陶器2点、山茶碗4点が散在して出土した。

出土遺物 土師器のB3類の濃尾型甕(614)、美濃須衛V期第1小期の須恵器の盤(615)を図示した。615の脚部には線刻が認められる。

時期 出土遺物の最新型式と本遺構より古いSK1639から尾張型第4型式の山茶碗の碗と小碗が出土していることから、12世紀以降のものとする。

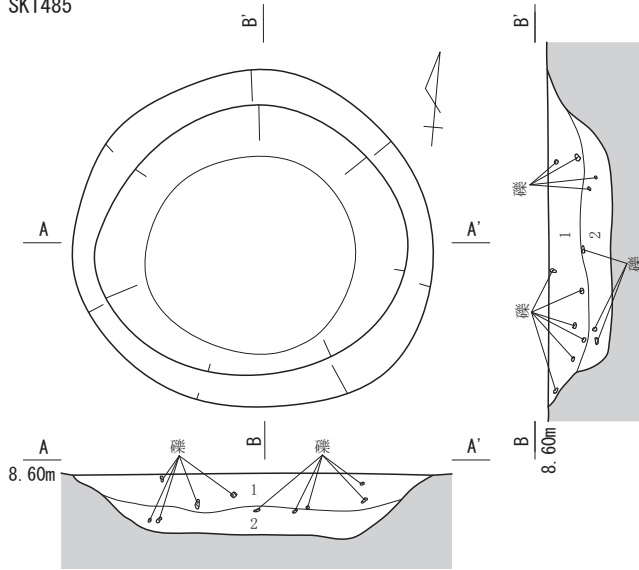
SK1534 (図152)

検出状況 DI8～DJ8グリッド、Ⅲ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。重複関係から、SK1519、SK1522、SK1580等より古く、SK1639より新しい。

規模・形状 長軸長2.80m、短軸長0.62m以上、深さ0.21mで、平面形は複数の遺構と重複し、不明である。断面形は概ね逆台形である。

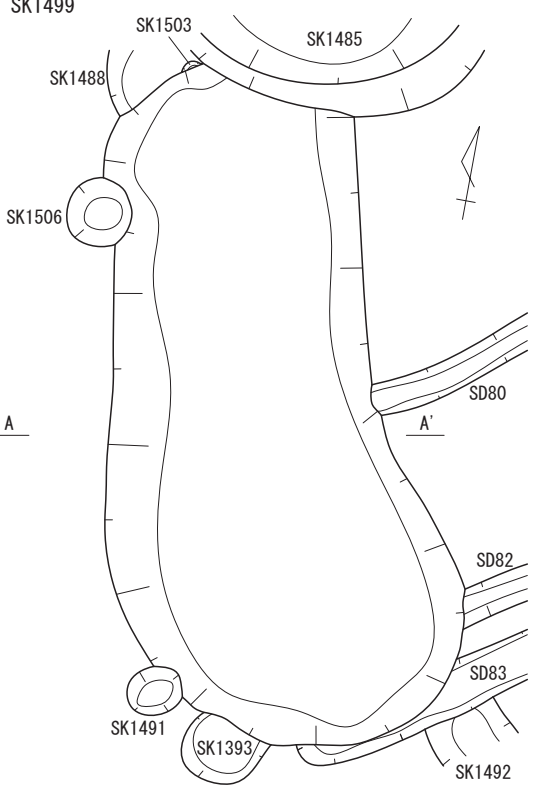
埋土 2層に分層した。ブロック土を含むことから人為的な堆積の可能性がある。

SK1485

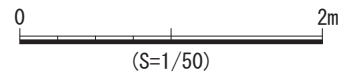


- 1 2.5Y4/2 暗灰黄色土 ややしまる 粘性なし
炭化物を少量含む 径3cm程の円礫を多量に含む
- 2 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘質土 ややしまる
炭化物を少量含む 径3cm程の円礫を含む

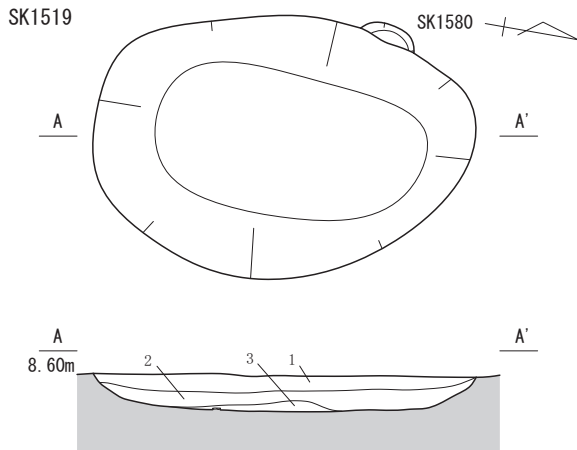
SK1499



- 1 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
7.5Y4/1 灰色砂質土ブロックを2%含む
炭化物を少量含む 鉄分沈着あり
- 2 5Y3/1 オリーブ黒色土 ややしまる 粘性なし
炭化物を少量含む

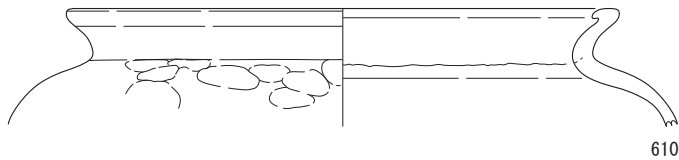


SK1519

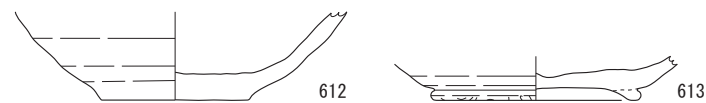


- 1 10YR3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
- 2 2.5Y4/2 暗灰黄色土ブロックを5%含む
炭化物を少量含む 鉄分沈着あり
- 2 2.5Y3/2 黒褐色土 ややしまる 粘性なし
径2cm程の円礫を含む 鉄分沈着あり
- 3 5Y4/2 灰オリーブ色土 ややしまる 粘性なし
径2cm程の円礫を含む 炭化物を多量に含む

SK1485出土遺物



SK1519出土遺物



SK1499出土遺物

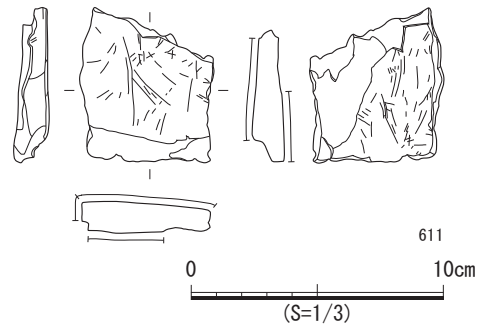


図151 SK1485・SK1499・SK1519遺構図、出土遺物実測図

遺物出土状況 埋土から土師器12点、須恵器3点、灰釉陶器2点、山茶碗10点、炭化物1点が散在して出土した。

出土遺物 ロクロ成形の土師器の小皿（616）を図示した。

時期 本遺構より古いSK1639から尾張型第4型式の山茶碗の碗と小碗が出土していることから、12世紀以降のものとする。

SK1639 (図153)

検出状況 DI 8～DJ 8 グリッドで検出した。SK1519およびSK1534を完掘した後、その底面でプランの西側を確認し、東側はSK1534より外に広がる。平面形はやや明瞭であった。重複関係から、SK1519、SK1525、SK1534等より古い。

規模・形状 長軸長2.69m、短軸長2.33m、深さ0.31mで、平面形は不整円形である。断面形は半円形である。周辺の遺構と比べて深いため、井戸として機能していた可能性がある。

埋土 2層に分層した。中央が窪む堆積である。1層と2層の層界で壁面の傾斜が変換するため、1層は別遺構の可能性もある。埋土の中央付近に礫を含むことから人為的な堆積の可能性もある。

遺物出土状況 埋土から土師器39点、須恵器29点、灰釉陶器1点、山茶碗13点、土製品1点、木製品3点が散在して出土した。

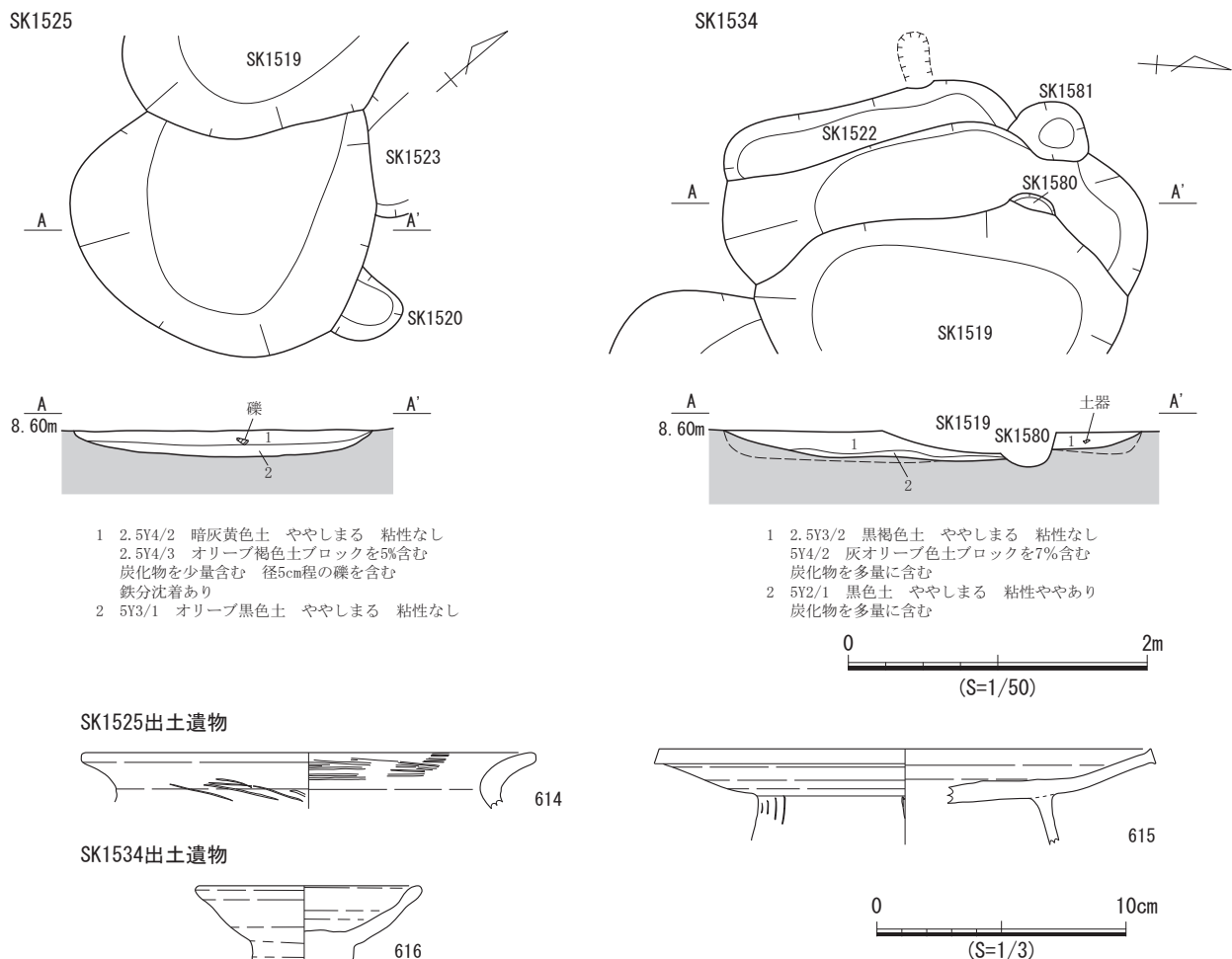


図152 SK1525・SK1534遺構図、出土遺物実測図

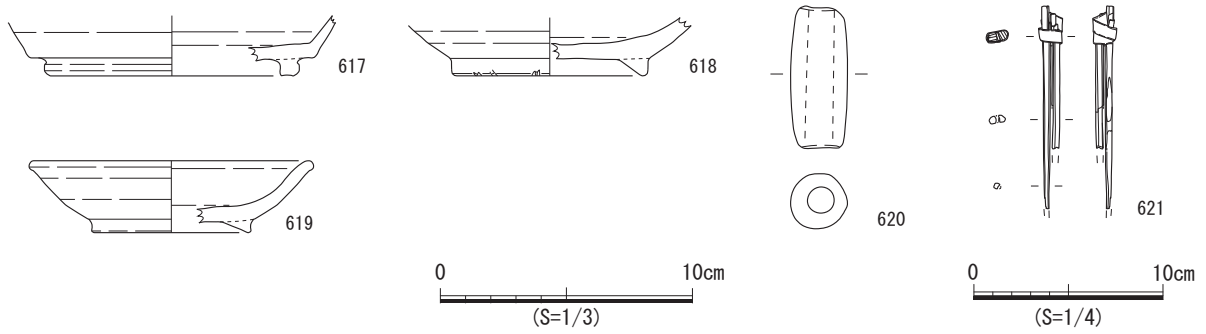
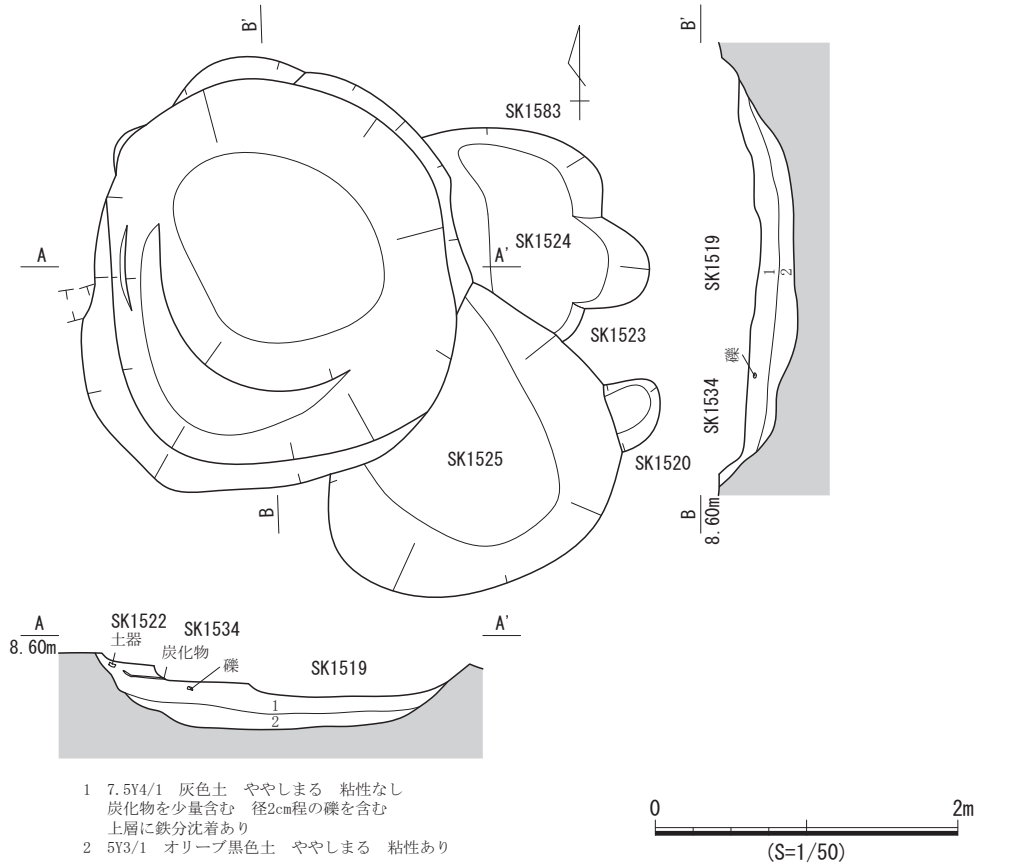


図153 SK1639遺構図、出土遺物実測図

出土遺物 美濃須衛V期第1小期の須恵器の有台坏身(617)、尾張型第4型式の山茶碗の碗(618)、尾張型第4型式の山茶碗の小碗(619)、管状土錘(620)と用途不明木製品(621)を図示した。

621は、側面を切削により面取り加工した2本の棒材を樹皮で固定したものである。

時期 出土遺物の最新型式から、12世紀前葉から中葉のものとする。

第6節 表土・遺物包含層・攪乱出土遺物

比較的残存状態の良い35点を図示した（図154～155）。

622は、手づくねの土師器で、口縁を内側に折り曲げる。いわゆるコースター型とされる中世前期土師器皿A2f類若しくは耳皿である。623～627はロクロ成形の土師器である。623は碗で高台がハの字状に開く。624は台付鉢である。625は何らかの器種の脚部と考える。626、627は小皿で、ともに柱状高台で、627はハの字状に開く。628は瓶類で胎土から中世の美濃須衛窯産の四耳壺の可能性はある。629は円形硯と考えられるが、堤の外側にも破損が認められることから特殊な器形と思われる¹⁾。美濃須衛V期のものの可能性はある。630は須恵器の風字硯で美濃須衛V期のものの可能性はある²⁾。片側の脚は欠損する。硯頭は欠損しており、詳細な形態は不明だが、無堤である。硯部は使用により平滑になっており、墨痕が認められる。硯裏面にはタタキの痕跡が認められる。また、「宇保」の線刻があり、人名もしくは地名の可能性はある。「宇」の字の上には横線の線刻が認められるが、文字か否かは不明である。631は明和27号窯式の灰釉陶器の輪花碗である。632～634は山茶碗の碗である。632は浅間窯下1号窯式～丸石3号窯式、633は尾張型第6型式で、底部外面に墨書が認められるが内容は不明である。634は尾張型第5型式で、体部外面に「○」を3箇所配置した墨書が認められる。635～642は瀬戸美濃産陶器である。635は古瀬戸前期の四耳壺の脚である。636は古瀬戸中I～II期の合子で体部外面に菊の印花文を施す。637は古瀬戸後III～IV期古段階の四耳壺で、確認できる範囲では錆釉を体部外面の全体に施す。638は古瀬戸後III～IV期の土瓶の蓋である。639は古瀬戸後II期の平碗である。640は古瀬戸後IV期新段階の天目茶碗である。641古瀬戸後IV期古段階、642は古瀬戸後IV期新段階の袴腰形香炉である。641は灰釉を施し、脚部が残存する。642は鉄釉を施す。643、644はII～IV類の白磁の碗である。645はI類の龍泉窯系青磁碗で、見込みに花文を施す。646はI-4b類の龍泉窯系青磁碗で、体部内面に分割線を施し、口縁端部には輪花を有する。647は龍泉窯系の青磁で、器種は不明である。外面が高台から体部にかけて直線的に立ち上がる点の特徴的である。648はI-1b類の同安窯系青磁皿で、底部内面に文様の一部が残存する。649は茶入で、器壁が薄く中国産の可能性はある。650は鞆の羽口で先端部に滓が付着する。651～653は砥石で、いずれも4面に砥面が認められ、651、652は両小口、653は片側の小口を欠損する。654は棒状鉄製品である。断面は方形で、釘の軸部や鉄鏝の頸部の可能性がある。655、656は銭貨である。655は元祐通寶である。行書で初鑄年は1086年である。656は開元通寶である。隸書で初鑄年は621年である。

注

1) 硯の分類は以下の文献に従った。

奈良文化財研究所2006『平城京出土陶硯集成I—平城宮跡—』（奈良文化財研究所史料 第77冊）

奈良文化財研究所2007『平城京出土陶硯集成II—平城京・寺院—』（奈良文化財研究所史料 第80冊）

2) 1)に同じ。

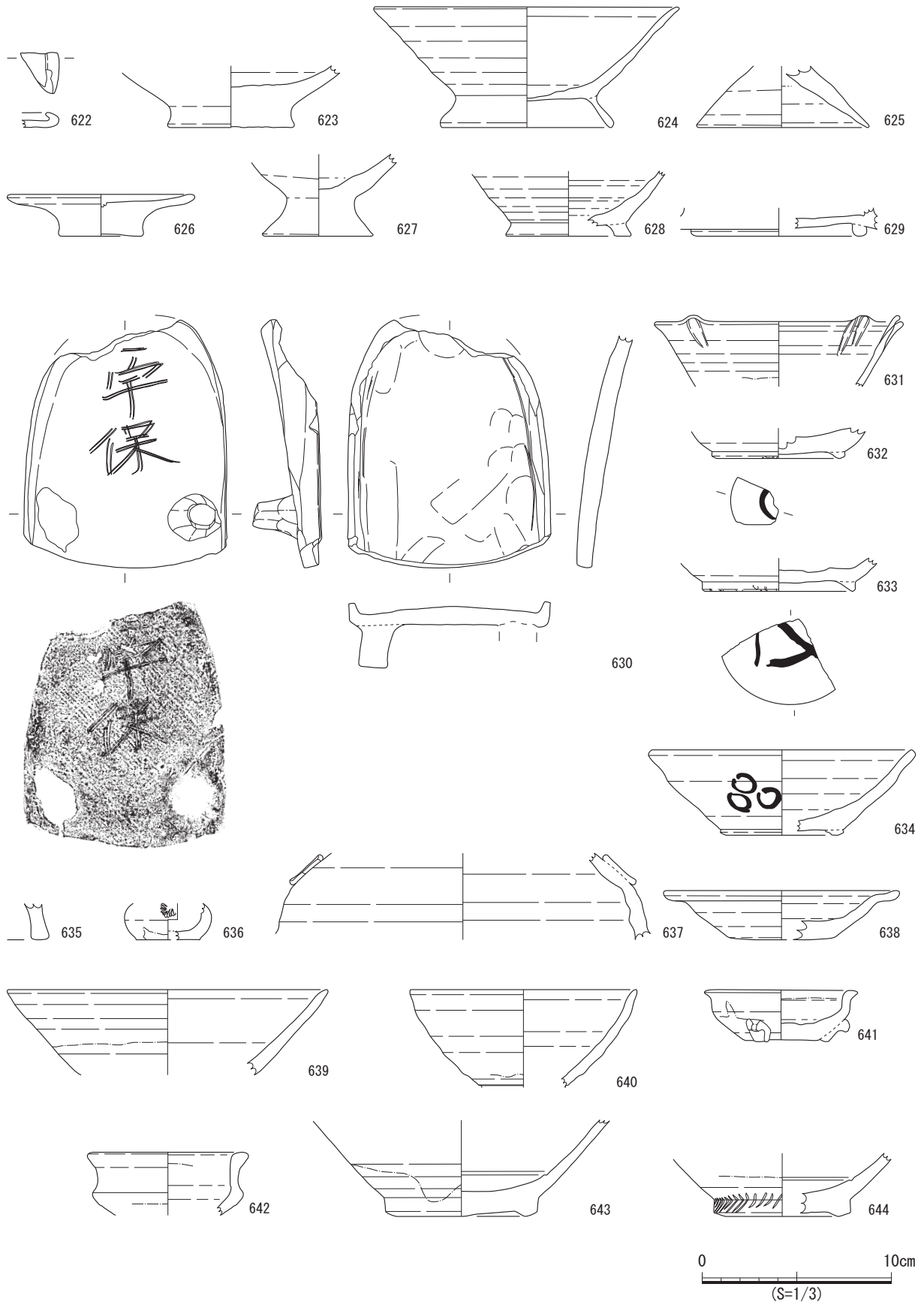


図154 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図1



图155 表土・包含層・攪乱出土遺物実測図2

報 告 書 抄 録

ふりがな	きたがたきょうずいいせきⅡ							
書名	北方京水遺跡Ⅱ							
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書							
シリーズ番号	第148集							
編著者名	磯貝龍志							
編集機関	岐阜県文化財保護センター							
所在地	〒502-0003 岐阜市三田洞東1-26-1 TEL058-237-8550 FAX058-237-8551							
発行年月日	2021年3月15日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
きたがたきょうずいいせき 北方京水遺跡	ぎふけん 岐阜県 おおがきし 大垣市 きたがたちょう 北方町	市町村	遺跡番号					
		21202	08544	35° 23’ 36”	136° 36’ 29”	20170526 ～20171215	5,166.6	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
北方京水遺跡	集落跡	古代 中世	掘立柱建物	9棟	土師器	18,656点	溝で区画された 中世後期の屋敷 を検出した。	
			柵	28列	須恵器	1,592点		
			単独柱穴	45基	灰釉陶器	668点		
			溝状遺構	88基	中近世陶磁器	18,833点		
			井戸	2基	土製品	182点		
			土坑	1,645基	石製品	22点		
					木製品	246点		
					金属製品	9点	など	
要 約	<p>北方京水遺跡は古代から中世にかけての集落跡である。今回の発掘区では、古代から中世にかけての掘立柱建物や井戸等を確認したことから居住域として利用されていたことが分かった。居住域を区画する溝も複数確認しており、中世後期には発掘区内に4つの屋敷が展開していたことが分かった。</p> <p>また、古代から中世の特殊な遺物も出土している。古代のものとしては、風字硯や円形硯等があり、遺跡周辺に寺院や官衙といった公的な施設が存在した可能性がある。中世前期のものとしては白磁四耳壺、中世後期のものとしては風炉や「ろさい人」の立ち入りを禁じた木簡が出土しており、中世には一定以上の階層の人物が居住していた可能性がある。当遺跡の周辺は中河御厨に比定されていることから、御厨に関係する人物が居住していたことも考えられる。また、15世紀後葉になると屋敷が廃絶し、溝状遺構群が認められるようになることから、これ以降は耕作地として利用されたと考える。</p>							

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第148集

北方京水遺跡Ⅱ

(第1分冊)

2021年3月15日

編集・発行 岐阜県文化財保護センター

岐阜市三田洞東1-26-1

印刷 山興印刷株式会社